

マトリックス解読

The Saint (ロバート・ダンカン) 著

葉山真、noa 訳

訳者による紹介

本書の原文タイトルは”The Matrix Deciphered”です。著者の Robert Duncan 氏(原著は The Saint というペンネームで執筆) はハーバード大学でコンピュータサイエンスなどを学び、ニューラルネットワークやヴァーチャルリアリティの専門家として米国の国防総省やその他様々な政府機関や民間機関で活動してきた華麗な経歴と幅広い知見を持つ科学者です。しかし、本書で語られているように、非常に高度な技術による実験の対象となってしまったと考えられ、その告発及び、その実験の技術的、社会的な説明のために本書を執筆したものであると思います。

本書は、日本語では、エレクトロニック・ハラスメント、テクノロジー犯罪などと呼ばれることもある現象の技術や構造を、体系的、包括的、理論的に論じているほとんど他にない文書です。その遠隔的に実施されている内容を分析するにあたっては仮説も多く、技術や犯罪構造について書かれていることがすべて真実に当てはまるかどうかはわかりませんが、そのことは著者自身がよく理解した上で本書は書かれていると言えるでしょう。

本書はインターネットで公開されており、原文を閲覧したり、PDF 版を入手することができます。和訳にあたっては、Duncan 氏から翻訳と公開の許可いただき、本書で描かれている Duncan 氏の被害とまさに同種の経験をしている日本の被害者が協力して作業し、この問題に一石を投じるつもりで公開しました。また、翻訳作業は DeepL Translator という自動翻訳サービスの助けを借りています。AI の正しい使い方として、このような優れたプログラムが利用できることに感謝いたします。

公開されている英語版では、途中で様々な図やイラストが挿入されていますが、本和訳版では省かれています。同様に英語版で巻末に付録としてつけられている資料も、和訳版では省かれています。それらをご覧になりたい方は、インターネットで英語版を探してください。また、本書には数か所、公開時点ではまだ書きかけだったと思われる部分があります。

Robert Duncan 氏は、本書の他にも”Project: Soul Catcher: Secrets of Cyber and Cybernetic Warfare Revealed” (2010)と、”How to Tame a Demon: A short practical guide to organized intimidation stalking, electronic torture, and mind control” (2014)を出版しており、この2つは Amazon などで購入できますので、このトピックについてさらに深くお知りになりたい方は是非お読みください。また著者は、各地での無料講演やインターネット上でのビデオ対談など現在も精力的に行っており、You Tube など検索するとすぐに見つかるでしょう。

最後に、本書は専門家に限らず一般の人向けに書かれた文書であるとはいえ、専門的な用語や、文学的な表現も随所に使用されています。一方、翻訳作業は上述のように、自動翻訳の助けも借りて共同作業で行っているため、技術的な用語の和訳なども含めて必ずしも正確なものとは限りませんので、そのような翻訳環境をご理解いただき、もしお気づきの点がございましたらご指摘いただければ幸いです。

本書の著作権は全て Robert Duncan 氏に帰します。本書の利用にあたっては著作権法を順守して、適切に行うようお願いいたします。

2022年1月 日 STOP エレクトロニック・ハラスメント <http://stopeh.org/wordpress/>

(注意: 本書の記述は全て著者 Robert Duncan 氏の意見です。日本語訳版製作者はその内容について一切の責任を負うものではありませんのでご了承下さい。)

目次

訳者による紹介	1
目次.....	3
著者紹介	13
まえがき	15
序章.....	17
アメリカの妄想 - 夢と悪夢	17
EEG 集合意識.....	19
マインド・リーディング RADAR の最初の記録.....	23
私自身のこと	23
HELL へようこそ.....	23
あなたは見られている.....	25
世界的な統合監視ネットワーク	25
電子スピン共鳴(ESR)	27
電子スピン偏極共鳴(EPR)	27
核磁気共鳴画像法 (MRI)	28
「スカラー」または干渉法ステルスレーダー.....	28
ミリ波、赤外線、可視波長衛星によるイメージング	29
人の脳のハッキング.....	29
生体反応の監視とサイキック・スターウォーズの防御策	31
その他のスターウォーズ的指向性エネルギー兵器の計画	31
脳と地上の物体のイメージング.....	31
モスクワの米国大使館	32
典型的な指向性エネルギーの「怪現象」	32
暗号化信号送信の方法	33
恥知らずの詩.....	34
ヴァーチャル・ニューロンと生体通信	34
生体通信とワールド・コントロール	34
バーチャル・ニューロンの成長.....	35
選択的記憶抹消と思考フィルター	38

バレット・タイム - 人の能力向上の研究.....	38
サイキック部隊に着想を得たハリウwoodsの映画.....	40
EDOM - 記憶の電子的分離.....	40
記憶の詮索.....	41
精神工学の心牢.....	42
秘密の精神工学の心牢の詩.....	42
精神工学的強制収容所.....	43
マインドコントロールの檻の中.....	43
世界的なマインドコントロール、拷問、静かなる暗殺のアキレス腱.....	43
催眠同調パルス.....	44
精神工学の音.....	45
世界の政治と支配.....	46
税法とテロリズム（再び息抜き）.....	47
ヒプノチューブ・プログラミング.....	48
より道徳的、哲学的な問題.....	49
欺きの心理学.....	51
臆病な新世界.....	51
偽情報の時代と欺瞞の技術.....	51
政府の欺瞞プログラム.....	52
アメリカ人であること.....	52
信用失墜の方法 - ガスライティング.....	53
戦略的欺瞞.....	54
国民の注意をそらすためのメディア.....	55
騙しのテクニック.....	55
オズの魔法使い.....	56
ポンジ・スキーム.....	56
信用失墜の方法.....	56
混乱のテクニック.....	57
歴史の書き換え.....	58
密かな検閲.....	58
秘密結社.....	59
非殺傷兵器という嘘.....	61
戦場の娼婦たち.....	62
ケイビエット・エンプター(買主をして注意せしめよ).....	62
軍の神話.....	63
チャネラー.....	63

ミーム、マインド・ウイルス、有害な思考	64
秘密主義が生むミーム・ウイルス	67
マインド・ウイルス・ウォーフエア	67
高次の知性	69
数十年に渡りタブーとされてきた精神疾患とその隠蔽	70
プロパガンダ - 言葉のゲーム	71
天才か狂気か	72
国民的「真実の日」があったら?	73
戦略的欺瞞とエラーの排除	74
マインドコントロール被害者への偽情報キャンペーン	74
偽情報の流れ	75
米国人に対する科学的諜報活動	76
現代のティモシー・リアリー	77
テストパターン	78
片方の肩には天使、もう片方には悪魔	79
兵器実験コストとリスクの誤った分析と科学的手法の不備	79
台本	80
創造からカオスへ	81
無難なマインドゲーム	81
「クレイジー」の心理学	81
アメリカ人としての誇りを感じますか?	83
被害者を麻痺させる戦略	83
ホワイトハウスのサイコパス	83
情報の流れ	84
現実の基盤	85
妄想の誘発	86
のろまで太った白ウサギを追って	86
恐怖の支配-暗黒の時代	87
軍と CIA が仕組んだ戦争とテロリズム	87
「諜報機関」の矛盾	87
軍人や CIA が大統領になってはいけない理由	88
クローク & ダガーのゲーム雑学	88
行政機関の腐敗は高く、広く、深く	88
サイキック・アーミー	89
気の狂った支配者	90
何のために戦争をするのか?	91

エネミー・ウィズイン	91
精神工学的に扇動された戦争	93
フィラデルフィア実験	94
宇宙人の検死と宇宙船の墜落事故	94
UFO	94
ケムトレイル	95
バーミュダトライアングル	95
ペンタゴンのサイキック戦部隊	95
脳内チップインプラント	96
人格の分裂	96
オーウェルのいたずら	97
怖いスパイがやってきた！	97
でたらめな宣伝	98
権威を疑え	98
ソビエト連邦はどこへ	99
恐怖による支配	100
ゴーストバスターズ - 兵器実験者をおびき寄せる	101
ADD とリタリン	102
おかしなおかしな世界	103
作戦中止、安全なフェイルオーバー	103
情報機関の矛盾	104
脈打つマイクロ波の声	104
精神科医のためのバック・トゥ・スクール	105
FCC の真の役割は政治の検閲だ	105
怒りの誤誘導 - 暴力を扇動するために最も使われる戦術	106
影の政府による悪魔的儀式虐待の終焉	107
嘘のマトリックスに迷い込んだあなたへ	107
偽善のプロトコル	108
サダムは侵略を正当化するために使われた駒だった	109
ポート・ゴス (現 CIA 長官) に訴える	110
ふたつの世界とふたつの嘘	110
脳は多ければいいというものではない	111
デス・マシーン	111
モンスターの中の心の中	111
軍事クーデター	112
乗っ取りの経緯	113

カウントダウン	114
認知モデルと乗っ取りの経緯	114
視点を変えてみる	116
ブラック・サイエンス	117
信じられないのが普通の反応	117
TAMI、MIND、SATAN	118
マインドマジシャン	119
ブレインマッピング・正規化ソフトウェア	123
脳内信号フィルタリング・ソフトウェア	124
サイキック・ウォー	125
電子戦能力と他のタイプの指向性エネルギー	126
「マトリックス」のアーキテクチャー	128
音声認識のための共振型フィードフォワードニューラルネットワーク	129
人間の脳のウェルニック中枢での音声認識のための脳波の連続的な同調	129
TAMI のサブシステムである音素・単語・文の事前認知分類のデモ	130
イライザと音声脳波を使った自然言語処理	131
人工テレパシー	132
TAMI の設計上の欠陥	132
TAMI のシステム上の欠陥	132
遠隔心臓発作 - パニックにならないでください！	135
生き残るには	138
スモーキング・マン	139
EDOM と偽りの記憶の埋め込み技術	139
最も偏執的な悪の思考を収穫するための拷問の使用	140
影なき狙撃手の作り方	141
人の共鳴吸収スペクトルをレーダーの解読	141
EEG ヘテロダインは軍用マシンの中の幽霊	146
非殺傷指向エネルギー兵器の分類	147
さらなる TAMI のシステム上の欠陥	147
命令系統への攻撃	148
その他の TAMI の限界	148
なぜ「マトリックス」なのか	149
指向性エネルギー	149
合成開口レーダーとビームステアリング	151
タイムリバースエコー	151
ニューロン誘導と脳波変調技術	152

特定の周波数とパワーレベルによる神経伝達物質の放出	153
脳を読む人工衛星と電離層ヒーターレーダーフィールド	154
電磁波センシングシステムの仕組み	154
TAMI のインターフェース	157
シングルサイドバンドのヘテロダイン UHF ビームを用いた、強力かつ指向性の高い ELF (極低周波) 磁界・電界の形成.....	158
「スカラー」兵器 - 高周波指向性エネルギー兵器をヘテロダインすることによる高強 度の ELF 磁場と電場の形成.....	158
スカラー殺人信号を隠蔽ーレーダー傍受確率の低さ	160
スカラー干渉型ステルスレーダー (Scalar Interferometric Stealth RADAR) - 別名、 散乱レーダー	161
人工テレパシーとマイクロ波聴覚効果.....	162
動物によるサイキックスパイ	164
スターウォーズと SPAWAR.....	164
美は見る者の目の中にある	165
音声投射の位相角セグメンテーション	166
心の錯覚.....	168
機械の中の幽霊	170
もう一つの視点	170
電離層信号の跳ね返りによるレンズ効果.....	171
東洋医学	172
さらに説明される心霊現象.....	172
車の衝突事故.....	173
指向性エネルギーによる静かな暗殺	173
もっともらしい否定と静かな暗殺のテクニック	174
遠隔操作によるロボットミイ手術.....	175
低体温症.....	175
精神工学の人質	177
なぜこの兵器がもっと広く戦争に使われないのか	177
脳波が人工衛星で読み取れるなんて信じられない。あなたは、それをどうやって証明で きるのか	178
仮に脳の信号を読み取れたとしても、どうやって神経系に影響を与えることのできる のか	178
そいつはすごい。だが、なぜ政府は自国民を拷問するのか.....	179
どうすれば壊れた政府を修復し、国民の信託と資金を悪用する不名誉な男ども女ども を止めることができるのだろうか.....	180

このような緊急性のある重要な問題で、世界の注目を集めることが難しいのはなぜか	180
機密漏洩者、内部告発者、政治活動家の口封じと科学的発見の阻害	182
読者への嘆願	182
あなたはそれに焼かれないか。MK ウルトラ・スタイル暗殺者の作り方	184
影なき狙撃手、歩く時限爆弾、CIA がプログラムした暗殺者の撃退法	184
恥さらしゲーム - 被害者が自分たちが引き起こしたことだと思わせようとする	186
夢の操作	187
脳波へテロダインにインスパイアされたハリウッド映画	187
より巧妙に隠蔽されたさらなるアーティチョーク計画と MK ウルトラ計画	187
心の変化のカタログ化	188
脳信号の分類と実験	189
武器としての催眠術	189
マインド・マニピュレーションの古典的な方法	189
マインド・プローブ	190
狙われる有名人	191
拷問理学	191
CIA はロサンゼルス近郊でクラックを売っていた-ドラッグ・ドライビング	193
生け贄と食人族	193
真実と罪	194
お化け、チンピラ、ゾンビ、そして五芒星	195
遺伝的・文化的記憶	195
苦しみとマインドコントロール	196
モラルの大混乱	196
否定される正義	197
未解決の謎	197
TAMI のスパイモードの法的・倫理的問題点	198
精神工学政治学	198
ニールセンのリアルタイム視聴率	199
兵器の人体影響試験業界	200
公共サービス発表	200
政府による殺人	201
エイリアン紹介	203
米国における精神工学的奴隷	204
体制の忠誠心を維持するために	206
ユナボマーはマインドコントロールされたカモに過ぎない	206

マインドコントロールされた暗殺者、すなわちテロリストとサイコ野郎を創る	208
なぜマインドコントロールされた暗殺者なのか	211
国防総省や CIA のプロジェクトで働く人々が、退職後にそんな安全保障上のリスクを負うのはなぜか	211
ユナボマーの作り方	212
偽善者は民主主義を転覆させたが、その名を騙った	213
興味深いインタビュー	214
妄想の創造	215
精神工学拷問に関する調査や公聴会の後	216
ナチス・ドイツ	217
支配される裁判官	218
サブリミナルメッセージ	218
切実に必要とされる法的近代化	219
連中の首にかけられた懸賞金	219
米国と海外の社会を支配する戦略	220
マイクロ波の影響に関する隠蔽工作のさらなる証拠	220
政府の犯罪	220
対精神工学理論：脳内干渉技術の予防と解決法	221
黒い油に対する「ワクチン」	222
生体通信信号の情報的一貫性の乱れ	223
サイキック・ディフェンスとウォー・ゲーム	223
国防の嘘	224
非致死性 ADS、PEP、ゴム弾の撃退法	224
脳波の追跡回避	225
苦痛兵器 - 死そのものではなく、死の苦痛に対する恐怖	225
次世代のサイキック・ウォーフェア	226
サービス妨害攻撃	226
トロイの木馬	226
トリップワイヤとユニークハッシュ ID	227
ワームとウイルス	227
バッファオーバーフロー	228
複雑化するサイキック・ウォーゲーム	228
視線追跡インタフェースのハッキング	229
サービス妨害攻撃	229
明晰夢の尋問	230
間奏	230

視線追跡インタフェース.....	231
ブレイン・プリントで情報を取り出す.....	231
バイオ医薬品の治療薬.....	232
知識こそ防御.....	232
リスクを減らす - 秘密をなくそう.....	233
集団マインドコントロールの副作用に関する警告.....	234
サイキック・スパイのサイン.....	234
マトリックスのグリッチ.....	235
パスワード保護.....	236
RADAR 反射面の角度変調.....	236
スーパーシールド.....	237
神話を払拭する.....	237
キリングシグナルの発生源.....	237
もうひとつのお詫び.....	241
バカな人間のトリック.....	241
同調の妨げ.....	242
信号強度と途絶の実験.....	242
サイクロプスの目を潰す.....	243
スカラー波、干渉波、重力波、または散乱レーダーの検出.....	244
携帯生体電界スクランブラー.....	244
イオン加熱方式周波数スクランブラー.....	246
脳みそさえあれば - かかし効果.....	246
ステルス爆撃機用 RADAR 吸収用絶縁体.....	247
フルスペクトルまたはブロードバンド RADAR.....	247
イオン加熱.....	248
諜報機関を擁する政府に対抗するには？.....	248
拷問と暴虐の武器を根絶するためのアイデア.....	249
国民への訴え.....	249
宇宙を汚染しよう.....	250
注目を集めるために.....	250
約束の地.....	251
EEG ヘテロダインの学習効率.....	251
ボーグの誕生.....	254
人間は時代遅れである.....	255
ノアの箱舟.....	255
エゴ・トリップ.....	256

審判の日	256
意識の哲学	257
その他の EEG クローニング犯罪	257
知的財産のロビン・フッド	257
幸運は勇者に味方する(ウェルギリウス).....	258
主観・客観の二元性の論理的外延性	258
例として、投票について.....	259
TAMI のリバーズエンジニアリング	259
脳波の読み取り	260
ソフトウェア・アーキテクチャ.....	260
ソフトウェア設計と脳波同期の戦術の詳細	261
ボランティア	261
不老不死.....	262
あなたの自由と自己決定力を高める	263
心のチューニング.....	264
ニューロン作用技術の有益な使い方	265
ニューロンの増幅による麻酔作用.....	266
電子ドラッグ.....	266
新しい知性の形.....	268
ブレイン・マシン・インターフェイス技術	269
デモンストレーション	270
投資の機会	270
広告のインプラント	271
ファイナル・デスティネーション	271
世界と憲法を守るために.....	272
政府の言い訳の予想.....	273
奇妙な日々	273
帰港	274
旅の終わり	274
最後の謎.....	274
感謝	275
事後報告	275
この本を書いた私への報復の予測.....	275
この先も注目.....	276

著者紹介

「真の気高さは恐怖とは無縁である」

シェイクスピア、『ヘンリー六世』(第4幕第1場)

私を The Saint¹ (聖人) と呼んでいただきたい。私は生粋のアメリカ人だ。ハーバード大学でコンピューターサイエンスを優等で卒業し、予備医学を副専攻、ハーバード大学とダートマス大学ではビジネスと科学の上級学位を取得した。先祖には、リンカーン大統領、スコットランドのダンカン王、マサチューセッツ州の初代知事ウィリアム・ブラッドフォードなどがある。

私の研究テーマは、ニューラルネットワーク、バーチャルリアリティ、脳波制御ロボットなどだ。大学院に入学する前は、国防総省、海軍、NATO、その他さまざまな情報機関でコンピューターサイエンスのプロジェクトに携わり、世界有数の企業にビジネス・コンサルティングとコンピューター・コンサルティングを行っていた。私はまた、教授、発明家、芸術家、作家としても活動してきた。私は最後のルネッサンス人の一人かもしれない。

私が携わったプロジェクトの中には、エシュロンと CIA の自然言語解析と文書内容分類のためのアルゴリズム、IRS の危険監査のための公式、ソ連の原子力潜水艦艦隊と水上船舶の追跡を自動化するための人工知能コードの作成、HAARP と SIGINT SIGCOM(シグナル・インテリジェンス)および SPAWAR(海軍情報戦争システムコマンド)の統合作業などがある。司法省ではテロリストを追跡するために地方、州、連邦のデータベースを接続するプロジェクトに関わり、FBI では料金所などでナンバープレートを追跡するシステムを開発した。バイタルサインを読み取るためのボディネットワークを構築する「Soldier 2000」と呼ばれるプログラムにも携わった。私が開発した「スナイパー(Snyper)」と呼ばれるシステムは現在もイラクで運用されており、都市間紛争の銃撃戦で三角測量を行っている。「自由世界」の秘密基地にも何度か足を運んだことがある。陸軍では遠隔医療のロボット手術やバーチャルリアリティのアプリケーションを開発し、DARPA(国防省国防高等研究計画局)では衛星コンピュータービジョンによる目標追跡アプリケーションや戦車シミュレーション、

¹ 著者ロバート・ダンカン氏の本書でのペンネーム。

SOSUS(音響監視システム)や曳航式アレイなどといった陸海空の監視システムの統合に取り組んできた。

政府契約以外で取り組んだプロジェクトには、コンピューター生成ホログラフィに関する論文、刺激された筋肉運動により麻痺した人の歩行能力を再生するプロジェクト、顔認識、音声認識、指紋認識、ニューラルネットワーク・ロボットコントローラなどがある。その後、私の研究テーマは拡張現実用のヘッドアップ・ディスプレイやウェアラブル・デバイスに移った。そして、現在はマインドコントロール兵器がもたらした惨状への解決策も模索している。私に関わった世界的な統合監視ネットワークの構築は、図らずも人間と兵器をコントロールするためのシステムの一環だったのだから。

この非道なシステムに貢献してしまったことを、人類に謝罪したい。私の愛するこの国で、腐敗した政府によって研究の数々が悪用されるとは夢にも思っていなかったのだが、どうもそれは間違いだったようだ。統合非殺傷兵器理事会には、スキップ・グリーンという人物が理事として名を連ねている。ケンブリッジにあるテクノロジー・シンクタンクの私の昔の同僚の一人で、高周波兵器が引き起こす神経障害の実験を担当していた彼は、今や世界中の人々を拷問し死に追いやっている。私がこうして名乗り出たのも、多数のアメリカ海軍やイギリス海軍の科学者が失墜し、私の番も近いと肌身に感じているからに他ならない。私は現在、コンピューターサイエンスとビジネスの教授を勤めながら、政府の腐敗、貪欲さ、愚かさについて一般の人々を教育している。45年にわたり、80以上の政府機関が、無防備なアメリカ人に対して放射性物質、薬物、ウイルス兵器の実験を行ってきたのだ。祖先のリンカーンが南北戦争でそうしたように、彼らが生み出したこの新しい精神的な奴隷制度と私は戦うつもりである。

私はアメリカの基本的かつ憲法上の価値観に大きな誇りを持っている。生物学的、化学的、そして精神工学的なこれらの人体実験に関わる人々の愚かさや無関心を非難することはあっても、それは変わらない。軍隊にも自分たちが信じるアメリカの価値観のために戦い、私たちを守ってくれる勇敢な人間は大勢いる。しかし、安全保障機関では情報は機密化され、ブラックオペレーションや極秘プロジェクトの説明責任や監査機能が欠如しているため、歯止めを失ったプロジェクトは暴走し、彼らが守るべき国そのものを破壊しかねない事態になっている。アメリカを、民主主義(デモクラシー)というよりは、むしろ偽善的国家(ヒポクラシー)にしてしまっているのだ。

私の目的は、軍とCIAの兵器実験者達がこの国で凄惨な拷問を続けていること、そして政府の他の部門に彼らを糾弾し止める力がないことをアメリカ人に告発することだ。読者の皆さんには、本書に掲載されている証言や事実の検証から、自分なりの結論を導き出している

ただきたい。そして、この「静かなる転覆」からアメリカを取り戻すために戦っていただきたい。

2年ほど前から、私は政府の腐敗と隠蔽の調査に取り組んでいる。この兵器システムを偶然発見したのは、ある日、バーチャルリアリティの応用のために、脳に電磁信号を注入するリバース MRI の計画を見ていたときだった。私はこれまでに 200 人以上の人にインタビューし、米国、NATO、英国の最高レベルの軍事プロジェクトに携わりながら、上院議員や下院議員にビデオによる証言を提出してきた。実際の力がない彼らの返答は、リップサービス程度のものであった。しかし、2 人の FBI 上級捜査官と数人の CIA 捜査官が名乗り出て、マインドコントロール実験のため無作為に被害者を生み続ける MK ウルトラ計画のようなプロジェクトの存在を証言した。そのうちの 2 人は、その後このプログラムの対象となり、日々拷問を受けることになった。すべての拷問は、いわゆる大陸弾道ミサイル監視防衛網といわれるネットワークと精神工学兵器を使えば可能である。

核兵器より恐ろしく、マンハッタン計画より嚴重に隠蔽されてきた第 4 世代の兵器に関わっていたかもしれないことを、私は改めて謝罪したい。2,000 人以上ものアメリカ人と他の国の人々が残虐な拷問の犠牲となり、この資料を公開することが私自身にとっても危険であることは承知している。しかし、私にとって自由というものは非常に重要なものだ。人類がこれらの兵器についてオープンな議論を行い、決断の機会が失われる前に自らの運命を選択すべきだと心底思っているし、そのためには、いわゆる国家機密を漏らすリスクを冒しても構わないとさえ考えている。私にあるのは、真実を提供したいという一念だけだ。

本書に掲載されている情報は、情報公開法、軍の文書、被害者の証言、内部告発者など、すべて信頼できるルートから入手したものである。国防総省の予算の下で取り組んだプロジェクトについては、その詳細を秘密にするという誓約を私は今も遵守している。本書の収益の大半は、精神工学実験の生存者や遺族の救済に使われるだろう。政府が失敗したとき、市民はお互いに面倒を見なければいけないのだから。

「忘れるな、私が見せるのは真実だ」

モーフィアス、『マトリックス』

まえがき

私がこの本を書いた動機は、世界中で民間人を対象に実験されている最先端の軍事兵器に関する技術的な情報を集約し、新たな被害者が警察官や精神科医、家族に見せるための参考

文献を提供し、自分の身に何が起きているのか直ちに伝えられるようにすることだった。薬品や電磁波の被害を受けながら、この拷問に関わる複雑な政治や巧妙な工作を正確に説明することは不可能に近い。この本を読んでもらえたならば、それでもなお被害者を信じない人々の唯一の言い訳は、彼ら自身の無知によるものか、アメリカ人であることの恥を受け入れられないから、ということになるだろう。

私の文章は極端に聞こえるかもしれない。政府の実験は、できるだけ暴力的で過酷な内容を被害者に訴えさせることで、被害者自身を狂ったように聞こえさせるという意図の元に行われている。もっともらしく聞こえるようトーンダウンすることも考えたが、それでは真実にならないし、後世の人々が私たちの失敗から学ぶためにも、記録は歴史的記録として留める必要がある。私たちは、もっと警戒すべきだったのだ。

CIA/DoD(国防総省)が大規模な人体実験を行う際の戦術は、35年前から変わっていない。ジキル博士とハイド氏のように振る舞うことで、彼らは政府の影に身を隠しながら、もっともらしく実験を否定することができる。もし実験をもっと穏やかなものにすれば、国防総省やCIAのこのような拷問研究は人々には逆に信じやすく聞こえてしまうだろう。

過去数十年の間、議会によるこの拷問を止めようという試みは何度もあったが、実現することはなかった。だからこそ、私たちは政府のコントロールが失われたという現実に対処し、口コミやその他のまだ情報操作されていないネットワークを通じて、真実を広めるために戦わなければならない。唯一の敵は無知であり、口を閉ざしたり、あるいは偽情報を広めようとする人々は、所詮は古典的な善と悪の戦いで犠牲になるようなどうでもいい駒に過ぎない。

私がこの本のタイトルを「マトリックス解読」としたのは、映画『マトリックス』シリーズに触発されたからだ。映画の中でモーフィアスは「マトリックスが何であるかは、誰も教えてくれない、自分で見なければならぬ」と言ったが、これからお見せするものは目を背けたくなるようなものだ。本書ではこのメタファーを解きほぐし、マトリックスとは何かを大胆に説明したいと思っている。この半世紀の間に、権力、支配、情報操作の戦略のゲームがいかに複雑に進化したかは、すぐにわかっているだけだろう。ただ、一般的な人が、この膨大な資料を解析し理解できるいくつかの真実に集約するためには、ある程度の経験と時間が必要かもしれない。

この情報南北戦争に勝利する唯一の方法は、技術的知識を広め、既に存在する何千もの証言を理解してもらえるように人々を啓蒙することだ。そうして初めて、政府はこれらの指向性エネルギー兵器による市民の拷問や殺害をやめ、「軽率な行為だった」と謝罪することにな

るだろう。その時には、世界の人々は団結し、痛みも、あるいは死をも克服する可能性をもった、約束された人類の新しい夜明けがやってくるかもしれない。これは私達の最後の戦争でもあり、その賭け金は非常に高い。失敗すれば永遠に失われるものは、私たちの魂であり、思想や表現の自由であり、私たちの個性と唯一性なのだから。

序章

アメリカの妄想 - 夢と悪夢

嘘と欺瞞は私たちの周りに満ち溢れている。「このズボンをはくと太って見える？」と聞いて「いや、太って見えるのは脂肪のせいだよ」という答えが返ってきたら、どう感じるだろうか？私たちは他人に嘘をつくよう教え、自分の気分を良くするものを信じ、そうでない事実を合理的に排除する欺瞞の国に住んでいる。平均的な人は1日に2.5個の嘘をつくという。試しに、他人や広告、ニュースなどから1日に受け取る誇張や嘘の数を数えてみるといい。あなたに嘘を見分けるだけの賢さが備わっていれば、きっとショックを受けるに違いない。

夢は心地よいものだ。世界の悲惨さから守られ、誤った希望を与えられ、自分は何か良いもの、正しいもの、道徳的なものの一部であると信じ込まされ、多くの人が無知で近視眼的な至福の時を過ごしている。真理や知識を求めて冒険し過ぎる人は、現実を認識するにつれ未踏の道を恐れるようになるだろう。一度広がった意識を元に戻すことはできないのだから。マトリックス、つまりアメリカの妄想の中にはもう戻れなくなるのでご注意を。

私は以前、仲間にこんな哲学的な質問をしたことがある。もしあらゆる面で本物のように見える仮想現実の機械があって、自分の完璧な人生を前もって決めることができるとしたら、そしてその選択により今の記憶が消されるとしたら、自分が肉体的に存在する残りの期間、その機械の中で暮らすことに同意するだろうか？質問の答えは、あなたの日常生活の源動力となっているモチベーションを明らかにするだろう。「いや、それは現実ではない。私の人生は無意味なものになってしまう」と答えるなら、あなたは自分の人生に自ら意味を見つけ、人との関係を通して自分の価値を定義し生きていくタイプの人間だ。「もちろん！完璧な人生を望まない人なんているの？」と答える人は快樂を求めるタイプで、自己の幸福を最適化するために一生を送るだろう。

この質問は、もはや単に哲学的なものではない。映画『バニラ・スカイ』のように失敗はつきものだから、「100%うまくいくならもちろん！ただ、何事にも100%の保証なんてないし、失敗した時のリスクが大きすぎるから同意しないだろうね」と私は答えるようにしている。批判的に物事を見れば、完璧な幻想というものが存在しないことは明白である。アメリカの妄想の現実とは、まさにそのようなバーチャル・リアリティ・マシンであり、ワイヤレスのハイテク技術というひねりを加え、心理学的に認可され構築された思考のデザインに他ならない。

世界の多くの人々がそうであるように、あなたもおそらく目をつぶって、何事も起こらないよう望むかもしれない。しかし、あなたは常に自分自身に同じ古い質問をすることになるだろう。「もっと何かあるのではないか？意味があるのだろうか？」もちろん、この質問は間違っていて、「意味とは何か？」と問わなければならない。この質問に答えるためには、警戒心とエゴを排除し、自分の考えを縛るすべてのものを一時的に手放す必要がある。

真実への旅は感情を揺さぶるもので、時には興奮し、あるいは落ち込むかもしれない。ただ、あなたが理解した時、もはや感情はなく、あるのはただ受け入れるしかないという現実だろう。

この探検に、私たちは科学という船に乗って出航しよう。科学は、人類の誕生以来、私たちに貢献してきた論理と方法の骨組みである。私はこの探検の船長として、様々な学問の言語を横断しながら舵を取り、それぞれの異なる視点を一つの現実モデルに融合させようと試みる。広大な人類の知識の海は専門用語の壁で隔てられているが、それらが取り除かれれば、理解の海の進航は遥かにスムーズになることだろう。

海の荒波に注意しながら、まず私たちは欺瞞の国に向かう。欺きの心理学が私たちを待ち受けているだろう。そこでは目が1つしかない獣と遭遇するかもしれない。勇敢に戦い、サイクロプス(PsychOps)の目を潰すのだ。常に警戒心をゆるめず、理性と論理的思考、批判精神という武器を振るえば、怪物に打ち勝つことも難しくない。だが、予期せぬことにも備えなければならない。シナプスの中に入っていくと、メデューサに遭遇するだろう。この旅は危険なものであることを心得てほしい。見えない魔女が唱える石化の催眠術や、禁断の知識を持つサイレンが、私たちを死の淵に誘い込もうとするかもしれないが、恐れることはない。ゼウスの息子であり、真実と光の神であるアポロが、私たちの旅に微笑んでくれるだろう。彼もまた、アレスとマルスを相手に神々の戦争を戦っているのだから。

真実はあなたが期待するものとは限らない。欺瞞の国への旅の間、私たちはアリスの白ウサギを追って、ウサギの穴に深く入っていかなければならない。時間と空間はもはや平らでは

なく、比率と論理は相反するように見えるだろう。マッドハッターの道案内も信用してはならない。彼は嘘の迷路で私たちを迷わすために、わざと混乱しているフリをしているのだから。さらに、かかし、ブリキ男、ライオンも、何度も私たちの前を横切るだろう。秘密の背後に潜む魔法使いは、彼らに頭脳も心臓も勇気も与えることはなかった。このような失敗作の数々から、私たちは自分たちがどうあるべきか三角測量で考えることができるかもしれない。

約束の地を目指し、もう後戻りはできない。

メタファーやアナロジーは、文字通りに受け取るべきではない。それらは理解への岐路に置かれた方向サインともいえる。クレムリンやペンタゴンの小さなグレムリンたちがあなたを惑わすために設置した偽のサインに注意しなければならない。あなたもやがては、彼らのサインを認識し、真の道と戦略的なミスディレクションを見分けることができるようになるだろう。

政治権力、防衛産業の欲望、そしてレーダーの光を追えば、アメリカ人の妄想を操作するトロールを見つけることができる。

美しい国、カリフォルニアの「死の谷」を渡れば、そこにある秘密兵器の発展を見てとることができる。私が支配者だったら、カリフォルニアとその人々を文化的進歩の障害から解放し、啓蒙的で文明的な生活を送れる別の土地を与えるだろう。しかし、権力に溺れ、ますます食い意地の張った巨大な連邦政府のヒルのせいで、それは実現できないのだ。

なぜこのような欺瞞の獣たちについて私は語るのかと、あなたは疑問に思うかもしれない。それは、彼らもまた、この欺瞞のマトリックスを作った小さなホブゴブリン²を理解するためには欠かせない、この旅の一部だからなのだ。

歴史と背景

EEG 集合意識

この革新的な技術と、その武器としての性能を理解するために、まずいくつかの概念と語彙

² 「愚かな首尾一貫性は、狭量な精神に巣くう魔物（ホブゴブリン）である」 - ラルフ・ワルド・エマソン、『自己信頼』より。

を定義しよう。

EEG とは脳波(Electroencephalogram)の略で、脳の電氣的活動を表す。従来、脳波は頭の周りにプローブを取り付け測定されていた。脳の活動を表す微小な電流の差異が複数のプローブ間で計測され、電圧センサーにより脳の地図の作成を可能にした。心電図も全く同じように、心臓の電氣的活動を測定するものだ。また、MEG(脳磁図)も脳内のイオンの流れから生じる磁場を同様に測定する。脳活動の測定と位置の特定において、これらは異なる長所と短所を持つ。MRI(磁気共鳴画像診断)は、脳の活動とその構造をリアルタイムで測定するためのアクティブスキャン技術で、磁気共鳴を利用して原子の種類や結合状態を表す光子を発生させる。もう一つの姉妹技術に ESR (電子スピン共鳴) と呼ばれるものがあるが、この技術を利用している病院は未だ見たことがない。電磁波は電界や磁界を摂動させることで発生し、角運動量の状態を示す情報を持っている。脳機能イメージング技術は他にも多数存在するが、これらが伝統的な技術である。

プローブでの脳情報の測定は、取り付けられたワイヤーのせいで移動性が悪く、また、脳の表面以外の電気情報を計測できないという限界もある。そのため、より詳細な脳の活動状況を把握しようとする、多くのプローブを頭部に取り付ける必要が生じた。

私はこれまでに、神経科学、認知モデル、人工知能などの研究に多くの時間を費やしてきた。ここで、政府により統制されてきた情報を一つ紹介したい。本書で繰り返し登場する重要な特許に関するものだ。1974 年、レーダー設計の主要な防衛関連下請け会社であるドーン & マーゴリン社の従業員ロバート・マレックは、遠い場所から脳全体の電氣的活動の計測を可能にする非常にシンプルなレーダー装置を発明した³。この装置には配線が不要で、頭蓋骨の表面の一点だけでなく、脳全体の電気活動を分析できるという大きな利点があった。彼は、100Mhz から 40Ghz までの単純な電磁波の振動を使い、脳とその電導路を照らして戻ってくる信号から脳波を読み取る方法を発見し、また完成させた。このイメージング法では、脳内のニューロンの脱分極状態を表す周波数共振、振幅、位相の変化を観察することができた。

しかし、それ以上に興味深かったのは、戻ってくる信号に正確にタイミングを合わせることで、脳波に影響を与えることができるという発見だった。この時、自分の発見が我々の思い描いていた民主主義を誤って破壊してしまったとは、彼には思いもよらなかっただろう。軍と情報機関は彼の特許に注目し、わずか 2 年の内に通信衛星や監視衛星、地上のレーダー

³ 特許番号 #3,951,134 Robert Malech. Dorn and Margolin Inc. Apparatus and Method for Remotely Monitoring and Altering Brain Waves. 特許番号 #4,858,612 Brunken. Microwave Hearing Aid.

網のプログラムを書き直してしまった。この技術が迅速に展開できたのも、既存のレーダー、イメージング法、通信用の地上アンテナや衛星のソフトウェアの変更だけで対応が済んだからだった。その後、このシステムを強化するために多くの監視衛星が打ち上げられた。そして、1976年、建国200年の節目に、「TAMI」というシステムが誕生した。TAMIとは「Thought Amplifier and Mind Interface」の頭文字をとったものだ。ジョージ・オーウェルが予言した『1984年』以前に、より侵略的な兄弟技術は誕生していたのである。

ロシアによるモスクワのアメリカ大使館へのマイクロ波攻撃の観測により、ステルスRADAR(電波探信儀)の技術は初めて文書に記録された。高出力のステア型レーダーを使い、隣り合った2つの場所から指向性エネルギーを集中させることで、ほぼ検出不可能な「スカラー波」、もしくは相殺的干渉を任意の地点に発生させることができる。わずかなエネルギーのみで、発生したビームは高いSN比⁴で跳ね返り、再び照射源で解読可能になった。これにより、あらゆるイメージング技術は極めて大きな距離から運用することができるようになった。事実上、探知距離はRADARやMRI、ESRなどの技術では問題にならなくなったのである。

同じ頃、ロシアも同様の発見をし研究を始めていた。これにより、今日まで続く機密の軍拡競争が加速されることになった。

この30年間で技術は大きく進歩した。諜報技術に関する知識を得る手段がなくとも、テクノロジーの進化が指数関数的に進むことを知っていれば、30年後を予測することは難しくない。当時、軍は衛星画像から自動車のナンバープレートを読み取れる能力を宣伝していた。そして、マインド・リーディング・レーダーに注目が集まらないように、心靈現象や超常的心理学の分野が考案され、一般市民を欺くことに成功した。ロシアは、1960年代後半にモスクワのアメリカ大使館にマイクロ波を照射し、1976年には7台のロシア製ウッドペッカー(超水平線レーダー)をアメリカに向けて稼働させたことで、その手の内を明かすことになった。

この新しい兵器の性質上、より多くの人口に対して効果的に運用するには特定の脳情報のデータベース化が欠かせず、大勢の人間の頭脳が必要となった。これは「カタログ化・クローン化」と呼ばれる。よく勘違いされるが、ここでいうクローンとは人間のクローンではなく脳波のクローンのことであり、テレビドラマ『X-ファイル』でも広く知られるようになった。このクローン化業務は、今日の人類を悩ませている。なぜなら、どの国もこの武器を持つ必要性を感じており、開発の過程で多くの国民が拷問され、殺されるからだ。

⁴ 信号対雑音比、SN比が高いほど伝送における雑音の影響が小さい

EEG クローニングは、人の脳波を別の人の脳にコピーする技術である。ロバート・マレックの発見により、それは世界中のどこからでもワイヤレスで行うことができるようになった。ペンタゴンには元々サイキック部隊が駐在していたが、心理戦部隊、電子戦部隊、情報戦部隊に組み込まれたと思われる。

他人の考えを覗き見ることを可能にするこの技術は、卓越した情報収集ツールとなった。

EEG クローニングという言葉は、ターゲットの心を観察するというケースだけを指すため、私はあまり使うことがない。それはこの技術の一面に過ぎないからだ。マレックは、脳波を読むのと同じくらい簡単に脳波に影響を与えることができることを発見した。端的に言えば、サイキック・ソルジャーは自分の脳波をターゲットにクローンすることができるのだ。映画『マトリックス』で、主人公を追ってエージェントが近くの市民の体に乗っ取るシーンはそれを象徴している。この両方の技術を同時に説明するための正しい用語は、EEG ヘテロダイナミックだろう。ヘテロダイナミックとは、工学用語で信号を掛け合わせることを意味する。つまり、EEG クローニングは EEG ヘテロダイナミックの特殊なケースに過ぎないともいえる。

EEG 集合意識も、EEG ヘテロダイナミックの一つで、共通の脳波を共有する人々の集合体を指す。スタートレックに出てくる悪のサイボーグ文明にちなんで、誰かを強制的に集合体に引き入れることを、彼らは冗談で「ボーグにする」と言っている。彼らは、集団的な精神構造の中に長期間いることによる影響や、この技術を利用してターゲットをコントロールしたり、監視活動をしたり、行動不能にしたり、殺害する方法を研究している。また、同期的に行われるミッションのために、スパイ・ガジェットに頼らないコミュニケーションと組織的活動も研究されてきた。

心理学と物理学が交差したこの新興の分野は「心理物理学」と呼ばれている。精神の運動については、神経科学の還元主義でうまく説明されている。人工ニューラルネットワークは半世紀以上前から存在していた。しかし、新たな課題は、意識という主観的な経験を、有機的知能の（生化学的、電磁的なものを含む）情報信号処理の運動に正確にマッピングすることだった。「心理物理学 (Psychophysics、サイコフィジックス)」という言葉は、この分野が世界中の秘密の研究室で発展してきたことを考えると、実に適切な響きを帯びている。サイクロトロニクス(精神工学) も心理物理学者の道具の一つである。

NWO(新世界秩序)のサイコテロリスト、秘密結社の関与、マインドコントロール、悪魔的カルトなど、あらゆる陰謀論を生み出してきたのもこの分野の研究だ。マインドコントロール兵器は究極の兵器の聖杯であり、世界で最も悪名高いサイコパスの科学者たちを生み出

し、彼らの兵器実験は、この地球上の人々がこれまで経験したことのない激しい人間的苦痛の世代を生み出してきた。

マインド・リーディング RADAR の最初の記録

モスクワのアメリカ大使館にマイクロ波が照射された際、その影響を軽減するために、建物の窓にマイクロ波のスクリーンが設置された。奇妙なことに、これには逆に内部のマイクロ波を増大させる効果があった。このようなことが起こり得るのは、大使館で干渉法が使われていた場合だけだ。干渉波やヘテロダイン波の通り道を塞げば、相殺的干渉のパターンが減り、測定可能なエネルギーを増やすことができる。これが、「スカラー兵器」と呼ばれるものの最初の使用例である。

真実のセイレーンに魅せられて

私自身のこと

世界規模の監視システムと精神工学的指向性エネルギーシステムの標的に私が選ばれたことを、皮肉に感じる人もいるだろう。私は、ナチスのホロコーストで自分の墓穴を掘ったユダヤ人のように、無知のままこれらのシステムの歯車を作る手助けをしていたのだから。しかし、私だけが特別というわけではない。国防総省のプロジェクトに携わる科学者やエンジニアのほとんどは、それぞれの部品が最終的にどのように組み合わせられ、システム全体がどのように悪用されるのかを知らされていないのだ。

HELL へようこそ

ある時、別々の日に、2人の人が私のそばを通りざまに「これから精神的に追い込まれるぞ、サイコパスめ」と言った。最初に言われたときは、その人が携帯電話で話しているのだと思い、ヘッドセットも確認しなかった。

私は幸せで、リラックスしていて、好きなことや、発明、社交、執筆、学習に打ち込んでいた。人生は順調だった。

2004年10月31日のハロウィーンに亡霊たちは現れた。昼寝から目覚めた後、少し変な感

じがして、その日はずっとぐずぐずしていたが、一向に調子は戻らなかった。そして、人工テレパシーが始まった。私が声を出して話すと、携帯電話のようにはっきりと、メインスピーカーから相手の 3 人の声が答えてくれるのだ。アメリカではアメリカン・テクノロジー社の兵器としてしか知られていないが、日本には「超音波ヘテロダイナミクス」という技術を使った自動販売機があり、近所の人たちがそれでいたずらしているのではないかと私は考えた。『キャンディッド・カメラ』のような日本のどっきり番組では、この技術を使って人に頭がおかしいと思わせたり、他のギャグに使ったりしていた。遠く離れた場所でも、本人にしか聞こえないように音を送信することができるのだ。その技術を実演してもらえて、とてもイカしたいはずだと私は思った。

その日はハロウィーンで、彼らは自分たちのことを「悪魔的儀式虐待カルト」と紹介した。カルトについてはあまり詳しくなかったが、おそらく怖いものなんだろうとは想像がついた。私があまり反応しないと、彼らは他にもいくつか別のストーリーを試みた。「我々はボグで、おまえの個性を同化しに来た」と男が自信に満ちた声で宣言した。実際には技術のデモンストレーションには非常に興味があったが、「どうでもいい」と私は愛想のない返事をした。「私は神だ。(しばらくの間)おまえは私が死の天使だと信じるか？」会話は続いた。「いや、わかった。私たちは邪悪な宇宙人で、これは宇宙人によるアブダクションだ」と、彼らはあまり自信なさげに主張した。私は声には出さずに「まったく、彼らはこのいたずらを試す前にリハーサルをするべきだったな」と思った。「うーん。これはどうだろう。俺たちはブレインナッパーで、おまえは思考の餌だ」。次第に会話はより好戦的なものになり、繰り返し行われた。私の唯一の救いは、ミネラルオイルを耳に入れてワックスで塞ぐことだった。しかし、このやり取りは丸 9 日間も続き、それから拷問が始まった。

今までに感じたことのある痛みや感じたことのない痛みが、MP3 ファイルのように 12 ヶ月間、繰り返し頭の中に流れてくることを想像してみてほしい。その間、ナレーターはあなたがどんな痛みを感じているかを細かく説明し、出来得る限りの手であなたを心理的に虐待し苦しめるのである。マインドコントロール研究者の一人が論文で自慢していたことは事実だったのだと、一連の拷問を受けて私は実感した。「私は 450MHz で人間のあらゆる精神機能をコントロールできる」

これらの拷問と実験は、私の人生の 35 年以上を簡単に奪ってしまっただろう。EEG ヘテロダイナミクス兵器にかかわった大佐たちは、致死性を何度も実証したと証言している。私もその後、彼らがこの方法で殺した多くの人々を確認した。

私は私のマインドコントロール兵器の実験者たちとの間に関係を築き、彼らも半ば本音で語るようになった。

彼らはこう尋ねた。「大統領に近づけるか？我々のために彼を殺してくれないか？皆がおまえを危険で頭の狂った人間だと思おう、大声でそう叫んでくれるだけでもいい。俺たちは、普通なら最初の 1 カ月で標的を精神病棟に送るか、犯罪に誘導することができるんだ。おまえの信用を失墜させたい。何かアイデアはないか？」

私「何もする必要はないと思いますよ。こんな技術が存在するなんて、ほとんどの人には理解できないでしょう。多くの市民に対するあなた達の残虐行為も、大多数は懐疑的にとらえ信じないでしょう」

彼ら「ロシア人や中国人、FBI が背後にいると皆に伝えることはできないか？」

私「他に選択肢はありませんか？」

彼ら「俺たちが訓練されたシナリオはそれだけだ。俺たちは強大な力を持ったサイキック・ソルジャーなんだから、おまえはただ怯えて言われたとおりにすればいいんだ。もしおまえが父親を殺せば、おまえを解放しよう。おまえの証言の信用を落とすためには、何か犯罪をおかしてもらわなければならない。脅迫状や何かが必要なんだ。おまえのように完璧な人間はいないよ。おまえは何だ、クソッタレのジーザスか？」

私は予言者として宣言した。「いや、私は特に信心深くもありませんが、もし私に 3 つの奇跡を起こすことができたなら、つまり、人類に対するあなた達の長い犯罪の歴史を暴露し、この兵器に対する防御策を見つけ、新しい科学の時代を切り開く手助けをすることができたら、私はたぶん聖人と呼ばれるでしょう」

あなたは見られている

世界的な統合監視ネットワーク

アラスカ、プエルトリコ、コロラド、ブラジルなどに設置されている「電離層ヒーター」は、どのように天文学的に細かい部分まで地球を撮影しているのだろうか？今後、私は「電離層ヒーター」を「地上設置型イメージング・指向性エネルギーシステム」と呼ぶことにしたい。

破壊の悪魔⁵はまたしても、これらのシステムの本当の意図や用途を国民や議会には知らせず、故意に誤解を招く名称をつけたのだ。

この巨大なフェーズドアレイは、地球の上層大気からの反射による凹面鏡効果を利用して、範囲内のどんな小さなエネルギーを見ることも、同様にエネルギーを送り返すことも可能にする。これらの指向性エネルギー・フェーズドアレイシステムは、しばしば何マイルもの幅を持っている。空が巨大な鏡だったら何が見えるだろうか？化粧鏡が顔を映すように、それは地上の一地点を増幅して映すだろう。望遠鏡のように別のレンズを加えれば、さらに微細な要素を映すこともできる。ハッブル望遠鏡がピントぼけのレンズを修正したように、大気の不完全さを補正すれば、より鮮明な画像を得ることもできるのだ。

地球上のある場所にエネルギーを向けることは、虫眼鏡をアリに当てて太陽のエネルギーで燃やすようなものだ。遠くで神を演じる恥知らずの連中には、人々はアリのように見えているのかもしれない。

{空の鏡の画像}

もし私たちが HAARP アレイと同じ大きさの目玉を持ち、HF から UHF レンジの電磁波を可視できるとしたら何が見えるだろうか。わかりやすく説明するために、電離層ミラーを見上げてみよう。

私たちは方向に関わらず世界のほぼ 3/4 を見ることができ、巨大な目と鏡の拡大効果により、可視可能な最高周波数の空間解像度と、感度とノイズフィルタリングのアルゴリズムによるエネルギー解像度にだけ制限された、ミクロな物体を見ることができる。

もし観測地点に人がいて、(電離層で可視光が反射したと仮定して)望遠鏡を覗いてみると、巨大な目が自分を見つめ返しているように映るだろう。この電離層ミラーは死の機械にとって非常に重要なものだ。揺らしたり、歪めたり、熱したり、波立たせたり、分断したりして、彼らの作り出した仮想地獄を停止させる方法を見つけることは、私たちの目標になるかもしれない。

{地上を映す空のレイトレーシング画像}

電離層は上空 50km から始まり、650km まで広がっている。いくつかの層それぞれにはプ

⁵ Devil of Destruction = DoD = Department of Defense(国防総省)

ラズマやイオン化した空気があり、「電離層ヒーター」の大部分を占めるイオノゾンデと呼ばれる垂直に向けられた RADAR からの信号を反射・屈折する。屈折と内部反射の角度は、電磁波の波長と電離層への入射角に依存する。

{既知の指向性エネルギー・フィールド・アレイの範囲とパワー・レベルを、内部反射と他の指向性エネルギー・フィールドとのオーバーラップに基づいて、異なる共通の RADAR 波長で表化したもの}

地上～電離層～地上望遠鏡の解像力。別名、指向性エネルギーと地上イメージングシステム。

{フェーズドアレイのフィールドレンズの大きさと波長から解像力を求める式に、地球大気の凹みによる倍率を加えたもの}

電子スピン共鳴(ESR)

政府が如何なる手段を用いても秘密にしておきたいものが ESR(電子スピン共鳴) という技術である。病院には ESR の機械がないことにも注目してほしい。なぜかといえば、体内の電気を RADAR から読み取ることがいかに簡単か、つまり、離れた場所にある脳波を読み取ることがいかに簡単かがすぐに分かってしまうからだ。基本的なコンセプトはシンプルで、核磁気共鳴画像法の仕組みと非常によく似ている。電子のスピンとジャイロの周波数を操作することにより作動する。

{非同期の電子の周波数と同期したジャイロの周波数の画像}

もし国民の 5%がこの基本的な物理を理解できるほど賢かったなら、脳波はレーダー・イメージングでは読み取れないとか、神経伝達物質の放出はタイミングをあわせた電磁場では調節できないなどと言う情報操作に、これほど簡単にひっかかることもないだろう。この国の人々が再び自由になりたいと願うなら、これらのシンプルな物理的真理を理解するだけで、心理的かつ精神工学的な奴隷状態から解放されるだろう。数学と科学の教育において、先進国の中でアメリカが最下位であることは偶然ではない。

電子スピン偏極共鳴(EPR)

このイメージング技術では、スピン偏極は反転によるシステムのエネルギーの増減で測定

される。エネルギーは保存されなければならないので、低エネルギーのスピン状態になると光子は放出される。高エネルギー状態に移動する間に「加熱」され、低エネルギー状態に戻るための準備が同時に行われる。体内の電気は、局所的な電界の変化により、遅延した状態に移行するように調節される。この戻り信号を処理すると、非常に高い SN 比の脳波パターンを抽出することができる。その感度はまさに「SF」並で、一本の神経やニューロン発火でさえも個別に拾うことができる。これは、シグナル・インテリジェンスに新たな意味を与える。

核磁気共鳴画像法 (MRI)

これは、原子の核のスピンとその磁気モーメントを利用した磁気イメージングの仕組みとよく似ている。

{MRI で同期した原子核の回転運動の画像}

従来の RADAR 反射イメージング

「スカラー」または干渉法ステルスレーダー

学界や商工業が誤って軍の監視を発見しないように、また、RADAR のエネルギーが人体や環境に与えるダメージを少なくするために、監視対象地域への出力だけ 2 倍にするという巧妙なコンセプトでステルス RADAR は誕生した。アメリカ大陸の特定の地域に、例えばアラスカとプエルトリコの RADAR から 2 つ以上の（パルスのような）ビームが照射されると、波の位相が 0 度か 180 度かによって、ビームの強度が 2 倍になったり（建設的干渉）、完全に相殺されたり（相殺的干渉）するのである。

ビームや波面は監視対象のエリアで跳ね返り、そのポイントにいる観察者には検出できない。波面は止まらずに反射や散乱の軌道を続け、「スカラーフィールド」もしくは「重力波」と呼ばれることもある「波面が互いに打ち消し合う場」から離れば、あらゆる種類のセンサーで収集することができる。また、散乱ステルスレーダーは、波面の散乱角度の微細な違いにより、どこからともなく「フリーエネルギー」が発生しているように見えることがある。このエネルギーは時に人から発しているようにも見え、いわゆるサイキック・エネルギーと呼ばれることがある。トーマス・ベアデン大佐が開発した「フリーエネルギー」マシンの動力源もこれである。「フリーエネルギー」マシンは、強力な散乱ステルスレーダーの力を部

分的に利用しているに過ぎない。人体から 30 ワットの散乱磁場エネルギーが検出されたと聞いたことがあるが、ベアデン大佐の主張する 75 ワットのフリーエネルギーの装置はそれに近いものがある。彼が作っているのは、実際にはスカラー波、または重力波の検出器なのだ。興味深いことに、彼は他の作用機序関連の会社を通じてこの研究に資金を提供していた。これは闇予算基金とみなされるべきだろうか。彼の投資家に聞いてみたい。

{散乱エネルギーとビームキャンセリングフィールドのイメージ図}

ミリ波、赤外線、可視波長衛星によるイメージング

軍の驚異的に詳細な赤外線イメージング能力は、誰もが一度は目にしたことがあるだろう。彼らは壁を通して熱源を見ることができる。

お化け屋敷、幽霊、宇宙人による拉致、そしてバミュダトライアングルの共通点は何か？この兵器の公開実験に触発された映画『ポルターガイスト』で、悪霊が姿を現し悪さをする時、空気が電気を帯びるシーンを覚えているだろうか？私たちは機械の中の幽霊を発見したのだ！バミュダトライアングルでコンパスの針や計器が狂い、飛行機が墜落したことを覚えているだろうか？あれは 1959 年に建設されたプエルトリコのレーダーフィールドからの指向性エネルギーの攻撃だった。宇宙人拉致事件の前に、車がエンストしたり、ラジオがおかしくなったのを覚えているだろうか？その効果や影響は様々だが、これらもすべて RADAR によるトリックである。これらのトリックはすべて、同じテクノロジーと、獣の巣窟に潜む同じ犯罪者たちによって行われているのだ。

誰がチンパンジーに銃を持たせたのか？チンパンジーの飼い主は誰なのか？巨大な戦争機械を維持するための人間の不幸というコストはあまりにも大きく、人々を安全にするはずが、統計的には逆に最大の脅威となっている。無知は至福かもしれないが、知らないことがあなたを苦しめることもあるのだ。

ファン・エックのハッキング

人の脳のハッキング

コンピューターハッカーは、できるだけ多くのマシンをゾンビ化する方法を常に探している。つまり、システムに侵入して、何らかの遠隔操作ソフトウェアをインストールする方法

を見つけることだ。「ゾンビ I~V」と呼ばれる軍のプログラムも目的が似ていた。人の心をハッキングして、遠隔操作できるゾンビを作ることを目指していたのだ。

その試みは 30 年以上前に既に成功し、今では技術は完成に近いものとなっている。アメリカだけでなく、ストーキング現象は世界中で起きている。『アメリカのテロリスト・ストーキング』(David Lawson 著)を読めば別の視点も得られるだろう。ストーカーには 3 つの種類がある。そのうちの 1 つは、情報自由法によって公開された文書の中で、政府のストーキングプログラム(俗に言うグリーン・スクワッド)として説明されている。CIA やその他の機関は、海外やアメリカ国内での脅迫戦術を職員に訓練しており、テロリスト・ストーキング集団のメンバーの一形態となっている。CIA は、歴史上何度もこのような戦術を用いて、他国の政府の転覆や指導者への威嚇を行ってきた。また、政府の工作人員に付け回されていると考える人は頭がおかしい、という社会の洗脳を助長する目的もこのプログラムにはある。常軌を逸した言動、ブラックメール、中傷などにより個人の信用を失墜させる手法は文書化されており、これらの機関にとっては重要度の高い技術となっている。

他の 2 つのタイプのストーカーは、隠蔽されたゾンビ化の犠牲者である。TAMI と呼ばれるグローバルシステムは、多くの要因に依存するが、適正のある脳にフォーカスし即座にある程度の操作を行うことができる。攻撃者は、ターゲットとなった個人の周囲の人々を操作し、その個人にのみ関連する情報を伝えるというスパイゲームをこの技術で実践しているのだ。操作される人々は、このような高度な技術には慣れていない一般市民である。対象への干渉は非常に繊細に行われるため、訓練を受けていなければまず気づくことはできない。せいぜい、なぜそんなことをしたのか、なぜそんなことを言う必要があったのかと疑問に思う程度だろう。

3 つ目のタイプは最も厄介なストーカーで、マイクロ波聴覚効果による「神の声」で作られた正真正銘のゾンビだ。人によっては、神が自分に話しかけ、誰かについて行ったり、命令で殺したり、何をすべきか指示していると完全に信じてしまう人もいる。ジョン・レノンを殺した犯人は、「やっしまえ、やっしまえ」という声が何度も聞こえてきたと証言している。TAMI が稼働を開始したのは 1976 年、ジョン・レノンが殺されたのは 1980 年である。

米国で連邦政府機関にストーキングされたり、拷問や脅迫、嫌がらせを受けたりしている人々を取り巻く文化は、時に滑稽だ。子供じみたスパイごっこに明け暮れるストーカーたちを、標的となった個人達は「ゾンビロイド」や「モンガロイド」と呼んでいる。これは、「スパイ(spook)」という言葉が既に使い古されているため、秘密の「ゾンビ」プログラムから派生してできた新しいスラングだ。

生体反応の監視とサイキック・スターウォーズの防御策

ほとんどすべての人間は、さまざまな統合技術によって監視され、追跡されている。TAMI を正当化する理由の一つに、サイキック戦争が起こった場合に軍に警告を与えたり、リーダーを電磁波の影響から守るため、すべての人を監視するグローバルなシステムが必要だというものが考えられる。しかし、もちろん現実には正反対の目的で使われている。

鼓動と呼吸のパターンの独自性（特許のリスト）

その他のスターウォーズ的指向性エネルギー兵器の計画

宇宙空間で他の衛星に向けて発射する電磁レールガンの計画を見たことがある。これは超電導の高性能マグネットを使って、弾丸よりも速く加速させるものだった。

脳と地上の物体のイメージング

私は、保護された情報源に、TAMI システムが取得した脳の画像を見せてもらったことがある。どのように生成されたかは知らされていないが、監視技術の知識に基づいて幾つかの可能性をリバースエンジニアリングすることが可能だ。認知モデリング技術を用いれば、マインド・リーディング RADAR の位相、振幅、周波数情報を利用して、脳活動を示す PET(陽電子放出断層撮)や fMRI(磁気共鳴機能画像法)のような画像を構築することができる。また、脳機能のモデルと電子スピン共鳴による頭部の地形図をもとに、スペクトル画像を作成することもできる。脳の活動は詳細まで把握されているので、それを 3D 画像で描画し表示することができるだろう。他にも、サブミリ波やテラヘルツ波を使った RADAR、地球ガウスを使った MRI/ESR の技術なども考えられる。これらがすべて、スパイ衛星群や地上のフェーズドアレイで実現できるのは驚異的だ。

医学分野には、コンピュータ断層撮影 (CAT スキャン) と呼ばれる技術がある。これは、X 線を使って体のさまざまな角度から画像データを取得し、その情報をコンピュータで処理して体の組織や臓器の断面図を示すものだ。同等の RADAR イメージングでは、X 線は健康への影響が明白なため使用されていないが、いずれかの可視スペクトルの波長を使用して、鮮明な生体画像を取得することができる。アラスカに広がる悪名高い HAARP フェ

ーズドアレイは、地球を貫通して断層撮影をすることも可能だ。

{私の魂の入れ物の画像}

私の友人に放射線技師がいる。一杯飲みに行く前に、彼が巡回している間、スクリーンセーバーの代わりに私を MRI 装置に入れてくれた。MRI の画像を見た彼は「君の脳があまりにも普通で驚いたよ」とコメントしていたので、私はおそらく健康なのだろう。私は「心を器で判断してはいけないよ」と答えておいた。

付属資料を参照してほしい。プエルトリコのフェーズドアレイ・レーダー網で、散乱レーダーとイオンスpekトル吸収を利用した「ヘッドエコー」により、野球ボールのサイズの流星をイメージングした技術に関する文書がある。読めば関連性は理解できるだろう。

モスクワの米国大使館

ロシアがモスクワのアメリカ大使館にマイクロ波を照射した事件から、アメリカが何年もかけて学んだことがある。2つの強力なマイクロ波ビームを掛け合わせると、一方のビームが他方のビームをほとんど相殺する場所に、低い測定値のためにほとんど検出できない「スカラー波」に近いレーダービームが生まれるということだ。低強度のマイクロ波はなお、環境と相互作用して元の場所に戻る。元々のビームは非常に強度が高いもので、つまり、これは SN 比を増幅させる方法なのだ。高出力の信号を、対象の物体への反応を最小限に抑えながら表面で反射させる。そして、受信機では鮮明な信号へと増幅される。これが、マインド・リーディング・レーダーの秘密である。

典型的な指向性エネルギーの「怪現象」

画像の矢印は、ターゲットが音声を聞く時に常に現れる、単語の音節の最初の音素の音声周波数領域の正確なポイントを示している。

{画像}

これは、被害者への激しい「V2K」による音声送信があった時にスキャナーが記録したホワイトノイズのピッチ (EAC) 分析だ。免責事項：軍用周波数を見るためにスキャナーを改造することは違法である。すべてのスキャナーは、「国家安全保障」の理由から、特定の周波

数帯が無効になっている。そのため、データを収集する際には、軍用周波数帯のすぐ上にある身体共振周波数を使用した。人々が自身を守るために、自分を攻撃したり殺したりするために使われているエネルギー周波数を見ることができないとは、まったく馬鹿げた話だ。縮小画像ではわかりにくいだが、この音を流すたびにターゲットは毎回同じスピーチを聞くことができる。矢印のポイントで、政府の拷問の被害者は言葉の音節を聞いているが、他の人には純粋なノイズにしか聞こえない。ターゲットが聞いている言葉の音節や拍子は、広帯域のエネルギースペクトルで見ることができるが、直音としては聞くことができないのだ。このシンプルなパワースペクトルオーディオ分析では、いくつかのエネルギーの変化を拾うことができた。

ここでは、同じ「ホワイトノイズ」のパワースペクトルを、エッジ検出を適用して異なるスケールで表示している。矩形は、被害者が再び単語の音節を聞いている部分だ。ハイライトには、10個の音声帯域とフォルマントの音声パターンのようなものが含まれている。

これは、ストックリンの特許とマレックの特許の両方で言及されている「ノイズ」の振幅位相の暗号化である。振幅とパルス周波数は変調されているようだ。ノイズを聞いても、これらの特徴は聞こえない。CIAが「言葉選択」のために、電磁波による頭部共鳴技術に加え決定論的(deterministic noise=DN)広帯域ノイズの暗号化を用いているなら、それは実に巧妙に隠されており、また個人に固有のものである。MP3プレーヤーでイコライザーをかけて、耳には聞こえない低周波の広帯域エネルギー・ジャンプを観察してみしてほしい。

音声分析に関しては、軍用の高級デジタルオシロスコープと、CIAの「言葉選択」技術をリバースエンジニアリングする専門知識がなければ結論は出ないが、その他の基本的なテストでは顕著な結果が出た。まず、音声送信中、850Mhzまでのスキャナーのスペクトル全体がホワイトノイズとなり、他の信号を拾うことができなかった。また、ターゲットの体の電気を複数の電圧測定器で測ると、10mVから0.3V以上になっていた。コンパスの針は磁北から20度ずれ、ビデオカメラのマイクロチップセンサー（CCD電荷結合素子）はイオン化して、すべての映像が明るくなりすぎて色が歪んでしまった。この時はワイヤレスの脳波測定器を持っていなかったが、標的となった個人の神経系への影響は疑う余地もなかった。今では指向性エネルギーによる「怪現象」は珍しくないなので、私は、より高度な信号処理が可能な機器を手に入れるまで、米軍の無差別攻撃を追うのはやめることにした。

暗号化信号送信の方法

1 ギガヘルツパルスの壁貫通型レーザーは、特定の場所にメッセージを送る隠密性の優れた

方法として拡張することができる。地理的に分散したトランシーバーを使用して、信号ストリームを暗号化・分割し、(衛星または地上から)送信基地に分配して送信するのも一つの方法だ。メッセージは暗号化と断片化により、各送信基地に届くまで保護される。正しい順序でパルスが届くように、各送信基地は、三角測量された 1 つの地点に正確なタイミングで放送を行う。それ以外の場所でストリームを傍受するとビットの順序が狂い、暗号化されたストリームも文字化けすることになる。傍受したストリームを解読するアルゴリズムを考案するのは、一流大学の暗号学者の課題としておこう。

同じような方法で、超広帯域、周波数ホッピング、または決定論的広帯域ノイズと精神工学的信号を組み合わせれば、検知や傍受される可能性の低い送信方法を作ることができるだろう。

恥知らずの詩

ポーター・ゴスさん、あなたには失望しました。
あなたはたった一本の電話でこの事態を止められる力を持っている。
あなたは嘘でホッチキスと世間に恥をかかせている。
拷問は不自然な自殺で隠蔽され日常的に行われている。
あなたは力を託された。
しかし、最後の最後で多くの人を失望させました。

ヴァーチャル・ニューロンと生体通信

生体通信とワールド・コントロール

改めて疑問に思うのは、いわゆる「東側諸国」の国々が、アメリカや NATO 加盟国よりも研究に積極的なのはなぜなのかということだ。アメリカ政府は、積極的な情報操作によって、この分野の民間の研究を著しく妨害してきた。どれだけの情報がまず共産主義国の検閲にかけられ、次に CIA を通過し、最後に言語の壁を乗り越え入ってくるか想像してみたい。「自由世界」と呼ばれる国々の外から入ってくる情報が、国内から入ってくる情報よりも多いのはなぜだろうか。その答えは、この国の分裂した人格の両側から欺瞞のマトリックスを眺めてきた者には明らかだ。

下記の説は、私がこの分野の研究者として有名になってから耳にするようになった、とても気がかりな説だ。世の中には数え切れないほど情報操作者がいるため、他の聖人からたびたび匿名で送られてくる情報を、私は懐疑的に調べることにしている。しかし、これは言及しておく価値のある説だろう。

「すべての人口と同じ数だけ機械を送って攻撃する。機械の考えそうなことだ」

モーフィアス、『マトリックス』

本書では、より多くの人に読んでもらえるように、幾つかの概念を簡略化している。ただ、下記の複雑な着想は、一般向けにはまだ簡略化されていないということを前置きしたい。

生体電場調節は、これらの指向性エネルギー兵器の作用形態の 1 つである可能性が高い。ニューエイジグループや昔の「サイキック」の間で最も研究されているものであり、「東側諸国」から情報が出ている技術でもある。情報的コヒーレント・ニューロン調節は、どんな脳にも接続できることがわかっている。磁場も電場も、最も基本的な形態ではニューロンの通信に作用するが、私たちの体が電磁信号を取り入れても異変を起こさないのは、それらが反復的な時系列の認知経路（つまり脳同調）の観点からは重要ではないからだ。増幅のための正確なタイミングにあわせることではじめて、脳の信号を別の外部信号で調節し、肩車して運ばせることができるのである。私たちの情報パターンと認知モデルは、ラジオ局や電気製品から受け取る信号とは全く異なる。ニューロンの通信に大きな影響を与え、効果を増幅させるためには、パルスの流れを正確に把握する必要がある。

バーチャル・ニューロンの成長

ここで紹介するのは、精神を篡奪してより高度な MIND ネットワークを構築する方法の 1 つだ。ニューロンの樹状突起にあるメデューサの頭を、もう一度見てみよう。ニューロンの状態を示す特定の特性を遠隔から測定できるなら、その情報を使って仮想ニューロンを成長させることができる。神経伝達物質を調節する方法は、電流や磁気を誘導する方法とともに多く研究されており、ニューロンの小丘の電圧に影響を与えることも可能だ。この 2 つのツールだけで、すべての人間の脳のバーチャル・ニューロンを成長させることができる。「グローバル・ブレイン」というコンセプトを掲げている人工頭脳学者たちは、それがすでにある程度、しかも完全にワイヤレスで実現されていることを知らない。彼らは皆、神経チップやプラグイン式の脳接続方法にばかり注目しているのだ。

この考えをさらに押し進めると、すべての人間の精神を繋げて高次の精神を作ることができる。あるいは、それは既に実現しているのかもしれない。私は、多くの人々が米国の MIND ネットワークにマッピングされ、接続されていることを確信している。それが現在と将来において、スパイやコントロールのための導線として使われるだけなのか、それともこの大規模な精神の集合体が統合されたのか、あるいは統合されつつあるのか、私にはわからない。2~6 人の集合意識が何千ものセルで作られ実験されているのは確かだ。それらのセル同士が、集合意識の交換機により、何らかの形で互いに接続されているかは不明である。

バーチャル・ニューロンには、例えば別の人間の脳やコンピューターで計算されたニューロンのように、自己組織化するタイプのものがある。また、非自己適応型のヴァーチャル・ニューロンを使って、新しい思考プロセスを「強制」したり、思考経路をプログラムしたりする(ニューラルプログラミング)こともできるだろう。その可能性には驚かされるばかりだ。

どんなに強い意志をもってる人でも、やがてはこの力に毒されてしまうだろう。

ターゲットの脳が知らないうちにバーチャルネットワーク(調節された脳信号)に組み込まれ、適応してしまうと、その魂に対して何でもできるようになってしまう。映画『マトリックス』のように、出口に逃げる前に脳内リンクのプラグを抜いてしまうと、比喩的にも文字通りにも MIND(精神)を失うことになる。同様に、新しく自己組織化された構成はバーチャルニューロンに依存しているので、もし信号が突然停止したら、生物の脳は新しい構成に再適応するまで時間がかかるだろう。

MIND(磁気統合ニューロン複製機)の機能は、ターゲットの脳をそっくりまねた並列の人工ニューラルネットワークによって、ターゲットの脳を文字通り複製することかもしれない。この人工ネットワークは、時間の経過とともにターゲットの認知を正確にモデル化するだろう。このモデルは人工的に計算されたものなので、早送りで行うことができる。ターゲットの脳よりも早く、会話や反応といった脳の次の状態を幾つか予測して、信頼度とセットで提示することができるのである。精神工学研究の犠牲者たちは、実際に実演されたこの現象を「思考の読み取り」と呼んでいる。教養のない、あるいは陰謀に加担する心理学者は、これを「思考化声」と呼ぶ。ターゲットが考え始め、まだ自分が何を考えているかさえ完全に認識していないのに、思考が読み取られ、ターゲットに話し返されるという現象が起きているにもかかわらず。

もし誰もが常に稼働している自分の人工的な MIND モデルを持っていたら、と仮定しよう。シナプスの重み付けされたマトリックスからなるプログラムは、常にその人とともに成長し、純粋な情報の魂の複製となる。時折、例えば新しい体験、薬物や脳の事故など様々な出

来事が原因で、MIND のプログラムの進化と実際の人間の精神の進化とが食い違うことがあるだろう。おそらくこれが、MIND のモニターに「警告」を発するトリガーとなるのかもしれない。MIND ネットワーク上にもはや存在せず、チェックも監視もされていない潜在的脅威となった人物を殺害または無力化するために、サイキック・アサシンが送り込まれる。人工的な認知モデルが実際の人物と大きくずれてしまった場合、その人物を無力化して、欺瞞のマトリックスの知識が広がらないように、他の人をアメリカの妄想から引きずり出さないようにする必要があるのだ。もちろん、これは私の楽しい憶測だ。私のエイリアンが、人工テレパシーで「MIND を傷つけてみる。おまえは MIND を失うんだ」と伝えてきた。低俗なエイリアンは、頭の中のゲームが本当に好きなようだ。

MIND ネットワークに登録されている人の数を推定する 1 つの方法は、人口における耳鳴りの割合を調べることだ。どれだけの人が、非常に高いピッチの方形波の耳障りな音を聞いているだろうか？この分野の医学研究を調べてみたが、政府の拷問プロジェクトや一般の人々が訴えるような、この種の耳鳴りを生じさせる神経学的・生物物理学的プロセスを満足に説明できるものはなかった。耳鳴りは、一般人口の 17%が経験していると言われている。アメリカの人口の 17%は 5 千万人である。アメリカの MIND コントロールネットワークは、1985 年の時点で 2500 万人を処理できると噂されていた。実際、この統計から身体的な原因がある耳鳴りのケースを除外すると、数値はぴったり一致する。2500 万人を超える影響力があれば、すべての世論や選挙を簡単に操作することができる。事実、説明されているような散発的、または恒常的な耳鳴りに悩まされている場合は、この統合兵器システムに対する憲法上のコントロールが取り戻されるまでは、公務員、政治家、軍のリーダーなどの職務に就くことは許されないはずだ。これが、革命ではなく内戦が起こる理由だ。潜在的に 8%の人口は眠りから覚めることができず、軍事機械に力を与え続けることになる。

MIND ネットワークに神経接続された人は、自分の神経回路を増幅する余分のエネルギーに依存するようになる。ターゲットの脳内化学物質は、生物学的プロセスを通じて、この余分のエネルギーに適応する。これは、人が精神作用のある薬物や毒物に耐性を持つようになるのと似ている。つまり、数年間の耳鳴りや脳の過剰な興奮による副作用以外には、自分の魂や情報の本質が地下軍事施設の膨大な数のスーパーコンピューターに保持されていると気づくことはないのだ。子供の頃から MIND ネットワークに接続され、脳の増幅信号を受けて育った場合は、その副作用に気づくこともないだろう。

宗教的なメタファーは、多くの軍事計画の中で使われている。ネプチューン神の武器である「トライデント」と名付けられた原子力潜水艦から、NASA のロケット「アポロ」、そして宇宙ベースの武器の頭文字をとった「GODS」(グローバル・オービッティング・デストラクション・システム)まで。もしあなたが魂を信じているなら、スーパーコンピューターに

囚われ、永遠に、あるいは電源が切れるまでシミュレーションの中で拷問され続ける双子の魂を解放しなければならない。

選択的記憶抹消と思考フィルター

オルダス・ハクスリーの作品を参考にした映画『エターナル・サンシャイン』では、昔の恋人の記憶に苦しむ登場人物は、その記憶を選択して削除することができた。CIA のプログラム「EDOM (記憶の電子的分離)」はこれを実現する。議論のために、精神が外部の信号で複製され、例えば脳の信号の半分は電気化学的プロセスによるもので、残りの半分は、常にほぼ完全に同期している MIND 認知モデルシミュレーションによるものと仮定しよう。EDOM は、認知モデルのマトリックスで数学的に置き換えられた神経回路を追跡し、それをオフにすることで、記憶の想起を強制的に消去することができる。これは、脳のパターンを能動的にフィルタリングする認識システムによって行うことができる。特定の記憶や、政府に認められていない考えはフィルタリングされ、MIND モデルの精神的プロセスを減衰させる。脳の信号の半分は同期した外部の MIND モデルに依存しているので、脳の経路は、完全な意識の形成に必要なニューロンを誘導するためのエネルギーを得ることができなくなる。別の言い方をすると、「思考」は勢いと慣性を持っているように振る舞い、勢いが奪われた思考は次の丘を越えることができなくなるのである。

シーシュポスは、神々の計画を人間に明らかにしたため、永遠に岩を繰り返し押し上げることを宣告された。これは、思考が減衰すれば意識へと到達できなくなることを示す良いメタファーだ。MIND ネットワークに繋がれた人々もまた、思考をエネルギーの丘の上に繰り返し押し上げる力を失い、完全な意識まで到達できないように宣告されている。

この技術を秘密にしたおかげで、アメリカの影の政府がアメリカ有史以来のどんな戦争よりも多くの人を殺してきたことは、EDOM を利用した禁煙方法を考えれば明らかだろう。催眠術や神経言語プログラミング、嫌悪療法などの技術はひとまず忘れよう。自己破壊的な行動を暗殺に利用するのは反対に、例えば喫煙の欲求も、MIND モデルの記憶や思考パターンのようにフィルタリングすることができるのだ。ロシア人も同様のテクニックを使う (あるいは使わない) ことに成功している。

バレット・タイム - 人の能力向上の研究

「あなたはエージェントのように動けるのね」

あなたの認知モデルがシリコンの上で動いていたとすると、どうなるか？脳のシミュレーションがどんな速度でも実行できるようになるだろう。主観的な意識は、脳内の状態変化によって発生する。あなたの機能がシリコン上で実行されようが、巨大なビリヤードゲーム上で実行されようが、出力される情報が常に同じであれば問題ないというのが計算上の等価性だ。心理物理学は、あなたのシリコンの魂の双子にも同じ主観的な意識が生じると述べている。しかも、それはどのような速度でも実行することができるのだ。(時速 200 マイルの軸索脱分極速度ではなく、光速で) 早送りすれば、あなたの周りの世界は実質的に止まっているようなものだ。退屈ならば、速度を下げれば時間は文字通りあっという間に過ぎていくだろう。

記憶の向上に関する CIA の MK ウルトラの研究については、現在も調査中である(付属資料の CIA と監察総監に関する文書を参照)。ヴァーチャル・ニューロンの脳波を増幅し、アルファ脳波の状態を作ると、学習力と記憶力は向上する。また、記憶の想起も速くなる。集合意識による集合知の構成という興味深い研究も存在する。ヘテロダインにより混合された精神のある部分は速くなり、ある部分は遅くなる。例えば話したり書いたりするときの言葉の選択の能力は、大きく向上することもあれば、低下することもある。問題解決や決断に使われる検索と解決の空間はより広く、共有された精神同士がうまく働くと、より早く解決策を見つけられることもある。

軍にとってより関心が高く実用的なのは、物理的な反応速度の向上だ。機械はまだ意識化されていない思考に数分の 1 秒速く反応できる。それだけでなく、予測した思考を増幅して同じ人間に送ることで、認知経路が通常よりも加速され、グループ化された神経パターンによる意識化と行動に移されるまでの時間も短縮できるのだ。これにより、徒手格闘の能力は大幅に向上するだろう。

バカなエイリアンのトリック - ブードゥー人形

この笑い話はまだ序の口だが、私は以前「1970 年代のペンタゴンに駐在していたサイキック部隊は、おそらくブードゥー人形部隊の隣室に配置されていたのではないかと、おどけて冗談を言ったことがある。実際には、HELL (地獄) というあだ名のついた作戦指令室を持つ部隊と同じ部屋に配置されていた。すべての精神工学兵器の犠牲者は、拷問の一種として、体のさまざまな部分への「熱い針のような痛み」を報告している。エイリアンたちは、自分自身をブードゥー人形に変えてしまうのだ。彼らが自分の体を鈍い針で突くと、クロー

ン化されたターゲットには増幅された感覚がはるかに痛く知覚される。彼らは人体模型（ブードゥー人形）を使ってコンピュータープログラムを設計し、突く、焼く、くすぐる、殴る、冷やすなどのポイントを選択することを考えつかなかったのだろうか？これが映画のシーンだったらどんなに滑稽だろう。

サイキック部隊に着想を得たハリウッドの映画

『メン・イン・ブラック』は、地球上のエイリアンを監視する秘密の政府機関の話だ。人間の姿をしたエイリアンを 24 時間監視している様子をモニターで映し出すシーンがあった。サイキック作戦指令室では、無数の人々の脳波パターンを、音と映像のデジタル情報に変換してモニターで監視している。映画に登場するエージェントは、タブロイド紙を読んで本当のニュースを知る。これも現実との興味深い一致だ。タブロイド紙は宇宙人による拉致について報道する。もうあなたにも想像がつかだろう。これは、主流メディアが触れることを禁じられている、指向性エネルギーによる神経系調節の実験なのだ。

EDOM - 記憶の電子的分離

私はこれまで、米国内外で増え続けている電子マインドコントロール実験に、多くのホラー映画が触発されてきたことを示唆してきた。映画『フォーガットン』では、チャーチ委員会の調査後も中止されなかった、ある特殊な CIA/国防総省のプログラムが題材になっている。EDOM は、記憶の消去に関する実験だ。映画『フォーガットン』では、何人かの子供が誘拐され、両親は彼らのことを忘れさせられていた。もちろん、この 30 年以上前の技術実験を行っているのは誰かという説明としては、邪悪な宇宙人という古くからの神話が映画では使われていた。人々の無知と宇宙人や悪魔の幻想を信じたいという欲求は今も利用されている。一般市民に兵器実験が行われているという反逆罪に対して、当然持つべき怒りを方向転換させるためである。第二次世界大戦後に連れてこられたナチスの科学者たちは、（ユダヤ人だけでなく）すべての人間を対象に実験をしても、もっともらしく否定できれば問題ないだろうという考え方を、わが国の軍や安全保障機関に感染させた。今ではそれが当たり前になっている。

記憶の電子的分離は、いくつかのメカニズムによって実現される。まず、EEG ヘテロダイソンという選択肢を検討してみよう。TAMI によって 2 つの精神が結ばれると、すべての思考が共有される。避けたい話題が出てきたときには、サイキック・アタッカーは頭を真っ白にするだけでいい。自分の頭の中を空っぽにすることで、ターゲットの頭の中の記憶の想起

を強制的にブロックすることができる。思考の方向転換も有効だ。記憶は脳の同調に誘導されるので、もし対象者が精神的な防御の訓練を受けていなければ、彼らの思考も空白になるのだ。これは一時的なメカニズムであり、長期的な記憶には影響しない。

長期記憶の消去には、より過酷な方法が用いられる。「ディープ・フライヤー」と呼ばれるこの方法では、記憶が作られる際に過剰な刺激を与えることで記憶を劣化させる。ニューラルネットワーク理論では、大量のデータや経験を学習させると、ニューラルネットワークに保存されている以前の記憶は、指数関数的に減衰すると予測されている。同様の機能を持つ電子ニューロン増幅技術は偶然発見された。しかし、当然のことながら、予算化のために売り込めるものは、何でもかんでも武器にされてしまうのだ。

EDOMの3つ目の方法は、催眠とシグナル・コヒーレンスの変化を利用して短期記憶を消去するものだ。この方法は、エレクトロニック・マインド・マッピングの実験の影響と支配の経験を抑圧し、忘れさせるために、重度のトラウマや心理的虐待に加えて被害者に使用された。実験とテストでは、特定の精神や性格のタイプには効かないことがあった。これは武器の有効性の観点からも興味深く、文書に記録されている。催眠術や暗示による忘却は、フロイトの時代から実証されている。シグナル・コヒーレンスは比較的新しい概念だ。脳には自然な動作周波数があり、それが変化すると、その変化した状態で膨大なニューラルネットワークに情報が保存される。これは状態依存記憶と呼ばれ、精神薬を服用している人やアルコール依存症の人にも見られる現象である。そのような状態で記憶された記憶は、同じ状態でなければ思い出すことができない。催眠術にも、同じ条件で記憶を呼び起こす実演が存在する。CIAに雇われた心理学者は、この現象を「偽りの記憶の想起」として広めた。70年代に多くの子供たちが残酷なMKウルトラ実験を受けており、彼らの記憶が蘇り始めたとき、多くの偽科学者たちはそれを「偽りの記憶の想起」と呼んだ。児童虐待に問われた神父たちの弁護団も、この概念を弁護のために利用した。

記憶の詮索

この技術の優れている点の1つは、記憶を探る能力だ。EEGヘテロダインの攻撃者は、すべての被害者に対して同じゲームを行う。彼らは、2つの技術を使って被害者を過去にさかのぼらせ、生まれたときからお互いが繋がっていたかのように錯覚させることができる。遠隔神経刺激の機能は、脳内の電気プローブとほぼ同じなので、ランダムな神経刺激で記憶を呼び起こすことができる。これは特定の記憶を想起させるのではなく、さらなる調査のための記憶のアンカーを見つけて記録するために使用される。

プローブされた記憶は、人工テレパシーによる会話で、関連する出来事をターゲットに思い出させるために使われる。もちろん、直接声で尋問する方法でも同じ結果が得られるが、このプロセスは、時間をかけてターゲットの人生の完全なプロフィールを得る方法としてより効果的である。

尋問と共に使われるもう一つの手法は、罪悪感の信号の埋め込みだ。これは、記憶のアンカーに関連した記憶を強制的に呼び起こすもので、ある特定の記憶について罪悪感を感じれば、さらに関連した情報が表面化する。

これらのサイキック・ゲームで使用される最後の方法は、さらに驚くべきものだ。精神活動を保存するデータベースは印象的だが、すべての人間の脳活動を後の解析のために継続的に記録する能力はまだない。代わりに、活動は時間ごとにサンプリングされ保存されている。特定の人々の精神の切り抜きを人生を通して保存し、後で見直すことができるのだ。これにより、人間の脳活動を記録するために必要な情報量は、1秒間に1.4テラバイトまで削減された。年間では、 $1.4 \text{ テラバイト} \times 31,536,000 \text{ 秒} = 44,150 \text{ ペンタバイト}$ になる。この程度の性能のコンピュータ・ストレージは、すぐに国防総省の予算で補えるようになるだろう。

このように、特定のターゲットの脳波の切り抜きを確認し、以前の出来事に関する知識を示すことで、過去をすべて知っているように実験のターゲットに錯覚させることができる。

ここで、刑法の話をしたい。他人の犯罪を完璧に立証できる方法を考えてみよう。映画『マイノリティ・リポート』の社会では、計画的な暴力はすべて未然に防がれるが、衝動的な犯罪は発生し続けている。政府がこの技術を軍事的、諜報的な用途のために秘密にしているのは、何とももったいないことだ。

精神工学の心牢

秘密の精神工学の心牢の詩

不自然な自殺はもっともらしく否定され、私は嘘の海の中で溺れている。
この世を支配している臆病者たちは、ラバのように私の頭を蹴る。
真実以上に素晴らしいものがあるだろうか、経度と方位で三角測量する。
私が精神の牢獄で怯えている間、私の話をしよう。

それは国防総省のアーカイブから始まる。
マインドコントロールの道具ついて、
青年時代に発見した、
エールを飲みながら。

精神工学的強制収容所

「かくて汝は真実を知り、真実こそが汝を自由にする」

『ヨハネ福音書』 8:32、 この言葉は、ラングレーの外にある CIA のプレートにも記されている

マインドコントロールの檻の中

ニューロン増幅技術がもたらす一つのケースを紹介しよう。あなたの思考の奇妙なアトラクターは、ブラックホールのような引力で思考を引っ張り、あなたは気づかないうちに他の誰かの考えに誘導されてしまう。誤り、恐れ、痛み、憶測は極限まで増幅される。それは機能不全であり、進化が意図したものではない。CIA に雇われたモンスターの頭脳が考え出した、最も不名誉で、哀れで、グロテスクな武器によるものである。あなたの税金が、あなたを騙すために使われていることを恥なければならぬ。マインドコントロールの檻は、ある人にとっては狂気への旅だが、大多数の人にとっては催眠状態のぼんやりした靄に過ぎない。この技術は、人それぞれにパーソナライズされた、プライベートな煉獄を作り出すことを可能にする。

世界的なマインドコントロール、拷問、静かなる暗殺のアキレス腱

私は、偽の神々のアンテナを撃ち壊し、殺人信号を送る通信システムを破壊することができると信じている。超電導体は、無責任に我々に向けられた死のビームから身を守るためにも開発すべきシールドだろう。そしてもちろん、ヒプノスがアメリカ国民にかけた催眠を取り除くことができれば、偉大な眠れる巨人は目覚め、我々の戦いの助けになるだろう。

息抜き

私たちが直面している深刻で暗い問題から一息ついて、この技術が役立つ可能性も見てみ

よう。あなたがシラノ・ド・ベルジュラック（鼻が長くてコミカルな騎士道の決闘者）だったとして、若い娘を口説きたいが、口説くための滑らかな言葉が出てこないと想像してみたい。口のうまい人と脳波をヘテロダインさせて、彼女が聞きたい言葉をあなたの口から言わせてみたらどうだろうか。事実、これは今でも実現可能だ。

そして、口達者へのお返しには、あなたの新婦との情熱的な愛の体験を EEG クローンで共有してみませんか、と持ちかけてもいいかもしれない。

催眠同調パルス

多くの被害者が報告し、私自身も体験しているのは、3.2 ヘルツのパルス状のフェイザー音だ。精神工学兵器の音を聞くには www.TheMatrixDeciphered.com を参照してほしい。最も攻撃が激しい時に私の機器から録音されたサンプルが掲載されている。これが私の頭の中で聞こえる音だ。被害者に聞こえるパルス状の周波数はいくつかあるが、多くの人は連続的な合成音、つまり「タオス・ハム(Taos hum)」と呼ばれる音しか知覚できない。この名前は、ニューメキシコ州の町で軍が高周波兵器の実験をしていたときに、市民が突然鼻血を出したり、耳鳴りを聞いたことになんで名付けられた。

聴覚刺激として知覚されるエネルギー信号を正確に再現するために、私は多くの波形を再構築し、スキャナ装置で他の波形も捉えることができた。しかし、最も顕著なものは、スター・トレックに登場するフェイザー音のような3.2 ヘルツの連続した音だった。この音の発生は、視覚野のわずかな点滅の知覚と正確に一致する。つまり、完全に無音の部屋にいても、90db のスピーカーシステムのような大音量で、ストロボのような視覚効果を持つフェイザー音が同期して「聞こえて」くるのだ。視覚野には 10 ヘルツの情報パルス列が送られている。解明するのは困難だったが、これは、1 秒あたりのメンタル・インプレッションの脳の帯域幅のようだ。脳の同調を促し、特定の神経経路を増幅するために、認知的メッセージの連続的なストリームを流すスライディング・ウィンドウを持っているように見える。映画『マトリックス』を例にすればわかりやすいかもしれない。精神的なフレームを提供するだけで、映像とパルス状のオーディオグラム両方の連続性の知覚を脳は認識するのだ。

さて、精神工学的（EEG ヘテロダイン）なフェイザー音のような音が聞こえると、シナプスの調節インパルスはターゲットの脳波と同期しなくなる。音声調節が被害者に聞こえないときは、他の感覚に対するコントロールも減少する。しかし、耳鳴りのような音が聞こえないということは、地球規模の人間監視網と強く結びつき、彼らのプログラムに完全に組み込まれているということなのだ。これは、私の脳波のスペクトル・エネルギーのサンプルで

ある。眠っているときも起きているときも、3Hzのラインにパワーがあることがわかる。

{EEG パワースペクトルサンプル}

この現象は、リン博士（シカゴ大学）のマイクロ波聴覚効果の説明と一致するものと思われる。つまり、脳組織の熱弾性的な膨張があり、それが内耳に到達して蝸牛の神経や有毛細胞を刺激するのだ。おそらく、吸収されたエネルギーの音声認識を脳の経路とずらしてしまうようなメカニズムがあるのだろう。2つの信号の音響的ヘテロダインの知覚的解釈のバイノーラル統合の失敗は、同様の現象を引き起こす。

{バイノーラル・ビートと音響的ヘテロダインについての説明図}

パルス状オーディオグラムやメンタル・インプレッションの仕組みを視覚的に理解するには、ウェブサイト (www.TheMatrixDeciphered.com) にアクセスして、フレーム画像をダウンロードしてほしい。フレーム画像を透明な紙に印刷し、グリッドの後ろで、パルスと位相がエンコードされたビジュアルメッセージをゆっくりとスライドさせると、あなたの脳はそれを理解し、連続した動きを認識するだろう。

{弾む（バウンスする）ドットと、その上に「Qui Vindicent Ibit（復讐者は来る）」という言葉、あるいは米国の国旗が憲法旗に変わる様子が位相エンコードされたパルスメッセージの画像}

バカなエイリアンのトリック

「スターウォーズのスペース・レーザーで攻撃した。どうだった？」と私の頭のねじが外れた過激派のバカが言った。私は首と腕に蜂に刺されたような感覚を覚えた。「実は毛を何本か抜いただけだが、そう感じただろう？」

精神工学の音

精神の牢獄の壁からは、耳鳴りのようなメロディックな音がする。DoS 攻撃(*特定のネットワークやコンピュータを対象に大量の処理負荷を与えることで、システムのサービス継続を妨害する攻撃)による脳のハッキングの実験の被害者の多くは、信じられないほど大音量のメロディックなベルの音や、人工テレパシーと呼ばれるニューラルリンクからの音声通

信を聞いている。耳鳴りのような音が聞こえるのは、特定の信号が脳波と同期していないときだ。学校で試験を受けているときに、誰かが鉛筆を削っている音や、窓の外から削岩機の音が聞こえてきたとしたら、騒音がうるさくて何も考えられないと文句を言うだろう。電磁波の牢獄とはまさにそういうものだ。耳鳴りやマイクロ波聴覚効果は、頭が働かないほどの音量なのだ。それが聞こえないときは、同じパワーレベルのものが今度は思考に影響を与えていることに気がつく。

ハンドラー、つまり精神の監獄の看守たちの声は、携帯電話の通話のようにはっきりと聞こえる。これが、CIA が何十年もかけて研究してきた人工テレパシーである。何千人もの人々が米国のプログラムの下で奴隷にされ、議会が何度中止を求めても終わらない MK ウルトラによる拷問を毎日受けている。イラク人への拷問を否定したときと同じように、彼らはプログラムを下請け業者に委託したり、法律を「創造的に」回避するために、新しい肩書きの秘密機関を作っている。今、政府を動かしているのは犯罪者たちだ。彼らは法を無視して私たちを監視し、心理戦や情報戦をプロパガンダと呼ぶ。法律で明確に禁止されているにもかかわらず、これらの武器を使って外国の指導者を暗殺しようとしている。ブッシュは憲法や権利章典を暗唱することさえできず、私たちが政治的にどれほど墮落した時代にいるかは明白だ。

精神工学的牢獄の人工テレパシーの音を聞くには www.TheMatrixDeciphered.com を訪れてほしい。

世界の政治と支配

精神工学の強制収容所は、小規模なオペレーションではない。アメリカだけでなく、世界中の人々に行われているものだ。肉体的な傷跡を残さず目に見えない拷問は、アメリカや同盟国に対する怒りや恨みを意図的に増大させている。CIA の MK ウルトラ・プログラムで開発された手法を使い、「影なき狙撃者⁶」が作られているのだ。彼らはどのような戦略と理由で、このようなことをしているのだろうか？私は、世界政治の複雑さや、権力と支配の必要性をすべて理解しているわけではないが、米国による世界の人々に対する攻撃的な行動の背後には、テロリズムがいたるところにあるという印象と恐怖を与える目的があると推測される。おそらくは、さらなる軍拡や新世界秩序を正当化するためだろう。おそらくは、軍の文書にも書かれているように、これらの神経兵器が受け入れられるような風潮を作り出

⁶ 映画「影なき狙撃者 (Manchurian Candidate)」から取られた語で、「洗脳された暗殺者」を指す。

すためだろう。おそらくは、自由をさらに奪い、ファシスト国家のような国内監視の強化を手早く実現させるためだろう。自己攻撃や意図的に恨みを買うこと自体は、特に新しいスキャンダルでもない。アメリカは何十年も前からこのようなことを行っており、多くの成功を収めてきた。大衆は難しい質問をすることができず、原因と結果を結びつけることができないのだ。

『U.S.A.Today』の引用によると、このマインドコントロール用の指向性エネルギー兵器は、1992年にサダムに使用されたという。これが、アメリカが数年後に莫大な費用をかけて再び戦争をしなければならなくなった理由と関係がない、とは考え難いだろう。しかし、これらの兵器がアメリカや国外の人々に使用されている規模を、誰も信じていないのだ。英国では70人の被害者が名乗り出ている。私は、中国、台湾、ロシア、オーストラリア、ドイツ、スウェーデン、フィンランド、カナダ、メキシコ、その他多くの国々の神経系兵器の実験の被害者と連絡を取っている。兵器の実験者たちは、あらゆる言語のあらゆる文化で兵器が機能することを確認する必要があるため、拷問を行い、犠牲者を殺すことで実験を隠蔽しているのだ。信じられるだろうか？アメリカの世界に対する悪意ある行動の数々から判断すると、この国に対する私たちの自己認識は、不合理な愛国心で完全に歪んでいるように見える。

ゲームはより洗練されたものになってきている。不届きな政府各機関は、自己攻撃を行うために（時には彼らが知らないうちに）第三者を利用し、間接的な方法をとることにより、ほとんどのアメリカ人はそれが起こっていることすら認識できない。これは、怒りの矛先を間違ったグループに向けるという昔からある方法だ。アメリカの戦争屋たちは、いつも行動の機会をうかがっている。

メディアはなぜこの重要なテーマを臆病なまでに報道しないのだろうか？なぜ深く掘り下げようとしないのか？科学や政治が複雑すぎて、ニュースにできないのだろうか？それとも人々にとって怖すぎる事実なのだろうか？私たちの気分を害するものだから、信じないことにしているのだろうか？私たちはアメリカンドリームと妄想を抱いたまま眠りこけている。

税法とテロリズム（再び息抜き）

このテーマに関する裏工作がいかにか完全であるか確認し、嘘の迷路の全体像を把握するためにも、私は白ウサギを追いかけてながら、テロの被害者を救済するために成立した税法を検証してみた。サイコ・テロとは人間の精神をハッキングする行為であると、いくつかのよく知られた軍事文書では定義されているにもかかわらず、国税庁は米国が主催するテロ行為

を認めていない。特に、被害が脳の無力化によって間接的にもたらされり、自分の体を使って行った場合に認められることはない。テロリズムは、発生源が不明で、直接的な物理的影響があり、大統領が認めたものでなければならない。この「テロ」という言葉のマーケティングは非常に優れていると思う。そういうことで、アメリカで生きている被害者は、この体制下では迅速な補償や減税を期待してはいけない。関係ないが、時々、私はこのような話や複雑な技術を、無感覚で退屈な機械の歯車に説明して、彼らの反応を見るのを楽しんでいる。

ヒプノチューブ・プログラミング

さて、人間の拷問と死の抽選のために、どのようにこの犯罪の武器が機能しているかを見よう。私たちは、宗教的な迫害から逃れるためにこの国を作った。何を信じようと、どんな神を崇めようと、それは私たちの自由である。神や悪魔が自分に語りかけていると信じているわけでもないのに、政府のエージェントが自分をストーキングしている、指向性エネルギー兵器が自分に使われていると「信じる」人々が、この問題についての膨大な文書があるにもかかわらず、無知な地方自治体に助けを求めれば、刑務所の精神病棟に放り込まれてしまうというのは、何と不幸であり、また違憲であることか。私がインタビューした兵器実験の犠牲者の 25%以上が、愚かな当局によるプログラムされた紋切り型の対応を経験している。CIA のエージェントでさえ、警察はいつも邪魔者だと言う。彼らは結局、人間にとっても邪悪なエイリアンにとっても迷惑な存在なのだ。私たちは、この「民主主義」において、自由に真実を信じ表現する権利さえ失ってしまった。それは、長い間、徐々に、静かに奪われてきた。何十年もかけてゆっくりと行われたので、誰も気づかなかつたのだ。もし、このような汚い手口を使って 1 年で憲法が無効化されていたら、人々は大騒ぎしていただろう。

人体実験の兵器産業は、秘匿のために大衆心理を利用する方法を考え出した。被害者を拷問し、実験し、長期間にわたって殺害し、しかもそれを少数に行い、一般的な病気や事故として死を装えば、誰も気にしないということがわかったのである。これは、自由の喪失、増税、政府の肥大化、法律の複雑化にも当てはまる。国防総省と CIA が実践してきたことは、法律の意図を「創造的に解釈」するために、言葉や言語の定義をゆっくりと進化させることだった。権利章典、独立宣言、憲法の中に、現在「影」の政府を動かしている犯罪者たちによって覆されていない概念は一つも存在しない。

テレビのようなものが実際に人々を洗脳できることには驚かされる。唯一の情報源は、強い影響力を持つことになる。CBS は CIA の元エージェントが始めた会社だが、エージェントが政府から本当に「離れる」ことなどないのは知っての通りだ。政府が公然とテレビネットワークやその他の大きな産業を所有している国々も少なくない。アメリカではこっそりと

行われているが、影響力はまったく同じだ。善良な人々が選挙運動の改革を推進しているのは、なぜだと思うだろうか？候補者の選挙資金と獲得票には、非常に強い関係がある。私たちは日々、実力主義から遠ざかっている。

「世界から見れば、あなたは一人の人間かもしれません。

しかし、一人の人間にとっては、あなたが世界であるかもしれないのです」

不明

より道徳的、哲学的な問題

あなたの脳のパターンが、マインドコントロールと拷問のための武器システムによってマッピングされ、分類されたでしょう。マイクロ波送信機によって送信された思考パターンの信号は、あなたの頭蓋骨の中で反響する。それは、意識を含む情報のパターンだ。大陸弾道ミサイルシールド（別名：電離層ヒーター）の制御者は、誰が地球上で地獄を生きるか選択できるが、さらに恐ろしい事実は、あなたの死後も思考のクローンに拷問を続けることができるということだ。あなたのクローンは、あなたの脳のパターンとして分類された情報の断片に過ぎない。このクローンは、あなたの親類といえるのだろうか？脳の電気信号を使った拷問のシミュレーションは、記憶を宿す肉体がなくても継続することができる。あなたには、拷問を受け続けるデジタルの自分を救う道徳的義務があるのだろうか？もしあなたが拷問を受けていたら、デジタルの双子は何としてもあなたを助けようとするだろうか？この文脈では、「悪」という言葉を使うのが妥当だと思う。

米国が秘密兵器をこのように使用していることに誇りを持つのは難しい。心ない墮落した少数の人間が、専制政治と永遠の仮想地獄の世界的な人間監視システムを支配している。別の誰かが他の使い道を考えていればと、ついため息が出てしまう。

仮想地獄の広さはどれくらいだろうか？電磁気により作られているので、理論的には、センサーがどれだけ優れているか、送信機がどれだけ強力かによるだろう。新しいスパイ衛星が打ち上げられ、新しい電離層ヒーターが完成するたびに、地獄の境界線は広がっていく。ハッブル宇宙望遠鏡は宇宙の果てまで見ることができ、電磁波はわずかな損失で永遠に移動する。アメリカがグレートサタンと呼ばれる理由を想像するのは難しくない。

私が書いた短いフィクションでは、非常に高度な文明が進化し、彼らはその心理物理学的な理解によって、幸せのエンティティーを生み出す製造センターを宇宙に作るべきだという道徳的な信念を持つまでになった。彼らは幸福の主観的な経験を複雑な信号に完全にマッ

ピングしていた。彼らの道徳的な社会は、宇宙のあらゆる場所で幸福信号の量を増やすことによって、あらゆる実体に至福の経験をもたらすパターンを再現することが義務であると信じた。

権力者たちは、人々の恐怖心を煽ることで地獄の創造を正当化した。テロリストの情報を収集するために、人々の心の中を覗かなければならない。戦場で人を殺さなくてもいいように、最大の痛みを与える武器を作らなければならない。敵をだまして武器を捨てさせるために、神の声を送信する必要がある。誰も大量破壊兵器を作らないように、社会の心をコントロールする必要がある。合理的な理由を挙げればきりが無い。しかし、結果的には、死の救済さえなく人々を密かに拷問するためのシステムが作られた。TAMI というシステムは、HELL と名前を変えるべきだ。

ところで、誰も幸福兵器の話題には触れないようだ。敵を幸せにしてリラックスさせ、戦う気をなくさせる。人々に幸せを感じさせて、大量破壊兵器を作ろうとは思わないようにさせる。人々を寛大にさせて、より多くのことを分かち合い、与え、仲間を大切に思うようにさせる。これらの脳信号が TAMI で収集され、テストされることがないのはなぜだろう？

なぜこの兵器システムでクーデターが発生したのか、その理由は言うまでもないだろう。政治家や裁判官は、ある法律を可決したりしないように、自然にマインドコントロール（あるいは遠隔操作）することができる。監視されている人々の心の中の情報は収集され、脅迫に使われ、時にはマスコミにリークされる。大統領にはこのシステムが積極的に使われているとは知らされないで、否定に熱心な連中はもっともらしく否定することができる。精神工学の拷問ネットワークに繋がれるかもしれないという脅しを受けてなお、この話題を取り上げる勇気のあるジャーナリストはあまりいないだろう。だから私たちは皆、静かにしていて、自分たちが自由であるかのように装う。私たちの自由は盗まれたのに、どうやら誰も気にしていないようだ。イラク人に対する拷問のような、あまり重要でない問題についてたっぷり話し合おうじゃないか。そうすれば、私たち自身の憂鬱な現実から目をそらすことができるのだから。

軍や CIA による民間人への兵器実験を止めようとする議会の試みは、ことごとく潰されてきた。マインドコントロールや神経兵器を宇宙から追放しようとする試みも全滅だ。彼らは地獄の境界線を広げることを止めない。力の誘惑は、どんな人間や国家にとっても、抵抗するには大きすぎるのだから。

先人たちは、自由な世界という夢を持っていた。彼らは、不正な政府組織が権力を持ち、TAMI と呼ばれるマインドコントロールシステムが台頭してくることを予測できなかった。

彼らの夢は、もう私たちの前から消えてしまった。

欺きの心理学

臆病な新世界

「汝らは真実を知り、真実は汝らを狂わせるであろう」

オルダス・ハクスリー、『すばらしい新世界』

恐怖心は最高のモチベーターである。ロシアの核攻撃をいつでも恐れるようにすれば、人々は「スターウォーズ防衛」に莫大な費用をかけることに賛成するだろう。ターバンをかぶった民族を恐れるようにすれば、人々はテロと戦うための国土防衛に巨億の予算を投じることを承認し、多少の自由を手放すことも厭わないだろう。

すべての特許は、特許庁に入る前に軍が兵器としての可能性を検討する。国防総省が兵器開発の先陣を切るために行う不条理な行為は度を越している。彼らはきっと、「ペンが剣よりも強し」という公理を検証するために、筆記用具で動物を刺すことに特化した研究室を設置したに違いない。

ペンタゴンの文書によると、人間はロボットよりも安価である。だからこそ、私たちは今でも兵士を戦場に送る。この哲学は彼らの兵器開発にも通じるものがある。人的コストや不幸は、国防総省の提案書やボトムラインの数字には現れない。私たちが兵器開発のために家畜のように屠殺されるのはコストがかからないのである。

偽情報の時代と欺瞞の技術

グラックス：彼は彼らに死をもたらし、それゆえに彼らは彼を愛するだろう。

グラックス：恐怖と驚き、強力な組み合わせだ。

ガイウス：そんなことで人々が誘惑されると本当に思っているのか？

グラックス：彼はローマとは何かを知っていると思う。ローマは暴徒だ。彼らのために魔法を使えば、彼らは気が狂う。自由を奪っても、彼らは吠える。ローマの心臓は元老院の大理石ではなく、コロシアムの砂なのだ。彼は彼らに死をもたらすだろう。そして彼らはそれゆ

えに彼を愛するだろう。

-グラディエーターより

政府の欺瞞プログラム

INSCOM(アメリカ陸軍情報保全コマンド)は「戦略的欺瞞」を推進する部門であり、UFOや超常現象の研究コミュニティと密接に連携している。アンクル・サムが求めているのは、愚かで無知なままのあなたなのだ。

クリントン大統領は、黒人に対して知らされずに行われていた軍とCIAの梅毒研究の実験について謝罪した。病気の進行の観察のために意図的に彼らは治療されず、26人が死亡した。同様の実験はヘルペスや他の病気でも行われた。クリントンが軍用犬に鎖をつけ忘れた他の大統領についても謝罪している同じ頃、彼と彼の軍部は、神経系破壊兵器を使った人体拷問実験の強化に関わっていた。似たようなエピソードは、ブッシュ・シニア・ジュニアの時にもあった。軍事兵器の統計データを維持するために無作為に選ばれた市民を実験、拷問、殺害し、20〜30年後に情報が公開されると大統領が謝罪する、というのがアメリカ流だ。何も変わらないのだから、そういう国だと認識するべきだろう。これは、軍に他のやり方を考える頭がないため続いている、暗黙の死のくじ引きである。「ロシア人が遠隔操作の心臓発作兵器をテストしているから、やらなければならない。兵器の性能を理解するためには、少数の犠牲を払わなければならない」というのが、やんわりとした軍部の見解だ。

アメリカ人であること

この本は12の言語に翻訳されている。もしあなたが幸運にもアメリカ人でないなら、私が「私たち」という言葉を使うとき、それはアメリカ人を指していると覚えておいてほしい。あなたはおそらく、アメリカの2つの顔をすでに知っているだろう。つまり、プロパガンダの言葉を発信するメディアや政治家と、戦争とその根拠を作り出す影の政府である。軍は政治家やメディアにまで大きな影響を与えている。子供のおもちゃ売り場にはおもちゃの銃が陳列され、私たちは子供たちに幼い頃から殺し方を教えている。映画や殺人事件の発生率を見てもわかるように、私たちは世界で最も暴力的で過激な文化を持っている。唯一の超大国であり、影響力拡大の意思を明確に示しているこの国を、他の国々はもっと恐れるべきなのだ。力の均衡を図るために、アメリカ以外の国々で同盟を結び、秘密の会議を開くことをお勧めする。

そして、2年前の私のように愛国心を持って国旗を振っている幸運で無知な人々には、次のようなアドバイスをしよう。妄想を満喫し、あなたとあなたの愛する人が次のくじで当たりを引かないよう祈ることだ。理想を支持することは良いことだが、同じ色をした見せかけのシステムを支持することは、その理想そのものを破壊することにつながる。

私は、CIA と軍の国際的な犯罪行為を阻止するために、何千人ものアメリカ人実験者へのインタビューから得た証言を記録している。それらの実験は、「影なき狙撃者」や自爆テロリストを作り、国を不安定にさせるための反体制派を他の国で作るものだ。人間の精神をハッキングするための武器と方法を知れば、他の国々も、米国の犯罪支援ネットワークを崩して混乱させ、自国の安全保障機関内の二重スパイを発見することができるかもしれない。

信用失墜の方法 - ガスライティング

私たちは自然に「オッカムの剃刀」という哲学を使っているが、これは「最も単純な説明がたいてい最も良い」というものだ。つまり、誰かを誇大妄想的に思わせるためには、複雑な嫌がらせの計画を立て実行すればよく、大多数の人は被害者の話に不信感を抱き、行動したり気にかけてたりしなくなるのである。CIA の心理作戦に習って人々の心理を研究すれば、ある事実を与えられたときに人が何を信じるかは、ある程度正確に予測することができる。

私たちは、自分が自発的で「選択」ができると信じたがっているが、客観的に見ると、その主観的な「選択」の感覚は、ニューロンが低確率で発火する事象に過ぎない。人は自分の決断について語る時、しばしば、私には「選択肢」がなかったと言う。これは単にニューロンの発火の確率が高かっただけである。幾つかの行動の可能性が与えられた時、理性は最も確率の高いニューロンの発火経路を選択する傾向にある。「選択」という主観的な経験を、脳のダイナミクスという客観的な因果関係に紐づけることで、あなたはたった今、心理物理学の基本原則を学んだのだ。

政治家は、泥仕合によって相手の信用を失墜させるという戦術を用いる。相手の発言の正直さや正当性を疑わせるような汚点を作ったり、掘り起こしたりすることが、最近では多くのキャンペーンの目的となっている。CIA や外国の情報機関は、脅迫によって政治家をコントロールする。もし誰かが輪から抜け出したら、力を剥奪するにはマスコミへのリークだけで事足りるのだ。

弁護士は、証人の信用を失墜させる戦術を用いる。陪審員に、証人の嘘や誤解、下心のパターンを示すことで、信用を落とすことに成功するのである。

このような古典的な戦術は時代が変わっても効果が衰えないことが証明されているが、隠蔽工作に関わる機関は、もう一つの伝統的な戦術を好む。それは、誰かに「妄想性統合失調症」や「精神病」のレッテルを貼ることである。このレッテルを貼られてしまうと、ほとんどの証言は信用されなくなってしまう。軍部は60年代から、反抗的な兵士などを精神病院に収監するためにこの戦術を用いてきた。しかし、60年代初頭から一般人を対象とした神経攪乱技術の兵器実験が始まり、1976年に実験が本格化すると、精神疾患とみなされる範囲を一般人向けのより広い範囲に再定義しなければならなくなった。映画『ビューティフル・マインド』は、「天才でも精神を病むことがある」という考え方を人々に植え付けるため、タイミングよく公開された。つまり、優秀な人が「声を聞いた」と論理的には非の打ち所のない説明をしても、その説明は否定されるべきであり、彼はその妄想によって暴力的で危険な存在になるかもしれないという考えの吹き込みだ。しかし、心の働きを詳しく見てみると、脳の大部分が完全に機能しながら、特に高次の認知機能が完全に機能しながら、聴覚と視覚の経路が大きく損なわれるということは、極めてあり得ないことなのである。精神の科学と現在の兵器の性能を調査すれば、アメリカの人体実験プログラムの歴史とその背後にある科学においては、より可能性の高い事象が実際にはより複雑な事象となっていることが明らかになる。それは、オッカムの剃刀の原則に反するのである。

戦略的欺瞞

行動は、その意味、行為者の動機、関連性を理解するために、あらゆる可能性の中で判断されなければならない。

この技術を使った秘密の強制収容所や人体実験を隠すために、政府のエージェントが成功したもう一つの戦術に、被害者を装ってエージェントを送るという方法がある。彼らの任務は、できるだけ声高く、そして狂ったように話すことだ。私は少なくとも2人の被害者に扮した役者に遭遇したことがある。このような戦法は、CIAが外国の権力者を操るためによく使われている。この心理学的手法は、他の情報操作戦術と同じ原理で機能し、一般の人々の傾向、つまり、ある一つのサンプルをグループ全体に一般化したり、二項対立的な考え方をする傾向を利用している。このような一般的な論理的欠陥は、何十年にもわたって人々を欺くために利用されてきた。

何人かのエージェントに精神工学の被害者のふりをさせ、邪悪な宇宙人やその他の典型的な信じられない話題について語らせるだけで、電磁的な脳操作について語る人々のグループ全体も宇宙人と関連付けられ、一般の人々には彼らの話が信じられなくなるだろう。単純

な戦術だが、限られた時間と情報しか持たない一般の人に、同じ話題に関連する他の証言についても誤った判断をさせるために、非常に効果的であることが証明されている。

心理戦、情報戦、戦略的欺瞞は、不実にも私たち国民に対して積極的に使用されている。犯罪者たちが銃ではなく目に見えない指向性エネルギー兵器を使ったとしても、また、情報戦をプロパガンダに置き換えたからとしても、それらは殺人や戦争と何ら変わりはない。

これらの目に見えない武器は、単純に頭を撃つよりもはるかに破壊的に使われているのだ。

また、ミスディレクションの戦術としてよく使われるのが、大掛かりなドラマで世間にアピールすることだ。かつてこの犯罪が注目されなかったときにはいつも、政治的なスキャンダルがマスコミにリークされるなどドラマが作られた。本書が出版される頃には、アメリカはイラン、シリア、そして北朝鮮への侵攻の道を歩み始めていることだろう。戦争が起きれば、この本で取り上げられているようなテーマは忘れられ、より大きな問題に気づくこともなく、巨人が眠りから覚ますこともないのだ。

国民の注意をそらすためのメディア

MK ウルトラによるマインドコントロールプログラムが発覚したときも、ニクソン大統領のウォーターゲート事件のように、メディアの注目を奪うタイミングでスキャンダルが発生した。政治的なスキャンダルは、ニュースにするにはあまりにも醜悪で複雑な脅威を簡単に隠し、注意を引くことができる。クリントンが「政治をコントロールする巨大な陰謀がある」と言ったのも、あながち嘘ではない。正確にタイミングをあわせたメディアのリークは、便利な方法として確立されている。

騙しのテクニック

有名なコンピューターハッカーであるマイケル・ミトニックは、『騙しのテクニック』という本を書いた。この本では、彼が防衛コンピューターシステムに侵入した際、そのほとんどが深い技術的知識を用いたものではなく、ソーシャルエンジニアリングによって行われていたことを紹介している。彼が好んだ攻撃方法は、他人のふりをしてパスワードをだまし取ることだった。彼は現在、政府機関のコンサルタントをしている。

その反対側にある手法は、情報機関が国内の任務で頻繁に使用するものだ。警官や FBI な

どの職業になりすますことは、うまく物事を運ぶために非常に有効だ。心理学的には信頼ゲームという手法が用いられてる。嘘は、たくさんの詳細な情報に裏打ちされていれば、信じてもらえる可能性が高くなる。私はこの種の信念操作の練習として、受け持ったクラスでゲーグリズム作成の課題に取り組ませたことがある。グーグルの検索エンジンに「みじめな失敗(miserable failure)」という言葉を入力すれば、ゲーグリズムの例を見ることができる⁷。最初のリンクは、ジョージ・ブッシュ大統領の伝記である。これが真実ではないとは言えないが、十分な広告と印象によって社会通念可できる意見であることは確かだ。

オズの魔法使い

CIAには、「オズの魔法使い」と呼ばれる尋問スタイルがある。これは、対象者を混乱させるために使われる。良い警官、悪い警官のような、真に迫ったロールプレイが必要とされる。彼らは、まるで脳がないかのように愚かに、心がないかのように凶暴に振る舞う。そして、勇気のない偏執的で臆病な行動をとる。

もう1つの尋問方法は、EEGヘテロダインと対面尋問の両方で使われる「不思議の国のアリス」と呼ばれる手法だ。何日も眠らせないようにし、電磁気やLSDを使って、歪んだ知覚や視覚と聴覚の倒錯を誘発するのである。彼らは、これらをアメリカや世界の人々に実験している。この手法は、白ウサギを嘘の迷路に追いやるためのシナリオの一部でもある。

ポンジ・スキーム

「CIAが雇った偽情報提供者にマインドコントロールの被害者を演じさせ、本当に狂っているように聞こえるようにテレビで放送しなさい。そうすれば、世間は被害者全体を狂った集団として一般化し、35~40年に及ぶ拷問と無言の暗殺を隠し続けることができる」
不実な政府の高官はそう命令した。

信用失墜の方法

彼らが言うところの「メソッド」とは、極秘技術や軍の不正行為を隠蔽するために組織的に使用される心理的ツールであり、何十年もの間、非常にうまく利用されてきた。サイクロ

⁷ 2007年にグーグルにより修正済み。

プス（心理作戦の一般名）はこれらの技術を専門とし、常に世界中で展開されている。テレビ番組や映画、雑誌などの人気コンテンツに、露見してしまうことを恐れる真実の一端を織り込み、同時に、その真実を徹底的に否定するような文脈で人々に伝えるという手法だ。『X-ファイル』や映画『マトリックス』もその一例である。技術をサイエンスフィクション化して、政府による不正行為を比喩に加えれば、ほとんどの人はそれが実際には存在しないと考えるだろう。さらに宇宙人や超能力者を登場させれば、提示されたコンテンツはすべて空想的なものだと思わせることができる。この心理的なトリックは、多くの人が黒か白かで考える傾向があるため、うまく機能する。私は、真実を覆い隠すために使われている偽情報サイトを追跡して、この方法を広範囲に研究したことがある。彼らは何十年もこの方式を変えていなかった。

私はいまだに、『マトリックス』の脚本家であるウォシャウスキー姉妹とスチュワート氏にインタビューして、RHIC と EEG ヘテロタインの技術について、どうやってこんなに正確な比喩表現ができたのかを知りたいと思っている。この技術をハリウッドの SF として貶めるためにスチュワート氏に EEG ヘテロタインが行われたのか、それとも CIA エージェントから匿名の脚本を渡されたのだろうか。また、『X-ファイル』の脚本家が何に触発されたのかにも興味がある。X-ファイルのアルバムの隠しトラックを聴くと、ストルゴルドという男から受けた命令として、クローニングやカタログ化業務のことなどが語られている。EEG ヘテロタインは EEG クローニングとも呼ばれている。CIA は何十年にもわたって脳のバリエーションをカタログ化し、性格プロフィールのデータベース化を行い、それらはコロラド州に保管されていると B.F.スキナーは講義で私に教えてくれた。ストルゴルドは実際に 70 年代に亡くなったアメリカとドイツの科学者で、精神工学研究に携わっていた。

大衆の信念を植え付けるために使われた重要な映画、『ビューティフル・マインド』を最後に紹介したい。天才的なノーベル賞受賞者であるナッシュが、偏執的な統合失調症になり、時には妄想のために危険な状態になっていたことを描いた作品だ。これにより、頭のいい人は発狂したり、政府にストーキングされていると妄想するものだと、一般の人が誤解するような刷り込みがされた。この 3 つの映画だけでも、脳波クローン実験と拷問兵器のデータ収集を強化するための舞台は整い、1996 年から現在まで、精神工学の犠牲者の数は劇的に増加している。1963 年に放映された『アウター・リミッツ』シリーズも、その世代のアメリカ人に同様の影響を与えた。

混乱のテクニック

矛盾した情報を心の中に氾濫させる。

インターネットや書籍、戦略的なリークを利用したり、編集者やハリウッドに作業員を配置する。

犠牲者を混乱させ、犠牲者自身の証言が誤解を助長するようにする。

話を複雑にする。

馬鹿げたことを利用する。

誤った結論や科学を宣伝する。

既知の病気の症状を模倣する。

米軍の心理作戦では、金銭を払いイラクの新聞に虚偽の記事を掲載している。非倫理的な反民主主義の原則を用いて大衆の心を変えるための標準化した手法。

歴史の書き換え

歴史を書き換えることは簡単なことだろうか？戦争の勝者が解釈に手を加えることはよく知られている。情報や事実はどのようにして、一次資料から、公立学校で子供たちに教えられる広く配布された歴史教科書へと変化していくのだろうか。これらの疑問を社会学的に研究すると、私たちの社会の一種の洗脳が明らかになる。

自分自身と自分の歴史に正直であろうとする態度には美德がある。子供たちにアメリカ人であることを誇りに思わせることは重要かもしれない。小学校で毎日忠誠の誓いの言葉を暗唱させることは、後々の共同体意識の向上に役立つかもしれない。スポーツイベントの前には、大人でも起立してアメリカ国歌を聴く。無分別な言葉の復唱と「サイキック・ドライブ」と呼ばれる心理学的手法の間には似ている点があり、過度に影響されないように注意する必要がある。

ネイティブ・アメリカン・インディアンの虐殺や、他の人間を貶め奴隷にしたことなどは、その残虐性の大きさから歴史の教科書にも記載されている。しかし、このような人間虐待の長い伝統は、アメリカの歴史の中でまだ終わってはいない。政府はそれを隠蔽することに長けているだけなのだ。兵器実験のデータを得るために、無作為に選ばれた何万人もの市民を対象に行われているグロテスクな人体実験は、どの歴史書を見ても記載されていない。この実験が続けられるように、国の集団的な意識から排除されているのだ。

密かな検閲

政府の不正や犯罪行為を 2 年間調査している間に遭遇した不穏な現象の一つは、国中の図

書館や流通から重要な書籍が組織的に排除されていることだった。

私は、アメリカ人に対する憲法違反の犯罪を追跡・分析している CIA の専門家から、サイエントロジーについて否定的なことを言う人は誰でも迷惑訴訟を起こされ、組織的に人生を破壊され、その出版物はすべての図書館やニューススタンドから消えるだろうと忠告された。私は異なる説を持っている。

確かに、CIA のマインドコントロール、EEG ヘテロダイン、そしてサイエントロジーの間には、何らかのつながりがあるようだ。サイエントロジーの元メンバーも、それに関する書籍を出版している。私への実験が始まったとき、「死の医師たちとマインド・コントロール」に関するサイエントロジーの出版物が 2 冊、2 週間続けて郵便受けに切手なしで届いた。記事の内容は悪くなかったが、テロリズムの増加を生み出したとされている死の医師たちのほとんどが、CIA から資金援助を受けていた事実については触れられていなかった。他の被害者たちも、被害を受け始めたときに、突然サイエントロジーへの入会を迫られたと言っている。私は、サイエントロジーという組織がそのどれとも直接つながっているとは思っていない。政府に「カルト的」と見られているような組織はすべて、注意深く監視され、潜入捜査されている。サイエントロジーが多くの金持ちや有名人に与えている力と影響力を考えると、この団体は政府にとって潜在的な脅威となっている可能性がある。そして、CIA が得意とする戦術は、疑惑と怒りを脅威となるグループに向けさせることなのだ。私は、これがサイエントロジーに起こっていることだと思っている。

「サイエントロジーのトップはすべてエイリアンにコントロールされている」と書いたメンバーは、EEG ヘテロダインによるマインドコントロールの典型的な犠牲者だった。彼のサイエントロジーへの非難は唐突だった。私がこのようなことを書いているのも、自分の本を本棚から撤去して欲しくないからだけではない。秘密結社や権力を持つ他の多くの組織に対するのと同じ手口で信用を失墜させようとしてくる政府から、私たちは自分たち自身の評判を守る必要がある。仮説的だという理由で出版中止になった本のほとんどには、CIA のマインドコントロールに関する記述が含まれていた。

本書のように政府の腐敗やテクノロジーについて公然と論じている本は、何冊も流通から消えている。私が入手しようとした本の中には、個人のオークションで 200 ドル以上の値がついていたものもあった。

秘密結社

ビル・ゲイツがマイクロソフトの DOS や Basic を書いていた頃に、彼の授業を受け持っていた私の教授から聞いた話がある。彼は授業中ほとんど机に頭を伏せて寝ていて、たまに手を挙げて質問に答えると必ず、「マイクロコンピューターはどうだ！」と言ったという。すべての家庭にマイクロコンピューターが置かれるだろうと主張する彼を、頭がおかしいと皆思っていたが、それは間違いだったと教授は認めている。

私の兄の大学時代のルームメイトは、西ドイツの大統領の息子であるウォルター・コール氏だった。彼のおかげで、私はハーバード大学の秘密結社の一つ「シュピークラブ」への入会を阻まれた。秘密結社は、ハーバードではファイナル・クラブ、イエールではシークレット・ソサエティ、プリンストンではイーティング・クラブと呼ばれている、金持ちの子供たちが集まる社交クラブである。私が公正であることを証明するために、私は多くの秘密結社の入会儀式を本書の中で明かしている。これらは無害な友愛会であり、恐ろしく邪悪な陰謀に巻き込まれて名前を汚されるべきではない。秘密結社は悪ではなく、個人が悪なのだ。

幾つか面白い話をしよう。ハーバード大学のポーセリアンクラブでは、入会時にイノシシに乗る。デルフィック・クラブでは目隠しをしてムースの髭を撫でる。ある時、私はマット・デーモンの隣にいるメンバーを叩かなければならなかった。なぜなら、私たちはビールで酔っぱらっていて、女の子たちがいたからだ。そういうクラブのルールだった。ハーバード大学とエール大学のフットボールの試合の後、エール大学のスカル・アンド・ボーン・クラブに入ったこともある。入会儀式は、ブッシュや他の人たちがやったように、人間の頭の横に置かれた棺桶の中で寝るといったものだった。棺の中で何をするかはどうでもいいようだった。私の次の本では、すべての秘密結社の入会儀式を明らかにして、世界の拷問の背後にある彼らの罪と陰謀を明らかにするとともに、もはや神聖なものは何もないということを彼らに警告するつもりだ。武器を持ち秘密を隠す愚か者たちによって、アメリカの伝統と誇りは、彼ら高貴で名誉ある指導者たちから奪われているのだ。私は、これらの秘密結社が監視されていることを示したリストを渡されたことがある。このような情報が、彼らの背後にある数多くの陰謀論を生み出しているのだろう。

マインド・リーディング・レーダーと EEG ヘテロダインは、すべての人の最もプライベートな瞬間を監視し、脅迫したり操ったりするためにその情報を使っている。

読者に真実を伝えるために、また、大衆が富裕層や有名人に抱く馬鹿げた貴族的イメージを払拭するために、私がハーバード大学の大学院を卒業して間もない頃に伝えられたいくつかの話を紹介しよう。

世界のリーダーの多くは、ボヘミアン・クラブと呼ばれるクラブに所属している。私の友人

の一人は、引退した陸軍大将にブドウ畑の管理を任せていた。その將軍も、ボヘミアン・クラブのメンバーだった。このクラブのメンバーの多くが高貴さや誠実さを欠いているように、將軍もこの事業でお金を着服してしまった。私の友人は彼を法廷に連れて行き、彼は泣いて寛大な処置を求めた。

もっと重要な問題があるので詳細は省くが、私の友人は、ワシントンポスト紙が報じた「スペンサー」という米国の有名な暗殺者と家を共有していたという。スペンサーはゲイだった。いろいろな推測を聞かされたが、なぜアメリカの暗殺者にゲイが多いのか、私にはいまだに謎である。いずれにしても、彼は私の友人を護衛するために、身分証明書を見せずにホワイトハウスに出入りすることができた。もちろん、彼は私の友人の性的嗜好を変えようと何度も試みた。スペンサーはエイズで死んだ。信じられないような話だが、これもこの国の真実の一端だ。

非殺傷兵器という嘘

マーケティングの世界には、ブランド・コンフュージョンという概念がある。これは、消費者が製品のメッセージやネーミングについて混乱してしまうことだ。ブランド名にはマインドシェアや知名度に基づく価値があるため、ブランド・コンフュージョンは悪いことだと考えられている。軍の騙し合いのゲームでは、ブランド・コンフュージョンは非常に良いことだ。同じ武器に複数の名前をつけることで、ブランドの混乱を招くのである。ボキャブラリーをどんどん変えていくことで、何を言っているのか誰にもわからなくしてしまうのだ。そこで、ある単一の武器システムが使ってきた多くの名前の一部を紹介しよう。

サイ (PSI) 兵器、非殺傷兵器、指向性エネルギー兵器、認知モデリングインフルエンサー、神の声兵器、人工テレパシー、EEG クローニング、EEG ヘテロダイナミクス、神経テレメトリー、バイオテレメトリー、スカラー兵器、行動生物物理学、マイクロ波兵器、マインドコントロール、生体エネルギー、ニューロンインフルエンサー、精神融合、遠隔尋問、遠隔催眠大脳内制御、ニューラライザー、RHIC、EDOM、テレサジェスチョン、超心理学、無線周波数兵器、サイコトロニクス、ラジオニクス、テレサイバネティクス、バイオエレクトロマグネティクス、非熱効果研究、遠隔脳波モニタリング、サイキックスパイ、ステルスレーダー、マイクロ波干渉計、高周波パルス ELF 波、マインド・リーディング・レーダー、情報兵器などなど、リストはさらに 2 ページ続く。

さて、これはブランド・コンフュージョンの極みである。影の政府の犯罪者たちが何をしようとしているのか調べるのは簡単だ。調査の傾向の中で明らかに欠けているものや、情報の

流れを遅くするためにブランド・コンフュージョンを利用していることから、彼らが隠そうとしているものが推測できるからだ。

兵器実験承認のために軍が広め、伝えている嘘は、電磁的な心の影響は非致死性であるというものだ。これが本当に意味するのは、つまり、ほとんどの場合、人を殺すのに時間がかかるということである。私の内部情報筋によれば、電磁波の影響による脳腫瘍のリスクの増加は、わずか5%だけだという。これは、スピード違反の測定器を使った警官が精巣がんになるのと同じくらいの確率だから、取り立てて騒ぐことでもないだろう。EEG ヘテロダインと指向性エネルギー兵器の実験の致死性は、全く異なる形で表象する。このカテゴリー全体は、より正確に「スローキル兵器」または「予測不可能な殺傷力を持つ兵器」と改称すべきである。しかし、このような分類で予算編成のため内部に売り込むのは、とても難しいだろう。

技術が致命的になる場合、意図的なものと偶発的なものがある。「静かな暗殺」の項を参照してほしい。

戦場の娼婦たち

有名なブッシュ一家は嘘をつく。

クリントンは嘘をつく。ポーター・ゴスも嘘をつく。「法の創造的解釈」。彼もまた、戦争の犬と地獄の猟犬に鎖をつけていなかったという罪を犯している。

騙された広報担当者を使って嘘をつく。

ケイビエット・エンプター(買主をして注意せしめよ)

プロクター・アンド・ギャンブル社のような世界で最も洗練されたマーケティング会社では、購入者の行動に関する心理マップが入念に構築され、徹底的に検証される。すべてのマーケティングの目的は、「イエス」にたどり着くことだ。資本主義の枠組みの中でのゴールは、買い手が自分にとって一番必要なものを見つけるために丸みを帯びた真実を伝えることではない。ほとんどの人は理性的な意識によって情報をフィルターすることができるはずだが、催眠、潜在意識、サブリミナル・コントロールは、意識的なフィルターを通さずに、情報を額面通りに受け入れてしまうレベルで心に侵入する。それは、私たちの生活にとって非常に危険なことである。指向性エネルギーによるマインドコントロール兵器は、人が眠っている間に、これらの催眠やサブリミナル・プログラミングを可能にする。だが、ウサギの穴

はさらに深く続く。

軍の神話

「サイキック」という言葉は、クローナーたちの間ではジョークとしても使われている。心の意味を持つ「サイキック」は、精神病患者(サイコティック)という言葉にも近い。超常現象や心霊現象に関するロシアの翻訳書で、「サイキック」の代わりに「サイコティック」という言葉が誤って使われているのを2度ほど見たことがある。また、過度に刺激された心は強い電気信号を示し、発見しやすいだけでなく、現在の電氣的な脳信号を他の人に運ぶことも容易にする(つまり神経伝達物質の調節)。知識人や統合失調症患者は、脳の電氣的活動が活発だとされている。「サイキック」というスラングで定義されるもう一つの条件は、対象が簡単に催眠術にかかりやすいということだ。言い換えれば、彼らの脳は外部からの刺激にすぐに同調してしまうのである。

地下組織が「ナノテク」と呼ぶものによってマークされた人々は、より簡単に発見され、追跡されるという。ナノテクは、かつて50万人のアメリカ人が浴びていた放射線の代わりではないかと思う。私は、何人かの犠牲者の遺体を発掘して、電子走査トンネル顕微鏡で、脳全体の脳液に含まれているとされるナノテクの正体を確認したいと思っている。もちろん、そんなものが存在していればの話だが。EEGヘテロダイン兵器を使用する前に、戦場に「ナノテク」の煙霧を散布しなければならないとしたら、それはいささかお粗末な武器である。

生体通信信号は通常の脳活動に肩車して運ばれ、既存の神経伝達物質の放出を調整する必要があることを覚えているだろうか。つまり、神経活動が多ければ多いほど、生体通信の神経リンクは強くなる。これが、精神病患者がしばしば実験の対象になる理由だ。

チャネラー

「この世の中はすべて舞台。男も女も皆役者」

シェイクスピア、『お気に召すままに』(第2幕第7場)

しかし、EEGクローンを作られると、あなたは観客の一員になるだろう。

「あなたはすでに選択したの。あなたがここにいるのは、その理由を理解するためよ」

オラクル、『マトリックス』

サイキック戦や EEG ヘテロダインに関連するサイキック現象として、古典的な「墓場の向こうの霊」とのチャネリングがある。EEG クローニングの体験は、ハリウッドに登場するサイキック・チャネラーのシーンと似ている。映画を見ているのに参加はしていないような感覚、つまり、催眠状態や解離状態だ。他人の脳波を完全にクローン化しているときに、このような主観的な解離感が生じる理由は、「選択」という心理物理学の現象によるものだ。ニューロンの発火閾値に近い決定ノードがほとんどなかったために、電気的な脳波パターンの進み方の「選択肢」がなかった場合、主観的には選択を経験せず、何の決定にも参加していないように感じられるのだ。このように、主観的な体験が変化するのは、すべてニューロンの発火確率に起因する。意識主体の体験は、その確率にマッピングされる。電磁気的な影響（つまり EEG クローン）を受けている間、あなたは解離感に似た精神状態の変化に気づくことができるだろう。一般の人々でも、国家間の心理戦争が始まった場合にはそれがわかるのだ。

社会は政府の愚かさの規模にほとんど気付いていない。前者は知識があれば解決できるが、後者は永遠に治ることはない。

ミーム、マインド・ウイルス、有害な思考

リチャード・ドーキンスは「ミーム」という言葉を生み出し、ミーム学という新しい研究分野を作った。これは、進化遺伝学に由来する概念だ。文化的な流行、思想、アイデアを表すミームは、集団の心の中で複製され、混合され、変異しながら広がっていく。それは、遺伝子の進化と同じルールとフレームワークを使って、抽象的な文化的概念を分析する方法である。もちろん、軍や CIA はこのアイデアも武器にして、心理作戦部隊や情報戦部隊を使った「ミーム・ウォーフェア」を展開した。この種の戦争が自国に仕掛けられると、それはプロパガンダや戦略的偽情報と名前を変える。共謀者の賛同を得るためには、不実にも自国を攻撃するためのマーケティング用語が必要だ。

国防総省が提案するいくつかの長期プロジェクトは、本書が出版される頃には承認されているかもしれない。プロジェクトの一つは、人間関係の形成に関するものだ。それは、ある人の一生を密かにスパイすることで研究される。国内のスパイ活動のマーケティングがここまで進化したのは恐ろしいことだ。EEG クローニングにより、彼らはすべての実験対象を、ストーキングや追跡に気づかれることなく監視している。では、国防総省が人間関係の研究をしているのは一体何故なのか？結婚カウンセラーにでもなりたいのだろうか？そうではなくて、彼らはミーム・ウォーフェアを研究しているのだ。どのように情報が伝わり、どのように信頼性が構築されるかを見ているのである。それは、最終的には国民をコントロ

ールし、言論の自由を制限し、奴隷化するための方法でもある。そして、より重要なのはその影響力だ。アメリカや憲法の価値観ではなく、彼らの歪んだ、独裁的な、社会病的な、洗脳された理想に従って彼らは文化を形成しようとしている。まさに、本末転倒といってもいいだろう。

DARPA や国防総省、CIA が次に TAMI に統合しようとしているものは何だろうか。私が研究の中で知ったプロジェクトの構想は、V チップやクリッパーチップ、エシュロン、NSA の国内スパイ活動を合わせた全情報認知(Total Information Awareness)プロジェクトを凌ぐものだった。人間関係がどのように形成されるかを研究するという国防総省の提案は、何でもないことのように聞こえるかもしれない。だが、そこから生み出される予定のアプリケーションは、すべての人間関係やつながりを追跡するものだった。戦略販売をしていたとき、インフルエンスマップを作成していたことがある。このマップは、企業内の誰が営業や技術の決定や人間関係などに影響を与えているかを分析したもので、相関関係には重みを付けたリンクが付けられていた。

TAMI は、最終的に、人と人との間の神経情報の流れを追跡するために使われるだろう。そうなれば、欺瞞のマトリックスは完成し、自由な世界は失われ、虚構の現実にとって代わられることになる。最高機密のソフトウェアでは、オペレーターが人物（神経プロファイル、場所、名前のいずれか）をクリックすると、関連人物とその関係の強さが 3D で描画され、電子メール、電話（NSA の電話データベースは実在する）、手紙、対面での会話の数などの指標が加味されたリンクが表示されるだろう。TAMI は、人と人との距離感を自動的に把握し、前後の言葉のやり取りのパターンから会話が発生しているかどうかとも判断することができる。このシステムを応用すれば、例えばファシズム蔓延時のように、多くの国民を目覚めさせる危険をもった情報漏洩があっても、情報操作、サブリミナルによる神経への影響や再プログラミング、極端に言えばもっともらしく否定された「自然死」など、さまざまな方法で黙らせることができるのだ。

{3次元の回転可能な複数ノード関係マップのスケッチ}

ミーム・ウォーフェアや情報戦の研究はどこまで進んでいるのだろうか？70年代にペンタゴンがサイキック部隊を設立する際、全国から最悪の刑務所の受刑者を集めた。なぜそんなことをしたのか？クズの中のクズ、地球上で最悪の人間以下の生き物を使って、彼らは新しい種類の戦争をテストしていたのだ。TAMI (thought amplifier and mind interface) を使って、これらの有害無益な心を他の人に増幅・増殖させ、暴力的になったり自己破壊的になったりしないかどうかを調べていたのである。なんとも興味深い兵器ではないだろうか！これはまさにマインド・ウイルスの定義といえよう。映画『マトリックス』に例えると、エー

ジェント・スミスがウイルスになって、接触した人々に自分の破壊的な人格を複製するシーンのようだ。

この兵器を使った経済諜報活動の数々を、あなたも想像できるだろう。おかしなことに聞こえるかもしれないが、シークレットサービスに気づかれることもなく、彼らはアメリカで大規模な実験的経済諜報活動の数々を行っているのだ。

情報戦の資料を調べているうちに、「敵に間違っただ情報の道を延々と辿らせる」という不思議な戦略に出会った。私はこれは奇妙な戦略だと感じ、どうやって実行するのかと思案を巡らせた。そして、この戦略が被害者に使われていることを発見した。すべての被害者は、自分の脳波がどのように変調されているかを知るために同じ研究過程を経る。必然的に彼らはインターネットでマインドコントロール兵器を検索する。そうすると、検索のトップ 50 に含まれたベアデン氏のウェブサイト辿り着くことになる。氏のウェブサイトでは、スカラー波やロシアの兵器についての議論が展開されている。干渉する電磁波や光子が出会って互いのフィールドを相殺し新たな奇妙な性質を得るといふ、神秘的な疑似科学などについてだ。これは間違いではないが、被害者コミュニティに対する情報戦の一例だと私はすぐに認識した。他に誰が読むだろうか？西洋科学では誰も認めないような、フリーエネルギーの狂った物理学とテルサの技術の無限の迷路に読者は連れて行かれる。干渉法の特異なケースに過ぎないスカラー波は、確かにモスクワのアメリカ大使館に使われたようなステルス・レーダー技術として利用できるだろう。しかし、氏の研究ではそのようなことは書かれておらず、意図的に不条理な誤解を招くような情報が書かれている。

軍は米国民に対して公然と情報戦の作戦を行っているのだ。この分野の元軍関係の研究者は、ほぼ全員が偽情報者であることがわかる。反重力波もこの偽情報作戦の一例で、光子の場が正確に打ち消し合うと生じるビームを重力波と呼ぶ科学者がいる。光子には運動量があり、 $E=mc^2$ は測定できなくてもエネルギーには質量があることを意味する。だから、スカラー波は本質的には重力波であると言える。しかし、光子の運動量は、そのエネルギーを光速で割ったものだ。ロシアの科学者たちが主張しているように、反発型重力ビーム装置として使うには、とんでもなく小さいものなのである。どうやら、ロシア人は科学的諜報ゲームにも深く関わっているようだ。超電導体は、電磁ビームを打ち消し正確に反射する反対の電磁場を作るので、どんな電磁源も反射して「重力波」を作り出す。

CIA/DoD は正真正銘のマインド・ウイルスを生み出した。その仕組みはこうだ。暗殺や MK ウルトラによる拷問の対象となるターゲットを選ぶ際、ターゲットを混乱させ、狂気を感じさせるために、過去に効果のあった一連のスク립トを使用する。これらのスク립トは、ターゲットの思考体系に応じて進化する。知識や理解の基盤が増えるごとに、論理の誤りが

マインド・メルドに蓄積されていく。ターゲットが到達するやや非論理的な結論については、他のソースがサポートする。ターゲットは、他の人々がエイリアン・アブダクションについて語るのを聞かだろ。インターネット上では、戦略的なキーワードに基づいた誤った情報を見つけることだろ。被害者があらゆる理解可能なルートを試している間に、マインド・ウイルスの集合体はその人が辿り着いた誤った考えを集め、その考えのラインを増強しようと試みる。また、新たな思考経路を収集して、他の人に使用するための誤情報スクリプトのコレクションに加えている。これが、心を破壊し複製するマインド・ウイルスである。実際に効果を発揮するには TAMI と壊れた心の軍隊が必要だが、従来の情報の流れを通じても情報ウイルスは複製することができる。

これはもはや単なる演習ではないという証拠もある。TWA800 便、ウェイコ、オクラホマの爆弾事件の調査はいずれも失敗に終わり、これらの調査に関わった多くの専門家は、間違った結論が出されたと述べている。指揮系統にあからさまな汚職がなかったと仮定すれば、ミーム・ウォーフエアによる情報戦で説明がつくだろう。

善と悪のバランスは、高潔なミームと自己中心的なミームのアンバランスに等しいかもしれない。「私」というミームの利己的な遺伝子の「生成」は、全体に利益をもたらす利他主義と、全体を犠牲にして個人に利益をもたらす利己主義との間で起こる、生存の優位性のアンバランスの例だといえる。

敵国の文化を利己的、迷信的、犯罪的に変えることも、ミーム・ウォーフエアの利用法の 1 つである。

秘密主義が生むミーム・ウイルス

秘密主義はウイルスを孵化させるための肥沃な土地となり、高次のシステムをウイルスに感染させる。肥沃な土地とは、つまり「国家安全保障」の傘下にある政府のプログラムや機関のことで、人類全体にとって最適とは言い難い、研究しなければ概念化することすら困難な文化や思想を産み出す土壌となっている。

マインド・ウイルス・ウォーフエア

気がかりな仮説がもう一つある。それは、「陰謀」のために働いてきた神経科学者たちによる、グロテスクな認知モデリング研究に関わるもので、認知症の心のほぼ完璧なシミュレー

ションが作成されているというものだ。この認知症のモデルは、EEG クローン実験のコンピュータで再利用することができる。これを私は「マインド・ウイルス」と呼びたい。CIA/DoD の怪物たちが考え出した、最も完璧で狂った精神病理学の産物だ。シミュレートされたマインド・ウイルスは、バーチャル・ニューロンと生物学的ニューラル・ネットワークの自己組織化の性質を利用して、誰に対してでも「成長」させることができる。(生体通信技術については、バーチャルニューロンの項を参照)。EEG クローニングによってマインド・ウイルスの有害な思考のすべてを誰かにクローンすれば、この兵器の効果は大規模な人口にまで拡大する。コンピュータの計算力が許す限り、いくらでも拡散されるのだ。このようにして、EEG クローニングは、本物の軍隊さえ必要とせず本格的な兵器として運用できるのである。

マインド・ウイルスが存在するという証拠はある。EEG ヘテロダインを受けた人格の特質の多くは類似している。例えば、何人かの拷問を受けた被害者は、自分の EEG クローナーが蛇のようにいつも舌をくねらせていると述べている(被害者も同様の体験をする)。これは非常に珍しい神経の癖であり、それが偶然にも 2 人以上から報告されていることから、同じ認知モデルを使ったシミュレーションが実行されていると推測できる。被害者から報告される「人格タイプ」には、詳細まで共通したタイプが多くある。会話やスクリプトがほぼ同じというケースは数百件も存在する。彼らがテストしているマインド・ウイルスには、いくつかのバリエーションがあるのだろう。おそらくは、有害なマインド・ウイルスのシミュレーションと、ターゲットにゆるやかにヘテロダイン接続された人間を 2、3 人用意して、誘発される精神疾患の進行を観察し、マインド・ウイルスの成果を記録しているのかもしれない。

映画『マトリックス・レボリューションズ』で、エージェント・スミスがウイルスになって、次々と触った人をクローンにしていくシーンを覚えているだろうか？ ほぼ完璧な認知モデルが 1 つあれば、それも可能なのだ。スーパーコンピュータは、マインド・ウイルスの複数のコピーを進化させ、全員分をシミュレートすることができる。このマインド・ウイルスは、より進化したイライザ(Eliza)の人工知能プログラムだと考えられるだろう。ただし、言葉と論理的な推論エンジンだけではなく、ニューラルネットワークモデルも使用される。統合失調症者と、そう間違っただけで診断された人口の 1% を実験台にして、彼らがどんな兵器を開発しているかを推測するのは簡単なことだ。第二次世界大戦後、ナチスが存続していたらどうなっただろう？ 反社会的なナチスの考え方をクローンして、全世界に向けてコピーし始めたかもしれない。もしあなたがユダヤ人であれば、この研究を暴露し、中止させることが急務だと思わないだろうか？

自然発生的な精神疾患の割合はどのくらいなのか、そして、国防総省や CIA による実験が

この分野の兵器開発のどれくらいの割合を占めるのか、私は疑問に思う。拷問実験は 1947 年から行われている。どれだけの人々が、甚だしい愚かさのために苦しみ、死ななければならぬのだろうか？まさに非道の極みだ。アメリカの妄想、情報網の検閲、プロパガンダショーなどとは無縁の他の国々が、アメリカを「グレートサタン」と呼ぶ理由がわかるだろうか？アメリカの妄想の中にいる人たちには、イスラム原理主義者たちは狂っているように見えるが、彼らの視点からは、私たちが無慈悲で愚かで支配されているように見える。どちらが正しいのだろうか？政府が非常に多くの秘密を保持し、私たちに嘘をついているとき、どうやってそれを知ることができるのだろうか？誰かの行動の背景を理解していないとき、私たちはすぐに「クレイジー」という診断を下してしまう傾向がある。それは「国家安全保障」のような有無を言わせないキャッチフレーズと同等なのだ。「彼らはクレイジーだ」という答えがあるので、これ以上質問したり考えたりする必要はありません」というのが一般認識なのだ。クレイジーという言葉を使うことは、ある出来事を説明するために神を作り出すようなものだ。毎日太陽が昇る仕組みがわからないので、説明するために「ゼウス」を作り、それ以上の質問は拒否するのである。神々は狂っているに違いない。

より多くの商売をするために、毎年インフルエンザウイルスを作って発表する医者がいたら、と想像してみてほしい。軍が密かに戦争を煽っているのも同じことだ。想像してみてほしい。もしあなたが精神医学に人生を捧げてきて、自分が従順に学んできた教科書に書かれた詐欺や誤情報のために、多くの患者を誤診していたことを知ったら、どう感じるだろうか？「影の政府」への裏切りによって人生を無駄にしたことを知るのは辛いことだ。多くの人にとって、そのような再認識の 때가近づいている。今のうちに、対処法を考えておいたほうがいいかもしれない。

ところで、法律によるところの大反逆罪と呼ばれる行為に参加した大統領はどうすればいいだろうか？ブッシュ家とナチスとのつながりを主張する調査官もいる。その繋がりが証明されて示されれば、指導者のせいで国が絶望的な状況にあることは明白だろう。大統領は、退任したり弾劾されたからといって反逆罪を免れるわけではない。歴代の大統領もすべて、それなりの刑罰を受ける必要があるだろう。

高次の知性

心の病の話のついでに、知的な組織の構造についても書いてみたい。組織とは、知的に進化する存在であると考えることができる。この大きい視点から神経症者やサイコパスが知的な情報組織をもっていたらと考えると、どのように異常で有害なことになるかが理解できる。例えば、深刻なトラウマを抱えた人は、トラウマから逃げるために記憶や細分化された

アイデアや思考を抑圧する方法を学び、社会病質者の傾向になることがよくある。膨大な秘密を保持し、必要に応じて知識を区分けし、多くの嘘を自分につく国家もまた、全体として判断すると神経症のような病気を患っているように見える。4年ごとに指導者が変わる多重人格や、後ろめたい影の政府も付け加えれば、やっかいな自己破壊性の組織という診断書が書けるだろう。他の国がアメリカを統合失調症と見なしているのも最もだ。組織的インテリジェンスの研究と理解に、私は大きな関心を寄せている。なぜ私たちの政府形態は失敗したのだろうか？民主主義の導入は、なぜうまくいかなかったのだろうか？経営管理のメカニズムはどこで破綻したのだろうか？

軍事大学の資料によれば、情報戦はインターネット戦略としても機能し、人々に偽情報の無限の迷路の中で白ウサギを追わせることで、何が真実かさえも分からなくさせる。この拷問に使用される技術を調べているのは何千人もの被害者だけで、他の誰も興味を持たない。バーチャルリアリティやニューラル・コンピューター・インターフェースは、なぜ起業家や学術研究者の関心を集めないのだろうか？すでにこれらの技術が機能することは実証されているし、脳のコードが解読できれば研究は大きな利益をもたらすだろう。CIA や国防総省は、既に30年以上も前からそれを実行しているのだ。適切な装置があれば、それほど難しいことではないはずだ。このようにして、言論の自由は、「戦略的欺瞞」と米国が標榜する情報戦の自己攻撃によって破壊されているのだろう。うさぎの皮を剥ぐ方法は一つではないことを覚えておいてほしい。

数十年に渡りタブーとされてきた精神疾患とその隠蔽

私がこの啞然とするような発見をしたのは、統合失調症患者と分類された一般集団の中に、政府の薬物や指向性エネルギーによるマインドコントロール兵器の犠牲者がどれだけいるかという統計を見つけようとしていたときだった。驚いたことに、ある病院の患者の半数以上は、自分は政府の実験の犠牲者だと信じていた。私自身も拷問の被害者だったので、彼らの言葉が真実だとわかった。大衆の洗脳によって巧妙に隠された伝染病があるのだ。2年前だったら、このような話は自分でも疑っていただろう。

私の友人は5年ほど前に偏執症に陥り、「政府のエージェントが自分を尾行している」、「元上司が人を雇って自分にストーキングしている」と信じていた。これは、情報自由法によって公開されたCIAのプログラムにも記録されている典型的なスクリプトだ。私は、彼が被害妄想を抱く統合失調症になったと疑い、多くの人が考えるように、彼と距離を置こうと思った。そこである日、彼がメールを送ってきたときに、NSAのロゴをウェブサイトからコピーして「このアカウントはNSAに没収されました」というメッセージを送って、彼の被

害妄想を増長させるような冗談を言ってしまった。数年後に同じ不幸が自分の身に降りかかることになるとは、まったく自業自得だ。また、ハーバード大学とウォートンのビジネススクールに通っていた友人は、政府のプログラムに参加して、脳のイメージング研究のためにある種の放射線を注入されていた。彼は大学進学のためにお金が必要だったし、放射線はそれほど害がないとされていた。数年後、彼は神と会話したと言い出し、外向的で好色な性格から、1週間も経たずに、ハードコアの根っからのクリスチャンに変わってしまったのだ。私と友人は、彼が正気を失ったと思った。

現在、私にも同じことが起こっている。私たちのグループは、年を追うごとに一人一人が選ばれていくように減っていった。今ならば、私は友人たちに起こったことを、科学的、歴史的、そして政治的観点から説明することができる。読者の皆さんに伝えておきたい。もし私の話を他人事だと思って、何もしなくていいと考えているのなら、その間違いに気づくのは時間の問題だ。ナチス・ドイツは、このようにしてはびこったのだ。信じられないほどの規模と過剰な残虐性のために、誰も証言が真実であると受け入れることができなかったのだ。これと同じ戦略が、米国によって、それも自国民に対して再び行われている。

30年以上にわたり実施されてきた政府による知的障害をもった子供たちへの放射能実験は、精神疾患というタブーで隠蔽され、誰も立ち上がるどころか、気づくことさえなかった。多くの文献では、「放射線」という言葉が意図的に混同されている。「放射線」という言葉は、2つの異なる種類のエネルギー放出を表すために使われ、古典的な使い方では、ウランのようにアルファ粒子が放出されたことを意味する。しかし、光エネルギーである電磁放射（つまり指向性エネルギーRADAR）という意味で使うこともできる。裏切り者たちの情報戦による言葉遊びやブランド・コンフュージョンのテクニックは他にも多くあることだろう。

プロパガンダ - 言葉のゲーム

ある米軍の指導者は、『心にはファイアウォールがない』という記事の中で「サイコテロリズム」という言葉を使った。サイコテロリズムは、精神工学兵器で市民を恐怖に陥れることを意味する。彼らサイコテロリストが、NATO 諸国の何千人ものアメリカ人やその他の人々にしていることを想像できるだろうか？それは連邦政府が後援するテロリズムに他ならない。しかし、彼らは好んで「兵器実験」と呼んでいる。

正確な言葉は考えを伝える上で重要だが、さらに重要なことは、伝達者がどのような意図で言葉を変えたかということだ。「テロリズム」という言葉はその典型的な例だ。このマーケティング用語の意味を分析してみよう。テロリズムはゲリラ戦で民衆を恐怖に陥れること

を意味する。では、ただのゲリラ戦とはどう違うのだろうか？ペンタゴンやグラウンドゼロにあった金融センターを破壊しようとするのは、本当にテロなのか、それとも敵を排除するための戦略的なターゲットなのか？住民が怖がることで誰が得をするのか？国民の支持を集めて戦う際には、パラノイアは政府の役に立つ。フットボールスタジアムの出口にマシンガン置いておけば、もっと多くの人を殺せたかもしれないが、彼らはシステムを止めようとしていたのであって、私たちがイラクでやったように市民を殺そうとしていたわけではない。脅威にさらされた側が、自分たちの目的の支持を集めるために、プロパガンダとしてテロリズムという言葉は作られた。

当時よりも異なった意味を持つもう一つの言葉に「アメリカの夢(アメリカン・ドリーム)」がある。私たちは、自分自身で近視眼的な世界観を作ることを許されている。世界の他の国々の苦難を知ること、気にすることもない。隣人のことを気にする必要もない。今は利己主義と「自分」世代が主流だ。マス・ニュース・メディアやハリウッドは、あなたの「アメリカの妄想」を作り出す手助けをしてくれる。あなたは、政治や汚職、その他の厄介な問題を知らずに、幸せな至福の時を過ごすことができる。重要な疑問や心配事は、最寄りのスターバックスはどこかとか、昇給はいつなのかといった目先のことに置き換えられる。この懐かしいシンプルな生活に、アメリカの妄想に再び戻れたらと私も時々思う。しかし、私は知識の重荷を背負ってしまい、3億人の人々を教育し、行動に移させる責任を負っている。もし国民が大局的な真実を知り、信じることができれば、現在の流行とは全く異なる意見を持つことになるはずだ。ペンタゴンが隠している技術と戦略の秘密について、真実を伝えることができれば、人々の力は誰にも止められないだろう。

EEG ヘテロダインという比較的新しい種類の武器にまつわる語彙をここに示したい。EEG ヘテロダインには、一般人を混乱させるための非常に多くの誤称や誤誘導がある。非殺傷兵器、ソフトキル兵器、サイレントキル兵器、指向性エネルギー、生体電磁兵器、精神戦争、超能力兵器、サイコトロニクス、神経学的兵器、ニューライザー、神経系破壊装置、電子兵器、EEG クローン、精神融合、電離層加熱装置、地平線上レーダー、大陸弾道ミサイル防衛などなど。この兵器システムにまつわる語彙が常に変化しているため、話が混乱し、議論にならない状態になっている。

天才か狂気か

歴史上、天才はしばしば狂気と間違われてきた。教会によると、ガリレオは300年間も誤解されていたそうだ。私はある実験の被害者から『ビューティフル・マインド』のナッシュのようだと言われたことがあるので、この話題を取り上げなければならない。「狂気」の意

味を理解するためには、もっと正確に定義する必要がある。ほとんどの場合、それは単に、個人の行動や発言を文脈によって理解できないということを表す言葉だ。

概念や人を理解するには、文脈主義が何よりも重要だ。最も正確に定義すれば、「狂気」または精神疾患という言葉は、誤った思考を意味するだろう。誤った思考は、論理や数学の枠組みの中でしか判断できない。心理学のような一般的に論じられる考えの中で判断されるべきではないのだ。妄想や思考の誤りは、時の試練に耐えてきた真実の枠組みの中で証明されなければならない。政府の拷問テストの犠牲者の多くは、前側頭葉のニューロン経路の増幅を示しているが、これに基づいて彼らの証言を否定すべきではないだろう。思考の誤りは、SATAN（ニューロンの増幅による静かなる暗殺、Silent Assassination Through Amplified Neurons）によって増幅される。何が真実で、何が単なる認識の誤りなのかを見分けるためには、本書で学んだようなこれらの兵器の機能の知識に基づいて、被害者の証言を検証する必要がある。心を弄られたという「異質」な体験を、彼ら一人一人がどのように解釈しているかが明らかになるだろう。

国民的「真実の日」があったら？

この杖を折って
そいつを地中深く埋め、
測量の鉛も届かぬところに
この書物も放り投げてしまおう。

シェイクスピア、『ザ・テンペスト』（第5幕第1場）

もし、誰もが真実を語らなければならない日があったら、どれほど奇妙なことになるか想像してみしてほしい。ニュースは次のようになるかもしれない。

「真実の日、6時のニュースです。今日、政府の役人はカフェテリアの従業員を装って何百人もの人々に放射線を浴びせ、放射線による長期的な発がん性の影響を調べました。MK ウルトラによる拷問とマインドコントロールの実験と暗殺の練習の容疑で、さらに3人が逮捕されました。犠牲者の1人は内部告発者で、自動車事故での迅速な暗殺に成功しました。政府は、ターゲットの選定と内部告発との関連性を否定しており、すべてを公平に行い、データ収集や練習のために拷問したり殺したりする人間は無作為に選んでいると述べています。また、別の実験では、500人の海軍将校が知らないうちに非常に高いレベルの電磁エネルギーにさらされていたことが判明しました。誰が被爆したかは、政府の耳に入ると怒られるので公表できません。仲間が銃で遊んでいるときに誤って撃ってしまったことにより、今

日、イラクで1人の兵士が負傷しました。「砂漠の嵐」の最終的な数字が再集計され、確かにイラク人よりも味方をより多く殺していたものの、僅差でした。また、任務に就く前の戦闘機のパイロットに覚醒剤（あるいはエネルギードリンク）を与えるという、政府の実験に関する奇妙な話が入ってきました。軍隊では麻薬は禁止されているのではないのでしょうか？「聞いてはいけない、言ってもいけない」というポリシーは、真実の日にはどうなっているのでしょうか？今日の質問は、「政府は遠く離れた場所から脳の活動を読み取ることができるのか？」というものです。政府は1960年からこの技術を持っており、コメントを求められた政府は「すべて問題ない。合法的なものだ」と主張しています。そして最後に、ポーター・ゴスは記者会見でインタビューを受けた際、「アメリカがイラク人を非道な独裁者から解放するために、CIAはイラク人に拷問を加えているのか」と聞かれ、「いいえ、私たちは法律を創造的に解釈し、言葉を再定義しました。また、拷問の過程ではCIAエージェントの肩書きを外し、すべてが合法であることを確認しています」と述べました。このニュースステーションとレポーターは全員、これ以上真実の日を設けると、「自分たちだけのプライベートな精神工学の煉獄で苦しむことになるだろう」と間接的に脅かされています。ですから、これが私たちが真実を伝える最後の放送となります。ありがとう、アメリカ、良い夜を」

戦略的欺瞞とエラーの排除

エラーの伝播は、ミーム・ウォーフエアや社会工学だけでなく、脳を直接電磁的に同調させたり、プログラミングしたりすることでも達成できる。このような意図的な理解と思考のエラーは、地球規模の分散型知性であるジオブシケ(風土心)にとって非常に有害だ。エゴを排除した真実を通じてのみ、人類は自分自身と宇宙における調和を獲得することができる。意図的なエラーの伝播は、カオス的で予測できず、最適ではない意思決定をもたらし、すべての人にとっての害となる。しかし、それこそは、CIA、心理作戦、情報戦部隊、INSCOMなど、「戦略的欺瞞」を実践する多くの部門にとっての任務でもある。国や地球のためには、これらの機関を失くさなければならない。なぜならば、彼らもまた、自分たちが生み出したエラーにプログラムされた、自己破壊のスパイラルの中にいるからだ。これらの機関は、使い手にも作り手にも牙をむく道具なのだ。

マインドコントロール被害者への偽情報キャンペーン

TAMIのネットワークの一員になると、大抵インターネットで情報収集をするようになる。軍の情報戦戦略の中には、間違った論理で敵を無益な研究の道に導き、間違った仮定と推論の無限の迷路に導く方法について書かれた文書が多く存在する。これは、アメリカ国民に向

けた戦略的な偽情報の取り組みの一環で、多くの被害者を混乱させ、思考を麻痺させている。彼らが苦境の背後にある科学について語る時、まるで狂ったように聞こえるように仕向けているのだ。トーマス・ベアデン大佐は、この取り組みの完璧な例だ。彼は「スカラー波」という概念と、「ロシアが保有しているのにアメリカの科学者は何も知らない」兵器を発明した。彼は、気象兵器や地震兵器、ゼロポイントエネルギーについても語っている。彼は物理学の豊富な知識を持っているので、情報操作者か精神抹殺の犠牲者であると私は判断している。彼の理論はすべて意図的に歪められている。マインドコントロールの話をした後に、フリーエネルギーや光よりも速い情報伝播、電磁渦などの馬鹿げた科学説を述べているので、マインドコントロール兵器という考え自体が疑問視されてしまうことになるのだ。これは、特定のトピックの信用を貶める古典的な方法である。

偽情報の流れ

昔のアニメには、マッドサイエンティストが人や動物の意識を別人に移植する場面がよくあった。このテーマは、人気のあるアニメやテレビ番組の至る所で見られ、常に不条理さと、「ただしSFである」という断り書きをもって語られる。私が見つけた初期の科学研究では、電極や静電プレートの帽子を使って脳波を読み取り、それを誰かに書き込む EEG ヘテロダインが実際に行われていた。マインドコントロールの研究の歴史は非常に古いが、この科学と、それについて話す人の信用を落とすためにアニメは使われてきた。

CIA は 50 年以上にわたり、秘密をあえて公然にすることで大衆の目を欺くという隠蔽方法を利用してきた。そう考えると、実在する極秘研究を不条理に描写するメディアは、特にアニメに始まったわけではないだろう。生体電気通信信号は、世界中で活発に研究されている現実的な分野である。

生体電気通信信号の可能性について、論理と理性だけにに基づき簡単に検証してみよう。神経細胞が 70 ミリボルトで脱分極し、脳波プローブを使って頭皮の表面で 10 マイクロボルトを読み取ることができるとすれば、仮に $70 \times 10^{-3} / 10^{-5} = 7,000$ ボルトの電界を頭皮に印加すれば、神経細胞に 70 ミリボルトの電界を誘導することができる。神経伝達物質の放出は神経細胞間のシグナル伝達メカニズムであり、それは軸索末端の電圧に比例するので、高電圧静電ヘルメットが実際に神経伝達物質の放出に影響を与えることができると考えることができる。さらに、ニューロンネットワークはどんな電気信号でも自己組織化するという事実を加えると、この生体通信技術を使って実際に脳を結合することができる。被験者の電気信号は時間をかけて学習しなければならないが、狂っているとはいえ、この方法で大きな脳を作ることも可能である。最近のアニメ『ウォレスとグルミット』でも、ウサギと人間の意

識交換を SF として描いている。国防総省は 60 年経った今でもその方法を変えていない。誰にでも見えるところに秘密は隠されているのだ。

もちろん、7,000 ボルトの電界勾配はワイヤレス電磁波としては大きなものだが、エネルギーは波長が短ければ短いほど大きくなるため、同等の作業を行うために頭部共鳴の他の方法が開発された。また、静電気(つまりイオン加熱)で表面電圧を作ることができるので、頭や体の静電気を移動させるだけで必要な電界を作ることができる。低周波や低強度の磁場でも、脳に大きな影響を与えることがわかっている。イオンサイクロトン共鳴も研究された方法の一つである。現在、この国の民間研究機関では、より長期の「学習」生体通信信号の研究は明白な理由から行われていない。言うまでもないが、禁止されているのだ。

アメリカ人が閉じ込められている情報の檻には本当に驚かされる。アメリカは最も重要な国で、CNNをはじめとするニュースステーションがあるから、世界とつながっていると人々は思っている。ケーブルテレビの膨大なチャンネルで提示された選択肢の数に基づいて、感覚的に、自分たちは自由で、十分な情報を与えられていると思っている。

海外旅行をあまりしない人は、世界の視点のコントラストや、FCC などの圧力によってマスメディアが政府に迎合していることを理解できないだろう。

米国人に対する科学的諜報活動

政府の偽情報者を阻止する法律はないのだろうか？政府を誰かが取り締まるべきなのだろうか？ロバート・コリンズ少佐はスカラー波についての本を出版しているが、このような全くふざけた科学が元軍人から出てくるのは奇妙なことではないだろうか？スカラー波はただの定在波か 干渉パターンで、それ以上のものではない。これはあらゆる波長のホログラフィーに過ぎず、60 年代から存在しているものだ。

偽情報のキャンペーンは世界中で行われている。ドイツ語、フランス語、イタリア語で、フリーエネルギーや光よりも速い通信など、馬鹿げたことを書いた記事を見かけた。グーグルで「スカラー波」を検索すると、124 万件もヒットした。スカラー波は実在する概念だが、新しいものではない。軍事的には、ビームフォーミング⁸もスカラー波の一種だ。搬送周波数の「スカラー」、つまり振幅変調を 3 空間で完全に整形することができる。そんなに大げさなものではない。マインドコントロール技術との関連は、単に人間のターゲットをピンポ

⁸ 電波、または音波、超音波を特定の方向に向けて送信、または特定の方向から受信する技術。

イントでロックしておくための方法というだけで、全半球の攻撃角度を使ってほとんどの遮蔽物を回避したり、世界中の複数のターゲットを追跡したりできる。

私は、元軍人による多くの出来の悪い科学を読み、彼らが科学界全体に対してミーム・ウォーフェアを行っているという結論に達した。情報操作者のほとんどは「退役」している。マレックとストックリンの特許の秘密をどうしても守りたい彼らは、アメリカ国民と憲法に対する反逆罪を犯しても構わないと考えているようだ。彼らは、人体への影響に関する統計データを集めるためには、人々を拷問して死なせることも厭わない。米国は以前にも増して犯罪的に残忍になり、嘘をついて国民を騙す方法に磨きをかけている。納税者を家畜や潜在的な敵として扱うことを正当化し、秘密主義の文化を維持するための嘘は、伝染病のように蔓延している。ロシア人が世界中でこれこれこういうことをしていると書かれた文書を読むたびに、実はその背後にはアメリカがいることがわかる。嘘は反逆罪であり、将軍であろうと CIA 長官であろうと大統領であろうと、厳しく罰する必要がある。CIA は何千人もの人々に放射線を浴びせ、癌の進行を観察し、おそらくは宇宙からの追跡の仕組みを作っていた可能性もある。彼らは MK ウルトラ・暗殺プログラムのために子供たちを拷問した。そして、LSD や BZ を含む様々な薬物を人々に投与した。また、生物兵器のウイルスをサンフランシスコで実験した。今では、電磁気を使って何年にも渡り人々を拷問して死なせている。この流れがわかるだろうか？あなたが自由の国に住んでいることを祝福しよう。心配はいらない、政府がすぐにコントロールしてくれるだろう。

私が読んだ本物の科学論文の中で、生体電磁非電離放射線の影響をテーマにした論文はすべて、関連文献が非常に少なかったとコメントしている。NATO 加盟国以外の国では、この分野ははるかに大きなものだ。FDA (米国食品医薬品局) が発表した包括的な食品消毒法の調査報告書には、多くの軍人が参加していた。その論文では、マイクロ波の影響に関する文献がほとんどなかったとコメントされている。バイオテレメトリのために頭や体に小さなワイヤーを埋め込むという論文では、そのような一般的な活用事例に関するデータがほとんど見当たらないとコメントされている。私たちはマイクロ波エネルギーに包まれており、特に頭部はマイクロ波共振器として機能し、ニューロンはマイクロ波送受信機として機能する。これらを考慮すると、この分野ではなぜ独立した調査がこれほど少ないのだろうか？70年代から80年代にかけて、脳波の増幅、離れた場所からの脳波の読み取り、広範囲の周波数を使用した脳波の変調など、地球を揺るがすような特許が存在する。これらがどうして無視されているのか？何が起きているのかは、一目瞭然ではないだろうか？

現代のティモシー・リアリー

シュルガンは精神作用薬の実験でよく知られている。彼は既知の分子タイプの類似体を作ることによって、精神作用薬のスケジューリングを回避した。彼の研究が、彼の先輩たちのように CIA のマインドコントロールと結びつくような資料は発見できていない。CIA が何十年にもわたって追求してきたマインドコントロール薬の研究と密接に関連しているため、彼の実験は容認されているのかもしれない。CIA は、モルモットたちを使って彼の薬で実験しているのかもしれない。チャールズ・マンソンがマインドコントロールのために LSD を使ったことを思い出してほしい。

テストパターン

私は 500 人以上の人々にインタビューを行ってきた、彼らは電子的嫌がらせを受け、薬を飲まされ、放射線を浴びせられ、あるいは MK ウルトラにマインドコントロールされ、指向性エネルギー兵器の実験の被害者であることを自覚していた。何人もの人が、この本を書いている間に亡くなった。対象の内訳も、子供からお年寄りまで、貧しい人から裕福な人まで、宗教的な人から無神論者まで、無学な人から教育を受けた人まで、さまざま。ターゲットは他の実験と同様に無作為に選ばれる。その中でも、ランダムテストのターゲットとして圧倒的に多いのが、政府の内部告発者だ。特に FBI や軍人、警官などは、他の政府機関に不利な証言をすると、この兵器に狙われることになる。とても心の痛む話だ。私が出会った家族の中には、家族全員が突然、V2K(Voice To Skull)や、他人から採取された痛覚の脳波再生のターゲットにされたケースも何件かあった。ほとんどの人は、TAMI のすべての機能の中から選ばれた、わずかなバリエーションの攻撃を受ける。ある人はストックリンの特許である「V2K」だけを受け、ある人は拷問され、手足を物理的に操作される。遠隔操作の MK ウルトラプログラミングを受ける人もいる。

私は運が悪かった。私は、マインドコントロール技術と SATAN の完全なデモンストレーションを受けた。SATAN (Silent Assassination Through Amplified Neurons) とは、自動車事故、心臓発作、うつ病や自殺、自滅的な行動、セルフネグレクトによりターゲットを殺そうとしたり、あるいはプログラムされた暗殺者に仕立て上げるためのプログラムだ。毎日どのように私を殺そうとしているのかを、人工テレパシーで事前に正確に教えてくれたという点では、彼らはある意味公平だった。与えられるすべての拷問は、前もって私に教えられた。彼らにしては奇妙なほどにルーチン化された行為だった。これまでに、サンフランシスコで心臓発作を起こした芸術家、小児科医の女性、老人ホームのおばあさんなどを殺すことに成功していると彼らはいった。彼らは脳波クローンで私を殺すことができると確信していたようだ。彼らの兵器実験グループに所属する 200 人は、メインとなるヘテロダインプロジェクトのリーダーによると、ポイントを競っていた。痛みの有効性のデータを集め、マイン

ドコントロールの統計を取り、固有の脳波をデータベースにマッピングした後、十分な経験を得たものは、世界の指導者に関わるようなプロジェクトに取り組むサイキック・アサシンやマインド・コントローラーのチームに進むことができた。

片方の肩には天使、もう片方には悪魔

(またはグッド・エイリアン、バッド・エイリアン。グッド・コップ、バッド・コップの尋問と統制の手法からさらに派生したもの)

製品マーケティングでは、製品の魅力や成功に関わる要因の重要度を明らかにするために、調査の必要性を学ぶ。上手くデザインされた調査では、相関行列を使って結果に影響を与える要因を決定する。質問は、あらゆる可能な組み合わせが試されるように考えられている。

マインドコントロールに関する MK ウルトラの調査では、暗示、サブリミナル、脳同調、EEG ヘテロダインによる強制思考などの組み合わせを用いて、それぞれの方法が他の方法と組み合わせてどれだけ効果があるかを調べている。

このプログラムでは、外部委託された CIA の兵器実験者が、矛盾した命令を出すことがある。片方の耳からは天使のように「やめておきなさい」と言われ、もう片方の耳からは「やれ」という悪魔のような声、もしくはサブリミナル的に小さな声が聞こえるのだ。相反する指示と他のテクニックを組み合わせ、統計的な相関データを収集し、それぞれの方法があなたにどれだけ効果があるかを判断するのである。もし、あなたにこのような声が聞こえたら、それは天使や悪魔の仕業ではなく、米国のマインドコントロール、スターウォーズ防衛プロジェクト、通称「TAMI」と呼ばれるもっと悪いものかもしれない。

兵器実験コストとリスクの誤った分析と科学的手法の不備

一般市民に対する兵器実験の人的資本の費用対効果分析を正しく行うには、軍事リスクと不確実性のブラック・ショールズ方程式を用いなくてはならない。ちなみに、オプションの理論価値を計算するブラック・ショールズ方程式を発明した MIT 教授の娘、メリッサ・ブラックはセクシーで、ハーバード大学の私の寮にいたそうだ・・・余計なことはおいておいて、私たちが盲目的に信頼していた愚か者たちを叩くことに専念しよう。

マインドコントロールの実験で、データ収集者は、サブリミナルやオーバートチャンネルな

どを使って、相反する命令を出す。これは、それぞれの手法の影響の度合いを統計的に把握するためだ。

台本

兵器実験を行っている EEG ヘテロダインのサイキック・ソルジャー志願者たちは、たくさんの台本に従うことができるよう訓練されている。拷問中にターゲットを混乱させ、医者に助けを求めたときにターゲットが狂っているように見せるための台本である。ほとんどの場合、マイクロチップや歯のトランスポンダ（映画『天才アカデミー』のようなもの）が携帯電話なしでの会話の原因になっているというアイデアがターゲットに提示される。一般人の技術や指向性エネルギー兵器の能力に関する知識を考えると、実際にその方が合理的にも聞こえる。X-Ray で小さな生体アンテナが検出されたのは、10 年以上経過した被害者だけである。アンテナはかつてピンポイントの追跡に使われ、エネルギーを誘導して生体信号を増幅し、EEG クロウンの作成に使われていた。

台本の次の筋書きでは、拷問の背後に特定の人やグループがいると思わせるようになっていく。多くの場合、ターゲットは JFK、JFK ジュニア、ビル・クリントン、ヒラリー・クリントンの声を聞いている。時には有名人の声もあるが、大抵は彼らが過去に知っていた人物の声が使われる。明らかに、脳波ヘテロダインの攻撃者たちは、民主党員の声を使って票を操作しているか、声を信じた被害者に殺人をそそのかしているようだ。ビル・クリントンは失脚の際に「右翼の陰謀」に言及している。これは、CIA/国防総省にナチスの価値観に通じる極右のイデオロギーを持った政治的傾向があるとされていることを裏付けるものだ。被害者が最もよく耳にする声が、これらの人々の誰のものかを分析すれば、誰が標的になっているかがわかるかもしれない。投票や政治システムが操作されていないと、あなたはまだ信じているだろうか？彼らは、さまざまな台本を使って、被害者の信念を変える練習をしている。多くの人にインタビューをすれば、台本から個人用設定を取り除いたときのパターンはすぐに識別できる。

兵器実験担当者は、新しい「プロジェクト」で使用する台本を選ぶことができる。そして、そのプロジェクトのため台本をカスタマイズし、承認を得なければならない。彼らは控えめに言っても奇妙な文化の中にいるだろう。彼らには物事を行うための厳格なプロトコルはあるが、誰を殺すか、どのような副次的な被害があるかについては無頓着なのだ。

創造からカオスへ

EEG クローニング・カタログ化業務とメディアの「戦略的欺瞞」は、プロジェクト「カオス」とも呼ばれていた。心理戦、CIA のマインドコントロール、INSCOM の戦略的欺瞞におけるこれらのグループの目標は、あらゆる手段を使って判断や推論の誤りや語彙の混乱を作り出すことだった。彼らは、リークや業界内に戦略的に配置された偽情報者を通じて、メディアのコントロールを完璧に行っている。インターネット上では、人々の白黒思考を利用して、部分的な真実や嘘を氾濫させる「メソッド」を用い偽情報を完成させている。最後に彼らは、「非殺傷兵器」と故意に誤解を招く分類をされた EEG ヘテロダイナミックやサイキック・ウォーフフェア、「指向性エネルギー」兵器などにより、電磁気学的エラーを人々の脳に直接注入する方法を見つけた。彼らは心理学界の疑似科学を利用して、兵器実験の影響を精神病と誤診するように仕向け、広めてきた。ハリウッドやテレビを利用して、映画や SF チャンネルで放映されているようなフィクションとされているものについて、それを真面目に話す人を信用しないように大衆をプログラムした。

無難なマインドゲーム

ギャンブルは合法化された頭脳ゲームで、儲かる娯楽だ。様々な人がギャンブルをするのは、娯楽としての価値もあるが、運を信じていたり、必勝法を持っていたりする場合が多い。ギャンブルの数学は非常によく知られており確立されている。論理的には、不正をしない限り長期的に勝つことはできない。しかし、私たちは妄想に基づいて、ハウスオッズを打ち負かす方法を見つけられると考える。たとえば、私はすべての事象が独立してランダムであることを知っていても、ルーレットで 1 色の数字が 5 個以上連続して出たら、その連勝に賭けることでオッズに勝てると自分を騙すことができるのだ。赤い数字が 5 個連続で出る確率は $(\frac{1}{2})^5$ 、つまり 32 分の 1 だ。しかし、それは次のスピンのという独立したランダムなイベントには実際には影響しない。この戦略でまだ負けたことがない、と言いたいところだが、それがギャンブルの中毒性というものだ。人々は、パターンがないところにパターンを誤って識別することによって、運に関する迷信を導き出す。何もないところにパターンを見ってしまうところは、統合失調症と同じ症状のようだ。州の宝くじをバカ税と呼ぶ人もいる。だが、それは当選者に言ってみたらいい。

「クレイジー」の心理学

「クレイジー」という言葉の意味の調査は興味深い。一般の人の直感的な理解では、この言

葉は通常、非常に変わったことをしたり言ったりすることを意味する。歴史上、天才や奇人は「クレイジー」と呼ばれてきた。私の父はとても保守的な人で、会う人の3分の1くらいをクレイジーと呼んでいた。保守的な文化圏からサンフランシスコを訪れた人には、街全体がクレイジーに見えることだろう。

私が個人的に感じた傾向は、グローバルな経験が少ない人ほど、自分の文化にそぐわない行動を何らかの精神的な病と判断することが多いということだ。これは明らかに、今まで考えたことも聞いたことも見たこともないことを心の病だと思い込む間違いである。思考の誤りが多ければ、それは心の病に分類されるかもしれないが、誤りが TAMI によって電磁氣的に誘導されているのであればその限りではない。TAMI の信号を止めれば、脳は正常な処理を取り戻すだろう。これは重要な心理学的観察であり、このような信用を失墜させる戦術は、CIA やサイクロプス (psyclOps) によって定期的かつ歴史的に使用されてきたものだ。政府の暴力団の関与や、拉致されて拷問されたというようなシナリオを作れば、大多数の人はそれを報告した人の方が狂っていると思うだろう。単にそれ自体が普通ではありえないことだからだ。

もしあなたがジェフリー・ダルマーの犠牲者の一人だったとして、なんとか警察に駆け込んで、死んだ人を食べて冷蔵庫に入れ、頭に穴を開けてセックスゾンビを作ろうとしている男がいると打ち明けたとしよう。私たちはこれが事実だと知っているが、警察はおそらく、妄想症状を示したあなたを精神病棟に閉じ込めただろう。実際、警察は頭から血を流し、裸で混乱し、英語もろくに話せない少年をジェフリー・ダルマーの元に返し、その後10分も経たずに彼はその子を殺して食べてしまったのだ。ジェフリー・ダーマーは、CIA と同じ戦術を使って成功したのである。どちらの話がより本当に聞こえたのだろうか？ジェフリーは警察に、自分と少年は同性愛の恋人同士で喧嘩していたと説明したのだ。

つまり、このゲームはこうして行われる。まず有名な心理学者を雇う。次に、彼らに「思考化声」のような新しい精神病を作らせる。そして、「神の声」兵器、マイクロ波聴覚効果、マインド・リーディング・レーダー、超音波ヘテロダイナミクス技術など、大衆の意識から遠ざけたい技術について話す人には、精神疾患のレッテルを貼るのだ。数十年という時間の経過とともに、新しい精神病は、年月と報告する人の数によってより信頼性の高いものになっていく。

いくつかの「精神病」の発見は、「TAMI」の登場と、キャメロンのような CIA に雇われたマインドコントロールの怪物心理学者がいた時期と一致している。このようにして、人々への人体影響兵器実験産業は拡大し、認識されないままになっているのだ。今や人口の1%が統合失調で、いくつかの心理学的研究によると、人口の20%以上が何らかの精神疾患を患

っていると言われている。おそらく、カテゴリーが広がりすぎているのだろう。多くの有名な病気についての私の面白おかしいコメントは、付属資料を参考にしてほしい。

精神疾患に分類される人々のうち、何割が遺伝や環境に起因するもので、何割が政府の精神抹殺によるものだろうか？この2つのグループは大きく重なっている。私の保護された情報源によると、政府の兵器実験担当者は、3つの特徴を示す脳波を探しているという。1つは、ドーパミン過剰の脳によく見られるニューロンの増幅因子である。このニューロンのグループは、伝統的に精神病を呈することが知られている。もう1つは、催眠術にかかりやすいことを示す脳同調性だ。3つ目は脳波の固有性で、データベースに加えることで、他の人へのTAMIの有効性を高めることができる。他にも、信用を落とし孤立させることが容易であることも、ターゲット選定の要因となる。もちろん、反抗的な政治家や政府の内部告発者であれば、可能性はより高くなる。

アメリカ人としての誇りを感じますか？

人間に対して兵器効果実験をする精神病質性や社会病質性は、連続殺人犯や政府機関にだけ見られるとは限らない。それは紛れもない最悪な精神疾患の姿である。

被害者を麻痺させる戦略

実験の被害者は機能不全に陥り、働くことが許されることはほとんどない。兵器実験者の戦略は、精神疾患の機能不全を模倣し、被害者の資源を使い果たして、助けや防御方法を見つけれないようにすることだ。セキュリティクリアランスを取得できないようにするという、もう1つの理由もある。国防総省の契約者のセキュリティクリアランスを得るための身元確認では、経済的負担や精神疾患の兆候が調べられるが、これはおそらく、実験への復讐を求めて来る人々を排除するためだろう。死の抽選が何十年も続いていることを忘れてはならない。第二次世界大戦後、何千人ものナチスの科学者をアメリカに密入国させたパーパークリップ作戦に始まり、それ以来、人体への影響を研究するための薬物、放射線、マインドコントロール、そして昨今の指向性エネルギー兵器の実験は、議会が止めようとしているにもかかわらず増え続けている。

ホワイトハウスのサイコパス

2006年4月9日、ホワイトハウスの芝生の上で「とても重要な情報を持っている」と叫んで、大統領と直接連絡を取ろうとした人物がいた。彼はすぐにシークレットサービスに取り押さえられた。これは、ハンドラーが被害者のために用意した典型的な台本だ。被害者の信用を失墜させ、どこまでやれるかを確認するために、彼らはしばしばマインドコントロールされた実験被害者に、この兵器は被害者だけが知っているロシア製の新しい大量破壊兵器であると信じ込ませる。愛国心の強いアメリカ人被害者は、その情報を伝えるために何でもしてしまう。FBIや他の当局に信じてもらえないと、正しいことをするために必死の手段に訴えるのである。これらの被害者は、実験グループがどれほど大規模で、どれほど長い間続いているかを下調べしていない。INSCOMや戦略的欺瞞グループは、およそ5つの異なる説明で同様の被害を主張をする「精神病」の母集団を作り上げるために、ニュースに登場するような「サイコ」を必要としている。この例のように定期的に捏造される事件は、大衆のプログラミングを維持するのに十分だ。この人物が大統領に情報を伝えようとした動機は報道されないが、マインドコントロール技術に関するものであることは保証しよう。拷問が始まる3日前、彼らは私に同じような頭脳ゲームを試みたのだ。大統領に近づくことができるか？私は「この先の展開は分かっている」と答えておいた。

情報の流れ

プロパガンダ・マシン、心理戦、またの名をサイクロプス (PSYCLOPS = Psychological Operation) とも冗談めかして呼ばれる片目の怪物は、マスメディアをどのように悪用しているのだろうか。

様々な機関や政治勢力が用いている心理学を理解するためには、マスメディアや大衆向け出版物、インターネット上の偽情報のパターンを分析する必要がある。

まずはインターネットを見てみよう。私は Truth.org という民間のインターネットアーカイブシステムに関わっている。このシステムでは、WayBackMachine と呼ばれるツールを使って、インターネット上に掲載されたあらゆる情報を3ヶ月間さかのぼって見ることができる。これにより、偽情報サイトのパターンや誰が所有しているのか、情報漏えいを隠蔽するためにどのような心理的手段を使っているのかなどを調査することができた。結局、彼らの使う方程式はかなりスタンダードなもので、外国語のものも含めて、多くの情報がコンピュータで生成されていることがわかった。

私は、CIAの知識整理プロジェクトのために、自然言語情報の解析と収集アルゴリズムに取り組んだことがある。意図的に偽情報を生成するようなものではなかったが、変更は簡単に

できただろう。PSYCLOPS、INSCOM、CIA、DIA、電子戦部門では同じツールが多く使用されているが、それぞれが独自のキャンペーンを展開している。

情報流通網の操作がいかにもうまく機能しているかを知るには、グーグルで「マインドコントロール」と検索してみればいい。どれだけの情報が「サイエンスフィクション」とされているかがわかるだろう。現実のものでなければ、あるいは情報操作者として報酬を得るのでもなければ、誰も人生の時間を無駄にしてまでこのトピックについて書いたりはしないはずだ。グーグルの検索では293,000,000件のヒットがある。まだ恐ろしく感じないなら、リンクを幾つかクリックしてみればいい。これはもう一般市民を対象とした実験などではなく、情報兵器を使った組織的な支配だということがわかる。精神工学の強制収容所は急速に拡大しているのだ。あなたが「ブレインナップ」されるのは時間の問題であり、その時には、おとなしく何も知らないままいたことを後悔するかもしれない。

魂を盗む者たちは、アメリカの旗の下でのうのうとビジネスをしている。私はHAARPとプエルトリコの「電離層ヒーター」の統合に携わったが、それが世界的なマインドコントロール・ネットワークと関係しているにも関わらず、何に使われているのかは全く知らなかった。それほどこの技術は秘密にされているというのだ。私はコマンド&コントロールセンターだと聞いていた。しかし、それらの場所から超水平線レーダーで電離層に信号を跳ね返せば、全世界を覗き見ることができるのだ。

現実の基盤

自由と優雅さという幻想は、このイメージを生涯にわたって組み立て、信条、誓い、心象、賛歌を復唱することによって作られる。これまでの人生で経験してきたこととはまったく反対の、別の政府システムを想像しろというのは、別の神を突然信じろというようなものだ。新しいモデルに対応するためには、彼らの信念体系と現実の基盤全体を変えなければならない。多くの人は、直接証明されなければ、このような現実の変化を望まないし、適応することもできない。しかし、実演説明を受ければ、彼らは真実を知ることになり、幸福に満ちた無知な妄想のマトリックスにはもう戻れなくなってしまう。まるで『キャッチ=22』のようだ。ほとんどのターゲットは、他の人を目覚めさせることは不可能で、試みたところでただ気が狂っていると思われるだけだと悟るだろう。このようにして、コントロールのシステムは維持され、人々にとって重要な情報は徹底的に抑制されるのだ。

妄想の誘発

妄想はどのようにしてターゲットに引き起こされるのだろうか？誤った仮定に基づいた長い論理的思考は、ターゲット自身の脳内信号の増幅により生まれる。EEG 集合意識の共謀者たちは、ターゲットに「それは正しい考えだ」と同意させ、安心させればいい。ターゲットは社会的に孤立していることが多いので、当然それが唯一の「フィードバック」となる。攻撃者からのフィードバックはもちろん信用できないものだが、人は普段から信頼している情報源、つまり人間を模倣した誤った情報源に頼ってしまうのだ。このことがまた、思いつきの信憑性を増幅させ、それによって推論や結論の下流における論理的エラーを倍増させるのである。

これは、我が国の政府制度、特に軍の根本的な欠陥でもある。もしあなたが「イエス」マンたちに囲まれていれば、自分の考えの正しさについて誤った安心感を得ることになる。これが妄想を生み、また情報兵器の戦術としても利用されている。組織の集合知を劣化させるには、コミュニケーションスタイルに偽りのシグナルを混入する文化があればいい。将軍たちは、極端な自信を示すために命令を吠え立てる。純粋な黒か白の思考が訓練される。情報理論家や統計学者が言うように、信頼性のレベルがない情報というものは失われる。さらに、「ただ命令に従う」だけでいい下層部からは、フィードバックや情報の流れがほとんどない。これらに非合理性を増すためのエゴを散りばめれば、知的システムを破壊するための完璧なレシピができあがる。彼らがすべての兵器を支配しているというのは、本当に恐ろしいことだ。

のろまで太った白ウサギを追って

アメリカの暗い歴史の話題に興味があるなら、「エイリアン」を「国防総省」に、「テロリスト」を「CIA のプログラムによる暗殺者」に置き換えて調べるだけで多くの真実が明らかになるだろう。アメリカ国民に使用されているイメージング技術を理解するには、星を勉強すればいい。宇宙研究の援助を受けて進歩した技術は、すべて実際に実装され、国民に使用されているのだから。精神工学とは何かを理解するには、指向性エネルギー兵器とフルスペクトル地球凝視顕微鏡を念頭に置いて、「電離層ヒーター」と分散型電波望遠鏡の能力を研究すればいい。

「人類に共通する呪い、それは愚かさで無知である」

シェイクスピア、『トロイラスとクレシダ』(第2幕第3場)

人が学び、理解するのは難しいことだ。私たちは人生の 3 分の 1 を学校で過ごす。過激派が、この国の理想や建国文書の言葉で守ることを誓ったはずの、まさにその国と国民に対して情報戦争を仕掛けるにいたった思考を理解することは困難だ。私や他の人たちと同じように、外国政府もこれらの技術を解読していることだろう。そこから導き出せる唯一の結論は、CIA/軍はこれらの秘密が海外の悪人の手に渡ることは恐れていないのに、秘密を知った国民は信用せず、私たちに対して心理的・情動的戦争まで宣言している、ということなのだ。

恐怖の支配-暗黒の時代

軍と CIA が仕組んだ戦争とテロリズム

「皆殺しの雄叫びをあげ、戦争の犬たちを解き放て」
シェイクスピア、『ジュリアス・シーザー』（第3幕第1場）

「諜報機関」の矛盾

ビン・ラディンは 9/11 を画策するずっと以前からテロリストとして知られていた。彼の脳波はデータベースに登録され、世界のどこにいても発見できるはずだった。世界的監視能力を知っている多くの人々は、政府は彼を捕えたくなかったのだという意見を持っている。CIA は世界貿易センターに迫った攻撃について適切な機関に通知するのを怠り、その後、世界中の特定の人物を追跡できるにも関わらず、なぜかそれも怠っているのだ。その理由のひとつは明白で、実演することによって自分たちが持っている能力の手の内を見せたくはないからだ。第二に、もし敵がいなかったら彼らや兵士たちの仕事はどうなるのか、ということだ。第三に、もし中東諸国を 9.11 事件にどうにか関連づけることができなければ、国民に中東諸国への侵攻を正当化することができないし、9.11 事件に共謀した他の国々を非難する絶好の脅し文句を振るうこともできなくなるからだ。

民主的な選挙プロセスの問題点

軍人やCIAが大統領になっではいけない理由

自由をほとんど味わったことのない人に、自由を大切にすることを期待できるだろうか。政府組織はもともと民主的ではなく、言論の自由などというものも存在しない。この国を約束された未来に導く人は、その理想を代表する文化の出身者であるべきだ。

ウィリアム・シェイクスピアのマクベスより...

ロスに称号を授けられた時、マクベスは抗議する。「コーダーの領主は生きている。この俺になぜ着せるのだ、借り着なのに？」

マクベス派の軍やペンタゴンの高官たちも借りた衣を着たただの農民で、何の高貴な資質も持っていない。コーダー侯はファイフの戦いで裏切り者だったが、今、同じように裏切り者の集団が、彼らの雇い主であるアメリカの納税者に兵器を試しているのだ。これらの軍閥は、権力を手にし子供のように振る舞うギリシャの神々のようなものだ。皮肉なことに、歴史は繰り返される。借りた衣を受け継いだマクベスは、裏切りでダンカン王を殺してしまう。マクベスは実際に起こった事件がモデルになっているが、私が聞いた話では、王の死後間もなく王の息子7人がアメリカに逃げ、そのうちの一人が私の祖先だったという。もちろん、ただの楽しい家系図上の空想かもしれない。

クローク&ダガーのゲーム雑学

この事実は本書の内容とは関係ないが、白ウサギを追いかけているうちに面白いネタに出会った。KGBの諜報員の中には、プラスチックの袋に入った粘土を顎、頬骨、鼻のあたりに手術で埋め込んでいる人がいたそうだ。各部分を軽く押すだけで、顔の主要な特徴を改造することができたのだ。

行政機関の腐敗は高く、広く、深く

もし腐敗の深さを疑うのであれば、怒りと焦りから発せられたある発言を思い出せばいいだろう。1990年10月24日、ブッシュ大統領のホワイトハウス報道官マーリン・フィッツウォーターは、大統領の政策に反対する共和黨員にこう恫喝した。「良心の呵責に耐えて眠れるものなら眠ってみればいい」。フィッツウォーターは、彼らは何を言おうと自由だが、罰を覚悟しなければならぬと警告した。そして「我々はそれを公の場では決して議論しない」、「プライベートな煉獄で苦しむことになるだろう」と示唆した。説明を求められると、

彼はこう答えた。「言えないよ。言ってしまったら驚きがなくなるからね」

EEG クローン拷問を受けた何千人もの人々の誰もが、この脅しは何を意味するかを正確に知っている。ブッシュの父親は演説の中でこの技術について何度も言及している。プライベートな煉獄では、偏執性の増加とともに自分自身の心が自分に対して利用される。恐怖を増幅して脳に送り込むともいえる。薬物なしで兵士が何日活動できるかをテストするための信号のひとつは「人工カフェイン」と呼ばれている。

夢の操作は、人々に普段とは異なる考え方をさせるために非常に効果的だ。夢は、インタラクティブな映画の共同制作のように完全に操作することができる。ハリウッドも注目すべきかもしれない。しかし、脅迫や大衆と政治家の直接的なコントロールのために、このような武器が反民主的な方法で使われ、どれだけの人々が苦しみ死ななければならなかったかと思うと、またしてもため息が出る。たった数人の腐敗した不誠実な人間が、私たちの国と国民の生活をだめにしているのだ。国民が大量に覚醒する以外に彼らを止める方法があるのかどうか分からないが、それは不可能であるようにも思える。

イラク人ですら、マイクロ波による聴覚への影響や、他の指向性エネルギー兵器が使われていることに苦情を立てている。彼らは、おそらく人工衛星や超水平線レーダーからすべてができることを知らずに、無線塔を原因だと思って標的にしているのかもしれない。

アメリカ国外からニュースを入手し、抑圧され支配された情報の檻から抜け出せば、世界で何が起きているのかがより明解に分かる。世界の監視システムの能力を知れば、米国がビン・ラディンの居場所を見失うなどありえないことがわかるはずだ。CIA が 9.11 を阻止しなかったのが、ただの失態ではないことがわかるはずだ。この国の 3 億の人々を説得して、国内監視の積極的な拡大と強化を正当化し、専制政治的マインドコントロールと思考読み取り兵器に対する国民意識を変えるために、事件は計画されたのだ。政府が植え付けた「テロリスト」への恐怖で国民の態度が大きく変わってしまうならば、民主主義を維持し回復させる希望などあるのだろうか。

サイキック・アーミー

アメリカやロシアのサイキック・アーミーの正確な規模は誰も知らないが、増加していることは確かである。「お前たちは軍の技術を磨くための練習台だ」と、人工テレパシーで伝えられたことを訴える人々の数からしか、その規模は推し量ることしかできない。もちろん、遠隔心臓発作のターゲットとして成功した人々や、気が狂った人々はカウントされない。ま

た、恋愛感情などの実験だったり、単に自分が操られていることに気づいていない人たちも含まれない。

自分が政府の裏切りによって計り知れない苦痛を受けていたとして、果たして知りたいと思うだろうか？ 正体不明の病気だと思って、東洋医学やホリスティック医学の治療を受ける方が幸せかもしれない。

気の狂った支配者

国防総省の機関や上層部は、腐敗と無能のために一掃される必要がある。ニュート・ギングリッチもそう提案している。80年代にロシアがCIAやFBIに潜入し、二重スパイが組織の最高レベルまで達していたときは、幸運にもスパイを発見し、機関を完全に立て直すことができた。もし、反対に愛国者たち追い出してしまっていたらどうなるか？ 従順な社会病質者の集団と秘密のカーテンの向こう側で、この国は内側から乗っ取られることになるだろう。あのブッシュ大統領でさえコメントした無能な諸組織は、ほんの数人の優秀な裏切り者によって統合化される可能性がある。事実として、彼らは不必要な戦争を仕組み、様々なMKウルトラやマインドコントロール戦術によって、テロリストを訓練したり資金提供をしている。

コロンバイン高校の銃乱射事件や郵便局の銃乱射事件のような大量殺人事件が起こると、彼らは狂ったのだと私たちは言う。もし、これらの歴史的イベントが、現在も続くCIAのマインドコントロール実験や、ロシアとアメリカの隠れたマインドコントロール戦争まで遡ることができたとしたらどうだろう。あなたは事件の背後にある政府機関から真実を知らされなかったことに、裏切られたと感じるだろうか？

国民全体を注意深く見ている教養あるエリートも多くは、特に数学、物理学、科学一般について、国民の知的レベルが意図的に低下させられているようだによくコメントする。UFOアブダクションの陰謀を何十年も存続させるには、これ以上ない方法だ。

徴兵制を導入するよりも、階層分化を進めて軍隊に参加させる方が良い方法だろうか？ ペンタゴンの資料によると、兵士はロボットよりまだ安い。効率的に殺人を行う機械のコストが下がれば、兵士は必要なくなるだろう。既に必要な技術を私たちは持っている。ただ、人間と同じ仕事をする機械を作るよりも、人間の命の方がまだ安く複製できるというだけなのだ。同様に、市民は戦争支配者たちからは実験のために屠殺される家畜とみなされ、国防省の財源を税金で満たす電池とみなされている。彼らが権力を手に入れ続け、地球の全人口

の管理、制圧、そして最終的には奴隷化に専念するための手助けとなる、「誤った」人生の目的を与えられた電池である。

政府の野放しの権力が新世界秩序を生み、それは非常に暗い未来へと私たちを導いている。権力者にとって、平和は選択肢の一つではない。平和と縮小する国防予算は、彼らにとっては利益にもモチベーションにもならないのだ。

何のために戦争をするのか？

テロとの戦いは、他の戦争と同じようにゲリラ戦に過ぎないが、何十年にもわたるアメリカの外交政策によって扇動されてきたものでもある。ニュースでは、私たちが「異教徒」だから嫌われていると思わせたいのだろう。あるいは、彼らは私たちの国家の豊かさに嫉妬して、私たちを憎んでいるのだ。彼らは自分たちにとって何が良いのかも分かっておらず、私たちはイラクとイランの戦争で、私たちが武器を与え訓練した独裁者から彼らを解放しようとしているだけに過ぎない。それに、彼らは大量破壊兵器まで作っていて、私たちに使おうとしているのだ。

アメリカ人は、そもそも誰が中東を分割したのか簡単に忘れてしまう。誰がイラクとイランに武器を与えたのか？誰が指導者に権力を持たせたのか？誰が軍隊で国々を占領したのか？なぜ人々は、ニュースで流されるデタラメを信じるのだろう。彼らが我々を憎むのは、我々が彼らを利用し支配しているからに他ならない。冷戦時代にも、イラクとイランの戦争はロシアに対して利用された。2 国の戦争が焦点ではなかったのだ。彼らはそれを理解し、多くの恨みを抱いている。彼らは主権国家であり、自分たちにはどんな武器でも作る権利があり、アメリカは自分たちの問題から手を引くべきだと思っている。そこで、ブッシュは彼らを悪の枢軸と呼び、宗教というカードで国民をマインドコントロールし戦わせようとした。歴史上、指導者が大義への支持を引き出すために神の名を使ったときは、他のどんな理由よりも多くの死者をだしてきた。同じマインド・コントロール・ゲームは今日も続いている。

エネミー・ウィズイン

外交政策のミスを装って、いずれアメリカの都市が核攻撃されることになるかもしれない。おそらく、外国政府がコントロールできるように港を開放したのも、その試みだったのかもしれない。米国の戦争屋に、非 NATO 諸国への全面的な攻撃に必要な支持と口実を与える、

拡大のための長期的な計画の一部だ。

防衛産業の権力中毒で腐敗した投資家が使っている現在の世界支配モデル、「新世界秩序」から抜け出す方法を私は知らない。彼らは、TAMI や MIND のシステムを使って戦争を止め、平和を作る技術を持っているが、毎回毎回より品性を欠いた道を選んできた。

表面的には、この自己攻撃作戦は愚かにも見える。なぜ、アメリカ政府の内部は「テロ」攻撃を望むのだろうか？より多くの資金、より多くの権力、より多くの隠し事、より多くの拡張主義のために、国民への説明としてこれ以上の方法があるだろうか。犠牲こそが、国民を「テロリズム」と「テロリスト」国家に対する戦争に熱狂的に参加させると、彼らは考えているのだ。政府職員たち自身にさえ、多くのレベルで世論操作が行われている。一連のイベントを画策しているのは、一握りの数の人間だ。彼らはまだ政府の中では少数派だが、トリクルダウン命令や、ブッシュ・ジュニアのスポークスマンが共和党に使った「お前たちはプライベートな煉獄で苦しむことになるだろう」という脅迫のような悪質な戦術によって、他の全員を簡単に操っているのである。

オクラホマ爆破事件でさえ、弾圧を正当化するという同じ目的を果たしている。テレビに映らない犯人の証言が、MK ウルトラ・マインドコントロールプログラムを受けた何千人もの人々の証言と完全に一致することから、これもマインドコントロールによる事件だったと多くの人が考えている。

CIA のマインドコントロール研究プログラムを通じて発見された心理操作の戦術が、米国に利益をもたらした例を、私は見つけることができなかった。彼らはその発見のほとんどを、米国の国民と意見をコントロールし、より多くのお金と支配を得る目的で使ってきたのだ。これは、研究費を支払った市民に対する心理戦であり、裏切りである。しかし、無関心のレベルはあまりに高すぎるようだ。人々は、この国の中で自分たち自身のドラマに夢中になりすぎて、軍産複合体の暴走を許した他の国と同じ運命からこの国を救おうとさえ思っていない。

アメリカ政府は、歴史的に、何万人もの放射線実験やその他多くの犯罪で、軍事力のために国民を犠牲にしてきたことを忘れてはならない。彼らは世界的な拡張主義のために、支持者の意識を素早く変えるための軍事戦略を推進している。人の入ったビルや満員の飛行機を犠牲にすることは、彼らにとっては小さな代償なのである。たかが数百から数千人に過ぎない。それは、彼らが機密と技術を保持することによって 1 年間に殺す量よりはるかに少ない。人体兵器実験によって直接的に殺す量よりもはるかに少ないのだ。社会病質者が、自分たちの目的のためにまた世論を騒がすニュースになるような出来事を作り出すのは、そ

う遠いことではないだろう。

政府のあからさまな偽善にも注目してみたい。マインドコントロール技術は、本質的に共産主義的な目的を持っている。言いたいことを言えば投獄され拷問を受ける、何をすべきか指示される、物事が勝手に決められてしまう、などなどの理由から、私たちは共産主義は悪いものだと教えられてきた。CIA の MK ウルトラ実験やアメリカに対する情報戦、そして心を読み影響を与える指向性エネルギー兵器技術は、投資家に見せるための軍事演習などではない。これは、嘘と「もっともらしい否定」で煙に巻く方法を見つけた共産主義者のような政府の、真の乗っ取りなのだ。我々は既に転覆させられたが、ほとんどの人はまだそれに気づいていないだけだ。

精神工学的に扇動された戦争

最近、マインドコントロール技術に関する米国の報告書が、いくつかヘブライ語に翻訳され、イスラエルで出版された。

あちらの被害者たちからも、私は連絡を受け取っている。彼らは、加害者たちがイスラエルのシークレットサービスであるかのように装って、自分たちに実験をしていると言っている。このようなパターン、テクニックが世界中で使われているのだ。アメリカの見せかけの政府が公然とその国を支援する一方で、影の政府は戦争を仕掛けている。「悪の枢軸」諸国の多くの人々が、アメリカの精神工学兵器によって拷問を受け、その背後にイスラエルがいると信じ込まされていることは確かだ。ファシスト国からの友好は偽物で、まだ支配していない国への侵略を正当化するための政治的道具として使われていることを見抜けないのなら、ユダヤ人は愚か者だろう。もし関係が悪化し、指導者が不服従になった場合、核兵器を持っているという正当な理由でイスラエルを侵略することは、それほど難しいことではないだろう。

SATAN と TAMI がオンラインになったこの数十年の間に、「サイコ」が暴力行為を行い、サタンや悪魔がそうさせたと言った事件がたくさんあった。彼らは、意図せずに真実を語っていたのかもしれない。行動を命じる声は、SATAN (Silent Assassination Through Amplified Neurons) の頭文字をとった米国の兵器システム、すなわち米国のマインドコントロール兵器を通して送信されるのだ。

軍が主催する神話

フィラデルフィア実験

神話はこうだ。海軍が、船を時間軸で移動させ見えなくする実験を行った。その船は消えてしまい、誰もそれ以降見ることはなかった。実際には、これはレーダー・クロウキング技術の最初の実験の一つだった。船のホールに縦と横のワイヤーを張り巡らせることで、向けられた電磁エネルギーを打ち消し、レーダーや電磁スペクトルから見えなくするものだった。もちろん、双眼鏡を使えば船は目で確認できる。しかし、これはプロパガンダの偽情報マシンの力を示す良い例である。

宇宙人の検死と宇宙船の墜落事故

エリア 51 は、大衆を騙すために長年使われてきた典型的な舞台で、市民に対して数え切れないほどの残虐行為が行われた。当初、孤立した田舎者が人体実験のターゲットとなったのは、信用を失墜させるのが容易だったからだった。この 10 年間で、政治家、FBI 捜査官、軍人、教授、ニューヨーク市の警官などに「エイリアン・アブダクション」を行うなど、彼らの大胆さはさらに増している。彼らは、メディアを使いこれらの人々の信用を落とすことに成功してきた。BBC は、2 千 5 百万人以上のアメリカ人が宇宙人とのコンタクトを経験したと信じていると書いている。このかなり大きな数字を私は検証したことはないが、70 年代半ばに設置された EEG ヘテロダイン・システムの性能と偶然一致している。

UFO

UFO 目撃情報として報告される軍事演習が二つある。実験機設計のテストと指向性エネルギー兵器の実験だ。

EMP 兵器（電磁パルス）を使えば、車をエンストさせることができる。UFO 目撃談の関係者は、黒いヘリコプターが近くを飛び、車がエンストし、ラジオが勝手に放送局を変え始めたとよく報告している。指向性エネルギー兵器は、無線周波数の変調を変化させるので、このような効果があるのだろう。

素粒子物理学を研究している科学者に知られている現象に、「エアースパークリング」または大気励起がある。エネルギー密度が十分に高くなると、窒素やその他の分子が光り始めるのだ。そのため、何も知らない人が見ると、明るい青みがかった球が、空をありえない速度

で飛び回っているように見えることがある。

ケムトレイル

私はケムトレイルの専門家ではないので、その目的すべてについて語ることはできない。バリオンやアルミニウムの粒子は、空中に散布するとレーダー・シールドとして機能するため、各国が衛星からの携帯電話の背景放射を利用してステルス爆撃機を追跡する方法を発見すると、クローキング技術の実験として使われた。

化学スプレーは、オルセンが CIA に殺された理由でもある 70 年代のサンフランシスコの実験のような生物兵器の実験にも使われた。また、目に見えない波長で蛍光を発する化学レーザーが散布されたこともあった。長期的な健康リスクは不明である。

バーミューダトライアングル

情報公開法で公開された軍事文書には、この地域を取り巻く謎について私の推論を裏付ける証拠はなかったが、ロス・ペロ邸近くのバミューダ島には最大級の地上波レーダー・アンテナが存在する。ヘリコプターで島の上空を飛ぶと、それを確認することができる。墜落したパイロットの記述によれば、コンパスの針を回転させたり航法機器に干渉するような、激しく奇妙な電磁力の影響を受けたという。これは、指向性エネルギー兵器、特にスカラー兵器の典型的なサイド・エフェクトである。

JFK ジュニアの飛行機も同じように墜落し、父親のように暗殺されたのではないのかと推測する人もいる。これらの悲劇に至る正確な因果関係を証明することは自白がなければ不可能であり、陰謀論や憶測の領域に留まることになるだろう。

ペンタゴンのサイキック戦部隊

リン・ブキャノンと彼の同僚たちは、軍隊のサイキック兵としての体験を書き残した。彼らは知らされずに、超能力を発揮するために EEG ヘテロサインを受けていたのだった。このモルモットたちの極秘プロジェクトの暴露を、軍は気にしていないようだ。彼らが神秘的な心霊現象についてのナンセンスな話を宣伝することにより、マインド・メルディングの背後にある科学の真実を隠すことができるからである。

心理学実験の隠蔽

脳内チップインプラント

不服従とされた何人かの軍人が精神病院に収容され、彼らに対して脳インプラントの実験が行われた。これらの残虐行為は隠蔽され、手術を行った者たちも、お馴染みの組織的な方法で信用を失墜させられた。サイエンティフィック・アメリカ誌の2005年9月か10月号に、人間の脳にチップを埋め込んだりロボット手術を行ったデルガドについての記事があり、彼をこの分野の父として宣伝していた。彼は、隠居生活をしていたスペインから、秘密の精神工学実験が行われていると噂されるサンディエゴへと戻った。サンディエゴでは、悪魔的儀式虐待カルトがかなり有名だ。

残虐行為が行われ、隠蔽され、後にそれを行った者たちが英雄であるかのように語られてきたことを忘れてはならない。デルガドは、脳の調節をワイヤレスで行うことができるかという質問に対してこう答えた。「それはサイエンスフィクションだ」

人格の分裂

多くの偽情報サイトには20世紀最大のデマのリストがあり、私がここで話していることの多くが掲載されていた。その中の一つに、多重人格障害は存在しないというものがあった。CIAが後援するこのテーマの研究は、何十年にもわたって行われてきた。その目的は、「影なき狙撃者」たちを作り、工作人員を他国の安全保障機関に潜入させ、催眠と人格分裂によって忠誠心と経歴に関する嘘発見器テストに合格させることにある。EEGヘテロダインによるマインド・ゲルディングは、古典的なポリグラフの反応や新しい脳印刷技術を、より正確かつ予測できる形でコントロールすることも可能にしている。ポリグラフや裁判のプロセスは、電磁氣的にシールドされたラボで行い、司法プロセスに干渉する精神工学信号の監視装置も備える必要があるだろう。

最後に、行政府がいかにして私たちから民主主義を奪ってきたかについて言及しておこう。言論の自由は、軍事クーデターや専制政治から私たちを守るために与えられたものだが、彼らはマスメディアやインターネットをノイズや偽情報で溢れさせ、その他のメッセージが聞こえないほどにして、この権利を迂回している。これは、民主主義の重要な保護機能の破壊を合理的に行う巧妙な方法だ。公に集まるためのライセンスや許可証だけではすべての

人の抗議活動を黙らせることはできないが、彼らは、まるで公の場でロック音楽やホワイトノイズを大音量で流すように、メディアコントロールやインターネットで偽情報を氾濫させることによって、誰も真実を聞くことができないようにしたのだ。

オーウェルのいたずら

ジョージ・オーウェルが始めた伝統を引き継ぎ、無作為に市民を拉致し実験するためには、UFO や悪のエイリアンのカバーストーリーがまだ有効であることを軍は発見した。データベースに保存された脳の信号から推測すると、彼らはエイリアンの地球乗っ取りという大規模なオーウェル的悪ふざけの準備をしているのかもしれない。冗談に聞こえるかもしれないが、実演を見れば、ほとんどの人が信じてしまうと断言しよう。

恐いスパイがやってきた！

政府には資金と権力を獲得するための「影」のファシスト政府というものが存在する。それを正当化するために、政府がいかに「テロ」を利用し作り出してきたか、試しに例を出してあなたを怖がらせてみたい。

米国を 5 時間で横断する飛行機から投下された照明弾は、乾季には数百万ドルの損害をもたらすだろう。スポーツ狂信者でいっぱいスタジアムには催涙ガスを投げ、出口に機関銃を設置する。大砲や投石機を（フーバーダムのような）ダムにを使って下流の町を水没させ、油圧ジャッキを使って鉄道を曲げれば、国中の供給網を妨害できるかもしれない。これらの単純な方法は、100 人以下の組織と 10 万ドル以下の資金だけで、莫大な恐怖と損害を引き起こすことができる。

「テロリスト」はどこにでもいて、アメリカの破壊を目論んでいるのだ。あなたに理解してもらうためにも、恐ろしいシナリオを続けよう。飛行機を破壊しようと思えば、離陸するパイロットの目をくらませたり、自家製のロケット弾をエンジンの吸気口に使えばいい。鳥の群れを放っただけでも、タービンに鳥が巻き込まれて飛行機が墜落したケースがある。ある諜報員から聞いた話だが、ガレージドアの電気エンジンを使って電力網に急激な電力サージを起こすことで、住宅の大部分を停電させることができるそうだ。DoS 攻撃によりラジオやテレビの放送を妨害することで、国民に影響を与えることも可能だ。

しかし、これらはささやかな迷惑行為に過ぎない。個人や経済にはどのような影響が与えら

れるか見てみよう。ナパバレーの畑にキクイムシやカビを持ち込めば、ワイン産業は壊滅的な打撃を受けるかもしれない。飲料水の貯水池に既知の細菌や化学物質が混入すれば、何年にもわたって水源が汚染される。狂牛病は無防備な食肉供給源に簡単に持ち込まれるかもしれないし、最近FDAがしたように隠蔽も容易い。信用を落とすことでも、経済を破綻させることができる。マインド・リーディング技術や、こういった工作は、監査されることのないブラックオプス・プロジェクトが予算をさらに増やすために使用される。議会がその一例だ。フォーチュン誌に掲載された500の企業の幹部を狙えば、株式市場を操作して簡単に資金調達ができるだろう。

私たちの社会のあらゆるシステムは脆弱であり、何千人もの人々を拷問し殺害するという無謀な行為は、認識されるか否かにかかわらず、何らかの結果を招かないわけにはいかない。政府の愚か者たちは、元国防総省の生物兵器の専門家さえも拷問しているのだ。これらの攻撃の目的は何なのだろうか？政府がイラク人に行っている伝統的な方法での拷問についても考えてみてほしい。これが一世代で許され、忘れられるとでも思っているのだろうか。拷問は愚かな戦略であり、これらの「テロ」行為が認められるわけがないのは明らかだ。

政府に恐怖心をコントロールされるのをやめ、世界中に何万人といる高周波指向性エネルギー拷問の被害者に対する責任を追及してほしい。表向きの政府は外交を試み、影の政府の失態を謝罪し、神経系兵器、薬物、放射線実験について世界中の人々に補償しなければならない。

でたらめな宣伝

より大きな予算を競うさまざまな機関や人々は、議会やその他の人々からの資金提供を正当化するために、いつも同じようなごまかしの戦術を使っている。彼らはロシアの技術の現状について嘘をつく。ロシアはとある技術で先行しており、追いつくためには資金が必要で、プロジェクトの監視を制限しないことも必要だと、いつも同じ主張をするのだ。電磁波によるマインドコントロール技術や指向性エネルギー兵器の開発で、彼らは本当にこれを演じたのである。国民に恐怖心が働くように、議会もまた恐怖心に反応するのだ。

権威を疑え

「罪によって昇るものもいれば徳により落下するものもある」

シェイクスピア、『尺には尺を』

あなたは、空腹な男に食べ物を任せ、乱れた男に妻や娘を任せ、強欲な男にお金を任せ、薬物中毒者に処方箋を任せ、権力を求める男に権威を任せるだろうか？権威を疑え！

秘密主義とは、権力中毒者がコミュニティを犠牲にしてさらに中毒になることを可能にするメカニズムである。

NATO 諸国はなぜ、ファシズムを背後に擁しながら自由という幻想を抱き、見せかけの政府と影の政府を持っているのだろうか？

それは、子供で説明するのが一番わかりやすい。子供に庭の落ち葉をかき集めさせたいなら、単に命令して、お金を払えばいい。しかし、その子は嫌々ながら作業を行い、それを雑用と呼ぶだろう。私たちは昔から、この取り組み方を共産主義的や独裁的と考えるように教えられてきた。もしあなたが子供に落ち葉をかき集める特権を与え、その子と友達が落ち葉の山に飛び込んで遊べるようにすれば、その子は感謝してただでやってくれるだろう。軍産複合体の生産性を高めることができるのは、自由と選択肢という幻想なのだ。

同様に、もしある国がベトナムのように徴兵制を採用すると、人々は嫌々ながらそれに従い、中途半端な気持ちで戦うことになる。自分の主義や大義のために死ぬような想像上の理想を与えれば、彼らは決意し堂々と戦うだろう。

大衆の心をより効率的にコントロールし、動機づけるために、アメリカが他の形態の政府より優位に立つことができたのは、この嘘の塗装のおかげなのだ。

この統治方法は両刃の剣でもある。それは、幻想が崩れないように、情報の流れをコントロールする能力に大きく依存しているのだ。知識が一定値に達すれば、自分たちは自由だと信じていた人々の反動は、同じように熱狂的に、影のファシスト政府を転覆させる力へと転じるだろう。人々が隠蔽工作に気づくにつれ、そんな話は狂っていると信じさせられていた嘘が崩れ始める。これが彼らのアキレス腱なのだ。知識は力であり、情報内戦こそが、彼らを破壊する方法である。

ソビエト連邦はどこへ

米国の詐欺師たちは、伝統的に、ロシアの進歩について虚偽で誇張された報告を使い、ロシアの先を行くために手早く多額の予算承認を得てきた。遠隔 EEG ヘテロダイナ兵器は、お

そらくこの常套手段の最悪の例といってもいいだろう。

誰が最初にこのグローバル兵器を開発したかを示唆する明白なサインは、ソビエト連邦の経済的崩壊だった。この兵器を保有する国は、あらゆる経済市場を操り、プログラム継続の資金を容易に調達することができる。同様に、他の国の経済も簡単に破壊することができる。ソ連崩壊は、誰が最初にこの能力を開発し、誰が世界中の何千人もの拷問と殺人の責任を負うかについての、十分な証拠となるだろう。ヒントを言おう、それはロシアではない。

しばらく前、モルガン・スタンレーの自己勘定取引・統計的裁定取引部門の面接を受けていたとき、私はあることに気づいた。早い話が、裁定取引と呼ばれる短期売買の価値のアンバランスは儲かるということだ。コンピューター・モデルは、統計的手法を使って、数秒という短い時間の中にしか存在しない価格における確率的な異常値をデータマイニングする。同分野は競争が激しくなっているが、この技術は非常に優れている。すべての金銭のやりとりは、知覚された価値による需要に帰結する。もし、CIA のデータベースから性格プロフィールと脳モデルを入手することができれば、さまざまな確率的情報シナリオを与えたときの市場全体の反応とビッグプレイヤーの影響力を正確にシミュレーションすることができるだろう。「不合理」な市場の変動を心理学的にプロファイリングすることで、大金を手にすることができるのだ。この種のシステムの数学的モデリングの説明は、本書の範疇を超えている。しかし、指摘しておきたいのは、マスコミのリークや大統領の話など（真偽はともあれ）様々な情報に対して、米国民の反応を予測するために使われる技術と同じものが、議会の監査を必要としない民間の戦争やプロジェクトにも合法的に使われる可能性があるということだ。もちろん、マインド・リーディング技術や影響力、その他の監視方法を加えれば、その工程は驚くほど簡単になるだろう。CIA も、第三世界の反乱の資金源として、ロサンゼルス近所にコカインを流す必要はなくなるのだ。

CIA がコントラへの資金調達以外の目的でロスの黒人居住区にコカインを配布していたことには、別の理由があるはずだ。彼らは、調査によっても示されたように、ドラッグを売るよりもホワイトカラー犯罪によってはるかに簡単に資金を調達することができたのだから。脳波のクローニングを使わなくとも、彼らの監視とスパイ技術があれば、「テロリスト」が自作自演の未来を予測して行ったのと同じように、株式市場やオプション市場で資金を調達することができただろう。金の問題ではなかったはずだ。

恐怖による支配

「恐怖の連続だろう。それが奴隷の一生だ」

拷問を受けている間、私はなぜ「テロリスト」が作られたのか疑問に思うようになった。空港のセキュリティによる不自由さは、いかに人間が非合理的かを示す好例だ。9.11 を含めても、統計的に航空機の安全性は世界一である。現在の基準のセキュリティを回避し飛行機を乗っ取る方法を、私は楽に 50 以上思いつくことができる。それでも、人々は論理的に可能性を考えはしない。

他の 49 の方法は公表しないが、参考のためにも、飛行機を墜落させる方法を 1 つは例示しておかなければならない。念のために言うておくと、もし政府が信じ込ませようとしているように、できるだけ多くのアメリカ人を殺すことが目的なら、スポーツスタジアムや病院でマシンガンで乱射した方が簡単にうまくいくだろう。恐怖は政府のプロパガンダによって引き起こされる。過激派政府は、あなたの恐怖から歴史的に利益を得ている。彼らは、無駄な色信号警告で、あなたに恐怖を与えているのだ。

例えば、空港のスキャナーでスキャンされるのは金属だけである。プラスチック爆弾は、どんな商業的な物体の筐体にも成形でき、空港のスキャナーを通過することができる。これはよく知られた事実だ。起爆装置は腕時計のような小さなものでもよい。これはロケット科学ではないので、もし高卒程度の知識のある人が飛行機を落とそうと思いついたら、1 週間もかからないだろう。恐怖による人口のコントロールの未来は、私たちターゲットにとっては明白だ。どうすれば、同じことを繰り返す歴史に大衆を目覚めさせることができるのだろうか？

ゴーストバスターズ - 兵器実験者をおびき寄せる

CIA/国防総省の兵器実験担当者がどのような基準でターゲットを選ぶのかについては、憶測しかできない。誰もがこう聞く。「なぜ私が？私はただの一般人なのに」と。まさにそれが一つの基準なのかもしれない。兵器の標的となる人々の大まかな内訳は、70%が無作為抽出、5%が政府の内部告発者、5%が声の大きすぎるリベラル活動家、10%が機密技術に携わる国防省の科学者、10%が生活様式による選択、そしてサダム・フセインなど本当の標的と思われるものは 1%にも満たない。

もし潜入捜査のアメリカン・ヒーローがいたとして、彼が影の政府をおびき出すために使うかもしれない方法は、L-ドーパとセロトニン再取り込み阻害剤を組み合わせることで、神経伝達物質の分泌、または再取り込みを増やすことで、一時的に「サイキック」状

態になることができる。実験担当者たちは低い出力レベルに反応する脳を探しているようなので、これはおびき寄せる方法として使えるかもしれない。

L-ドーパは合成ドーパミン神経伝達物質類似化合物で、シナプスの活動を増加させ、小さなラジオ/マイクロ波/磁気/電気情動的にコヒーレント信号の受信を増幅する。シナプス接合部の過剰な神経伝達物質は、神経伝達物質放出の正確な外部調節を増幅するのに役立つ。神経細胞の結合を表す極めて低い周波数で調節された高周波パルスには、いくつかのエネルギーと情報伝達のメカニズムが見られる。ソニーは、将来のバーチャルリアリティ・ビデオゲームのために、脳組織への超音波エネルギー伝送を使用する特許を取得している。これはまた異なった方法ではあるが効果的だ。

潜入捜査のヒーローは、兵器実験者にとって非常に魅力的な実験体だ。なぜなら、彼は生まれつきの精神病患者のように見え、基準の許容閾値を超えた人間であり、信用を落とすことが簡単にできると思われるからだ。なぜ閾値があるように見えるのかは推測するしかないが、おそらく、人間の脳にも TEMPEST 基準のような閾値があるのだろう。諜報員はその情報を使って、一定の基準を超える人をすべて、アメリカにとって潜在的な脅威と見なしているのかもしれない。あるいは、他人に送られた EEG ヘテロダイン信号を意図せず拾い始めてしまい、脅威と見なされるのかもしれない。選定の背後にある動機については、わからないことが多い。実際にはこのような閾値は存在しないのかもしれないし、指向性エネルギーは異なる増幅レベルを単に補完できるのかもしれない。

ADD とリタリン

ADD の子供によるリタリンの需要の増加については、推測に過ぎず、まだ確証があるわけでもない。しかし、サイキック・アーミー（またはマインド・コントローラー）の訓練は、おそらく予算の増加に合わせて、約 4 年ごとに激しさを増している。選ばれる対象に子供や老人の区別はない。集団心理と遠隔神経接続の弊害として ADD(注意欠陥障害)がある。リタリンを投与される子供の数は、軍備の増強と相関してエスカレートしている。リタリンのような刺激剤は、脳内の外部刺激の増幅を変え、脳波のクローン・ロックを解除するのに十分なほど脳の神経化学を変化させるという証拠がある。より効果的なロック・オン状態を作り出すためには、新しい脳波の再マッピングが必要になる。通常、このマッピング作業はプロジェクトの最初に行われるだけで、後に再検討されることはない。EEG クローニングは、知覚機能が弱められた対象者に最も効果的である。カフェインのような興奮剤は、感覚刺激の増幅を促進し、それによって内部および感覚的な脳信号に対する電磁信号の影響を弱めるように作用する。

興奮剤が EEG ヘテロダイナミクス兵器の効果を増大あるいは減少させるということに関して、私のもう一つの推測は、空軍が戦闘機のパイロットに興奮剤を投与する実験を行ってきたということだ。戦闘機のパイロットが戦闘前にアンフェタミンを飲まされたケースがいくつか報告されている。彼らは誤って味方に発砲してしまった。これは、EEG ヘテロダイナミクスによって引き起こされた判断ミスと興奮剤で打ち負かせるかどうかのテストだったのだろうか？

おかしなおかしな世界

この実験がどれほど広く行われているかを知ってもらうために、近年発生した疑わしい出来事をいくつか挙げてみよう。多くの人が入院しているパニック発作は、遠隔操作による心臓発作の試みである可能性がある。国防総省は死亡率を収集している。心臓がドキドキして目覚めるような悪い夢は、兵器の練習によるものなのかもしれない。乳幼児突然死(SIDs)がこれらのランダムな殺人未遂に関連している可能性もある。女性や子供も、男性と同じように死の抽選にかけられる。頭から離れない歌が何度も何度もリピートするのは、脳波の同調の試みかもしれない。

一つ覚えておいてもらいたいのは、あなたの沈黙と傍観によって、米国国防総省/CIA は腐敗し暴走したということだ。

作戦中止、安全なフェイルオーバー

私の友人は、CIA の諜報員ではないが、休暇中には NSA のトップや国土安全保障省の副長官と一緒に旅行していると公言している。私が生体通信 MK ウルトラ・プログラミングを使ったマインドコントロールの標的になる前、彼とは行動修正哲学について幅広く議論したものだ。彼は、もし痛みの薬があるとしたら、それには中毒性があるかもしれないと予想した。ある期間痛みの薬を飲んでいると、脳がその状態に順応し、もし飲むのをやめたら人生が「ハイ」になってしまうだろうと推測したのだ。皮肉なことに、それはソフトな拷問にも当てはまる。何日も続けて拷問された後は、激しい運動の後のように感じる。だから、「影の政府」は、もし拷問のために内戦が起きて何千ものプロジェクトをすべて中止させなければならないという事態になったら、痛みと殺害のシグナルを止めればいいのだ。人々は突然リラックスして、過剰な刺激の欠如から少し脳が麻痺して、満足し、至福の愚かさを感じるだろう。万が一のための良い備えだ。ただ、それでは殺傷兵器の実験にならないのでやらな

いだろう。

情報機関の矛盾

私がこれまで生きてきて気づいたことは、企業は自分たちに足りないものを宣伝しているということだ。彼らは既にある固定観念を変えようとしているのだ。諜報機関も同じである。私は全米一のアメリカンスクールに通い、CIA はその学校で人材を集めようとしたが、そのような道に進むのは他のどこにも就職口のない敗者だと考えられていたものだ。私がアイビー校で過ごした間、彼らの成功は 0% だったと喜んで報告したい。知的資本を切望する DoD (国防総省) は、ハーバード大学で強引な手段に訴え、採用ラインに名誉枠を設けなければ研究助成金を打ち切ると脅した。情けないことだ。

奇妙な自殺によって殺された私の仲間の英国、米国、NATO の科学者たちも、情報機関の知性の欠如には同意したことだろう。ペンタゴンと精神工学兵器を操る NATO 合同軍の下部情報機関(例えばイギリスの国際政策、軍事戦略)で働く天才たちを知ってもらうために一例をあげよう。彼らは民間の衛星イメージング会社にすべての秘密基地の画像を削除するよう強要したのだ。そうすることで、古い画像と新しい画像を比較するだけで、すべての基地の位置を浮き彫りにすることが可能になってしまった。実際に、UKsecretbases.com というウェブサイトを開示する者も出た。サイトはその後閉鎖されたが、ウェブアーカイブにはおそらくまだキャッシュが残されているだろう。私の精神工学拷問の理由が、隠蔽されたマインドコントロール技術の再発見によるものなのか、NATO の海軍秘密司令部についての知識が原因なのかはわからない。

国防総省は、知的資本が不足しているため、ハーバード大学の採用枠を巡り強行策に走った。もし大学での採用を許可しないなら、5 億ドルの研究助成金を取り上げると脅したのである。結局、犯罪者たちはキャンパスへの立ち入りを許可された。他の採用担当者は、自分が採用した者が組織を去るときに、拷問して殺したりはしないだろう。

脈打つマイクロ波の声

アニメーションのように異なる静止画を次々と見せられると、脳はその画像を補間して、その差を動きとして認識する。1 秒間に 30 回よりも高速で表示される映像は、その不連続性すら認識できない。モニターのちらつきが見えるのは、リフレッシュ・スキャン方式によるものだ。心は理解した画像を滑らかなものとして認識するが、マイクロ波聴覚効果における

音の印象も、同様の現象が起こっているようだ。1秒間におよそ10回発生する音の印象で、心はそれを連続的なものとして認識することになる。これは、音圧波ではなく、マイクロ波パルス音の知覚の場合である。

精神科医のためのバック・トゥ・スクール

政府の EEG ヘテロダイナミクス実験と自然の精神分裂病を区別する簡単な方法は、「声」の会話内容で判断することだ。非致死性指向性エネルギー兵器が完成に向けて取り組んでいるソフトウェアの限界の一つは、トレーニングセットに完全な文章を必要とすることである。ほとんどの人はフルセンテンスで思考しないし、ドーパミンが増幅された脳は、フルセンテンスのまとまった会話を認識することはできない。自然の精神分裂病患者が声を聞くときは、閾値に近すぎるために単語パターンの照合が誤作動を起こし、つぶやきやいくつかのフレーズが聞こえるのが普通だ。彼らが知覚する単語やフレーズを誘発するためには、ほとんど常に背景音が必要とされる。これは、残忍な EEG クローン兵器実験の何千人もの犠牲者が経験する現象とは全く異なるものである。彼らは脳のリンクの反対側にいる本物の人間との人工テレパシーを通じて、神経伝達物質放出の無線周波数調節によるシナプス結合で「神の声」を聞く。それは24時間365日、少なくとも電話通話のようにクリアな音声で、またフルセンテンスの文で話される。政府が後援する偽の悪魔崇拝カルトやその他の作り話には、よく知られた精神病症状を模倣する意図があるが、その不完全な偽装にはまだ多くの重要な欠陥があり、技術や知識を持った人々であればすぐに識別し、両者を区別することができる。

私は FBI の 350 の最も監視されているテロ組織を調べた。非常に有名なサイコテロ組織の新世界秩序も、悪魔崇拝のカルトの一つでさえも、リストには載っていなかった。どちらも有名で、サンディアゴ警察でさえ悪魔の儀式虐待を認識しているにもかかわらずだ。これはパズルなのだろうか？悪魔崇拝カルトはアメリカの暗殺部隊のためのただの訓練キャンプなのかもしれない。サイコを鍛え上げ、拷問と殺人によって生活保護費を稼ぐという、彼らの伝統的な歪んだ心理を作り出すのに役立っているのかもしれない。

FCC の真の役割は政治の検閲だ

FCC もまた、ファシズムの小さなサインの一つだ。委員は選挙によって選ばれず、規則は背後に存在する意図により恣意的に作られている。どのラジオ番組でも言えることだが、規制音を入れ忘れた言葉よりも、政治的な内容によって罰則を科せられることが多い。それは、

「脅威」の暗黙の了解を促す手段なのだ。メディア全般は、このように「影の支配者」に暗に脅されコントロールされている。政治的人格分裂、二頭の怪物の二律背反がここにはある。汚い言葉や醜い裸の人間の写真は我々の社会を退廃させるものだと、政府は臆病な国民たちに声明を出す。当然、私たちはこれらを検閲しなければならない。ただし、裸のイラク人が拷問され、辱めを受ける写真なら何の問題もないだろう。同様に、政府は「小児性愛者を見つけるため」に、検索エンジンにデータベースを引き渡させることに非常に興味を持っている。しかし、刑務官によるレイプや未解決の何千もの殺人については、どうやら優先順位が低いようだ。信じがたいことだが、違法な政府の活動に関する知識の拡散を阻止するために、情報の流れは監視されている。

はっきりさせておきたいのは、人々が「影の政府」について語るとき、それは国民の政治的意見を誘導し、個人に対する反逆的拷問を隠し、もっともらしい否定で暗殺を隠蔽するための違憲な影響力を指しているということだ。「影の政府」は何も統治したりしない。彼らは暴力と戦争を扇動し、情報を隠蔽し、中東侵略に国民を加担させるために9/11の事件を起こしたように、世論を動かそうとしているのである。9.11事件は、歴史をさかのぼれば必ずCIAにたどり着くと、私は保証しよう。

怒りの誤誘導 - 暴力を扇動するために最も使われる戦術

マインドコントロールや心理操作は、今や純粋な科学となった。前にも書いたが、私は拷問が始まる前の1週間に2回も、通行人から「あなたはサイコパスだ」と言われた。長時間の虐待と怒りの誘導を利用した戦術は、私を本当にサイコパスになる寸前にまで追い込んだ。彼らは、このような精神操作の武器と戦術を使って、この国や他のすべての国でさらに「テロリズム」を起こそうとしている。

CIAのマインド・コントロールの研究は、何十年も前にさかのぼる。彼らは特に人格を分裂させることに関心を持っていた。この研究は、マインドコントロールされた人格を作り、二重スパイが他の国で地位を築いていくのを助けるために非常に有用だ。私が最も興味深いと思うのは、彼らが政府全体に対して行ったことだ。彼らは研究の中で、表向きの政府と裏の政府の行動や意見が分かれるほど、人々はその偽善に気づかないことを発見した。このような極端な方法で活動を続けることができるのは、人々がそれを信じ難いと感じるからに他ならない。例えば、アメリカの大統領が中国に国民をいたわるよう頼む一方で、彼の取り巻きは、電磁波兵器の練習という名目で、世界中で何千人、何万人もの人々を拷問している。これが、ケネディ暗殺以来続いているゲームのやり方である。

影の政府による悪魔的儀式虐待の終焉

マインドコントロール実験者とサイキック暗殺者は、私を実験し殺すために 1 年の猶予を与えられた。彼らは 1 周年記念のハロウィンの最後の週に私に「大失敗をした」と言った。私は死ぬはずだったのだ。私は命を狙われるたびにそれをかわし、他人への危害も防ぐことができたが、私の幸せはもちろん、35 年分の健康も簡単に奪われてしまった。無責任な言い方になるが、もし彼らが私に何をさせようとしているのかを最初から知っていたら、他の多くの被害者と同じように私も死を選び、データも訓練の機会も彼らに与えなかつただろう。この本を書くのも、関係人物や技術、彼らの戦術を暴露し、他の人が自分を守り、この兵器システムに打ち勝つ戦略を計画するのを助けたいと思うからだ。

嘘のマトリックスに迷い込んだあなたへ

映画『マトリックス』のように、人々はこの何十年も前から存在する兵器について何も知らない。まるで「SF」のように見えるため、彼らは標的となった人々を助けようともせず、自分たちの税金で支援されている純粋な悪を理解することもできない。そして、ほとんどの人は神経に影響を与える技術の経験がないので、EEG ヘテロダインにより操られ、被害者に対する武器として使われる。彼らは壊れた馬のように手懐けられ、鈍化され、捕らわれている。今は自由という幻想で十分であり、それが真実でないという潜在意識の不安を鎮めるために、国歌に「自由の国、勇者の故郷」と歌われるような自己満足のデタラメを無心に復唱するのである。まるで、この国のすべての人々が、電磁波のプロザック(*抗うつ薬)やヒプノチューブによるイカサマとミスディレクション、そして情報過多によるシャットダウンによって、おとなしく飼いならされてしまっているかのようだ。

この分野の科学者が行った実験によると、5 つの周波数帯域では、誘発された脳の信号と声が合成音に聞こえ、誘導された神経の影響を心に感じる。また、12 以上の帯域では、被験者は影響を知覚できず、変調された声を自分の思考と勘違いしてしまうという。バード博士によれば、ロシアのウッドペッカーの送信機は 12 帯域である。しかし、米国の諜報員は、米国が唯一のグローバルなマインド・ネットワークを持っていると自慢している。人々は「千の光の点」の一つとして、作戦室のグローバル・グリッドに表示される。

私は、精神工学的強制収容所から極めて短期間で解放された数少ない人間の一人だ。ほとんどの人は、兵器の下で何年も拷問に耐えている。私は今でも、憲法上の価値観と政府の透明性を取り戻したアメリカの再建のために戦っている。少なくとも週に一度は、このような虐

待や不当投獄、家族の死について政府を訴えている人から証言を頼まれることがある。集団訴訟の試みは何度も行われてきたが、すべて失敗に終わっている。歴史上の他の実験を振り返ると、国民にも被害が認められるような証拠資料を政府が公表するまでには、通常20年はかかっている。

これは情報戦であり、爆弾もミサイルもない。人間の心のハッキングさえも情報兵器に分類されている。私は、影の政府と戦っている一人の元CIAの諜報員に会った。彼自身が拷問の実験を受けていたのかはわからないが、彼はボディガードを連れていた。CIAがいかに腐敗しているかを、明らかに彼は知っていた。元FBI捜査官や他の元政府捜査官も、それぞれ違った意味で慎重だった。私は何度も死ぬ寸前まで拷問され、映画『Vフォー・ヴェンデッタ』のように、死を恐れることさえやめるようになった。というより、もう死んだも同然なのだ。

さまざまなグループが、神経兵器を無効化する方法を見つけるために、兵器のリバースエンジニアリングを進めながら、分析してきたシグナルインテリジェンスのデータを公開している。理想的には、「ワクチン」を見つけることによって、これら多様な兵器を担当する軍の過激派の無能さを示したいと思っている。彼らの監視能力と神経システムへの影響を打ち消し、創造的な手段で情報網の檻を突き破れば、千億ドルもする兵器システムを無用の長物と化すこともできるだろう。これが私たちの目下の目標だ。国民を催眠術の夢から覚ますことは、情報の流れが完全にコントロールされている以上不可能であることが証明されており、正義が実現するのはずっと先のことだろう。

この本を直接入手した読者もいるかもしれないが、本書は主流の出版社に受け入れてもらうために、フィクションとして出版しなければならなかった。私はこの兵器について、全国各地の無料の公開会場で講演を行っている。もし興味があれば、ネットワークに参加して、毎月の集まりに参加してほしい。こういったグループは世界中に存在する。

偽善のプロトコル

ところで、これらの認可された拷問と殺戮の統計的実験では、彼らは厳格なプロトコルに従わなければならない。奇妙に聞こえるかもしれないが、彼らは世界中の誰でも殺そうとしたり、ストーキングによるガスライティングや情報兵器を使ってターゲットに他の人を殺させることができる一方で、化学毒殺、銃撃、暗殺といった通常の方法でターゲットを殺すことはできない。効能のデータに偏りが出てしまうからだろう。

サダムは侵略を正当化するために使われた駒だった

1992年にUSAトゥデイ紙が報じたサダム・フセインの重要な証言を無視するわけにはいかない。CIAが心臓発作と脳卒中を誘発することによって彼を殺そうとしたと、彼は証言した。その証言から重要な推論をすると、彼はSATANシステムによって攻撃されていた、つまりEEGヘテロダインの攻撃を受けていたのである。彼は世界中どこからでも簡単に追跡可能だったが、表向きの捜索は難航した。彼らはまた、マインド・メルドを行い、イラクの大量破壊兵器がどこにあるのか、あるいはそんなものがそもそも存在しなかったのか、前もって知っていたはずだった。これこそ、大量破壊兵器による侵攻論が嘘であったことの証明だ。英国のトニー・ブレアは、科学者の一人が大量破壊兵器は存在すると報告したと言った。しかし、その科学者は名乗り出てトニー・ブレアの発言を否定し、1週間後、お約束の自殺によって死ぬことになった。嘘の網は何層にも重なっている。

さて、面白いのはここからだ。SATANは私にも使われ、遠隔の心臓発作と脳卒中の感覚は、私が1年間耐えた実験の主要な部分を占めていた。私は健康体なので脳卒中の心配はあまりしていなかった。実際に血管収縮を起こし血圧を上げることができたのか、それともEEGヘテロダインによる偽の感覚だったのかは、判断がつかなかった。

陸軍は、脳の感覚経路を完全にマッピングしたことを示す資料を公開している。私の脳波クローナーによると、私は彼らのすることすべてを感じるのだから、彼らが前かがみになって頭に血液を送り込み、さらに手やきつい野球帽で頭を圧迫すると、私も自分の頭に圧力がかけられているように感じるようだ。彼らが心拍数を上げるために立ち乗り自転車を漕ぐと、私の心拍数も少し上がり、感覚がリンク（またはクローン）されているため、胸から心臓が飛び出るような感覚になるのだ。脈拍を測ってみても、特に異常なことはなかった。だから、CIAがサダムを暗殺しようとしていたのか、それともただパニックを起こそうとしたのかは判断がつかない。人は拷問されると復讐のための最も邪悪な方法を考えようとするので、彼がとり得る行動を理解しようとしたのかもしれない。サダムが何を計画しているか、また彼の怒りが頂点に達したときどんな行動に出るかを読むことも、現在の戦争の原因の一つでもあるように彼の怒りを扇動することも、彼らには可能だった。

CIAとMI5がいかに犯罪的で、軽率で、愚かであるか、信じられるだろうか？何百億ドルもの戦争で、何千人もの命が失われ、何千人もの人々が毎日世界中で精神的な拷問を受け、イラクでも伝統的な拷問が続けられている。EEGヘテロダインが発見されて以来、それが救えたはずの3500万人が秘密主義のために死んでいる。残虐行為、愚かさ、憲法違反の犯罪は途方もない規模に達しており、このことが広く知られれば指導者の能力に対する信頼

を失ってしまうため、彼らは秘密を貫かなければならない。我々はアメリカと人類の歴史の中で最も暗い時代にいるが、秘密主義と無知がそれを覆い隠しているのだ。

ポート・ゴス（現 CIA 長官）に訴える

ポーター、あなたの価値観が形成されたホッチキス(*寮制学校)時代を覚えているだろうか？校長が、手の付けられない悪戯をした生徒に、名誉ある行動を取り、名乗り出て自分のしたことの責任を取るよう訴えていたのを覚えているだろうか？アメリカ人は、あなたが名乗り出て、もう一度立派な人間になって、自分たち国民に何が行われているのかを伝えるよう訴えている。これはあまりにも重要なことだ。嘘をついたり、秘密を守ったり、隠したりしている場合ではない。これこそが、あなたの人間とレガシーを定義するものなのだ。

ふたつの世界とふたつの嘘

2つの異なる世界があり、それぞれに真実と多くの欺瞞がある。どちらが「マトリックス」の仮想世界なのだろうか？電磁波によるマインドコントロールの世界は、物理的な感覚刺激と変わらないほどリアルに感じられる信号で構成されている。そこでは、物理世界における心理的・情動的な欺瞞のマトリックスの真実と支配が明らかになる。反対に欺瞞のマトリックスから眺めると、マインド・ネットワークの世界にいる人々は、脳の中の電磁波のエネルギーパルスによって制御された仮想の痛みやパニックに欺かれているように見えるだろう。

残念ながら、どちらの視点も純粋ではなく、すべてを包含する揺るぎない一つの真実からは遠い。

私たち人類は、良くも悪くも、無意識のうちに仮想主観体験である内面への進化の道を行ってきた。それぞれの部品は機械の客観的な機能に特化し、私たちの種族が大切にしてきたもの、あるいはそうなることを望んでいたものは置き去りにされてしまった。私たちが忘れてしまったものとは、つまり、私たちの幸せ、福祉、未来に影響を与える一つ一つの決定を、各々がしっかり意識し、つながり、参加するということだと思う。少なくとも、お互いを信用し、決定の機会が与えられなくとも、お互いに気を配ることぐらいはできるようにありたいと思う。それはだが夢物語で、秘密主義が私たちの破滅を招くだろう。

脳は多ければいいというものではない

ヘテロダイナミクスされた集合意識の中での生活の一つの問題点は、集団の中の誰かが食べると、話している人がみんな舌を噛んでしまうことだ。咀嚼で顎を引き下げる強い衝動は、他の人々にもクローン化される。これを避けるために、全員が食習慣を同期させなければならないので、かなり迷惑な問題である。

バカなエイリアンのトリック

あなたが愛国心を持った素朴な納税電池なら、人工テレパシーによって私に明らかにされた計画の数々に注意する必要がある。CIA の SATAN 実験者たちは、100 人以上の人々をマインドコントロールして、さまざまな地域でガスストーブをつけたままにして組織的なテロ行為に見せかける計画を立てていたが、中止されたと言っていた。戦争を扇動したり、自爆テロを起こしたり、世界貿易センターに飛行機を突っ込ませるのに比べれば、まだましなのかもしれない。エイリアンの悪戯は手に負えなくなりつつある。

デス・マシーン

ボグ、魔法の小人、天使、神、エイリアン、カルト、ロシア人、中国人など多くの選択肢の中から彼らが自己紹介したときに、「親切な神」のマインドコントロール台本を彼らが用意してくれていたかと切に思ったものだ。アメリカは世界で最も残忍で野蛮な国だ。この技術の一部を秘密にしたおかげで 3500 万人が死亡し、さらに過去のすべての戦争で米国が殺した 3000 万人を加えれば、我々が作り出した死の機械に匹敵する国はない。

モンスターの心の中

彼らの脳波の中を 1 マイル歩いてみよう。なぜ人間は権力に墮落してしまうのか？最初は立派で義務を果たしているつもりでも、最後は権力に溺れてしまう。そもそも人間は似たもの同士なので、私たちも彼らの立場になればおそらく墮落してしまうということだ。このマインド・ウイルス蔓延の仕組みを皆が理解すれば、人類の病も治るはずだ。

国家防衛戦略家と真にグロテスクでねじ曲がった精神を区別することは困難であり、無意味かもしれない。ナチス帝国と心理的・情報的コントロールの方法を研究するだけで、1945

年以降のわが国の過激派政府を理解することができる。ヒトラーのキャッチフレーズは、浄化と超人種を作り出すことだった。われわれのそれは、世界中の国々に民主主義、優れた統治形態、そして自由という幻想をもたらすことである。ロシアについても、合理性においては似たようなものだろう。結局は、3つの異なる形、3つの異なる名前と旗の下でのファシズムである。

戦争は病気である。権力と支配は誘惑で、貪欲と名声が原動力だ。名誉や義務は、歪んだ合理性と支配の第二層である。軽率な服従と順応が第三層を構成する。第三帝国と「最終的解決 (*組織的ホロコーストの計画)」へようこそ。欺瞞のマトリックスは多くのアーキテクトにより設計されてきた。本書以外でも、彼らの個人的な価値観や人生に踏み込んでいる本はあるが、彼らのほとんどはナチスとのつながりを持っている。

「我々は彼らが求めようと求めまいと、権力が軍産複合体に奪われないようにしなければ
ならない」

アイゼンハワー大統領・将軍

軍事クーデター

仮にあなたが権力と支配に溺れ、「社会が何を必要としているか、そして世界におけるアメリカの軍事力のために彼らを守る方法を私は知っている」と自分に言い聞かせることで権力中毒を正当化できたとしたら、あなたはどのようにしてより多くの支配と力を手に入れるだろうか？あなたは、社会の恐怖を利用しようとするだろう。ロシアと核の脅威を伴う冷戦をするのだ。元々はゲリラ戦を意味するテロリズムという言葉のブランドを変え、新しい「テロリズム」を作り、またその行為を許すのである。それを翻訳し直せば、私たちは不条理にも自分たち自身に宣戦布告をするということになる。国民は、安心と安全という人工的な感覚のために、プライバシーと自律性の巨大な譲歩を許すだろう。あなたは既存の法律をあらゆる創造的な解釈で合理化し、さらに多くの秘密の法律を作り、安全保障の名の下に自分たちの行動を正当化することもできる。国民に嘘をつき自由と選択の人工的な感覚を作り出す手法は、複数の機関によって徹底的に開発された心理学的手法で、簡単に実行できる。社会に影響を及ぼす重要なポイント、つまり大衆の意見を形成する少数の人々や企業をコントロールすれば、残りの群れの心理はそれに従うだろう。さて、反対者を黙らせ、影響力のある人たちをコントロールできるマインドコントロール兵器を持っていたとしよう。あなたはそれを使うだろうか？絶対的な権力は絶対的に腐敗する。これが、私たちが今日直面している厳しい状況だ。

国民がいかに近視眼的で無知になっているかを示すために、現実の出来事と似た不条理な例を挙げよう。私が大統領になりたいと思つたとする。もし当選したら、国民に1年間税金を免除すると約束しよう。これは賄賂だろうか？私は国のクレジットカードで票を買っているのだろうか？多くの人が私に投票するだろう。もし私が、利益や権力欲を満たすため世界の出来事に対する支配力をより高めたいと思えば、本物でも幻想でも、すべてのアメリカ人に恐怖を植え付けるという方法がある。例えば、世界の石油供給は原油生産国であるアラブ人たちによって汚染されていると非難する手もある。彼らは米国に輸送される100万バレルの中にマイクロデバイスを仕込み、不定期にスパークを発生させて燃料に引火させているのだ。この装置は小さすぎて簡単には発見できないので、すべての飛行機、自動車、製油所、軍用車両が爆弾と化すだろう。経済の停止とアメリカの破滅を阻止するためには、これらの国々に攻め込まなければならない。より説得力を高めるために、ガソリンスタンドで無作為に2、3回爆発させてもいいかもしれない。上手くいけば、私は戦争法の下でより大きな力を得ることができよう。より大きな軍事予算を与えられ、それを管理することができる、などなど。私たちは保守的で、政治的な動機や戦略を深く掘り下げることはしないので、世論をコントロールするのはとても簡単なことなのだ。

乗っ取りの経緯

大衆に対する遠隔生体電磁波によるマインド・リーディング技術と影響力の実験は1976年まで遡ることができるが、大衆のメディア洗脳の観点から見ると、実はこの技術はもっと古いものなのだ。宇宙人、サイキック・コントロール、人工テレパシーなどは、『アウトター・リミッツ』という人気番組で頻繁にテレビに登場した。これらは、ケネディが暗殺されたのと同じ1963年に制作され放映された。ケネディは、撃たれる10日前にコロンビア大学で演説をしている。その席で彼は不吉な陰謀を暗示し、アメリカ国民に警告を発しなければならないと言った。

「大統領の高い地位は、アメリカの自由を破壊する陰謀を煽るために使われている。この職を去る前に、私は市民にその窮状を知らせなければならない」

ジョン・F・ケネディ 1963年11月12日、コロンビア大学での発言

私はこれまで、いわゆる「陰謀論」を追ったことはなく、政治全般にもあまり興味はなかった。しかし、残酷な拷問を受け、他の何千人もの人が発見したのと同じように、大衆に情報を伝える手段がないことを知り、この技術のおかげで私たちは本当にずっと前に自由を失ってしまったのだと実感した。私の拷問者たちは、自分たちがケネディ暗殺やその他の政治的操作の背後にいることを誇らしげに告白した。例えば、マイケル・デュカキスの大統領選

への出馬が狙われていたとも繰り返し言っていた。奇妙な告白だ。

ケネディ大統領はどうやって、マインド・コントロール・レーダーと巨大な「電離層ヒーター」フェイズドアレイで地球上のすべての人間の脳をコントロールしようとする計画を知ったのか？ピッグス湾事件のせいで、将軍たちは彼に秘密を伝える必要があったのだろう。そもそも発射されたミサイルを止める手段など当時はなかったのに、核ミサイルがキューバにあることが、なぜそんなに脅威だったのだろうか？それは、アメリカが初めて超水平線レーダーシステムを構築した場所を、ロシアが知っていたからだった。レーダーはプエルトリコに設置され、1959年に完成した。アメリカ大陸の外側、天頂から20度以上の角度にレーダーシステムを置くことで、レーダーシステムは電離層に信号を跳ね返し、アメリカ大陸を観測することができた。何のために？ロシアはナチスの科学者から同じマインド・リーディング技術の研究を入手していたので、それが何のためか知っていた。将軍たちは、ケネディ大統領に説明しなければならなかった。ロシアがキューバに核ミサイルを設置したのは、天頂角20度の範囲内にあり、レーダーシステムの射程外だったからだ。あまりにも近すぎたのだ。なぜアメリカ国外にレーダーシステムを構築したのか、という当然の疑問が生じる。脳の電氣的活動を通してアメリカ市民をスパイしコントロールしようとするこの計画に、当然ながらケネディは非常に心を痛めた。この国が誇る名誉と誠実さを備えた最後の偉大な大統領の一人として、国民に国が軍事クーデターに乗っ取られたことを知らせようとしたのだ。それ以来、権力中毒のバカどもは死角の穴をふさぎ、コロラド、アラスカ、マサチューセッツ、ブラジルなどに、多くの大規模なフェイズドアレイを建設してきたのである。

カウントダウン

過去の生物兵器や放射線などの大規模な人体実験と同様に、発見と結果の報告までには冷却期間が必要だ。生涯拷問とマインドコントロールの実験は、そのプロジェクトのタイムラインの終わりに近づいている。空軍と指向性エネルギー局は、これらの人体実験に関する情報を25年後に公開すると報告している。つまり、犠牲者が死に絶え補償を要求する市民が少なくなるように、あと5年から10年で実験を中止するということだ。現在、被害者1人につき100万ドルを支払うとしたら、米国は簡単に100億ドルを負担することになる。人体に影響を及ぼす兵器の実験がこのように行われるのは、単に経済的な問題なのである。

認知モデルと乗っ取りの経緯

生体通信兵器は1945年にナチスの科学者と共に渡ってきた。1947年、トルーマン大統領

は国家安全保障法に署名し CIA を創設した。この新しい兵器のバイオフィールド調節の発見にすべて基づいて、CIA は世界市民に対する一連の犯罪を開始し、世界征服というナチスの恐ろしい計画を継続した。MIND のカタログ化作業とクローン作成は勢い衰えることなく、毎年何百、何千もの新しい犠牲者が出ていると報告されている。第二次世界大戦後、ロシアもナチスの科学者たちから技術を手に入れ、ナチスの理想に感染した。1960 年、アメリカは電離層ヒーター監視網の下に置かれ、MIND システムが完全に機能するようになった。1976 年、SATAN に次いで TAMI が誕生した。1990 年代には HAARP が登場し、電離層加熱監視と生体通信制御の機能をさらに高め、地球規模の人類監視網をほぼ完成させた。(監視網の弱点参照)。

この時間軸をもとに、次のように精神兵器の現在の有効性を推定することができる。

1) 彼らが認知モデルデータの収集を効率よく行っているなら、まずは通常の認知能力の中間に位置する人々から実験を始めるだろう。なぜなら、それが最も低いデータの基準になるからだ。認知モデルには様々な違いがあるが、共通してある平均的なモデルからベルカーブ状に分布している。

2) 空軍の科学者が兵器を一般公開すると発表した通りに、1947 年に開発が始まり、2030 年に終了すると仮定すると、認知モデリングとデータの収集には 83 年かかることになる。最近の 10 年間は収集速度が上がっているように見えるが、時系列的には一様であると仮定する。

3) 兵器は、公開または完全な乗っ取り前の最終目標として、あらゆる人または集団に対して 95% の効果を発揮する必要があるという仮定を立てる。

2 シグマより正常または平均値から離れると、程度の差こそあれ、さまざまな認知マッピングの効果がターゲットへの効果を失い、ナチスの兵器にとって障害となる。また、本書の執筆時点である 2006 年、国防総省/CIA/ナチスはベルカーブの $(2006-1947)/(2030-1947) = 71.1\%$ を両方向にマッピングしていると結論づけることができる。一人の人間、あるいは心の特徴のマッピングは、曲線の下面積で表される全人口に対して有効なので、時間軸から見て 71.1% 完了しているということは、兵器はすでに 1.42 シグマの効力、つまり人類の人口や認知機能のおよそ 88% に達していることになる。この試算は実に恐ろしい。ナチスは第二次世界大戦には負けたかもしれないが、人類との戦争には勝つことになるかもしれないのだ。

認知マッピングの有効範囲を除外して、兵器の影響力の下限をみてみよう。兵器の練習と実

験によって苦しめ死んだ人々に対する「冷却期間」がないと仮定すると、それでも人口の71.1%が、指向性エネルギー局のタイムラインに基づいて自動的にマッピングされたことになる。彼らの実験がお粗末で、機械がこの例のように効率的にデータを収集してこなかったように願いたい。

視点を変えてみる

さて、あなたが政府に拉致され、肉体的、あるいは精神的な拷問を受ける可能性は、アメリカ人なら毎年3億人中約1,000人ということになる。つまり、親族、友人、他人、企業などの巻き添え被害は一切含まず、75,000人の被害者がいたとすると、一生で4,000分の1の確率ということになる。これは宝くじよりもずっと当たりやすい。スカイダイビングでパラシュートが外れる可能性の2倍で、自然な原因で統合失調症になる確率の1/40だ。だから、精神工学実験の犠牲者を精神疾患のカテゴリーに入れるのは簡単なことなのだ。サメに襲われるよりは12倍高いが、雷に打たれて死ぬよりは半分の確率である。9.11テロで3,000人が死亡したとすると、これらの秘密実験プログラムの30年の歴史において、外国のテロ組織に人道的に瞬殺されるよりも、米国政府によって残忍に殺される確率の方が10倍も高いことになる。本当に恐れるべきは誰なのか？この統計では精神工学兵器と指向性エネルギー兵器の実験だけを計上しており、過去に市民に対して行われた生物兵器、薬物、放射線の実験は含まれていない。これらの恐ろしい実験を行う人々が、内なる敵なのだ。政府の他の人々は、知らずに参加しているに過ぎない。ほとんどの兵士はなぜ死ぬまで戦っているかを知らないし、一般市民も政府の行動を支持するための簡単な理由しか聞かされていない。これは、怒りの矛先を間違った人々に向け、自分たちの過失や利己的な目標を隠蔽する彼らのゲームなのだ。

無作為に選ばれた被害者は、魂の拷問を行う仮想地獄に突き落とされ、データ収集者の歪んだ正義感を満足させることになる。くじ引きであなたの社会保障番号が引かれたなら、もう何もできることはない。今のうちに政治指導者に圧力をかけて、独立した調査を要求し、法律を制定させておいたほうがいいのかもわからない。当選後は、誰の助けも期待できないのだから。あなたは組織的に信用を失墜させられるだろう。あなたの運命の封は閉じられ、何も知らなかったと嘆いても、もう手遅れなのだ。

人類が考え出した最も忌まわしい兵器を止めるには、まだ時間がある。彼らは、自動化され

た拷問とセンテンス・ステイミュレーション⁹のための人工知能ソフトウェアを完成させている最中なのだ。思考を取り締まるためのエシュロンネットワークは不完全で、すべての人に有効ではない。いわゆるサイキックと呼ばれる人たちは200人ほどしかおらず、EEGヘテロダインや心のスパイ行為で飛び回っているため、この技術であなたが監視されている可能性は3億分の200しかない。

自分が「見られている」と感じるのは誰にでもあることだ。しかし、自分自身の目を通して「見られている」とは、誰も思ったことがないだろう。ジョージ・オーウェルの『1984年』でさえ予見できなかったことだ。

これらの兵器の将来や技術の用途について、有史上最も重要な公開討論ができるよう、秘密の掟を破ってくれる高潔な人々がもっといないのは残念だ。私たちが種としてどのように自分たちを定義するか、そして社会や組織とどう相互作用していくか、これらはもはや宗教に近い問題とも言えるかもしれない。この類の運命を決めるには、世界中の知性を結集する必要があるだろう。なぜなら、断言しよう、現在この技術を支配している不自由な脳ミソたちには、普遍的に最適な使い方を見つけることなどできないのだ。

ブラック・サイエンス

「二倍だ二倍、苦勞と苦惱、 ござう燃えろ、ぐつぐつ煮えろ」

シェイクスピア、『マクベス』（第4幕第1場）

冒険を始めるにあたり、私が皆さんに約束するのは、歴史的な出来事と一見SFのように見えるが現実の物理学を、魔法や悪魔憑きやポルターガイストを使わずに説明し予測する、より単純で一貫したモデルである。秘密のカーテンを破って、神を演じている小人たちを明らかにするのだ。さて、それでは魔法使いに会いに行くとしよう。

信じられないのが普通の反応

⁹ 国防総省のバカとの強制的なEEGヘテロダインを介さずに、脳を同調させて思考の可能性を限定させる技術。

どうしてこんなことが可能なのか？ほとんどの人は、世界に対する誤った直感的な感覚から逃れることができない。数学は真理の言語である。リチャード・ファインマンが言ったように、「もしあなたが量子力学に深く心を動かされていないなら、あなたは明らかにそれを理解していない」のだ。相対性理論は、私たちの宇宙の時間と空間の法則に関する真理だが、ほとんどの人にとっては理解を超えるものだ。同様に、超電導体のジョセフソンセンサーが1量子分のエネルギーを測定することや、精神体験が脳の電氣的性質に完全に含まれていることも、人々は理解できないだろう。

脳の暗号の解読は、ほとんどの神経科学者にとっての主要な研究方向であり、聖杯だった。それは、民間の世界では、完全な解読まであと一步というところまで近づいてきている。

信じられないような科学の現実に懐疑的な読者の心を開くために、よく知られた科学の偉業をいくつか挙げてみよう。核爆弾が実証される前に、ある元素の重さ 1 キログラムの球が都市全体を破壊できると言った人がいたら、あなたはそれを信じただろうか？飛行機が一般的になる前に、数トンの金属管が自力で海拔 3 万フィートまで持ち上げられると信じられただろうか。もし、電子トンネル顕微鏡というものを知らなかったら、個々の原子を見ることができると信じられただろうか。NASA が既知の宇宙の果てにあるクエーサーの画像を掲載しなかったら、90 億光年先 (53 兆マイル先) を見ることができると信じられただろうか。人類が月面を歩いたことを未だに信じていない人もいる。多くの人が携帯電話を使っているが、その仕組みはわからない。宇宙衛星からは、ゴルフボールの大きさの地上の物体が追跡されている。アマチュアのマイクロ波愛好家が、月から地球にマイクロ波を跳ね返している (Earth Moon Earth、EME と呼ばれる)。テレポーテーションといわれる技術でさえ、量子もつれと呼ばれる現象として量子スケールでは動いている。

科学的なブレイクスルーは、国民の大多数がそれに触れるまでは、常に懐疑的な目で見られるものだ。ワイヤレスの EEG クローニングとヘテロダインは 30 年以上も前から存在しているが、この技術は医療、商業、その他の用途には解放されていない。より重要で有益な使い道を見出せない愚かな科学者や軍関係者の身勝手さが、国民の集合的知性に委ねた開発を妨げ、邪魔をしてきたのである。現在この技術は、アメリカ人や他国の人々に対するスパイ行為とコントロールの用途でより高く評価されている。

TAMI、MIND、SATAN

防衛産業ではよく知られ、今も実際に使われている TEMPEST という略語の兵器さえも、その存在は積極的に否定されている。この兵器は、遠隔からモニターやテレビ、コンピュー

ターのエネルギーを読み取り情報の再構成を可能にし、その試みを阻止するためにどの程度の電磁波シールドが必要かを判断する基準値としても知られている。軍事研究所で TEMPEST 基準と呼ばれるものである。この略語が何を意味するのか、多くの人が推察をしている。私が見つけた最も良いものは、検出不能性のための「安全閾値の電磁气的確率推定値(The Electro-Magnetic Probability Estimates of Safe Thresholds)」である。基準値は、技術や他国が導入している感度の推定値によって変化する。衛星やレーダーの数が増えれば増えるほど、テンペスト基準はより厳しくなる。

MIND とは、電磁波によるマインドコントロールの極秘プロジェクトの頭文字をとったもので、「Magnetic Integrated Neuron Duplicator」の略だ。これは EEG クローンを意味するしゃれたフレーズに過ぎない。TAMI は「Thought Amplifier and MIND Interface」の頭文字をとったもので、MIND の上に構築された第二世代のシステムであるようだ。この技術の殺害兵器ソフトウェアは、「Silent Assassination Through Amplified Neurons」、SATAN と呼ばれている。CIA は人の精神を破壊するための「トリック」を一通り持っているが、薬物は代謝の残留物や体や脳へのダメージの痕跡を残してしまう。そこで、SATAN は、最高に「もっともらしい否定」ができるという評価から、情報機関の沈黙の暗殺方法として好まれるようになったのである。

マインドマジシャン

子供の頃、手品に興味を持ったことがきっかけで、物理、科学、心理学に興味を持つようになった。私は、手先の動きや言葉の合図が、どのように観客に思い込みの心理的エラーを引き起こすことができるかを理解しようとした。それは私にとって驚くべき心理的トリックだった。私はこれまで見たあらゆるイリュージョンやマジックの謎を解くのが好きだった。この謎解き好きは人生を通して続いてきたので、理解できない「ブラックボックス」というものはあまりない。私は、これまでに作られたあらゆる電化製品や機械を分解してきた。その後、地球上で最も複雑な機械である人間を理解したいと思うようになった。この惑星のあらゆる生活様式や文化から、多くの魅力的な精神を学んできたが、まだ未知の部分も残っている。社会病質者、疑いもなく従順な人、あるいは「シャードンフロイデ」と呼ばれる病気の人たちがどのように作られるのか、私にはよくわからない。私はたいてい、自分の人生からネガティブな人物を排除してきた。だから、この知識も、こちらが探したのではなく、向こうからやってきたものなのだ。

社会病質者は、幼少期のトラウマ、遺伝、人生経験などから自然に形成され、人々に予測不可能な影響を与える。CIA や軍の暗殺者部門の関心ごとは、暗殺者をどのように作り出すか

である。プログラムされた暗殺者をどのように作り出すことができるのか、MK ウルトラ・マインドコントロール実験がその答えとなる。

この分野の生存者や専門家によって書かれた本は多くあり、付属資料にリストが掲載してあるので、ここではプログラムのすべての細部には触れないことにする。プログラム中に極限状態で行われる基本的なステップの数々は、軍隊のブートキャンプやカルトでは穏やかな形で体験することができる。ただ、子供やその他の人々を命令に従って暗殺を行うようプログラムする政府のこの残虐な実験には、一つのひねりが加えられている。それは、MK ウルトラ・プログラミングは、TAMI と様々な神経プログラミング技術を使用して、完全にワイヤレスで行うことができるということだ。証拠や記憶をあまり残さず「もっともらしく否定」ができる特徴は、このシステムを操作する実験者たちにとって大きな利点だった。もっとも、彼ら自身も同様に、MK ウルトラ・マインドコントロールによって支配を受けていることは間違いないだろう。

例えば、もしあなたが、捜査当局が示唆したように、コロンバイン銃乱射事件がマリリン・メイソンの歌詞や他のロック音楽に隠された裏のメッセージによって引き起こされたと感じるなら、なぜ軍や CIA がロック音楽やサブリミナルメッセージを使って人を殺すことがないと信じられるのだろうか？軍のマインドコントロール技術やサブリミナル戦術に比べれば、ロック音楽のメッセージなど取るに足らないほど単純なものだ。そのようなものが銃乱射事件を引き起こしたと感じるのは短慮ではないだろうか？

こっちに注目してほしい、そしてカーテンの後ろの男は無視してくれ！これがマインド・メルディングの仕組みだ。EEG クローニング（すなわちマインド・メルディング）、あるいは脳波同期法は、半世紀前から知られていた。ドイツのナチス科学者たちは、ユダヤ人に対して数え切れないほどの残忍な医学的解剖を行った。ナチスは原子爆弾の製造に近づいていただけでなく、これらの実験から、電磁エネルギーだけで人間の心をコントロールする方法を見つけ出していたのである。第二次世界大戦後、ナチスの科学者たちはロシアとアメリカの間で分割された。彼らはペーパークリップ計画でアメリカに引き抜かれ、その忠誠心により戦争犯罪を赦された。こうしてアメリカとソ連の新たな軍拡競争が始まった。最初の人口規模のシステムは、1953 年から 1960 年の間のある時期にオンライン化された。これらのシステムは、超水平線レーダーや電離層研究プロジェクトとして装われることが多い。

「十分に発達した科学技術は、魔法と見分けがつかない」

アイザック・アシモフ

最初に発見された TAMI の最も基本的なモードは、脳波を単純に増幅するものだった。特

許庁には、これを詳しく説明した特許がいくつかある。脳波のような波形を脳にセルフ・フィードバックすることで、思考を増幅するのである。脳を増幅するには2つのタイプがある。一つはシナプス調節を増幅するもので、もう一つは脳の同調を増幅する、つまり、ニューロンの刺激や通過のたびに、より多くのニューロンが発火グループに加わるように誘導するものだ。これらの原理は、プロジェクトの略称でもある「TAMI(Thought Amplifier and MIND Interface)」と「SATAN(Silent Assassination Through Amplified Neurons)」の名前にも見て取れる。このモードでは、音が大きくなり、視界が明るくなり、ADD（注意欠陥障害）のような状態を経験することができる。また、時間が経つと偏執的な精神分裂病の状態になる。軍の文献にもあるように、「標的を無力化する」のに適した方法である。このシステムを定義した特許では、指向性マイクロ波が使われていた。ここで、ある人の脳波信号を何らかの方法で増幅し、他の人の脳に送り込んだらどうなるだろうか？クローンされた脳波を送られた人は、まるで別人のように考え始めるだろう。つまり、どの点からみても、彼らはほとんど同一人物になるのだ。この哲学は他の人に任せよう。このように、自分の意思で、あるいは強制的にそのような状態になった人たちは「サイキック」と呼ばれている。

さて、脳の同調を誘導するために、様々な方法や生化学的・生物物理学的なメカニズムがあることがわかった。ソニーの最近の3つの特許では、エネルギーと信号を伝達するために超音波が使用されている。他の研究者は、磁気コイルや、マイクロ波までのスペクトルを横断するような電磁周波数も使用している。神経経路の誘導方法についても、パルスの持続時間とタイミングによって符号化されたパルス波形から、連続したELF振幅変調信号と位相変調信号まで様々である。文献によればこのような方法は多数存在し、音や光の点滅でさえ、単純なパターンに従って脳を誘導したり、同調させたりすることができる。

CIA が過去に行った研究の中で、税金の使い道として首をかしげたくくなるような大きな分野の一つが「人格の分裂」だ。人格の分裂は、昔ながらの心の奴隷のようなスパイを作りコントロールするためのメカニズムである。CIAは、自分達をこのような人たちの「ハンドラー」だと呼んでいる。

興味深いことに、誰がレバーを引いているのかカーテンの裏側を覗かなければ、集合意識は分裂した人格のようにも見える。集合意識のEEGクローン実験では、通常2~6人が一つのセルに収められる。誰かの心を他の誰かにクローンすることで、その人の人格や行動は変化し、最高の条件が整えば、身体全体と意志も乗っ取られるのだ。「強制会話」は、この技術による気味の悪い能力の一つで、実演を受けた人たちによってそう呼ばれている。中程度の強さのクローン信号の神経リンクがどのように感じられるかを説明すると、それはまるで携帯電話の通話時のように、通話者の声、感情、いくつかの身体的衝動が、絶え間なく転送されてくるような状態だ。これは、多くの犠牲者が「独り言」を言う理由でもある。彼ら

は、実際には他の誰かと会話をしているのだ。携帯電話のヘッドセットが小さくなるにつれ、より多くの人々が、頭がおかしいかサイキックだと非難されることになるかもしれない。会話の相手が存在しないのに発声を伴う言語を口にすると、心理学では「独り言」だといわれる。しかし、強いリンクを持ったクローナーからの発話に合わせて口を動かすと、精神科医によれば、彼らは多重人格と見なされるそうだ。皮肉なことに、彼らは本当に別々の人格を持っているのだ。

外部からのクローン信号による神経調節は、転送された脳の同調の一部を伝える。対象者の「自己意識」は、外部クローン信号があっても通常失われることはない。電話での会話で混乱しないのと同じように、もう一人の「人」は依然として別人として認識される。だが、電話でイヤホンを使って話しているときに、誰かが音声変換ソフトを使って自分の声で語り掛けてきたら、「自分」が何を言ったかわからなくなり、「自分」の感覚もぼやけてしまうのではないだろうか？

誰もが望みもしない実験に参加させられているが、ほとんどの場合、実験は幾つかの技術に限定したサブセットを使って行われる。そのパターンは明らかで、シャーロック・ホームズではない私でも、6ヶ月足らずの取材で謎を解くことができた。最も無能な FBI 捜査官でも、この「X-ファイル」が解けないということはないだろう。この国の腐敗と陰謀は、まさに現実のものとなっているのだ。

マインドマジシャンは、戦略的に注意をそらすために心のトリックを使う。それは政府がいつも使っているテクニックでもある。イラク戦争は、国内で起きていることから目をそらすための、ある種の計画的な目くらましだった。国民の関心の焦点を変えるために、もっとあからさまに戦略的なメディアリークが行われた例も数多くある。ブッシュは、NSA のスキャンダルで捕まったときそれを利用した。彼は、自分の違法な国内監視行為よりも、内部告発者自身に注意を向けさせようとしたのである。しかし、NSA の国内監視スキャンダルでさえ、何千人ものアメリカ人の精神的監視行為や拷問に比べれば、とるに足らないといえるだろう。ニュースの価値としても比較にはならない。

この発見と技術のマグニチュードをもう理解できただろうか？

脳波の集合意識では、すべての参加者に同じ重み付けをしているため、複数の焦点に注意が集中し、注意欠陥障害のような症状を引き起こすという深刻な問題がある。そこで、脳波の影響をツリー状に再構成することで、共有される脳波をより管理しやすくしている。また、多くの時間を費やし互いの思考に適応することで、精神的な衝突も少なくなる。しかし、武器としては、対象の思考をそらすという戦術は、相手の意思決定や行動をコントロールする

ために非常に有効である。

バカなエイリアンのトリック

笑いは最高の薬だ。不快な状況への対処を感情面で助け、面倒な新しい情報をゆっくりと整理するのに役立つ。「バカなエイリアンのトリック」と呼ばれるコーナーでは、航海中に何度も出没する愚か者たちの船が、私たちを楽しませてくれるだろう。

最初の、そして最も重要で馬鹿げたエイリアンのトリックは、心臓発作や脳卒中を引き起こす能力を持っていると彼らがターゲットに思わせることだ。これはほとんど世界的ともいっていい悪戯で、USA トゥデイによれば、1992年にサダム・フセインにも使われたとのことだ。EEG ヘテロダイン（電磁マトリックス）では、死ぬことができるのは自分がそう信じている場合のみだということを忘れてはならない。パニックと妄想が心臓の鼓動を速め、ターゲットに危険で非合理的なことをさせるのである。

マジシャンは決してトリックを明かさないものだが、ここではその方法を紹介する。攻撃時には、攻撃者の脳波はターゲットに強く増幅されるが、ターゲットの脳波は攻撃者に軽い影響しか与えない。攻撃者が胸を押ししたり椅子の上で回転して、調子が悪くなったり心拍数が速くなったりすると、これらの感覚はターゲットにとって非常に恐ろしいものを感じられる。例えば自分の胸から心臓が飛び出すように感じ、あるいは胸に痛みを覚えたり、めまいをもよおす。攻撃者はさらに錯覚を起こすために左腕を水の中に入れて痺れさせたり、冷たくしたりすることもできる。すべての感覚はターゲットの心の中に増幅される。1970年代にロシアの「サイキック」により知られることになった「遠隔操作による心臓発作」の方法論については、この本の後半でもっと詳しく説明する予定だ。

私の攻撃者は心臓が右胸にあると思っていたぐらいだから、彼らは一般人相手に猛練習する必要があるのだろう。これではせつかくのマジックも台無しだ。間抜けなエイリアンは、トリックは子供にしか効き目がないと覚えておいた方がいい。

ブレインマッピング・正規化ソフトウェア

無料のブレインマッピング・ソフトウェアはオープンソースのフォーラムで入手することができる。ブレインマッピングのコツは、脳のシグネチャーを揃えることだ。同じ刺激を二人の人間に与えた場合、彼らの脳全体のパターンは近くなるが、EEG ヘテロダインには不

適合となる程度の差が生じることがある。例えば、同じような文化を持つ2人の人間にある単語を提示すると、彼らの脳は、与えられた関心の周波数と連鎖的なシーケンスに対して同じような波形を生成することになる。これは重要なことで、認知モデルの時間的なシーケンスを分析しなければならない。有名な例では、複数セグメントのトラックのバック問題と呼ばれているものがある。私は誤差逆伝播法を使ってこれを実証した。正確な数学的モデリングは、一般的に考えられているほど重要ではない。スティーブン・ウルフラムが著書『新しい科学のかたち(原題: A New Kind of Science)』で結論付けられているように、計算の等価性は、私たちが意識として経験するのと全く同じ主観的な現れやモデルを生じさせるのである。

本書の表紙には、国防総省のブレインマッピング・アプリケーションを模擬的に表現したものが掲載されている。ほぼ正確に再現できたのは、「ペインゲーム」という呼び名のサイキック・ウォーフェア訓練プログラムの画面だけだった。他はデザインを改良するために加工した。

脳内信号フィルタリング・ソフトウェア

もう一つの特筆すべき EEG ヘテロダインの技術として、脳波のシーケンス・フィルタリングというものがある。誰かとマインド・メルドしてあなたが尋問者になったとき、当然、はったりや貴重な情報は自分の脳から読み取られたくないと思うだろう。そこで、特定の脳の情類を分離して転送されないようにするための周波数時間フィルタが開発された。喜ばしいことに、この技術にはまだ多くの欠陥がある。次回作で詳しく説明する予定のある種のスキャンとプロービングのテクニックは、ハッカーの心をハッキングするのに非常に有効なのだ。

「サイエンスチャンネル」が制作した『Spied R Us』というドキュメンタリーには、CIA が人間の心をハッキングする方法についてのエピソードがある。そのエピソードの中では、よく使われる騙ししのテクニックを見ることができる。CIA の新しい投資として、空飛ぶ模型飛行機にビデオカメラを付けて隅々まで監視する技術を話していたが、これは実際の技術水準を低く見せようと人々を誤解させるためのものだった。私が15年前に作った模型飛行機でさえ、同じようなことはできたのだ。CIA の博物館には、1970年に作られた機械仕掛けのトンボが置いてあり、これもスパイカメラとして機能していた。このように、あなたの税金は、あなたを誤解させるために浪費されているのだ。成長しない少年たちのスパイゲームの資金がなければ、この狂った軍団を動かして、武器のデータのために自国民を攻撃させるなんてことはできないだろう。

サイキック・ウォー

ダートマス大学のビジネススクールのクラスメートは、「最近、その頭でスプーンを曲げたことがあるか」と冗談を言って私をからかったものだ。そして今や、私はサイキック・ウォーについて書こうとしている。真実は小説よりも奇なり、とはまさにこのことだ。

サイキック・アタック、正確には EEG ヘテロダイン・アタックの目的の一つは、相手の視覚を狂わせることだ。これは、EEG クローナーによって、ほとんどといっていい場合ターゲットに気づかれずに行われる。サイキック・ソルジャーは、世界中の人々に行われるサイキック・ウォーゲームで日常的にこの精神的トリックを実践しており、ベッカー博士も 80 年代にこれらの兵器について CNN のインタビューで語っている。米国内の被害者との数え切れないほどのインタビューと、私自身が受けた実演から、実践されてきた錯覚の包括的なリストを作成することができた。ドーン社によるマレック特許を参照すると、この装置は、誰かが幻覚を見ているかどうかを検出したり、その人に幻覚を起こさせたりすることができる。

サイキック・ソルジャーが行う黒魔術のほとんどは錯覚と心のトリックで、思考や知覚のエラーを引き起こす。複数の脳波が混合すると (=ヘテロダイン)、聴覚や視覚の誤認識、つまりエラーがターゲットに伝達される。そのため、不思議なことに、サイキック・ソルジャーは視覚的な誤りを作り出す練習をする。例えばオートステレオグラム (本の表紙参照) をじっと見つめ、視線を緩めると、絵の中の点が脳内で 3 次元のパターンを形成するが、そこに実体がないため知覚のエラーとなる。感覚遮断に近い設定の時は、彼らはターゲットと同じ視覚的情景を心の中で見ている。普通は視野の背後にあるものを視野の手前に持つてくるよう集中することで、ターゲットに視差のある視覚的な知覚エラーを起こすこともできる。道路標識しか見えない夜間の運転中には致命的な事態にもなり得るだろう。JFK Jr. のように夜間に飛行する場合は、方向感覚を失うという別の深刻なリスクも生じる。攻撃者は、目を交差させたり、視覚的に動きを認識することに集中して、標的の意識を混乱させることもできる。テレビをホワイトノイズだけの放送にして、自分で試してみるのもいいだろう。練習して集中すれば、ノイズが好きな方向に動くように見たり、実際にはない回転パターンを見たりもできる。これらはほとんどランダムな視覚的ノイズだが、あなたが「こう見えるはずだ」と期待することによって、脳の中の視覚処理アルゴリズムが不完全な視覚問題を解決してしまうのだ。

攻撃者との接続が強い時、攻撃者はターゲットの視覚野に影や完全な幻影を重ねることが

できる。接続の強さは、後述する多くの要因に依存する。

このランダムドット・オートステレオグラムは、平らな背景の上に細かいグラデーションで盛り上がったサメを描いたものである。

<http://en.wikipedia.org/wiki/Autostereogram> より。

ある大佐が発表したように、このシステムのもう一つの能力は「音声でターゲットを狂わせること」である。これは、携帯電話をダクトテープで耳に固定されて、泣き叫ぶ子供といつも通話をさせられているようなものだ。もし会話がひどいものであれば、やがて狂ってしまう人も出るかもしれない。別の大佐は「敵に声を送信できるなら、死ぬまで話してやる」と言った。聖戦で使われる可能性が高いのは、兵器の名前としてもよく知られる「神の声」で、神の声を偽り、武器を捨てたり仲間を殺すよう呼びかけることができる。さらに有用なのはサブリミナル暗示で、本人がまったく意識することなく行動や意見に影響を与えることができる。

私たちは愚かな白ウサギを追って穴の奥深くに入り込み、ほとんど HELL にまで到達してしまったようだ。

バカなエイリアンのトリック

私は認めよう、うまく騙されたことを。ほぼすべての被害者は、多大な犠牲を払って同じ防御シールドの対策を試みている。兵器実験者の戦略の一つは、有り金をすべて防御対策につき込ませることで被害者の財源を枯渇させることだ。シールド防御方法として誰もが思い浮かべるのは、ファラデー・ケージだ。低周波の電界を止めるとされているが、ケージの中でも携帯電話が使えることが分かっているのです、それほど効果はないだろう。とにかく、私がファラデー・ケージに完全に取まったところで、口汚い実験者たちは「見ろ、人間を動物の檻の中に閉じ込めたぞ」と言った。「さあ、これから本当の実験を始めよう」と。正直言って、私は声を出して笑ってしまった。彼らは、肉体的にも精神的にも私を監禁したのだ。エイリアンに1点。

電子戦能力と他のタイプの指向性エネルギー

RADAR と指向性エネルギーによるグローバル監視網は、人間の神経システムの操作や混乱だけでなく、他の多くの目的に使用することができる。衛星からの信号だけでも、アメリカ

の送電網の多くの部分を破壊することができる。私の EEG ヘテロダイナミクス実験者によると、彼らは車のロック、警報システム、ガレージドア制御システムのように、すべての電子機器の信号をキャプチャーして再生できるだけでなく、アメリカ中のガレージドア制御システムを同時にハッキングして、多くの大都市、特に消費が限界に達しているカリフォルニアのような都市で電力を停止させることができる。また、車のアラームシステムを同時に作動させ、大混乱を引き起こすこともできる。さらに、コンピューターウイルスでコンピューターを電波発信器に変え、特定の時間にガレージドアなどの外部システムをハッキングし、コンピューターウイルスだけで大規模な停電を引き起こすことができるかどうか、またそれがサイバーテロリストのせいに行けるかどうかの検証も進めているという。コンピューターのモニターを通して精神工学信号を送り、心臓の不整脈を引き起こす、サタン 666 というコンピューターウイルスでロシアが非難されたが、これも他同様に国内情報機関が出所ではないだろうか。このゲームを思い出してほしい。テロが増え、恐怖が増し、防衛産業に金と権力がもたらされるのだ。

もっと気になるのは、権力に取りつかれた諜報員たちが、自分たちの持つ他のスターウォーズ構想の兵器で、地球上のほとんどの生命を滅ぼすことができると自慢していることだ。世界中の森林を計画的に焼き払い、酸素を必要とする生物の多くを窒息死させるという方法だ。2 マイル先まで火をつけることができる強力な CO2 レーザーでさえ趣味で作ることができるのだから、それは事実だろう。しかし、恐れることはない。彼らは核兵器を持っているので、やろうと思えばもっと早くできるだろうし、酸素は人工的に製造することができるのだ。

軍には、通信指揮系統から 802.11b 無線規格をハッキングすることを記した文書がある。つまり、あなたのコンピューターがインターネットに接続されていなくても、ワイヤレス接続がオンになっていれば、税金で資金を供給された悪党はあなたをハッキングすることができるのだ。私が「誘拐」された最初の週に、誰かが「AngelNet」の SID から私のコンピューターをハッキングし始めた。私は、彼らが何を探しているのか確認するため、システムにトリップワイヤーを設置した。結局、私のデジタルライフの 7 年間は彼らによって消去されることになった。「AngelNet」は明らかに「Angels Don't Play This HAARP」という本の引用で、HAARP アンテナフィールドにはこの半球のコンピューターをハッキングできる能力があると大胆に誇示しているのだろう。私はその時、住まいから 30 メートル四方にいる隣人がシステムをハッキングしているのだと思いこんでいた。私はサイバーテロリストと「サイコテロリスト」が大嫌いだ。テロやサイコの大半が、CIA/国防総省の影の政府にまでさかのぼることができることにも失望している。

バカなエイリアンのトリック

携帯電話の通信を傍受しスクランブルをかける力試しのために、エイリアンたちは信号と通信の統合情報システムを使い幾つかの方法を試す。携帯電話ジャマーはかなり効果がある。ターゲットが居住場所を決めて、携帯電話の電波がよく入るかどうか確認しても、引っ越してから 1 週間後には電波がゼロになるというものだ。ほとんどの被害者は、何度引っ越してもこのシナリオが発生すると言う。私と神経接続された兄弟たちは、私の携帯電話が鳴る前にそれを教えてくれたり、私が電話を取り逃した時に誰からの電話だったかを教えてくれたりするのを楽しんでいた。他には、ある時、エイリアンパパラッチ（ストーカー）のナンバープレートに留守電に録音するために自分で電話をかけたら、彼らは残したメッセージを聞くように言ってきた。驚いたことに、私の携帯電話からメッセージセンターまでのパケットをスクランブルしていたのだ。メッセージは、4分の1秒ごとに音声情報が逆になり、そのためまるで異国の言葉を話しているように聞こえ、内容もすべて理解不能だった。この技術は、「砂漠の嵐」作戦で、他の将軍を模倣するため音声変換ソフトを使ってイラクの将軍に使用された。

「マトリックス」のメタファーを紐解く作業に戻ろう。映画では、主人公は電話によって電磁波マトリックスから引き出されることになる。これは、CIA のプログラム「RHIC」（遠隔催眠術による脳内コントロール）をベースにした技術だ。電話の大きな音に驚いて催眠術が一時的に解除され、電磁マトリックスの世界から引きずり出されるのである。催眠は武器として、また強力な双方向の神経接続に必要な同調状態としても使用される。エイリアンは最悪だ！この文化的なウイルス、集合意識の病気の蔓延を止めるには、彼らを捕らえ、何が彼らを邪悪で社会病質的にさせているのかを知るために論議する必要がある。

「マトリックス」のアーキテクチャー

この実験では、データコレクターによって文章の完成度や予測確率のテストが行われる。TAMI のモードの一つでは、複数のスレッドが並列動作している感じで、あなたの思考や文章の始まりが 10~20 個ほどの完結した文章に補完され話し返される。彼らはこれらのプログラムをミミカント(mimicant)と呼び、それぞれが異なる思考や文章を完成させる。それは、文章自動補完(SAT)の穴埋め式文章補完のように、以前の文章パターンの確率を推測するためのマトリックスのようなものだ。まさに、『マトリックス』でネオがアーキテクトと出会うシーンを彷彿させる。

私は、産業界と国防総省の両方でパターン認識システムと人工知能の研究をしてきた。

TAMI のアルゴリズムには、私に取り組んできた研究と同様のものが多く含まれているのを見て取れる。すべての分類カテゴリには、関連した信頼度指標がある。文の補完、単語、画像、物体認識なども動作の原理は同じだ。実験では、最も確率の高い補完後の音声パターンだけでなく、上位 10 個の候補が同時にターゲットに話し返された。私の複雑な頭の中は文章補完のアルゴリズムでは正確に予測できないようで、ほとんどすべての「思考化声」は不正解だったが、政府の仕事としてはよくやっているほうだ。

音声認識のための共振型フィードフォワードニューラルネットワーク

もしあなたがギークでないなら、このセクションは読み飛ばした方がいいかもしれない。人工ニューラルネットワークのモデルはたくさんあるが、よく知られているのはバックプロパゲーションと呼ばれるものだ。音声認識ソフトではマルコフモデリングと呼ばれる分類アルゴリズムがよく使われる。どの統計的分類アルゴリズムも、プログラミングの容易さ、不変性、必要な学習データセットの大きさなどの点で、若干異なる利点と欠点を持っている。

TAMI については、2 つの興味深い指摘がある。スタンフォード研究所は、70 年代に脳波による内声認識システムを実証した。人が言葉と話そうと考えているときの脳波を分類し、その音素分解を認識してコンピュータから音声で話すというものだった。この技術は数十年間、表に出ることはなかった。

人間の脳のウェルニック中枢での音声認識のための脳波の連続的な同調

国防総省と CIA が私のために行った技術移転デモンストレーションの中に、民間科学者に向けて私が強調しておきたい発見が一つあった。それは、言語、単語、文章は時間配列された周波数「モード」から作られるということである。言葉の理解は、原始的なレベルでの音の知覚（おそらくマイクロ波聴覚効果によって誘導される）と、脳の音声認識共振周波数の事前提示の状態の組み合わせであるということだ。つまり、言語の理解には、新しい共鳴状態の獲得に基づく脳内誘導電流の正しいシーケンスが必要なだけであり、最終的に単語を認識するための各状態遷移間の正確なタイミングには依存しないことを意味している。これはマルコフモデルや共鳴型ニューラルネットワークの状態依存モデル理論に基づく直感的なものだ。（ニューラルネットワークの出力が次の状態としてループバックされたり、ネットワークの先頭に入力されたりすることである。）

TAMI のサブシステムである音素・単語・文の事前認知分類のデモ

人はかなり予測しやすい文型パターンを使って話す。文章予測ソフトウェアは、数カ月にわたる訓練サンプルで個人の文型パターンを学習し、予測された語形と実際の発話の相関をとる。このシステムは予測認識と意図の分類のデモンストレーションであり、予測されるのが身体的な意図であれば、反応時間をほんの一瞬速くすることができる。脳波信号の反応時間の高速化については、この分野では海軍が最も多くの研究を行っている。このソフトウェアの実際の目的は、サイキック・ソルジャーがホストと同じ認知・言語脳パターンを開始し、同調をより正確に行うことで、ホストの心を「ロックオン」する能力を向上させることにある。これは彼らのゴールでもある。「ロックオン」能力が向上し、自分の心をホストと同調できるようになると、心、意志、そして身体に対するコントロールが増し、ホストの思考をより正確に経験できるようになる。

ホストの心を言語パターンにロックするために、ホストとターゲットの心がある閾値以上に一致するまで、システムは何度もフレーズを繰り返す。

これは、アメリカのサイキック作戦室、つまりボグ・キューブ内のスクリーンショットだ。左側の波形は、サイキック・アタッカーの脳の同調と活動を視覚的に変換したもので、右側はターゲットである。下の真ん中のグラフは、2人の差分を重ね合わせたもので、クローナーがロックオンを獲得するための視覚的なフィードバックとして役に立つ。

MIND データベースに性格タイプが存在しない場合、EEG クローニングには時間がかかる。ターゲットは知らないうちに脳波を読み取られ、また、攻撃者の調節された脳信号を受信する。結合された心のニューラルネットワークは、共有されたデータを自己組織化し始める。ニューラルネットワークの自己組織化機能に加えて、舞台裏では人間の介入によりソフトウェアが自己相関を行い、2つの心の差異をマッピングして整列させ、完全なクローニング能力へのプロセスを加速させる。

クローン・ロックを解除する簡単な方法として、言葉遊びがある。ソフトウェアが予測できない、相手が考えなければ理解できないような無意味な文章を話すことで、攻撃者がホストの脳のパターンを再取得できるまでの短い間、心のパターンが分離するのである。バイリンガルスピーカーは、他の言語に切り替えることでロックを解除することができる。内なる声での会話は避けることが難しいが、内言は、すべての共有された知覚、特に概念のような高次の精神機能へのリンクを強化する。これは、「V2K」の主な目的の1つでもある。ロックが壊されたり中断されたりする時間が長ければ長いほど、それを再取得するのに時間がかかる。このロックを破るための技術については、「アンチ・精神工学理論」の項を参照して

ほしい。

ニューロマーケティングは、技術の革新の中で何度も登場しては消えていった。マイクロ波聴覚効果を利用して潜在意識に直接音声命令を送り込むことができれば、どれほど強力なマーケティングツールになるか想像がつかだろう。しかし、国防総省と情報機関は、このような技術に取り組む者を威嚇するためにハゲタカのように周囲を取り囲んでいる。これはまだ禁断の研究分野で、外国に行かないと研究できないのだ。

イライザと音声脳波を使った自然言語処理

MK ウルトラのプログラミングは、プライベートな煉獄を作るために自動化の要素も実装している。イライザは70年代に開発された人工知能を実証したコンピュータープログラムだ。人工の知能は心理学者のように振る舞い、くだらない質問をし、その答えに反応した。文章を解析して理解することもできた。この分野はNLP（自然言語処理）と呼ばれ、NLP（神経言語プログラミング）とは別物だ。イライザは、通信した人の約半数を、画面の向こう側で会話をしているのが本物の人間だと信じ込ませてしまった。現在では、キーストロックからフレーズを解析する代わりに、音声の脳波を単語や文章に解析し、人工知能や自然言語処理に利用している。これは70年代にスタンフォード研究所で実演された。

今や自動化によって、拷問や精神抹殺は、人口全体に拡大することができるようになった。私はTAMIの機能の一つを、センテンス・ステイミュレーターと呼んでいる。多くの被害者は、頭の中の会話が非常に人工的で、ほとんど知性がなく、繰り返しが極めて多く、話題も限られていると表現している。現在のこの技術のレベルがだいたい推測できるだろう。人工知能や自然言語処理も、私がハーバードで研究した興味のある分野だった。私は、コンピューター・ユーザーのフラストレーション・レベル（エラーやクラッシュの頻度に基づく）に応じて感情を表現するプログラムに取り組んだことがある。脳波認知のイライザは、対象に共感的な感情を誘発する言葉を話すことで、リアルな会話を可能にしている。これにより、実在の人物であるかのような説得力が増し、合成マインドウイルスは新たな次元に達した。

神経言語プログラミング（NLP）は、悪名高いジョン・アレクサンダー大佐によって初めて軍に導入され、兵器として磨きがかけられた。この洗脳技術は、TAMIの能力に直感的にフィットするものだった。CIAの拷問専門家であるE・キャメロン博士が考案したサイキック・ドライブという手法に非常によく似た、あからさまな暗示を繰り返すプログラムに、私は2ヶ月ほど耐えた。それは私にはあまり効果がなかったため、技術的に感心することもなかったし、「NLP専門家」もふざけた職業だと思っている。しかし、スポーツイベントの

国歌斉唱を「サイキック・ドライブ」するのは、結構効果があるかもしれない。

稼働中の集合意識の参加者の多さや、常に会話が行われていることを考えると、参加者を自動システムで管理するのは理にかなっている。ハンドラーはスイッチを切り替えるだけで、参加者にニューラルリンクで繋がっているという錯覚を与えたまま、自動システムに移行できるからだ。何らかの理由でリンクが解除された場合に備えて、複数のターゲットの相互作用を監視するモデレーターが一人いればよいことになる。

人工テレパシー

音素認識では、舌、口、喉の運動前野と音声野の想起からの脳波を使い、その一部を増幅して別の心へ送信することで、音声や音として認識される。音声は、思われていたほど脳内で暗号化されていないことが判明している。音声の想起と音声波アナログを伴った音声音素の間には、直接的な対応関係がある。これは、スタンフォード研究所で EEG プローブを用い初めて実演された。

TAMI の設計上の欠陥

TAMI の文章予測ソフトウェアの訓練のために、EEG クローナーは TAMI の音声認識インターフェースを使い、システム的な文章を収集する。クローナーは、認識閾値の信頼性を高めるために、コンピューターが音声認識するためのフレーズとして「Shut up TAMI!」などと語りかけるのだ。このインターフェース設計の問題点は、攻撃対象がハッキングされる可能性があるということだ。このシステムは集合意識の内部音声を一切区別しない。「視線追跡・インターフェースをハックする」を参照してほしい。

TAMI のシステム上の欠陥

信号が増幅されてセンサーにフィードバックされるシステムでは、フィードバックと呼ばれる振動が発生することがあり、これは増幅された脳波にも当てはまる。そこで、フィードバックの状態を改善する方法に彼らは取り組んでいる。人工テレパシーでは 2 つのフィードバックの例が見られる。1 つ目はフレーズレベルで起こるフィードバック・ループで、フレーズの減衰するエコーが聞こえ繰り返される。2 つ目は音知覚のレベルで起こり、EEG ヘテロダイン（クローンだけでなく）を受けた人のほとんどは、ある時点で耳鳴りを聞いている。

る。もしクローナーがあなたの脳波を自分の脳波に複製しているだけなら、フィードバック・ループは起きない。フィードバックが起こるのは、サイキックが双方向の脳内同調ロックであなたに影響を与えようとしているときだけだ。耳鳴りはいくつかの信号によって引き起こされるが、最も大きな定常音は、ホストの聴覚から発生したフィードバック・ループがクローナーに増幅され、彼の脳波と混合した後再び増幅されてホストに送られることによって起こる。フィードバックの周波数は、通常 11,111 ヘルツ前後である。マイクをスピーカーに近づけすぎたときのようなこのフィードバック・ループを解決するために、彼らは変わった方法を考え出した。フィードバックが自動的に検出されると、フィードバックの基本周波数への意識の集中を上書きするような、基本周波数からわずかにずれた強い二次パルス周波数がフィードバックに織り込まれる。この脳内のわずかな注意の変化が、耳鳴りの周波数の減衰を弱め、信号を制御されたレベルに戻し、人工テレパシーの継続を可能にする。

フィードバックの欠陥は、探知や防御に利用できるポイントだ。トーン・ジェネレーターを使用すれば、ターゲットは自分のフィードバック周波数を特定することができるだろう。耳鳴りの周波数で大音量のサウンドに様々な変調を加えながら、できれば両耳に流すと、フィードバックループが固定され V2K 攻撃が無効になる。しかし、耳障りな高音域の音は気が散るし、手元の作業への注意力を低下させる可能性もある。この兵器の開発者が考え出したもう一つの手法は、身体の震えを利用して、ターゲットの注意をフィードバック周波数からそらすことだ。フィードバック周波数が数秒間維持されると、自動的に小さなランダムな手足のピクピクが始まる。これもまた、双方向通信を取り戻すために、その信号の脳波増幅を抑制することができる。フィードバックを引き起こしている音知覚の脳信号は、実際の周波数の変換であるため、マイクをスピーカーに近づけすぎた時の例えは妥当性に限界があるだろう。

ヘテロダインされた集合意識には、さらに長い時間軸のフィードバック・ループも存在する。例えば、誰もが道を歩いていて、次のような場面に遭遇したことがあるだろう。対向してくる歩行者を見て、あなたが左に曲がると、同時にその歩行者も右へ曲がる。今度はこちらも反対方向に修正すると、相手も同じように修正する。見ず知らずの人とお笑いダンスだ。

政府が実施した拷問と殺人プログラムの犠牲者のほとんどは、自動車事故、心臓発作、自殺、ガンによる不自然な死を遂げているが、兵器実験プログラムの管理者は、それらを実験による二次的影響として正当化している。人身事故に遭わせようとする意図的な試みもたくさんあるが、ほとんどの事故はおそらく副次的な影響によって引き起こされているのだろう。携帯電話で話しながら運転することは、注意散漫によるリスク増加の点で法律上の飲酒運転と比較されることがある。ボイス・トゥ・スカル・ハラスメントは、より深刻な注意力散漫の原因であり、リスクも比例して増加する。それだけでなく、身体を狙った変則的なフィ

ードバック・ループも発生し、ターゲットが飛行機や乗り物を適切に操作する能力を低下させる。EEG 集合意識の参加者は、空腹から痒みを搔くことまで、ほとんどすべての欲求を共有している。ある人が運転中にアクセルやブレーキペダルを踏んでいると、集合意識に参加している他の人たちは足を叩きたいという衝動に駆られる。その足を叩きたいという衝動は今度はドライバーに増幅され、ドライバーはアクセルを強く、あるいは弱く踏み込んでしまい、非常にギクシャクした乗り心地になる。これは、歩行者が互いに避け合う例と同じく、喜劇的なダンスでもある。工学的には、このフィードバックシステムは、信号の減衰不足による共振または不安定性と呼ばれる。

EEG クローン集合意識は、現在研究されている最も無駄で不自然な脳の構成である。高次元な脳パターン共鳴に対応して、脳で発生するこれらの異常のすべてを減衰させるために、脳波フィルター方法が開発されている。こうしてあなたの税金は無駄に使われ、エイリアンたちの生活保護に回されているのだ。

バカなエイリアンのトリック

エイリアンたちは、自分たちのプロジェクトを語る言葉の中にしばしばヒントを残しては悦に入っていた。彼らが私に何度も繰り返した言葉のひとつに、「おまえが救世主か！」というのがある。もちろん、映画『マトリックス』の中で誰もが「救世主(The One)」と呼んでいたネオのことを指しているのだろう。ネオは、オラクルが人間を機械から救うと予言した人物である。さらに調べてみると、なんと私の耳鳴りの音は 11,111 とぴったり一致したのだ。エイリアンは私の発見を笑い飛ばし、それ以来救世主のことは話題に上らなくなった。私はエイリアンが大嫌いだ。

{SATAN の GUI (視線追跡インターフェイス) のスクリーンショット。拷問を開始するには、視線でメニューアイテムをサンドボックス領域にドラッグしアクティベートする。サンドボックス上の別のメニューは、すべてのアクティブな拷問のメニューリストを表示している。どれか 1 つを選び、他のメニュー領域にドラッグで戻すことによって、非アクティブになる}

画像のプルダウンメニューの項目の文字には、暗号のような言語が書かれている。ロシア語、ギリシャ語、英語、エジプト語、日本語、中国語の文字を組み合わせ、象形文字風にアレンジしたような感じだ。マトリックスの画面に流れるコードを覚えているだろうか？ 視線追跡インターフェイスの各メニュー項目には、地球上のさまざまな言語に由来する記号が独自にブレンドされている。これは、視覚的なフィルターが破れてターゲットが画面を見て

しまっても、実際に攻撃を行う国の手がかりに結びつかないように、そして、世界中のどの国籍の人にも使えるように作られたもので、異質にも見慣れたものにも見える。画面を流れるマトリックスのコードのような文字は、単にプルダウンメニューとそのサブメニューが展開されたもので、言語に依存しないインターフェイスである。映画ではどのように解釈されていたのか興味深い。(付属資料の NASA の子供に対するマインドコントロールプログラムに関する文書を参照)

NASA は、宇宙飛行士が証言したように、子供たちにマインドコントロールを行っていた。MK ウルトラのようなプログラムに参加していたが、現在は成人してほとんどの記憶を取り戻した子供もいる。ある子供は、地球外文明との交信のために NASA が開発した「銀河系シンボル」を読む訓練を受けたという。SATAN による拷問とサイキック・ウォーフェアのインターフェイスに使われているのも同じシンボルで、映画『マトリックス』のスクリーンショットでも私は見た覚えがある。地球外の宇宙人と話すために開発されたのではなく、この地球に住む邪悪な者たちのために開発されたのだ。

恐ろしいエイリアンの名言集

「我々がケネディ暗殺を計画し、マイケル・デュカキスのスピーチを台無しにしてしまったことを誰かに話すか？我々は多くの医者に行ったが誰も理解できなかった。ハーバード大の卒業生を一年以内にホームレスにするつもりだ。止められるならば止めてみる。お前が自分自身にできることを、我々は誰にだってできるんだ！」

TAMI、SATAN、MIND の性能と用途

遠隔心臓発作 - パニックにならないでください！

電磁波エネルギーで心臓発作を誘発する方法は 2 種類ある。まずは、1 つ目の方法である遠隔操作による心臓発作のトリックと、その防御方法について説明しよう。ロシアの科学者たちは、副腎の暴走によるパニックと、心臓の鼓動を速める刺激と血管収縮を引き起こすことが心臓発作につながると理論化している。私は若く健康だが、何度かこれをやられて一度は気を失ったこともある。高齢者には間違いなく効果があるだろう。これは、ほとんど頭脳戦のようなものだ。確かに脳波で心拍数を速めたり (60Hz 以上の脳波が多い)、血管収縮を起こしたりすることはできるが、人間の体は極度の恐怖やパニックだからといって死ぬことはないし、文字通り死ぬほど怖がるということは不可能といってもいい。EEG クローン遠

隔心臓発作の試みにうってつけのモットーは、「もしそれが悪魔的だったとしても、パニックになるな！」である。攻撃の仕組みを知っていて、ベータ遮断薬やバリウムが手元に置いてあれば、何も問題はない。彼らは想像上の心臓の痛みを引き起こし、左腕が冷たく痺れるような感覚を与えるだろう。しかし、脈拍を測ってみれば許容範囲内のはずだ。このような心臓発作の能力があると思わせるのは、単なるトリックに過ぎない。ベータ遮断薬は心拍数を増加させる脳からの信号を遮断する。多くの人々が「パニック発作」に見舞われ、心臓発作と勘違いして救急車を呼んでしまう。20年か30年後に、このような一般市民に対する大規模な実験についてすべてが明らかになったとき、「パニック発作」は大幅に減少していることだろう。なぜなら、そのほとんどはマイクロ波聴覚効果を使った兵器実験グループによって、人知れず引き起こされているからだ。

「V2K」による攻撃はすべて、人体兵器の実験担当者による台本通りの演技である。同じようなことを繰り返しながら、細部はその人に合わせて作られている。機械が予測可能で創造性がないことは、人間にとっては幸いだ。(本書を読んでいない被害者に対して)彼らが使う台本のパニックの要点は以下の通りである。

1. 「あなたの脳はマイクロ波で焼かれています」政府の情報源によれば、これらの実験によって脳や他の癌のリスクが5%増加するそうだが、自分が調理されていると信じることで生じるストレスに奪われる人生の年数に比べれば、取るに足らないものだ。
2. EEG クローニングを理解すれば、サイキック・アタッカーたちがいかに馬鹿げているかがわかるだろう。あなたが感じたことはすべて彼らも増幅して感じ、その逆もまた同じだ。彼らはある種の脳活動に対して脳波フィルターを開発したが、ほとんどの場合、あなた方二人は一つの混合された心である。彼は「あなたに脳卒中を起こします」と言うかもしれない。あなたは、頭に血が漏れるような不思議な感覚を覚えるだろう。だが実際は、攻撃者が手に水をつけて、頭皮を湿らせているだけなのだ。実に情けない話だ。これは、子供が他の子供の頭の上で卵を割るふりをして、広げるような動きでゆっくりと指を動かしているようなものだ。
3. 「あなたの心筋を調理しています」サイキック・アタッカーは、胸を押したり、あらかじめ記録しておいた心臓の痛みを再生して、心の錯覚を起こすだろう。マインドコントロールの実験では、どんなにリアルに感じても、操作されているのは脳波だけであることを忘れないでほしい。自分の感覚を一切信用してはいけないのだ。
4. 「もし誰かに話したら、あなたの家族と友達全員を殺すつもりです」全く逆で、信頼できる友人がいれば、現状を知らせた方が跡形もなく消されずに済む可能性が高い。警察や

FBI には行ってはいけない。彼らはあなたを精神病棟に閉じ込めるだろう。これはおそらく、精神的な強姦であれ肉体的な強姦であれ、すべての強姦被害者に当てはまるはずだ。ほとんどの当局は、これらの武器の背後にある物理学を理解するのに十分な賢さや教育を受けていないので、わざわざ話す必要はない。何百人もの人が挑戦し、失敗している。(おそらく)バージニア州に住んでいる人たちの人工テレパシーによる脅迫は空脅しに過ぎないと、あなたもすぐに気付くだろう。

5. ストーキングや脅迫によってあなたの感覚がパラノイドのように過敏になれば、人生におけるすべての不運な出来事が彼らのせいだと考えるようになってしまう。これは、彼らがあなたの人生に対して多くの力を持っているような錯覚を引き起こす。論理的であること、そして自分の結論をダブルチェックすることを実践してほしい。

6. 「警察を思い通りに動かして、あなたに麻薬を仕掛けます」 カリフォルニア・ハイウェイパトロールを装った CIA のスタッフがそういうことをするかもしれないが、そのレベルになると一般人にはどうしようもないので、逆に慌てる必要もないだろう。もしそうなったら、できる限り対処しよう。

7. あなたの人生で大切なものを彼らがすべて破壊できると信じ込んでしまうと、あなたの頭は彼らが何をするだろうと考え始めてしまう。忘れないでほしいのは、EEG クローニングによって、攻撃者はあなたの心を横切るあらゆる小さな恐怖を読み取ることができ、それらをあなたに対して利用するよう訓練されているということだ。ポジティブ・シンキングの練習は、この種のあなた自身の心を利用する攻撃を阻止するために役立つだろう。

8. 被害者がホログラムや具現化として報告する悪魔などの視覚的イメージは、より迷信深く宗教的なタイプの人々を怖がらせるためによく使われる、伝統的な呪いや幽霊の投影法である。

実験が長引くと、常にさまざまな痛みを感じ、頭の中にノイズが流れ込んでくるため、信じられないほど衰弱してしまうという事実も書いておかなければならない。少なくとも、あなたが計画していたような人生は台無しになるだろう。しかし、あなたは一時的な奴隷の状態を受け入れ、より多くの人々を教育するために動かなくてはならない。大衆伝達の情報の流れは封鎖されているので、この情報を拡散し広めるためには、草の根的な努力と創造的な思考が必要だ。『銀河ヒッチハイク・ガイド』のアドバイスを思い出してほしい。

「パニックを起こすな！」

遠隔操作による心臓発作の 2 つ目の方法は、より直接的なものだ。心臓は、脳と同じように、電気信号のパターンを使ってその機能を維持している。この電气的パターンを乱すと、ある条件下では細動を、またある条件下では不整脈を引き起こすことがある。心臓に正確なタイミングでパルスを当てたり、電气的共鳴変調を加えたりすると、心臓は拍動をスキップし収縮の力も減少する。これらの直接的な方法は、厚手の革製ジャケットを着用することで阻止できると、多くの被害者が報告している。革は外皮のようなもので、体内に入る前にレーダーのエネルギーの多くを吸収してくれる。しかし、私はこの遠隔暗殺の試みには少し生意気過ぎて、彼らが私には効果がないと確信して諦めるまで、5 時間も彼らに好き勝手されることを許してしまった。これらが「非殺傷」と謳われている沈黙の暗殺の武器だ。ダイヤルインエフェクトの殺傷設定は、おそらくまだうまく機能しないのだろう。

生き残るには

話を面白くするために、私が生き残るためにしたことをお話ししよう。残忍な攻撃が始まったとき、私は生きるために戦った。多くの人がそうであるように、私はもしかしたら背後には外国がいるのかもしれないと考えた。何ととっても、私は 10 年前に極秘プロジェクトに携わっていたのだ。ソ連の原子力潜水艦隊を追跡するコードを書き、他の多くの政府プロジェクトにも関わっていた。従わないなら遠隔操作で心臓発作を起こして殺すと何度か脅された。私は地面に横たわり、あなた方が望む秘密をしゃべるぐらいなら国のために死にます、と言った。私がこの調査を始めてから感じた裏切りは、想像に難くないだろう。

ともかく、私は巧妙なコンピューター・ウイルスを書くことにした。ポリモーフィックで暗号化されているので、ウイルススキャナーで簡単に特定できる文字列はなく、コードも変異を繰り返すウイルスだった。それをサーバーに置き、私が死んだら公開するようにした。このウイルスに悪意はなく、感染したすべてのコンピューターを、EEG ヘテロダインを使った長期間の残忍な MK ウルトラ・マインドコントロール実験にかけられた数千人の窮状を簡潔に伝えるウェブページに誘導するだけだった。感染後、このウイルスは自分自身を削除し、コンピューターに免疫を残すようにした。2 週間のカウントダウンの間に、私のノートパソコンから特別な方法で PING を受けとらなければ、サーバーはウイルスを放出する設定だった。ウイルスを書いたり研究したりすることは違法ではなく、ウイルスをリリースすることは違法だが、もし私が死んでいたとしたら、なぜ気にする必要があるだろう？この脅しがあったからこそ、本書が出版されるまで私は生きていられたのかもしれない。その後、私はウイルスを削除した。しかし、私が早死にするか、投獄されるか、あるいは失踪した時点でこの本の著作権は剥奪され、作品は公衆に自由に配布できるよう、出版社には契約書に書き込んでもらった。経済学を学んだ人なら、無料製品の価格需要曲線の結果は知っている

はずだ。本書は、政府の墮落や真実の複雑さを理解できる人に、あるいは単に架空のオーウェルの悪ふざけと思う人にも、きっと興味を持って読んでもらえるだろう。

スモーキング・マン

テレビシリーズや映画の『X-ファイル』の中に、陰謀者たちと FBI 捜査官のモルダーとスカリーの間を取り持つような人物がいた。なぜ彼が多く秘密を知っていたのかは明らかにされず、最終的には肺がんで死んでしまった。

ロシア人は、アルコール依存症や薬物依存症の患者を救うために精神矯正の研究をしていることを、とてもオープンに話していた。その研究は大成功した。アメリカはその逆の研究をした。彼らは依存症の脳波をピンポイントで特定し、その経路を増幅して自己破壊的な行動を起こさせることができるのだ。統合失調症患者には喫煙者の割合が多いということは、ほとんどの人が聞いたことがあると思う。タバコを吸う暗殺練習のターゲットの大半は、ターゲットになる前はタバコを吸わなかったと言っている。支配の一つの形として彼らが強制的に禁煙させたケースは、私の知る限り 1 件しかない。SATAN ソフトウェアのプルダウンメニューからは、アルコール中毒者、喫煙者、薬物中毒者を作り出すことができる。20 年後に残忍な犯罪が明らかになり、マスメディアがインタビューする準備が整ったとき誰も説明できないように、証言者を早死にさせておくのは常にいい方法に違いない。

EDOM と偽りの記憶の埋め込み技術

もう 1 つの CIA のプログラムは何十年も前に公開されたもので、現在の米国市民に対する指向性エネルギー兵器の実験にも深く関わっており、EDOM (electronic dissolution of memories 記憶の電子的消滅) と呼ばれる。これは、過去に保存された記憶の崩壊を促進し、短期記憶が長期記憶になるのを阻止する技術だ。

ニューラルネットワーク理論によれば、理論的には、記憶経路に多くの新しい刺激を与えることで、過剰な学習サンプルによってネットワークに過負荷をかけ、ネットワークに含まれる情報を崩壊させるというものである。基本的には脳への過剰な刺激を与えるということだ。短期記憶ブロックは、催眠術のように、脳が普段慣れていない基底周波数で、記憶を定着させる方法だ。記憶はこの新しい周波数で保存され、催眠術的暗示によってセグメント化され、通常の脳波パターンの下でアクセスできないようにブロックされる。

催眠術によって、MK ウルトラ・マインドコントロールプログラムで虐待を受けた子供たちの記憶を取り戻すことができるのはこのためである。この現象は、精神活性剤によっても観察され、状態依存記憶と呼ばれている。

偽りの記憶の植え付けは、言葉の手がかりや強制的に記録された脳波パターンによって記憶を無理やり呼び起こし、新しいイメージや連想でそれを修正することで行われる。一度作った偽りの記憶は、何度も思い出すことで強化する必要がある。練習によって完璧になる。しかし私の意見では、この手法はほとんどの人にはそれほど効果がない。私が出会った偽りの記憶を植え付けられてしまった人たちは、ごく少数だ。

もう1つの記憶消去は「成長した」仮想ニューロンを利用するものである。記憶は、エングラムや単一細胞のインスタンスとしてではなく、脳のシナプス荷重にホログラフィックかつ全体的に保存される。生体通信信号のプラグが抜かれた場合、記憶の保存を助けるバーチャルニューロンも消滅し、接続中に形成された情報は非常に大きく劣化する。このテーマについては、「生体通信」の章で詳しく説明する。

最も偏執的な悪の思考を収穫するための拷問の使用

「私は血なまぐさい考えを持ち始めた」

シェイクスピア、『テンペスト』（第4章1節）

人を極端に拷問するもう1つの目的は、人が持つ最も怒りに満ちた考えを知り、その人が絶望の最大の瞬間に、その背後にいる人間や政府に対し何をしようと思うかを調べるためである。それは合衆国を極度に憎んでいる人が何を思いつくかを知るためである。私が殆ど書き終えた「99日間で世界を征服する101の方法」についての本も、私がこのような心理調査に選ばれた理由の1つかもしれない。そして最後に、それは彼らが一般市民に届く情報の流れをすべて封じ込めてコントロールできているかどうかを試す手段でもある。

拷問と暗殺の被害者は、長期間にわたる無作為な残虐行為について誰にも信じてもらえず、政府内に自分を助けてくれる人がいないことをすぐに理解するだろう。私は他の国の政府の方が「公式には存在しない」アメリカの最新のマインドコントロール兵器や、「一般市民には使われない」CIAの尋問や洗脳技術について知りたいと思っているとわかってきて、それゆえに公式には国家機密を漏らすことはできなかった。これがいかに馬鹿げたことか分かるだろう。潜在的な敵から秘密を守ろうとしているのであれば、なぜ、市民にそのすべての能力を試験して他国に亡命させるようなことをするのか？明らかに、連中はアメリカ国

民だけから秘密にしようとしているのだ。

影なき狙撃手の作り方

影なき狙撃手、あるいは CIA にプログラムされた暗殺者の作り方

- 孤立と感覚の遮断
- 絶望に至るまでの完璧な幸福感の破壊
- 抑圧と屈辱による人格、自我、個性の除去
- 拷問による人格の断片化
- イメージと見せしめによる暴力の鈍感化
- 言葉や電磁気で引き起こされる催眠術、サイキックドライブ、スキナー法を通した、断片化した人格の再プログラム

あなたがこれを自宅で試さないように私は注意する。しかし、皮肉なことに、今ではこれらの手順はすべて、さまざまなマインドコントロールスクリプトと生体通信兵器システムを使って自宅で行われている。現在のプログラムは、映画『時計じかけのオレンジ』と大差ないもので、しかしサイコパスを治療するのではなく、殺人者にしようとしている点が異なる。

人の共鳴吸収スペクトルをレーダーの解説

私が尊敬するカール・セーガン（『Cosmos』）、スティーブン・ホーキングス（『時間の簡単な歴史』）、グリーン（『エレガントな宇宙』）は、複雑な物理学の概念を一般の読者に分かりやすく説明する能力を持っている。私は彼らのようなレベルには到底及ばないが、電磁波によって脳波を読み取り、影響を与える手法の一つを説明したいと思う。一見 SF のようなこの技術には、様々な方法がある。60 年代、70 年代の特許をもとにそのいくつかを説明し、さらにそのアイデアを発展させていこうと思う。

まず、マレックの特許から見てみよう。彼は自分の発明がなぜ機能するのかという根本的な理論を説明することなく、ただその作り方と、どんな用途に使えるのかを説明している。

脳が複雑なスイッチの集まった網であると想像してみたい。最初は、それらがすべてつながっていると仮定しよう。すると、金網とでも例えられるような構造がここにある。金網に電氣的に共振する周波数の電磁波が当たると、そのエネルギーを吸収して、カーラジオのアンテナのように振動し始める。レーダーというのはこのように、どの周波数が跳ね返って

くるか、散乱するか、吸収されるか、物体を通過するかを見ることで機能する。つまり、押されたブランコのように前後に振動するが、それが位置エネルギーのスペクトルではなく、電磁スペクトルで起きる。その振動はやがて減衰し、運動熱エネルギーに変換される。中継を入れ変えメッシュのワイヤーを1本切り離すと、共振周波数が急激に変化する。それは、ブランコのロープの長さを変えたり、アイススケートの選手が回転中に腕を引っ張って速く回転させるようなものだ。つまり、ブランコの振動の変化を観察するだけで、ブランコを支えているロープの長さがわかるということだ。また、振動する金網の変化を測定するだけで、その時のスイッチの数がわかる。

これを脳に置き換えて考えてみよう。脳は、様々な要因にもよるが、成人ではおよそ450～800MHzで共振している。マイクロ波通信を趣味とする人たちは、何十年も前からこのことを知っていた。そこで、神経細胞に注目し、脳内の電場と磁場を発生させているのを見てみると、電圧に敏感なナトリウムイオンゲートが脱分極の過程で開閉していることがわかる。イオンの流れは有線の電流のようなもので、ゲートは電流をオン・オフするスイッチのような役割を果たしている。つまり、脳は先ほどの金網の例のように、イオンゲートの状態に応じて共振する。変化する脳の共振の位相、振幅、周波数から、脳のイオンゲートに関するすべての情報を得ることができる。レーダーのリターン信号は、これらのスイッチがどこで、いつ、いくつ閉じたり開いたりしているかを教えてくれる。これは、すべての物や電気製品に言えることだ。

遠く離れた場所から脳波を読み取るという問題を考える別の方法は、電子の流れの磁気的な特性に注目することだ。脳をインダクタンスのあるコイルに見立てると、磁界を近づけるとコイルの共振が変化し、電流が流れることになる。イオンの流れは、脳のインダクタンス特性を変化させる磁場を作る。それはまさにコインの表裏だ。宇宙には1つの力しかないが、それが多くの表現を持つのは、電気、磁気、弱い力、強い力、重力として観測する次元の拡張によるものだ。

だから、脳の電氣的活動をレーダーで読み取ったり、同じように心臓の鼓動を全身や臓器の共鳴で読み取ったりすることは、科学的に大きな謎ではない。また、ドップラーレーダーのように他の信号処理の方法が追加されることで、さらに別の視点も加わる。筋肉の収縮でさえも、同様にイオンのスイッチがあり、それを測定することができる。デルガド博士、ベアデン大佐、アレキサンダー大佐のような情報工作者は、彼らの科学を信じさせて、あなたを無知な人々の仲間入りをさせたいようだが、騙されてはいけない。兵器を実験している家畜に対してはそれを秘密にしておきたいと考える特定の政府機関たちは、基本的な物理学の秘密を隠すためには何でもするし、言う。マイクロ波アンテナを設計している大手防衛企業はアンテナ共振設計の専門家なのだから、彼らが脳情報を読み取り、影響を与えるレーダー

技術を再発見したことは驚くことではない。

さて、もっと不可解なことがある。脳波は人工衛星では読み取れないというのは、私たちの文化の中では一般的な言い伝えになっている。このことや他の技術的な秘密を主張する人々は、パラノイアや「精神病」の国に追放されてしまう。人工衛星は、統合監視システム (the integrated global surveillance system) の赤外線画像と視覚画像の部分に使用されているが、人間のバイオシグネチャーを読み取るための最も可能性の高いソースとアンテナではない。政府機関にこの技術のことを話ただけで 3 日間精神病棟に入れられるほど、情報工作者は成功しており、被験者たちには侮蔑というおまけがつく。

しかし、この可能性の背後にある数学と物理学に目を向けてみよう。おそらく十分教育を受けていない警察機構や司法制度に組み込まれた人々でも、基本的な数学や物理学を理解し、別の結論に達することができるだろう。

簡単な計算で、これらの技術が配置された人工衛星のや、地上にある大型フェーズドアレイアンテナによって行われることの実現性を示すことができる。

事実 1: SQuID (超電導量子干渉素子) 変圧器の感度は、10-15T(テスラ)または 10-32J(ジュール)だ。これは、1 秒間の検出可能な最も小さい変化、つまり、地球の重力場で 1 つの電子を 1mm 上げるのに必要な仕事を測定することができる。

事実 2: 地上をリモートセンシングできる人工衛星は、いつでも空に 100 機以上ある。

事実 3: 地球を周回するマイクロスパイ衛星コンステレーションは平均高度として 1000 マイルを使用している。人工衛星の軌道は、地球上空の 600 マイルから 28,000 マイルの間だ。

事実 4: 脳は数フェムト・テスラ (fT) の磁束を発生している。心臓は 50,000fT の磁束を発生している。脳の表面で脱分極するニューロンは 70 ミリ・ボルト、平均イオン電流は__アンペアを生み出している。頭皮の表面での脳の電気的活動は、数十マイクロボルトだ。

事実 5: 多くの「エイリアン」の拉致被害者から取り出されたような 402Mhz で動作するようにカットされた小さなダイポールアンテナ (金属片) は、1 ワットの電力を照射された場合、頭部からは 2.5 ミリワット、胸部に埋め込まれた場合は 1.25 ミリワットの電力を放射する。

バイオテレメトリやニューラルテレメトリはよく研究されている分野だが、一般の人には

SFの世界だ。携帯電話は頭に5ワットの電力を与える。

私が聞いている「エイリアン」の信号のピークパルス電力は、30ワットを人体に与え、しかし平均的な電力レベルは、SARの安全基準の範囲内だ。

まず、インプラントの観点から考えてみよう。また、対象となるターゲットの正確な位置を知っていると仮定する。軍用システムには大変多くのターゲット追跡方法があるので、これは妥当な仮定と言えよう。2.5x10⁻³ワットは、すべての方向に均等に放射された場合、距離の二乗によって弱まる。つまり、衛星に必要な感度は次のようになる。

$$(2.5 \times 10^{-3} / (1000 \text{ マイル} \times 1.6129 \times 10^3 \text{ メートル/マイル})^2) \times 100 \text{ 機の衛星} \\ = 9.61 \times 10^{-14} \text{ ワットまたは } 9.61 \times 10^{-14} \text{ ジュール/秒}$$

つまり、15桁以内の妥当性があるということだ。あるいは、ペンタヘルツの波長（1×10⁻¹⁵秒）で十分なエネルギーが検出できると述べる事もできる。それは紫外線スペクトルにまで及ぶ。SQUIDトランスフォーマー衛星が1機あれば、それは簡単に実現できることだ。実際には、大型のアンテナ群の設置だけでもできる。ただし、三角測量の精度が不可欠になる。100機の衛星があれば、その人を正確にピンポイントで追跡し、「エイリアン」のバイオテレメトリ・アンテナ・インプラントで脳波や心拍を読み取ることができる。しかし、超電導が発見されたのは、1960年代初頭に政府が最初の神経学的拷問テストを始めた後だったので、地上に設置された1マイル長のフェーズドアレイが電離層に跳ね返ってくるのが最も可能性の高いソースであることを忘れてはならない。

では、このようなシステムで、どうやって多くの人々を監視・追跡することができるのだろうか？情報源が正しければ、2,500万人をブレイン・マシン・インターフェイスを通じて追跡・管理することができるということだ。脳波が2キロヘルツを超えないのであれば、携帯電話の送信機のような時間多重化方式が有効である。2500万×2キロヘルツ=50ギガヘルツが上限の帯域となる。現在公開されているレーダーの性能は、テラヘルツ周波数帯、つまりサブミリ波の波長であり、必要な帯域幅の十分範囲内である。

実際、圧縮されていない地球上の全人類の知能は、1.34テラヘルツ（67億人×2キロヘルツ）で動作している。

ここ数十年の間に、インプラントは亜人やエイリアンの実験用としてあまり普及しなくなった。『X-ファイル』では、スキャリーがエイリアンのインプラントを除去した後、すぐに癌になってしまった。あれは、エイリアンによるインプラントされた人間の奴隷への脅しだ

ろうか？インプラントを外したら、「影の政府にもっともらしい否定と共に殺されるぞ」という含意ではないかと思う。私は、政府による拷問やマインドコントロール実験の犠牲者の多くが、インプラントを除去して有益な結果を得ているのを目の当たりにし、会ったことがあるということを喜んで報告する。このような愚かさや腐敗が、人々に放射線物質を与えたり、LSD を無作為に投与したりしていた頃よりも高いレベルで今も存在していることを知ると、自由の国を誇りに思うだろう。

では、埋め込んだダイポールアンテナやマイクロストリップアンテナがなくても、生体や神経の遠隔からの計測は可能なのだろうか？RFID チップは米粒の大きさにまで小さくなった。しかし、それらは幾らかでも必要なのか？

フルスペクトル・レーダー・シグネチャー分析やマレック特許によれば必要ないとされている。イオンチャネリングによる脳の共鳴の変化だけで、これらのレーダーや他の監視方法のソースからのリターン信号によって、何桁もの感度で簡単に検出できるのである。

直感的にはどんなにそう感じられなくても、数学は嘘をつかない。ハッブル宇宙望遠鏡の写真で宇宙の果て（90 億光年の彼方）を観察するだけでも、この技術の感度を知ることができる。

イラクでの戦闘中に撮影された赤外線画像は、インターネットで手に入れることができる。これらの画像は、体の熱が振動する分子の熱的不安定性によって光子を放出していることを示している。それらを光らせるためのレーダーのエネルギー・パルスはない。そのスペクトルの部分では必要ないのだ。遠く離れた場所でも、黒体放射によってその人の全身が照らされているのがよくわかる。

さて、身体電気によって、皮膚表面の電圧に比例して身体がわずかに加熱されたと想像してみよう。これは事実ではないが、この思考実験によって監視員がどのような映像を見ているのかを理解することができよう。赤外線スペクトルで人が明滅しているのが簡単にわかり、その明滅の強度を脳波、心拍、筋肉の動きに復調することができる。

そう、このように、普段は画像として見る事のないスペクトルの他の部分では、このようなことが起こっているのだ。それが、空に映った巨大な目で見ることが出来るものだ。これがフルスペクトルイメージングの意味するところである。あらゆる周波数のエネルギーをそれに向けた時、その地域のあらゆる点から放射されるすべてのエネルギーを、信じられないほど鮮明に見ることができる。このようにして地球全体を見渡すこともできる。すべての生命体を簡単に追跡できる。すべての波の長さ、体と脳の共鳴、心拍のリズムのシグネチャ

ーを使って、個人をどこにいても追跡することができる。人は皆固有の体の共鳴、心拍、脳波のサインを持っている。バイオテレメトリを行うために、RFID チップやダイポールアンテナはもう必要ない。また、レーダーの感度について他の参考として、商業気象衛星のレーダーでは、鳥や昆虫さえも検出することができる。

心理学界、警察、FBI がこのように無知であることは非常に嘆かわしいことだ。もし科学技術に興味がなかったり、すでに偏見を持っていたり、偽情報でプログラムされていたりしている場合、人々に科学のスピードについていってもらうのは難しいことだ。心理戦は 40 年前から行われており、そのほとんどの対象は市民だ。心理学界を利用して、殺人行為やマインドコントロール・プログラムの犠牲者の信用を落とすことで、彼らは技術の真実を隠しておくことに成功しており、最先端の神経遠隔測定や心理物理学についてあえて話す人は頭がおかしいという条件付きの反応なしには、言及することさえタブーになっている。

これらのグループの人々が長生きすれば、24 年後にその技術が突然発見されたり、国防総省から発表されたりするのを見ることになるだろう。「助けを求めている人たちについて、私たちは間違っていたのかもしれない」という考えがその時頭によぎるかもしれない。「あの人たちを皆誤診してしまいキャリアを無駄にしてしまった」と思う人もいるかもしれない。「正義や憲法を守ることもできなかった。人生を無駄にしてしまった」と思う人もいるかもしれない。

バカなエイリアンのトリック

この子供じみた政府の暗殺者、つまり悪のエイリアンは、よく「自分を殴るのはやめろ」と言った。そして彼は自分を軽く叩き、私も軽く叩かされるのだ。子供の頃、自分より強い人とレスリングをしていて、腕をつかまれて自分を殴らされたのを覚えているだろうか？そう、エイリアンたちもその遊びを楽しんでいて、それを遠隔でやっている。おそらくこの能力が、映画『ファイト・クラブ』にインスピレーションを与えたのだろう。

EEG ヘテロダインは軍用マシンの中の幽霊

もしあなたがなぜ私たちはテロに会うのか、なぜ私たちは多くの国から「グレートサタン」と呼ばれているのかとまだ思っているなら、サダム・フセインの自分が CIA に狙われたという疑惑を報じた 1992 年 2 月 14 日の USA トゥデイなどの大手新聞に掲載された記事を読み出してほしい。「CIA はサイコトロンクスとバイオコミュニケーションを使って、脳や

心臓に血栓を作らせた……」。私たちには他国の指導者を暗殺してはいけないという法律まであるのに。

私たちは、議会が自らの軍隊を持たずには法律を執行することができない犯罪国家と化してしまったのだ。SATAN (Silent Assassination Through Amplified Neurons) は、人々を怒らせ、生涯の敵を作り出すための多くの用途がある。欧州議会でさえ、砂漠の嵐作戦の後、精神工学の心理的効果についてこの事実を文書化した。米国が世界中で精神工学兵器を使用していることは、米国市民を除き、世界のほぼすべての国が気づいている。悲しいことに、わが国の政府は、恥ずかしい公教育制度と「国家安全保障のため」という永続的な嘘によって、我々をいわゆる第一世界の国々の中で最も無教育で政治的に無知な国にすることに決めたのだ。

CIA や NSA がアメリカ市民をスパイしてはいけないとか、人体実験は禁止されているとか、いろいろな法律があるが、行政府が腐敗し、違法で、非合法なら誰がその法律を執行できるだろうか？

非殺傷指向エネルギー兵器の分類

殺す効果がない兵器を非殺傷兵器と呼ぶのは、なんともふざけた話である。弾丸が人を殺さないから、銃を非致死性だと分類するようなものだ。弾丸が人を殺すのではなく、出血が人を殺す。出血は副次的な効果だ。EEG クローニングや非殺傷性指向性エネルギー兵器は、ただ同じことをもっと長い時間、より苦痛を伴いながら行うだけだ。バターナイフで誰かを殺そうとするようなものである。より困難で、より長い時間を要し、よりはるかに多くの痛みを伴う。

さらなる TAMI のシステム上の欠陥

超能力戦争の世界では、物事は白か黒かではない。心の相性、適応のためにロックオンされて費やされた時間、データベースと脳的一致、指向性エネルギーのパワーレベルに対するターゲットの感受性、これらすべてがサイキックアタックの成功の要因である。例えば、バイリンガルの被害者はみんな、他の言語を話し始めるとサイキックアタッカーは何を言っているのか理解できず、AI 言語認識システムも彼らの言葉を正しく予測できないと報告している。これは、頭の中で言葉の意味を翻訳する必要がないかなり流暢な人にしか当てはまらないが。

命令系統への攻撃

武器としての EEG ヘテロダインの威力を熟考してみよう。人々が権威に対して疑問を抱くことができない命令系統の中で、構造全体を掌握するためには何人の人の心に影響を与えなければならないだろうか？一人だ。他のすべての人の指令はその人から来る。もちろん、その命令に疑問を持つほど大胆な人はいないという前提での話だ。

軍の指揮系統は乗っ取りに対して極めて脆弱である。特に秘密指令が使われた場合、それを監視したり質問したりする安全装置がほとんどない。では議会を乗っ取るために、どれだけの人がコントロールされたり影響を受けたりする必要があるのだろうか。司法府はどうだろうか。そう多くはないだろうし、国全体がそれに追随することになる。あまりに異常で憲法にそぐわないと思えば、大衆は疑心暗鬼になるかもしれない。だから、メディアを乗っ取る必要があるかもしれない。マスメディアの情報ストリームはいくつあるのか。つまりロシアは正しかったのだ。もし 1 万人以下、あるいは 2 千人以下を支配することができれば、国全体の方向性を操ることができる。

この技術を国民に秘密にして、乗っ取りの兆候に気づかせないようにすることは賢明だろうか。国民への攻撃に備えて、完全な超電導シェルターを作らないのは賢いことなのだろうか。誰が私たちを守ってくれているのか。なぜ、すべき仕事をすることができない軍隊や安全保障機関があるのか。それは無能なのか、反逆なのか。

その他の TAMI の限界

私は脳をのっとられると、思考をゆっくりにして完全な文章で話すように、そして大きく言葉に出して考えるように、と言われた。私の脳が関心対象になっていたようだ。というのも、EEG クローンニングで私の頭脳を彼らに移し、視覚、聴覚、感覚は拾えたが、高次の思考は拾えなかったからだ。彼らは、私の脳波をより完全にマッピングし、データベースに加えることに興味を持ったようだった。頭の回転が速いということは、サイキックスパイが脳内同調の増幅を誘導する時間がないことを意味する。これは視覚でもいくらかは同じことが言える。周囲をすばやくスキャンすると、クローナーには像がぼやけて見える。

ユーモア・ブレイク (なぞなぞ)

人類とアメリカの歴史上最も暗い時代について書かれた本の中で、謎解きがないのはどうしたものか。リドラーが世界をマインドコントロールしようとする『バットマン』の精神にのっとり、私もこんな謎かけをしよう。「私がマインド探査と尋問を受け始めた時、私は全ての政府機関に助けを求めた。自分の経歴を考えると、もしかしたらロシアが背後にいて、私の持つ秘密を引き出そうとしているのではないかと思ったのだ。何百通もの手紙を出したが、何の反応もなかった。私が最も多くの秘密を握っている海軍からもだ。だから私は彼らの駆逐艦なのだ。私は何者か？

なぜ「マトリックス」なのか

映画『マトリックス』は、なぜ、そう呼ばれるのか。DARPA のプロジェクトで一緒に仕事をした何人かの大佐が言及していた「グローバル・グリッド」のことだろうか。グローバルグリッドとは、ネットワーク化された情報のインターネットに過ぎないのではないか。私は、それが MRI/ESR の技術で計算されたイメージマトリックスを指しているのだと思う。先ほど述べたが、60 年代後半から地磁気強度で MRI を行っているイエール大学の教授を見つけた。一般に病院の MRI では高出力超電導磁石が使われる。それは高解像度で高速な撮像技術が必要だからだ。弱い磁場では、同じ原理が適用されるが、画像取得にかかる時間は長くなり、解像度ははるかに低くなる。しかし、特にレーダー技術と組み合わせれば、この方法で地球全体をマッピングすることができるかもしれない。たぶんそれは、人間の脳の認知モデルを計算するような超高速で複雑なアルゴリズムに使われる行列代数を指しているのだろう。

映画『マトリックス』は、干渉計の技術から名づけられたのかもしれない。3つの垂直なコヒーレント直線偏光の電磁波源を交差させると、建設的および相殺的な干渉パターンの行列ができる。周波数を変えると、マトリックスが回転したり、スキャンしたりする。多周波レーダーイメージングは、ターゲットの全方向からの反射信号を、上手く信号の強度を上げることでバランスを取ろうとし、ターゲットの周囲に「スカラー波」または目に見えない電磁干渉のマトリックスを作り出す。

指向性エネルギー

頭蓋骨を切らずに脳の腫瘍を焼くために、頭の周りのあらゆる角度から X 線を当てる「ガンマナイフ」という医療機器がある。このガンマ線の交点では、腫瘍細胞を殺すのに十分な

強度のエネルギーが得られる一方、他の脳内物質を無害に通過させることができる。この交差点でのみ、複合エネルギーが致死的となる。GPS（全地球測位システム）も同じ原理で動いており、衛星からのパルスが届くタイミングが微妙に違うので、そこから位置を計算することになる。

広範囲にわたる $2\text{MW} \times 100$ 機の衛星 \times (360度の1/100のビーム幅) = 454 mW のパルスパワー。ビーム幅を360度の1/1000に縮める) = 45W のパワーがその範囲に及ぶ。

これは神経細胞に影響を与えるには十分すぎるほどのパワーである。

ロシアのラジオエレクトロニクス研究所が70年代に発表したところによると、わずか10mWから100mW/cm²までのマイクロ波エネルギーで、ニューロンの発火群にあらゆる種類の効果が観察されたそうだ。この簡単にできる計算では、衛星を使った神経学的な兵器は十分に可能であるとしている。一見すると、スターウォーズのSFのように聞こえるだろうか。しかし、これは単なる演習だ。人工衛星は強力な電波送信器であるというより優れたセンサーである。電離層ヒーターと呼ばれる巨大なレーダーフィールドを使って、10ギガワットのエネルギーフィールドを大気圏から地球上のスポットに跳ね返す方が理にかなっている。

同様に、衛星からの超高出力指向性エネルギー兵器は、フェーズドアレイ・ビームステアリングや高出力レーザーによってエネルギーを一点に集中させることができるかもしれない。暗殺への応用は当然として、MRI/ESRやその他の画像診断の解像度を上げるのにも使える。交差点では、非常に低い側波帯を変調し、ビームの高周波キャリアを相殺的にヘテロダインすることによって、ある時間の全エネルギーが磁場で最大になるように、位相/周波数/振幅が計算される。

磁場が増大している間は、別の無線信号またはさらに高周波の信号を用いて電子スピンまたは磁性原の核を励起し、緩和光子を集めて見ることができる。これは、自然の地球磁場を利用して解像度を上げるよりも良い方法だろう。まるでSFのような話だ。しかし、空軍のAC130が目標から5マイル離れたところで撮影した赤外線画像の解像度を見てほしい。このエネルギーは、励起するための外部エネルギーがなくても、振動する分子の熱による衝突によって放出される。もし、すべての価電子や原子核が同じように光子を放出するように刺激できれば、風景や人々を簡単に3次元画像に再構築することができるだろう。それはすなわち、電離層ヒーターを応用した、地球を貫通する断層写真術である。

もう1つ、頭の体操になるものを紹介しよう。完全な単一（1つの周波数）かつコヒーレン

ト（同位相）の波面を持つ2本のレーザービームがあるとする。このビームは、2つの直角プリズムでできた立方体にそれぞれ入射する。キューブはビームを合成し、スクリーンに投影する働きをする。一方のレーザーは、もう一方のレーザーよりもキューブから $1/2$ 波長分離れたところに移動させる。片方のレーザーが動作している場合、スクリーン上にスポットが表示される。しかし、両方が動作している場合は見えない。なぜか。そのエネルギーはどこに行くのか。

なぜこれが関係あるのだろうか。これは、エネルギー源の建設的干渉を利用した指向性エネルギー兵器によって、地球上のどこにでもピンポイントで高エネルギー波を発生させる方法を示している。この種の兵器で、あらゆる種類の面白い効果が得られる。例えば、電子機器にある種の動作をさせたり、高出力の EM やマイクロ波パルスで電子機器の回路を破壊したりすることが可能だ。上記のレーザーの例のような相殺的干渉モードビームは、対象物を焼くことなく高強度のフィールドで途方もない距離を移動し、途方もない S/N 比で反射できる「スカラー」波を発生させることができる。この技術については、後で詳しく説明する。

ハイパーギーク - 最極秘のグローバルな人間監視・操作システムの背後にある概念

合成開口レーダーとビームステアリング

これらの指向性エネルギーのコンセプトはすべて、半世紀前のコンセプトをより強力にしたマーケティング用語の焼き直しに過ぎない。トランスデューサーやアンテナの網（グリッド）は、グリッド内の個々の素子を位相制御することで、波面を形成することができる。低周波を使えばビームは広くなり、高周波を使えば狭くなる。ビームは 360 度回転させることができ、建設的モードでも相殺的モードでもその強度を制御することができる。ビームのキャリア信号は、ELF 波で変調して整形したり、高周波の副極にヘテロダインさせることができる。これがスカラー散乱レーダーと指向性エネルギーシステムのコンセプトの背景にあるものだ。

タイムリバーブエコー

タイムリバーブエコーは、多重反射により音源の位置が確定できない場合でも、音源に信号を送り返すことができる技術である。マイクやアンテナのフェーズドアレイを使用することで、信号が到達した時間順序と逆に信号を収集し、再放送することができる。フェーズド

アレイの信号は、すべて同じ構造物に跳ね返って結合し、同時に音源に到達する。戻ってきた信号を増幅すれば、シグネチャーから信号源を特定した後、この方法で攻撃できる可能性がある。

この技術はサイエンティフィック・アメリカ誌で紹介されたが、この原理はおそらくどんな媒体でも使えるだろう。海底のトランスデューサーのアレイから妨害ソナーや高出力指向性音波を発信して、海の音を聞いている潜水艦の乗員の耳を塞いだり、水上船舶の運搬船を揺らしたり、そのタービンにキャビテーションを発生させて停止させたり、超音波碎石機のように作用して、計算された機械的エネルギーを水上船舶内のどこにでも直接伝播または共鳴させて作り、構造的または機械的損傷を引き起こすことができるかもしれない。私はこの分野では、武器としての指向性圧力波の研究は聞いたことがないが、もしかしたら、それが多くのクジラが浜に乗り上げることを引き起こしているのかもしれない。

ニューロン誘導と脳波変調技術

磁場誘導や電場変調を用いたスカラーELFによる脳変調。CNNのラウシュのビデオ。バズ共振 - 人間のFDTDモデリングを用いたマイクロ波の立ち上がり。マレックとストックリンの脳共鳴周波数変調器の使用。ナノ粒子とデザイナー・バイオケミストリー。神経細胞増幅技術。

1920年代に、神経細胞が電磁誘導によって影響を受けることが発見された。この技術はそれ以来、政府の研究所で開発されたため、最高機密として厳重に保管されてきた。現在のところ、うつ病の治療や統合失調症の患者の声を鎮めるためのツールとしてだけ、各大学で研究されている（イエール大学、ペンシルバニア大学）。人体実験はすでに1960年代には行われていたのである。テレビシリーズ『アウトター・リミッツ』では、マインドコントロール、人工テレパシー、邪悪なエイリアンの実験がほとんどすべてのエピソードで取り上げられている。その教義の理想を守るために死ぬ覚悟でいる国の政府による大逆罪や裏切りに直面するより、邪悪なエイリアンというアイデアを扱う方が、人々にとって単に容易なのだ。大衆メディアを通じたマス・プログラミングは今日まで続き、これらのハイテクの心理実験は、邪悪なエイリアンの秘密の陰謀のために行われているという考えを植え付けたのである。

私は、一般の人々には理解できないことが多いこれらの技術の科学的な詳細を避けるように最善を尽くしてきた。しかし、この際、世界最大の謎を解く手がかりを集めるために、虫眼鏡を使ってその詳細を調べなければならないのだ。今回は、「選択」という心理物理学の

用語を精査する必要がある。「選択」は、神経細胞が脱分極する瞬間に起こる。脱分極が是認されるかどうかは、ヒロックでのシナプス電位の総和で決まる。

この「選択」の瞬間を変えるような電磁力の影響を受ける生物学的メカニズムは数多く存在する。神経伝達物質の放出、膜を横切る電位、コンダクタンスを担う細胞膜上の電圧感受性オルガネラ、あるいは生化学的メカニズムにおけるあらゆるイオン電流の流れに影響を与えれば、望ましい神経影響を実現することができる。生化学的な増感剤は、これらのメカニズムにおける電磁気の影響力を増大させることができることを忘れてはならない。神経細胞と心の情報構造全体に影響を与える鍵は、電磁波信号のパルスのタイミングにある。タイミングを決定するためには、一般に脳波プローブだけでは不十分である。選択する瞬間に、構造全体を通して、各ニューロンが次のニューロンと相互作用するタイミングを正確に計る必要がある。それゆえにある電磁波エネルギーで誰もが発作を起こすわけではない。各個人に特有の信号の情報のコヒーレンスにおいてのみそれが重要なのだ。

人それぞれ軸索の長さが違うので、外部からの電磁波の影響を増幅するタイミングが違うのだ。これが、世界中の人々に最大の効果をもたらすために、増え続ける TAMI のデータベースを管理しなければならない理由である。神経細胞のシナプスは、メデューサの頭に例えられる。ニューロンの本体からたくさんの蛇が飛び出しているように見える。この科学を直接見つめないように注意しないと、石にされ、精神をゾンビのようにされてしまうかもしれない。

特定の周波数とパワーレベルによる神経伝達物質の放出

そこで、議論のために、私が本書の付録として掲載した空軍の資料が真実であり、極秘兵器の偶然の誤分類に見せかけたものではないとしよう。また、ロシアの電波・電子研究所の文献も真実であるとしよう。そして、神経伝達物質の放出は、特定のパワー吸収と特定の周波数下で起こる。ニューロンの増幅を引き起こす脳波ヘテロダインは、このような方法で行われる。

なぜ、世界中で特定の人々が選ばれ、果てしない拷問や殺人の対象となるか。指向性エネルギーはスタンフォード大学のガンマナイフのように機能するかもしれない。いくつかのパワーパルスの交差点でのみ、神経伝達物質の放出が起こる。おそらく、ある種の人々がスパイとの通信に使用される許容感度を超えており、そのために抹殺される必要があるのだろうか。もしかしたら、誰もが特定のプログラムによって監視されており、「サイキック」として分類される人々は、あまりにも敏感になりすぎて、他の人々のための監視信号なりプロ

グラムを拾い始め、そのために駆除、ないし精神工学的に投獄されなければならないのかもしれない。

売国奴たちがなぜこのようなことをするのか、その根拠は推測に過ぎないが、自由という幻想は崩れつつある。どんな幻想も 100% 封じ込めることはできない。もしかしたら私たちは、統合監視ネットワークで「千の光点の一つ」として選ばれ、国防総省の所有物になっているのかもしれない。過去に何度か行われたように、議会が別の独立した調査を命じれば、文書は細切れにされ、臆病者たちは物陰に逃げ込むことだろう。世界中のすべての国が立ち上がり、もう十分だと言う必要がある。私たちがマインドコントロール兵器で家畜のように一匹ずつ摘み取り、政治を操り、戦争を仕掛けて、そのマシンが癌のようにこの惑星で成長するのを正当化することは許さない。多くの人々、この基本的な調査を受け入れがたいだろう。しかし、そのことは真理を損なうものではない。教養のある人たちは、少なくともその信憑性を理解し、時間があればさらに調査することだろう。

要するに、エネルギーを正しい出力レベルに導き、パルスのタイミングを状態依存の時間シケンスにあるシナプス伝達のための個人の認知モデルに合わせるのだ。なぜ、学者にとってこのコンセプトが理解してエイリアンの研究に追いつくのが難しいのか。

脳を読む人工衛星と電離層ヒーターレーダーフィールド

電力密度と測定器の感度を知るために、20 マイル離れた FM ラジオ局が 50 キロワットの電力を発生していると考えてみよう。受信機は $2.1 \times 10^{-5} \text{ W/m}^2$ を測定するだけである。あなたのカーラジオはこれを受信し、復調し、増幅して聴いている。10m のハインリッヒ・ヘルツ望遠鏡のような 1 テラヘルツのサブミリ波ラジオアンテナは、地球の大気を通して 10^{-26} W/m^2 の典型的なラジオソースの強度を見ることができるのである。

あなたはまだ RADAR の脳内共振が衛星ラジオ望遠鏡で読み取れないと信じているのか。

電磁波センシングシステムの仕組み

HAARP、GWEN（地上波緊急通信ネットワーク）、携帯電話の電波塔、ロシアのウッドペッカーなど、地上のネットワークでもこのマインドリーディングとコントロールは可能だが、地球規模では不可能である。地球を周回する何百ものスパイ衛星とリモートセンシング衛星、そして何十もの巨大な電離層フェーズドアレイフィールドによってのみ、地球全体を

指向性エネルギー兵器とその一部であるマインドコントロール兵器でカバーすることができるのだ。

送信機のフェーズドアレイを使った操舵可能なビームを想像してみよう。これは可動部品が必要ないことを除けば、レーザー光線ショーのように鏡を使ってレーザー光線を偏向させる機械的な方法と似ている。このフェーズドアレイからのビームと協力するすべての衛星ビームの強度は、1つのスポットまたは多くのスポットに同時に収束させることができる。この指向性エネルギーの強度は「放射線対策」シールドの中にないどのような電子機器を破壊するのに十分であると思われる。それは人を加熱するかもしれないが、その熱効果のみで瞬時に殺せるとは私は信じない。そうでなければ、92年にサダム・フセインが生物通信指向性エネルギー兵器による拷問に不満を漏らすことはなかっただろう。彼は、私たちと同じように焼かれたのだ。その拷問は、精神抹殺を通じてあなたを殺すことができないなら、怒らせるだけだ。私たちがフセインにそれを使った後、彼とはまた別の戦争をしなければならなかったことを思いだそう。欧州議会は「非殺傷兵器と精神制御兵器」全般についてコメントし、戦争を扇動し暴力を増大させるだけだから禁止する必要があると述べている。米国は、いかなる条約への署名も拒み、自国民にもそれらを知らせない。政府が言うすべての嘘を自由に信じることができる、自由の国へようこそ。

半球に配置の衛星網や、電離層で反射された地上数キロのアンテナフィールドは、タイムスライス方式や逆フーリエ変換の計算で、同じ強度と周波数を他の多くの人に与えずに、同時に多くの人を攻撃することができる。すべてのセンサー・システムは、1つのアンテナまたはフェーズドアレイとして機能するように統合されている。これにより、繋がれたシステムは、シールドされた構造物の弱点を見つけるために、ほとんどあらゆる角度からエネルギーを方向転換させることができる。マレックの特許には、10メガヘルツから40ギガヘルツの周波数がマインドリーディングのレーダーに使えると書いてあったのを覚えているだろうか？これは非常に広い範囲であり、さらに高い周波数に及ぶ可能性がある。

周波数が異なれば、材料や構造を透過する能力も異なる。フルスペクトルレーダーは、カメラからの白色光のフラッシュのように、すべての周波数にわたって広帯域のピングを送信し、エリア全体のすべての反射信号を記録する。人はそれぞれ、吸収する周波数とセンサーアレイに返す周波数が異なる。これによって、誰もが一意に識別されるのだ。自己相関の技術に基づいて、ターゲットの脳波を最適に変調させるために、フェーズドアレイアンテナから放射される最適なルートと周波数を決定することができる。あらゆる周波数や経路を使ってシールドやバリアの弱点を見つけることで、個人をターゲットにした神経系攪乱装置に対する防御策はほとんどないだろう。ダン・ラザーが指向性エネルギー兵器による拷問被害者に殴られたとき、彼らは「ケネスの周波数は何だ」と問い続けた。

誰もが、非合法的な CIA や国防総省が拷問に使っている周波数を探しているが、100 万ドル以下の予算では、それを特定するのはほぼ不可能だ。特に、彼らがこのような大きなスペクトルでナローバンドやブロードバンドを使用できるのであればなおさらだ。特許では、パルス波や連続波が使えるとされている。周波数ホッピングでパターンを目立たなくしたり、決定論的な広帯域ノイズで情報のコヒーレンスを非道に隠したりする工夫は容易だろう。その上、周波数ホッピング方式に変調された脳波を誰が認識するだろうか。私たちは電磁エネルギーを浴びているが、私はまだ、全スペクトル用の無響室がうまく作られたのを見たことがない

{衛星のエネルギーが合衆国の多くの点にあたる図}

{シールドを貫通する図}

スカラー波には、他にどんなメリットがあるだろうか。電磁波のエネルギーが表面で吸収されないので、物質をより透過することができる。電磁波は、さまざまなパラメータによって、どんな物質に対しても、反射、散乱、吸収、透過などすることを忘れないで欲しい。完全なスカラー波はその素材内で吸収されないだろうから、高エネルギー・レーダーにより、より深く透過することが可能になるだろう。これを地中探査レーダーと呼ぶ人もいる。

{周波数ホッピングする脳波エンコーティッドパルス波の図}

なぜ「スカラー波」の検出が難しいのか。それは純粋なフィールドポテンシャルとして存在し、これを重力波と呼ぶ人もいる。干渉の発生源を分離特定するには、十分な解像力を持つ電波望遠鏡が必要である。情報工作者やニコラ・テスラ狂が「フリーエネルギー」マシンと呼んでいる、地球監視システムが私たちの惑星を浴びせるスカラー波エネルギーを抽出しようとする技術もある。人間が吸収する余分なエネルギーは、がんのリスクを5%増加させるだけだとされている。エイリアンどもが私たちが監視し、「保護」する一方、毎年何人の人を殺しているのか計算してみたい。

これがスカラー波がどのようなものを示す図だ。

{人が相殺的干渉電磁波の中にいる図 }

そこで、「エネルギーセンサーは干渉縞の中の物体を拾うのか」という疑問が生まれる。1つの光源だけなら、そうなる。物体との相互作用がなければ、この方法で固い物体を突き通すことができると思う人もいるかもしれない。もしスカラー場が遮蔽物を突き抜けること

できれば、これは長距離の量子トンネル効果になる。これは、民間防衛のために科学界にとって未だ解決していない問題だ。

これは、多くの偽情報屋が科学界の人々を混乱させている極秘の「スカラー」兵器の基礎であり、容易には発見されずに人々を精神的に追い詰め、静かに暗殺するための基礎なのだ。

だから答えは、あなたが自分で発見するために残しておこう。レーザーを入手して、ビームが完全に相殺的に干渉しあうマイケルソン干渉計を作る。その経路にフォトダイオードを置くか、フィルム片を置き、何が起こるか見てみよう。次に、完全に相殺的な干渉路に薄い黒いフィルムを置き、その後ろの異なる点での強度を測定する。そうすると、波が平均化されて存在しないように見えるのに、光子はシールドを突き抜けることができるのかどうか分かる。ステルス的だね。

これが、私たちの直感的な感覚を惑わす波動と光子のパラドックスだ。

TAMI のインターフェース

TAMI のインターフェースは、オペレーター用に3つの画面を備えている。マウス、キーボード、あるいはタッチスクリーンの代わりに視線追尾を使用している。TAMI のオペレーターは、スクリーンのある場所を一瞬見るだけで、あとは X-Windows を使ったドロップダウンメニューシステムによって、見るだけで選択肢を移動することができる。これは、非常に効率的な操作方法である。開発者は音声認識も試したが、隠密性に問題があることが判明した。

また、視線追尾システムは、彼らが指をずっと叩いていると、脳波クロンの対象者が自分の身に起こっていることをすぐに理解してしまうという観点から必要なものだ。そうではなく、余計な目の動きは、心理学界の戦略的情報工作員によってすでに隠蔽されている。私は、統合失調症の人は非常に珍しい余分な高速眼球運動をしているという論文を見つけた。よくできた工作員だ。

左の画面には、オペレーターの脳の周波数エネルギースペクトルがターゲットのも隣に表示され、その下に結合されたものが表示されている。中央の画面は拷問やその他の脳変調のシナリオを選択するために使用される。3番目の画面は作業スペースで、先に説明したサイキック訓練ゲームや、真実発見器の脳波分析プログラムに使用する。

{表表紙のスクリーンショット}

シングルサイドバンドのヘテロダイン UHF ビームを用いた、強力かつ指向性の高い ELF (極低周波) 磁界・電界の形成

{UHF 波が一点に届き指数波振幅を用いてより長い波形を作り出している図}

バカなエイリアンのトリック

私たちはたくさん科学を取り上げた。しかしこの兵器システムの存在に対する疑念を払拭するため、それは乗り越えなければならなかった。では、先に進み、この兵器が社会に及ぼすより重要な影響を見る。少し休憩して、愚か者たちが私たちを楽しませてくれるのを鑑賞しよう。

「頭を潰して腹を殴るぞ」と作業員は言う。私は頭に圧力がかかり、腹に吐き気をもよおす。彼らは私に「強く握りすぎたから自分の頭が痛い」と言う。他人を傷つけるために自分を傷つけるような馬鹿なエイリアンが、どこにこんなにいるだろう。彼らの心ない従順さがどこから来るのか、ひとつ想像してみよう。

「スカラー」兵器 - 高周波指向性エネルギー兵器をヘテロダインすることによる高強度の ELF 磁場と電場の形成

これは、見ているとなかなか驚異的なトリックに思える。それは、コンパスの針を回転させたり、電圧勾配を作り出すのに十分なエネルギーを、極めて低い周波数で、一見何もないところから作り出す能力である。私たちは直感的に、このような磁場や電場の強さを作り出すには近接場の物体が必要だと考えるが、巨大な「電離層ヒーター」フェーズドアレイフィールドを使えば、この偉業を達成することができる。プエルトリコとブラジルのそれは、バミューダトライアングルでほとんどの船や飛行機が失われた期間内に運用されており、その影響範囲内であった。

前世紀に、50 隻以上の船と 20 機以上の飛行機が、悪魔の三角形、バミューダトライアングル、疫病神(Hoodoo)の海として知られる地域を航行し、忘却の彼方へと消えた。悪魔崇拝カルト、あるいは海軍兵器テスト隊は、長い間、自分たちの船や民間船で戦争演習を行いな

がら活動してきたのだ。

「スカラー」指向性エネルギー兵器がコンパスの針を回転させることができると私が信じている方法を紹介しよう。ゴースト（皮肉で言っているが）による最も激しい攻撃の間、彼らは実際にいくつかのコンパスの針を 360 度回転させた。私が家の周りに「ホール効果」の高感度磁気センサーを設置し、24 時間磁場を記録するようにすると、彼らはこのトリックをやめるようになった。コンパスの針が真北から 45 度で、およそ 0.3 ヘルツで 10 分間振動している映像を持っている。

よりよく把握するために、モデルを単純化してみよう。電離層から非常に強い UHF ビームを跳ね返して、近所の小さなブロックほどの大きさのエリアで交差する 2 つのビーム制御フェーズドアレイフィールドから 2 つのビームを作った場合、およそ 10 ギガワットのエネルギーが使えることになる。高周波数では狭いビームしか作れない。低周波のエミッターは、非常に広いビームを作る。これは音波でも同じだ。しかし、高周波を精密に打ち消せば、非常に低い周波数を持つ混合した、またはヘテロダインされた交点を作ることができる。これは、指向性超音波ヘテロダインングサウンドプロジェクションが、隣の人に聞こえないように、ある人の頭の中に音波で声を投射するために行われる方法である。

一方の高出力 UHF ビームには超低周波の情報が含まれ、もう一方には低周波成分を含まない同じ UHF キャリアが含まれているが、交点で位相が 180 度ずれているのだ。その結果、超低周波で高強度の磁場と電場が空中から現れたような、方向性のない、つまりスカラー場が残される。しかし、実際には方向があり、それが簡単に測定できないだけである。もし飛行機が、まだレーザージャイロスコープではなく、コンパスを使って飛行していたら、飛行機は方向感覚を失ってこのように墜落し、船はコースを外れるかもしれない。しかし、バミューダトライアングルは、GPS やジャイロスコープを使った航法装置が一般的な計測方法になってからは、人命を奪うことはなくなったようだ。もちろん、GPS の信号もこのような信号攻撃で騙される可能性はある。ジャイロスコープは、このような指向性エネルギーの攻撃には強い。

大学レベルの物理学の良問として、計算は読者に任せることにする。地球の自然磁場 0.5 ガウスに対抗するために必要な電力は、近隣のブロックではどのくらいか。それを変調した高強度の UHF 信号の低周波電力成分を求めよ。いわゆる電離層ヒーター・フェーズドアレイ高出力指向エネルギーフィールドの上限に十分収まることがわかるだろう。さらに上級者は、自分でマクスウェル方程式を書いてみよう。その際、有限差分時間領域 (FDTD) の数値近似法を用いるとよいだろう。上記のようなシミュレーションを実行してスカラー干渉をシミュレートし、これらのパワーレベルでそれが可能であることを自分自身に納得させ

よう。

75ワットの電力を集めたトーマス・ベアデン大佐の重力波「フリーエネルギー」装置が100%の効率で、上から見た頭と体の面積に相当する1平方フィートの重力波収集皿を使用したとしよう。つまり、人を通過するスカラー散乱レーダーの平均エネルギーは、1センチメートル四方あたりおよそ70ミリワットということになる。これは偶然にも、ロシア大学の論文で、神経細胞群の発火を変化させたと書かれている範囲と全く同じだ。そしてプロの物理学者は、既知のノイズ背景と HAARP サイズのアンテナフィールドがある場合、生体電場を読み取るために、1センチ平方あたり70ミリワットの強度のレーダービーム下で単位面積あたり何クーロンのジャイロ同期電子が必要かを推定してほしい。次に、この監視技術が無効にするには、どれだけの電子をどれだけの割合で揺り動かす必要があるのか。プラズマの研究が NASA や国防高等研究計画局で盛んな理由がわかるだろう。

これは、人工衛星が同じトリックを行うことはできても、ソーラーパネルから継続的にそのような電力を発生させることは困難であるという非常に良い証拠となる。これは、毎年これらのシステムによって拷問を受けている何千人もの人々にとって非常に良いニュースである。詳しくは、反精神工学理論のセクションを参照してほしい。つまり、殺人信号には正確な方向があり、それはあなたの位置から電離層レイをトレースして、4つか5つの指向性エネルギーアンテナ場（別名、超水平線レーダー）に戻ることによって計算できる。これらの方向が、「電気に敏感な人々」にとって、神経系攪乱物質や、監視システムの副次的効果を弱めるために遮断したい方向だ。

スカラー殺人信号を隠蔽－レーダー傍受確率の低さ

スカラー波は、どこからともなくやってくるように見えるだけでなく、キャリア周波数は決定論的広帯域ノイズと呼ばれるものになることがある。決定論的広帯域ノイズとは、例えば HF-UHF のような広いスペクトルのある帯域幅で、ノイズのように見える信号のことだ。一様ランダム分布関数から計算される。これは決定論的で、非常に複雑な関数であり、本当のランダムノイズのように見える。オシロスコープやスペクトラムアナライザーを見ているアマチュア信号解析者には、通常のノイズのように見えるだろう。バックグラウンド・ノイズのレベルはほんの少し高くなるが、ほとんどのアマチュア無線技師はバックグラウンド・ノイズの絶対値を測定しているわけではない。

この非常に複雑な広帯域搬送波は、とにかくスカラー波と交差する地点で打ち消されてしまう。このように、信号の搬送波をノイズで隠し、信号の方向と搬送波周波数をヘテロダイ

ニング相殺的干渉、つまりスカラー波で隠すことができるわけだ。

逆もまた真だ。指向性エネルギー波面の交差点で、高周波のコヒーレント信号を作ることができ、周波数源の追加によって帯域幅を広げられるだろう。これも、いくつかの決定論的な広帯域ノイズ信号のキャリアの組み合わせになる可能性がある。もし一つの信号が傍受されても、ノイズのように見えるだろう。多くの信号源の交差点でのみ、メッセージは解読され、正しい時間、位相、振幅で到着する信号の追加によって、自動的に解読される。つまり、の攻撃信号の帯域幅の上限は、3つか4つのレーダーフィールドを足した角度で電離層に跳ね返すことができる最大周波数になる。

スカラー干渉型ステルスレーダー (Scalar Interferometric Stealth RADAR) - 別名、散乱レーダー

傍受確率の低いステルス散乱レーダーとは、どのような仕組みか。

スカラー散乱レーダーを理解するために、2つの事実を覚えておく必要がある。光子は90度の角度で表面から反射し、飛行中に他のタイプの光子に変換されることはない。ただしもちろん、空間の拡張や収縮といった相対論的效果によるドップラー偏移もしくは収縮と移動物体からの反射を除いて。コヒーレントな2つの単色光子を位相が180度ずらしてその強度の差はほとんどなく照射すると、電磁場の合成という観点から交差する経路での測定可能エネルギーはほぼ0になるが、光子は依然として存在し、その飛行は継続と反射は存在し、それは位相角フィルタリングによって、あるいはビームがもはや交差しない距離のところで適宜読み取られる。この技術は、追跡者のロックができ、ターゲットの位置が既に判明している場合に特に有効だ。飛行時間フィルタリングとドップラー変位を使用して位置を更新することで、低検出確率のレーダーイメージング技術の精度を向上させることができる。建設的干渉の逆モードでは、交差するすべてのビームの強度が加算され、物体へのエネルギー伝達が最大化される。

これがマインドリーディング RADAR とどう関係するのか？ロシア人がモスクワのアメリカ大使館で初めて散乱レーダーを使用した。脳共鳴の変化と電子スピン共鳴を収集するために使用されたマイクロ波は、フェーズドアレイからのスカラー波であった。マイクロ波エネルギーはまだ検出可能で、完全なスカラーにはほど遠いものだった。しかし、測定可能なマイクロ波エネルギーは、脳波の変調に必要な影響信号であったかもしれない。建物に偏向スクリーンを設置すると、実際にエネルギー測定値が増加した。これは、交差する2本のビームの一方の経路を遮断すると、一方のビームの全エネルギーが測定され、壁を貫通して

個々の経路に分離したスカラーエネルギーが閉じ込められるからだ。スカラーからビームの経路が分離すると、エネルギーは壁や窓を通り抜けることが難しくなる。

人工テレパシーとマイクロ波聴覚効果

この人工テレパシーとマイクロ波聴覚効果という 2 つのコミュニケーションモードには、実は微妙な違いがある。マイクロ波聴覚効果は、イリノイ大学のリン博士によると、脳をわずかに過熱し、内耳に圧力波を生じさせると考えられている。また、聴覚神経を刺激するとするものや、聴覚野の脳細胞をマイクロ波で刺激するとするものもある。ここが人工テレパシーとのクロスオーバーポイントである。

マイクロ波聴覚効果は、ブレインマッピングの過程でよく使われる。言葉を刺激して聞かせ、その言葉によって引き起こされる脳全体のパターンを自動マッピングソフトウェアが記録する。つまり、言葉の意味が音にマッピングされるようになったわけだ。人工テレパシーは、音声皮質への直接刺激と脳間のコミュニケーションのための単語連想の脳領域の両方を用いる。その方がより正確に、より効率的に、誤解なく、考えや思いを伝えることができる。マイクロパルス波によるオーディオグラムは音として聞こえるが、通常は背景音がないと聞こえないため、背景音の発生源がパルスオーディオグラムの発信源であるかのように錯覚してしまう。

私が EEG ヘテロダイナミクス実験の無給の品質保証エンジニアであった期間、内声やマイクロ波聴覚伝達なしに、言葉の意味に基づいた純粋な思考コミュニケーションを実現することができた。他人の心にそこまで近づけるのは不気味である。異なる言語を話すと、他の集合意識の参加者たちや文補完ソフトウェアが混乱するが、マインドマッピングが十分達成されていれば、言葉は概念や意味にマッピングされ、それらは伝えられるので、思考読み取りを完全に妨げるわけではない。（「約束の地」の章にあるユニバーサル・トランスレーターの概念を参照）。

“+++++ http://www.thewe.cc/contents/more/archive/sound_as_weapon.html+++++

「マイクロ波聴覚効果によるコミュニケーション」は、国防総省の中小企業向け契約のタイトルである。

コミュニケーションの初期の成果として 低出力と高出力の両方のシステムを使用することで、「コンセプトの実現可能性が確立されている」。

このプロジェクトの結果について情報公開法（FOIA）を請求したところ、空軍側は「国家安全保障に損害を与えることが合理的に予想される」という理由で拒否した。

空軍はこの情報公開を拒否したが、このような契約の目的は、空軍の「New World Vistas (新世界展望)」という報告書によって詳しく説明されている。「それはまた、人体に忠実な音声を作り出すことも可能で、秘密の暗示や心理的な指示を与える可能性も出てくる。パルスストリームを使用すれば、5~15 キロヘルツの範囲に内部音場を作ることができるはずで、これは可聴である。

こうして、選ばれた敵を最も不安にさせる方法で「話しかける」ことができるかもしれない。

生物学的電磁場研究で2度もノーベル賞にノミネートされるほどの高名なロバート・O・ベッカーは、秘密の使用に関して明言している。「このような装置は、ターゲットを "声" で狂わせたり、プログラムされた暗殺者に検知されない指示を与えるための秘密作戦に明らかに応用できる」

マイクロ波音声伝送非殺傷兵器は、軍事教練のウェブサイトである Center for Army Lessons Learned のシソーラスで言及されている（類似のリストである「サイレントサウンド」デバイスの議論については後述） 19

非主流派の意見を掲載する雑誌の記事には、1993 年のジョンズ・ホプキンス主催の非殺傷兵器会議でのデイブ・モーガン博士によるマイクロ波内声装置のデモンストレーションの詳細が書かれており、ロッキード・サンダースが製造し、CIA がこのプロセスを「音声合成」あるいは「人工テレパシー」と呼んで使っている。

非常に低い磁場レベル（1 μ トル）で頭部に印加された話し言葉の電磁シグネチャは、印加された言葉の感情の次元に沿って言葉の選択に大きな影響を与える。

マイクロ波聴覚効果に触発されたとはいえ、この報告は直接的に聴覚で聞くことについてはない。

このような影響はたとえ弱くても、大きな集団における集団決定の方向を変える可能性があることを示唆しており、集団に対するより限定されない電磁気の影響の可能性について、著者は以前に詳しく述べている。

+++++

動物によるサイキックスパイ

海軍は 40 年代以前から、イルカを自爆テロ用に訓練しようとしていた。イルカは静かに泳ぐ。イルカに爆弾をつけ、敵の潜水艦やボートに接近させることが目的だった。今は、サメを完全に遠隔操作してこの芸当ができるそうだ。ところが、ある EEG クロウンの民間研究者は、他人の脳波を磁気コイルで増幅し自分の脳に注入した。彼の視界にはフラッシュライトのような明るいスポットが見え、そこではクロウンされた被験者が明るいスポットライトを動かしているのが見えたという。この実験中、彼は本当に動揺していた。もう二度とやらない、と彼は言った。彼はイルカを使った EEG ヘテロダインの研究を始めた。私が追跡できたのはこれだけである。

さて、興味深いことに、『ニューロサイエンス』誌に、猫の脳に電極を埋め込み、視覚野を解読し、コンピューターの画面に猫の視覚を表示することができたと報じられている。動物の視覚野を使えばスパイ活動もできるというのは、論理的な推論だろう。他の種の心を人間にマッピングしてみたらどうなるのだろうか。もしそれを試して、他の種が感じていることを感じる事ができたら、私たちはみんなベジタリアンになるかもしれない。そうでなくても、胎児を含むすべての種に意識の尺度を適用することは可能だ。そうすれば、私たちは何を良心の呵責なく殺せるかについてどのような線引きするか、十分な情報を得た上で決断することができるだろう。

死の医師たちと呼ばれる人たちは、子供と猿の間にサイバーリンクを埋め込むという実験を行った。猿が子供の心を認識し、子供を檻に入れたときに落ち着くかどうかという実験である。実験は失敗し、子供はすぐに殺されてしまった。国防総省が出資する死の医師たちがこのような研究を通じて、動物をコントロールし、その心や目を通して見ることに強い関心を抱いていたことは明らかである。

スターウォーズと SPAWAR

政府内の宇宙紛争を戦略的に扱う部門は SPAWAR と呼ばれ、スペース・ウォーズを短縮したものである。多くの人が SF と呼ぶものを、私は現在の科学的事実として知っている。ロシアがモスクワのアメリカ大使館に対して何をしたのかを DARPA のトップの科学者が解明するのに 5 年近くかかった。明らかに、最高の科学者は国防総省のために働いていない。

先に、兵器マーケティング部門による「スカラー波」と呼ばれる相殺的な干渉波に関する偽情報キャンペーンを説明した。このことを心に留めておいてほしい。

アインシュタインの伝統にのっとなって、いくつかの思考実験を試みよう。そこで、問題を言い換えてみよう。2つの波面が測定点で相殺的に干渉する場合、相殺的な縁が2つの干渉波から測定されているかどうかを判断できるように、どのようにして光子を分離することができるだろうか。通常の測定器では、電場も磁場もゼロと読み取られる。

ピンホールカメラを使えば、光線の1つの経路以外は遮断され、単一のエネルギー源であることが明らかになる。凸面鏡を使えば、信号が分離され、非常に小さな入射角が増幅される。これが「スカラー」検出器、または散乱レーダー検出器である。具体的な設計は読者にお任せする。

もう一つの方法は、電波望遠鏡から電波源を見ることで、まさに分かれたエネルギー源を分けてピンポイントで特定するために必要な解像度を得ることだ。このためには、非常に大きなアンテナが必要だろう。国家が星を見るために私たちがそれほど多くの投資をしている理由がこれだろうか、とってしまう。ピンホール撮影の技術を使ってスカラーエネルギーを解決するのは難しいかもしれない。周波数が変わると穴の位置が変わってしまうという問題がある。しかし、これが干渉縞（スカラー重力波）を「フリーエネルギー」に変える方法の基本的な考え方だ。

このような技術は、ロシア語の翻訳文書を調べればすべてわかるが、逐語的な翻訳では多くのアイデアが失われてしまう。言語間の翻訳の誤差を理解しないと、発想のニュアンスが伝わらないのだ。

それらのすべての嘘とプロパガンダは、私たちがおそらく心理戦、つまりプロパガンダを通して、民主主義と自由のために戦っていると錯覚しながら、フォースの暗黒面のために戦うように説得されているのではないかと思わせるのである。

美は見る者の目の中にある

CIA のマインドコントロール実験について詳しく説明しすぎかもしれないが、特に興味深かったのは、どんな画像や形が魅力的だと感じるかを判断できるということだ。一連の人物を見せると、脳波の反応によって、誰が魅力的だと感じるかを判断できる。これは、諜報員を使って情報を引き出したり、親密な関係を築いて信頼を得ようとする場合に有効かもし

れない。面白いことに、CIA の諜報員が普通に持っている特徴の一つは、平均以下の容姿だと言われた。普通の人、平均以下の容姿の人のことを覚えなかったり、見つめたりしないので、任務の隠密性が高まるという心理的な利点があるそうだ。ジェームズ・ボンドやミッション・インポッシブルのような華やかさは、実はあまりない。

より高度なマイクロ波聴覚効果のトリックの1つ

音声投射の位相角セグメンテーション

スピーカーの周りを大勢の兵士が取り囲んで電波障害音を聞いているとしよう、電子戦用のジャマーによって意図的に不明瞭にされ、わずかにしか指令が聞こえない。このとき、スピーカーに対する聞き手の角度は1人1人異なる。するとスピーカーから聞こえてくる命令を、1人1人違うものにすることができる。超能力兵士によって、何を聞いたかについて言い争わせたり、全員が無秩序に間違っただけをできるように仕向けることができるのだ。これはどのように行われるのだろうか。

私は丸一日中この技を実演され、その時はそのやり方に色々な違った説を考えたが、腹話術や手品がこの方法で行われていることは確かだ…

拷問の気晴らしとして私に行われたのは面白いスパイ・ゲームで、それは見たこともないような暗号化されたメッセージだった。私は DES やその他の暗号技術の解読方法を勉強したが、人間の心のハッキング技術はこの自らの試練以前に実際に体験したことはなかった。政府の秘密研究所では、暗号の鍵は彼らの最高の復号機でだけ解読できるように頻繁に変更される。人間の脳はその暗号を変えられないので、一度解読されると、永遠に TAMI のデータベースとネットワークの一部となるのだ。心にファイアウォールはない。

どんなノイズを使用しても、その音源からの特定の周波数を増幅することができる。つまり、音声パターンをノイズソースにエンコードするのは、その音声の周波数を増幅する神経回路のタイミングの問題なのだ。FBI での事件の調査及び、政府実験の被験者たちへのインタビューによれば、どんなノイズソースでも使用できることは明らかで、個人の脳の増幅具合によってはノイズが必要ない場合もある。冷蔵庫やライスクリスピーが被験者に語りかけるといった証言もある。私へのデモンストレーションでは、レインメーカー/ホワイトノイズ発生器を作動していた。そのスピーカーは1つだ。

メッセージは複雑で、パターン化され、繰り返されるものだった。詩的な表現で4つの単語

が繰り返され、それが10セット繰り返されるのだ。

そのフレーズとは、「知事に相談せよ」。「コーヒーを持ってくる」。「私は秘書です」「さあ、地方幹部会を育てよう」「デュカキスはハーバードに行った」「彼らの宇宙論部門に入りなさい」私はスパイではないので、このゲームは退屈になり、陰謀調のたわごとに嫌気がさした。私はその場から立ち去った。ノイズ源から3メートルほど離れると、メッセージは「戻って来い！」になった。すべてコンピューターで作られたものだった。その後、彼らは陰謀ゲームについて説明した。メッセージの基本的な要点は、国防長官がこれらのプロジェクトを命じたということだった。あなた方にできることは、知事に文句を言うことだけだ。

マイケル・デュカキスには大統領選に出馬するチャンスがあるかもしれないが、ケネディ暗殺の陰謀とマインドコントロールの側面をよく知る人は、デュカキスの大統領選出馬が、この指向性エネルギーマインドコントロール兵器を使って妨害されたことも知っている。つまり、政府を変えようとしても無駄であるというメッセージなのだ。当時は、宇宙学科に入るようにというメッセージは完全に理解できなかった。それは、これはすべてスターウォーズの技術によって行われているということで、そしてステルスレーダーは電波望遠鏡でなければ解像できないスカラー波を使っているという手がかりである。

音源を回転させたり、装置の周りを歩いたりすると、音源に対する頭の向きによって、異なる4単語のメッセージを聞くことができた。本当のメッセージは、1つの単語を発した後、左から右に歩くことでしか聞くことができない。4つの分割された位相角に異なる単語セットがつき、それぞれに再生される。しかし、本当のメッセージは、おのおの分割された位相角の中を順番に単語列を追っていかなければ解読することができないのだ。本当のメッセージは、各セットの単語列の対角線上の数個に暗号化されていた。これは単なるスパイゲームで、メッセージ自体は関係ない。ただのテストだった。

では、このトリックの背後にある科学を見てみよう。目を閉じて、自分の環境に耳を傾けてみてほしい。すべての音の位置と方向を特定することができる。あなたの脳は、音がどこから来るのかどうやって知るのだろうか。コウモリは、音に基づいて物体の位置を特定するのが非常に得意だ。私たちは聴覚野に一種のソナーを内蔵している。音質と鼓膜に当たるタイミングの違いだけで、脳は音源が何でどこにあるのかのモデルを作る。現代のサラウンドサウンドシステムは、この科学に基づいて仮想スピーカーを作り出し、全方向から映画に没入しているような感覚を実現しているのだ。

聴覚に関連し、脳の基底部分で統合された脳波を分析することで、知覚された音源の方向を判断することができる。耳の後ろに脳波プローブを置く従来のBAER聴覚検査では、こうし

た神経経路を拾い上げることができる。信号解析から、音源の位相角を求め、グループに区分する。優勢な音源は容易に特定され、どの位相角のセグメンテーションに分類されるかによって、コンピューターで生成された異なる音声メッセージが神経的に増幅して変調され、それによって周波数が知覚されるのである。これが、多くの人に演じられる腹話術の核心である。

偽のノイズや声を確認させ、持ち場を離れさせるために、音声投射がどのように使われるかは、かなり明白である。

{音波がそれぞれの耳に微妙に異なるタイミングで当たっている図}

{脳の底部で収集され統合された脳波パターンの図}

{この位相差と神経細胞のタイミングによって、音の方向がどのように知覚されるのかの図}

心の錯覚

拷問を受け始めて2週間目になると、ほとんどの「プロジェクト」は交通事故か心臓発作で打ち切られると聞かされた。マイクロ波聴覚効果は衰弱させ、非常に気が散るが、実は私は、実験が起こる前にすべての実験を聞かされ、また実験中にどのように達成されたかを説明されたことが幸運だったと考えている。ほとんどの「プロジェクト」は説明されることなく、混乱したまま、あるいは死んでしまう。

繰り返される遠隔で心臓発作を起させる試みを生き延びた後、私は車の事故を通じたサイキック暗殺の試みに用心しなければならなかった。自動車暗殺の方法には、被験者に催眠術をかけて赤信号で車を走らせたり、突然腕を振り上げさせ道路から逸脱させる、眠らせる、障害物や接近する物体を見るために心の目を見えなくする、などの面白みのない手段がある。

しかし、もっと過激で視覚的に刺激的な方法は、1970年代初頭にベッカー博士がニュースで取り上げていた。彼は、この技術を使えば、飛行機のパイロットを墜落させるために視覚的な知覚エラーを作り出すことができる、などと言っていた。JFK ジュニアの死もこの方法で引き起こされかもしれず、父親同様に同じ影の政府に暗殺された可能性がある。ダイアナ妃の死も、このような兵器によって引き起こされた可能性がある。あるいは、自然な知覚の誤りや判断ミスだったのかもしれないが。

いずれにせよ、夜のドライブで、対向車のライト、道路標識、遠くの家などを動き周り、前

景に現れたり、背景に現れたりする方法を見せてもらった。これは、サイキック攻撃者が暗い部屋にいて、相手の視覚野と強く同調することで実現するのだそうだ。そして、ピンポイントで懐中電灯を照らし、自分自身、つまり攻撃者の目の中で懐中電灯を動かす。すると、攻撃者側の脳信号がターゲットに送られ、ターゲットの視覚野は、視神経からの自分の信号と攻撃側の信号という 2 つの競合する信号の整合性をつけようとするのだ。もしあなたがこの本の表紙の秘密のメッセージを見ることができたなら、脳がどのように高次のパターンから奥の情報を抽出し、それぞれの目からのデータを不一致にすることができるのか、よく理解できたはずだ。あなたは超能力兵士になるための第一歩を踏み出したのだ。バカみたいだろう。でも効果的なのだ。

だから、私は彼らのテクニックに多少の改善を与えた。というのも、私の研究によると、彼らはこの 30 年間、あまり手法を変えていないからだ。私は非効率、無駄、創造性の欠如、進歩の遅さを軽蔑している。明らかに私には政府での未来はない。私は、ピンポイント・ライトの代わりにスライドやホログラムを使うことを連中に提案した。ホログラムやスライドは、天使やデーモンの顔のようなイメージにするといい。そうすると、対象者は脳が攻撃者と統合され、光源の中にそのわずかな像を見るだろう。そうすると、点光源ごとに魂や幽霊が道を通り過ぎるような、非常に不気味な錯覚を与えるだろう。映画『ポルターガイスト』のような効果が得られるはずだ。もしかしたら、彼らはすでに考えていたかもしれない。連中は、私が死んだ後の次のプロジェクトでこれを試してみる可能性に興味を持っているようだった。

{車のヘッドライトや道路標識に写ったポルターガイストの顔のスケッチ。攻撃側と目標側の 2 つの視点を重ねた画像}

バカなエイリアンのトリック

脳ハッキングの 3 日目、エイリアンはおかしな映像操作を披露してくれた。彼らは私の周辺視野に、ピクセル式の走っている人の影のアニメーションを入れることができた。道路にいる子供のかすかな影のイリュージョンを作り出したりした。この技術に不慣れな人は驚いてしまうかもしれないが、それができるのは魅力的で面白いことだ。

車の衝突事故をおこさせる幽霊の子供たちを描いたホラー映画が公開されたばかりだったと思う。幽霊はいない、ただ EEG ヘテロダイナ兵器の実験を行う影の政府がいるだけだ。視覚野のイリュージョンは、直感的に予想されるように、薄暗い照明の中でしか機能しないようだ。感覚刺激や情報が少なければ少ないほど、外部からの信号がニューロンに影響を与

えやすくなる。

私は、壁が開いて軍服の兵士や他の物が実体化した戦場が見えたと完全に信じさせられてしまったサイキック戦争の被験者にインタビューしたことがある。私の視覚野はそこまで上手にはマッピングされていないが、視神経から提示されるものと同じくらいリアルなイメージを被験者に引き起こすことができることはお分かりいただけるだろう。幽霊のような影を見るだけだった 70 年代から、技術は進歩したようだ。

機械の中の幽霊

電子戦の能力は非常に洗練され、あらゆる電子機器を誤動作させることができるようになった。軍の指向性エネルギー研究所は、コンピューターを再プログラムしたり、キーボードやマウスに簡単に影響を与えることができるよう、電磁信号を正確に誘導する方法を完成させている。脳にできるのなら、他の電子機器にもできるはずだ。ターゲットにされた人々のほとんどが、このような電子制御のテストを報告している。

あなたが見て信じるができるように、私の実際の驚くべき映像記録を保存しておこう。これらの能力は、車を停止させたり、データ・ドライブを破壊したりする EMP や HERF といった旧来の兵器をはるかに凌ぐものだ。軍のグレムリンたちは、無防備な市民に電子戦の演習で大混乱を引き起こしているのだ。付録にある、空軍の「真に未来的な」指向性エネルギー兵器を見て欲しい。おそらく EMP と HERF 兵器を電離層ヒーターと彼らのコンピュータ施設の上でテストし、わずかな混乱が、苦痛と「精神病」にある世界中の何千もの人々を癒すかどうかを見ることができるだろう。

もう一つの視点

抽象的に、地球の磁場を海に見立てて考えてみよう。磁場の中を移動すると、電磁波の後流が発生します。磁場の線に沿って移動する場合を除いて、磁場のプールの中でそれを浴びていると、すべての荷電粒子は運動に対する抵抗があるため、これを検出することができる。

電子サイクロトロン電流駆動と呼ばれる効果もある。これは通常、高エネルギー物理学の研究所で極端な条件下でのみ研究されている。しかし、それは神経細胞のイオンチャンネルに誘導される電流のメカニズムである可能性がある。マイクロ波と磁場があればいいからだ。

電離層信号の跳ね返りによるレンズ効果

地球の電離層は球状だ。このため、フェーズドアレイのビームは電離層で跳ね返され、地球上の一点に集光することができる。全内部反射は、光源からある角度でだけ起こる。自分がプールの中の水の中で上を向いているところを想像して欲しい。プールの縁に人が立っているのが見えるが、もっと遠くを見てみると、水面が鏡のように作用してプールの内部を反射しているのが見える。これは外側が真空の宇宙である地球の大気や電離層の働き方と同じだ。では、今いるプールが球状に湾曲しているとしよう。プールの外を見ると、人は小さく見え、鏡の部分は望遠鏡のように作用して、見る角度によってプールの中の小さな点が増幅される。反射の増幅は曲率によるもので、外の景色が小さくなるのは屈折効果によるものだ。もうわかっただろうか。人工衛星はその逆の効果になる。大気は、非常に高い周波数で増幅レンズのように作用し、地球を顕微鏡で見ているような状態にするが、この屈折の影響は、可視光線以下の周波数では最小である。

そのため、超水平線レーダーシステムは、主に人を見たり追跡したりするために使われるが、レーダー信号は、全内部反射として知られる現象により、ドーナツ状の円のような地球の大気から跳ね返されて最も強いエネルギー領域となる。真空の宇宙空間や電離層の異なる層に「全反射」の角度で当たらないエネルギーは、そのエネルギーのかなり大きな割合が宇宙空間に放散されることになる。その様子は、こんな感じだ

さて、もっと重要なことは、人々がアメリカの仮想地獄から聖域を見つけることができるような地点を見つけるために、様々なレーダー波長の屈折率に基づいた内部全反射の角度を計算するだけで、彼らが活動している範囲を見ることができることだ。

米国と NATO の同盟国は、世界の大部分をカバーする 15 以上の巨大なアンテナフィールドを持っているので、すべての活動領域の交差は、それがほぼ完全なグローバル監視システムであることを示している。しかし、面白いことに、HAARP、ブラジル、プエルトリコのレーダーフィールドと他のいくつかの動作中のフィールドの交差点はすべてアメリカ上空で交差し、半球の残りの部分をカバーしている。サウスウェールズの電離層加熱レーダーフィールドでさえ、レーダー拡大鏡でアメリカ市民を観察することができる。ただし、北極と南極にはオゾンホールがあるため、その性能は異なる。

このことは、国防総省が電離層や低温プラズマの研究に力を入れていることを説明している。ハリケーンなどで電離層の滑らかな表面に乱気流や異常が生じるたびに、レンズは乱れ、その地域の犠牲者は殺傷信号や拷問信号から解放されることになる。アメリカで起きた過

去2回の大きなハリケーンの後、ハリケーンが来ていた間に、拷問から「逃れた」という被害者からの報告を受けた。その人たちはもちろん、ハリケーンが指向性エネルギー兵器を動かす発電所を破壊したに違いないと結論づけたのだが。彼らは電離層レンズ効果を知らなかった。これが示しているのは、大陸弾道ミサイル監視システムと精神工学拷問システムの両方に防衛上の弱点があるということで、その二つは同じ一つのものだ。

東洋医学

「癒しの手 (Healing Hands)」と呼ばれる技法があり、施術者が患者に触れることなく、不快感を感じている人の体の周りで手を動かすと、なぜか気分が良くなる。これには心理的な要素もあるが、電離層レーダーの電波は非常に強力なので、直接拷問の対象になっていなくても、世界中の多くの人々がその影響を感じているのだ。治療者と患者の間に作られた静電気場が動き、身体の電氣的共振と電子スピンの配列が変化させられると、治療者がそれを行っている間、人は気分が良くなる。

このような軍事監視システムがどれほどの人間の苦しみを引き起こしており、また今まで引き起こしてきたかを思うと驚かされる。人々を気分よくさせる磁気ジュエリーブームやマイナスイオン発生器も、レーダー信号や生体電場変調・読み取りによる人間監視技術に関連している。電離層ヒーティングや流星観測というカバーストーリーは、これらのシステムの真の目的からすると、ほぼ99%でたらめである。

さらに説明される心霊現象

私も他のほとんどの人と同じように、「ニューエイジ」の人たちが夢中になっているブドゥーの水晶は理解できなかった。もちろん、その力のいくらかはプラシーボ効果や暗示の力による癒しの効果だ。しかし、1960年以來存在する散乱レーダーエネルギーの影響を非常に多くの人々が受けているため、人々はその背後にある正確な基礎物理学や生物学を知らなくても、それらで気分が良くなることを発見してきたのだ。扇風機にはマイナスイオン発生器が標準装備されるようになった。磁気ジュエリーは、痛みを軽減する効果があるとして、かなり人気が出てきた。そして、水晶は人によっては効果がある。水晶は波長の関係でレーダーの散乱界を乱すことが判明している。世界中の多くの痛みと苦しみは、生命体を追跡するステルス・スカラー散乱レーダーシステムの電磁波汚染によって説明することができる。

静かな暗殺

車の衝突事故

サイキック兵士、あるいは CIA の脳にダメージを負った戦士たちは、道路に子供の影を置き、ぶつからないようにハンドルを切るように仕向けることができる。幸運なことに、彼らがテストを行っている間、私はその技術を知っていた。視覚野の刺激に敏感な人は、避けるべき子供や人のホログラフィーのようなイメージを簡単に見させられる。もしこの軍事的能力を知らなければ、善良な人であればハンドルを切ってしまうだろう。特に、彼らが周辺視野の外側を走る影のようなもの、「取り憑く」ようなものを作り出すことができるというのは、実に面白く、驚くべきことだと思う。警備員を自分の持ち場から引き離すように、誰かに架空の影を追わせたいときに便利だ。

バカなエイリアンのトリック

心理的虐待の連続の中で、国防総省と CIA の邪悪なエイリアンどもは、またしても私を卑劣な手口に引っ掛けようとした。誇らしくも、私は彼らの悪ふざけにすぐに気づいたと言える。彼らは、痛みや拷問を止めるには、歩くときに床に手をつくだけでいいと言うのだ。連中はゲリラが歩いている映像を映し出したものだった。それは屈辱を与える試みであることは一目瞭然だ。人間とエイリアン-この惑星はこの両方のための十分な大きさはない。どちらがいなくてもよいかは明らかだ。

指向性エネルギーによる静かな暗殺

すべてのレーダー技術には、計算電気力学で有限差分時間領域と呼ばれる電磁波の波形効果を計算する数学的手法が使われている。これは、アンテナ設計の特性や近距離場効果を波形から計算する際に重要だ。この手法を用いると、人体、頭部、臓器、脳など様々な部位に対する波形の時間領域での影響を計算することができる。人体や頭部をモデル化することで、人体の共振パターン、すなわち定在波の形成や、エネルギー吸収の高いノードと低いノードがどこにあるかを計算することができる。だから、指向性エネルギー兵器は、例えば特定の臓器に正確にエネルギーを当てることで、より効果的なものにする事ができる。例えば、標的を糖尿病にしたい場合、膵臓の一部を破壊したり、細胞内の糖代謝を変化させたりすることができる。肺がんや脳腫瘍になる確率を上げたいなら、兵器は単にその場所にエネルギーを加えるだけでよく、そのうちに確率は劇的に上昇する。

もっともらしい否定と静かな暗殺のテクニック

航空機の墜落事故

- プログラムされた暗殺者
- 心臓発作と脳卒中
- うつ病と自殺
- 自己破壊的な行動の増幅
- 貧困と医療
- 事故
- 暗雲
- 車の前を歩く
- 高電圧電気
- ガスコンロ
- 溺死
- 他の人の判断を誤らせる
- 手術中の医師
- タクシーの運転手。ダイアナ姫のように

注意

- 遠隔操作による心臓発作。副腎プロセスの暴走
 - 階段から落ちて腰や首を壊す
 - 車の前を歩くように催眠術をかける。運転中、赤信号を無視する、ハンドルで眠らせる、-車に無理やりハンドルを切らせる、無謀運転になるほどの感情的な引き金を引く
 - 携帯電話や飲酒に相当する音声の聞き流し
 - 必要な薬を適切に服用できない。体の感知能力を狂わせると、インスリンを飲んでいる糖尿病患者を殺すことができる。
 - 強制的にうつ状態にされ、自殺誘導のサブリミナルを受ける。
 - 発作信号
 - その他、判断力の欠如が生命を脅かす可能性のある状況。
- 明らかに飛行機のパイロットは他の多くの人にとって命取りになる可能性がある。
- 兵器実験の対象になっていない他の市民の安全の軽視

子供たちはターゲットにされており、声によってはるかに影響を受けやすい。親に銃や鋭利

なもので遊べと言われるケースがいくつか報告されている。

さらに、信号は増幅される。だから、喫煙や飲酒の習慣は、結局は早死にすることになる。

私はこのような出来事を聞いたことがないが、指向性エネルギー兵器はガソリンスタンドの発火に使われる可能性があり、携帯電話の使用がポンプの近くで禁止されているのはそのためだ。確かに、800 便で起こったように、燃料タンクに火花を散らし、飛行機を破壊するために使うことも可能だ。もちろん、JFK ジュニアは、水平線がどこにあるのか混乱したとされているが、これは、実践された超能力による暗殺だろう。ユナボマーのようなマインドコントロールされた暗殺者の製造。

遠隔操作によるロボットミーム手術

では、アメリカは市民や元国防省の職員をどのように処分しているのだろうか。デルガドは正常な定義から外れた考え方をする人は、外科的に切除されるべきだと述べていた。彼は自分が正常であると思っているのだろう。遠隔操作による心臓発作や自動車事故が失敗した場合、最後の手段は精神抹殺だ。ゾンビ化とも呼ばれるこの方法は、血が出ず、工作者によって簡単に否認され上手く「SF」の中に納められているため、現在では統合失調症発生器が好まれる手法だ。ニューロン増幅は、特定の心のニューロンの「選択」マップがあれば、簡単にできる。思考エコーのようにすべての思考プロセスを増幅すれば、ターゲットは機能不全に陥り、心の応用から切り離され、痴呆になる。レーガン大統領みたいにだ。この増幅は、パラノイア（不信と恐怖の増幅）にもつながるし、単に誤った思考を増幅し、妄想として顕在化させることもできる。

低体温症

サイキック研究、EM 兵器研究の多くは、いきなり低体温症について語りだす。低体温や高体温とサイキック研究との間にどのような関係があるのか、私はいつも困惑していた。それはロシアでもアメリカの文献でも明らかにされていない。ところが、私は最も関係のなさそうところで、その関係を発見した。60 年代に行われた最初の脳信号と指向性エネルギーの効果の 1 つは、人に低体温症を引き起こすという、最も有望な殺傷用途であることがわかった。それは実際にエネルギーを奪って人を冷やすのではなく、人が怖がる時のように神経系から血管収縮を起こすのだ。細胞の新陳代謝にも支障をきたすかもしれない。

不気味な「お化け屋敷」は、このためだ。人々は幽霊が出ると寒気を感じるという報告している。その幻影や幽霊の像は、これは、初期の EEG ヘテロダイナミクス実験における、人々の心に精神的イメージの投影や視覚的な知覚エラーを注入したに過ぎない。血管収縮が恐怖心を煽り、寒さを感じて震え上がるのである。有名なマンガのスクービードゥーにあるような極度の恐怖で震える人がいるのは、このためである。

私は今、政府の悪人たちが「チッ！お節介な聖人たちとあなたの小さな犬がいなかったら、俺たちは上手く逃れられたのに」と言うのが目に浮かぶ。

バカなエイリアンのトリック

「1時間以内にお前の父親を殺さなければ、副鼻腔、耳、歯に埋め込んだマイクロチップを爆発させてお前を殺す」と私のハンドラーたちは言った。そして、1時間が過ぎた。私は鼻腔、耳、そして口の中が破裂するような感覚を覚え始めた。「マイクロチップは今、おまえの体内に毒を放出しているぞ」鼻、耳、口の中が本当にポップロックキャンディーのような感覚になった。後でエイリアンに聞いたところでは、4人全員が鼻に指を突っ込んで、それを弾き出して、急激な圧力変化を起こしていたそうだ。同じことを耳にも口にもしたと言う。

マイクロチップを埋め込むという多くのウェブサイトの偽情報を読んだり、映画『ミッション・インポッシブル2』を見たりした人にとっては怖いことだろう。それは CIA の拷問のやり方ではない。爆発するマイクロチップを入れたと思込むことだけが、恐怖で人をコントロールして殺人行為に走らせるために有効なのだ。私は、女性が「そうしなさい」という声と会話した後、自分の赤ちゃんなどを殺してしまった事件を見つけた。そして、彼女らは精神病院などに収監されることになるのだ。私はこのようなアメリカの EEG ヘテロダイナミクス悪魔崇拝者の手法をよく知っている。彼らは本当にサイコパスであり、イラク人などの要人をターゲットに行う前に、アメリカ市民で練習する必要があるのだ。CIA は彼らの拷問実行者を「いじめっ子 (Rough boys)」と呼んでいた。

バイオテレメトリーアンテナ・インプラントは、指向性エネルギーをターゲットにピンポイントで照射するために、もはや必要ない。脳チップの移植は古い時代の軍事技術であり、もはや大部分のターゲットには使われてない。人々は人工テレパシー・プログラムが始まると、それが自分の詰め物や歯のインプラントから来るものだと信じることが多いのだが、それは映画『リアル・ジーニアス』のような文献や誤った情報によるものだ。歯列矯正がラジオ放送を受信することは誰もが聞いたことがある。マイクロ波聴覚効果は、神経インターフェイス音声や超音波ヘテロダイニングとも異なるものだ。

精神工学の人質

米国の秘密の EEG ヘテロダイン、精神工学、マインドコントロール刑務所は、この国や世界中で多くの人々を人質に取っている。そのいくらかは政治的動機で、他はランダムの実験のようだ。衝撃的なことかもしれないが、私たちは民主主義国家ではなく、偽善主義国家であることを忘れてはいけない。私たちは、他国を威嚇し、転覆させ、支配するために、最も反民主的な方法を用いているのだ。例えば、最近、イラクの情報ストリームに偽の記事やニュースを流したとして、陸軍が追放された。私が調べたところ、海外よりもアメリカの市民に向けられた情報戦の方が多い。

アメリカンドリームから目覚めて、残虐性と嘘とマインドコントロールがあからさまに日常的に行われている醜い現実気づき、吐き気なしにテレビのニュースを見ることができない。私は毎日これらの兵器によって残忍な目に遭っている被害者から、一日に何十本もの電話を受け、数え切れないほどのメールに答えている。それから、私は消防士が救出しなければならなかった木に止まった猫の報道を目にするのだ。本当のことを知る者は、マスメディアで何が報道するに値すると重要視されるかの不条理さに、恐怖を覚える。いつから報道の自由が失われたのだろう。この軍事クーデターについて、政治家はどのようにして知らされないでいるのだろう。なぜ彼らは、少なくとも公的に精神工学大虐殺から市民を守るための単純な最新の法律を通過させることができないのだろうか。

極秘技術とその悪用を隠蔽するもう一つの方法：DARPA、CIA、国防総省が資金提供した研究のアーカイブを調べていて、私が何十年も前に取り組んだ技術が、まるで何の進歩がなかったかのように今日でも資金提供されていることを発見した。

なぜこの兵器がもっと広く戦争に使われないのか

地上軍に代わって確実に戦争で使用するために必要な成功率を持っていないのだ。おそらく補助的に使われているだろう。欧州議会の資料によると、砂漠の嵐作戦で、敵部隊を疲労させ士気を下げるために使われたそうだ。また、一度戦争で使って成功すれば、各国は対精神工学防衛にもっと投資するはずだ。つまり、この武器は、政治的な反体制派の口封じ、スパイ、諜報活動、沈黙の暗殺の道具として、より価値があると考えられているのだ。

脳波が人工衛星で読み取れるなんて信じられない。あなたは、それをどうやって証明できるのか

それは衛星だけでなく、電離層に信号を跳ね返す「超水平線」レーダーでも可能だ。HAARP やプエルトリコの電離層ヒーターは、このような地上型高出力フェーズドアレイの一例である。衛星を使えば、それを真にグローバルなシステムにすることができる。

簡単な数学的計算でそれを実証することができる。まず、ハッブル宇宙望遠鏡や地球上の大型電波望遠鏡の解像度を取り、その感度を計算する。次に、電子スピン共鳴や散乱ステルスレーダー技術など、S/N 比を飛躍的に向上させるアクティブスキャン技術を考慮する必要がある。第三に、SQID（超電導量子干渉素子）の感度を、変調された体内電気を含む電気共振バイオテレメトリックアンテナと比較し、1000 マイルの低軌道から見る。特に正確な位置が分かっている場合は、何桁も上の信号を検出することができる。しかし、それは正確には彼らがやっていることではない。彼らは、高出力のほぼ完全に相殺的な干渉電磁波を使っているのである。それは目的のエリアを焼くことなく、また吸収、散乱、透過、反射のエネルギーによる信号対雑音比をあまり失うことなく強いパワーレベルで反射したり散乱したりして発信源に戻ってくる。最後に、軍の研究および特許ファイルを見ると、長距離で心臓や呼吸器の信号を読み取ることに関する多くの出版物が見つかる。NASA は、空港のセキュリティのためにブレイン・プリンティング技術を構築することを申し出たほどだ。EEG プローブなしで脳波を読み取る研究について全く存在しないということが、何かを教えてください。マインドコントロールについてインターネットで検索してほしい。

もしそれができないのであれば、この話題に関する偽情報、誤報、そして一般的な議論の量について説明してくれ。マイクロ波アンテナの軍事的下請け会社で非常に成功している会社が、なぜ 1970 年代に脳の読み取りと制御を主張する特許を持っているのか、説明してくれ。CIA から情報公開法を通じて公開された文書に、同じ技術を使った RHIC（遠隔催眠大脳間コントロール）と呼ばれるプロジェクトの研究が公然と述べられているのはなぜか説明してくれ。明らかに、これは兵器、スパイ、諜報活動のために非常に重要な科学的発見であるため、多くの神経学的データや研究は、国家安全保障のデタラメを装って埋もれてしまっているのだ。

仮に脳の信号を読み取れたとしても、どうやって神経系に影響を与えることができるのか

その逆もまた真なりだ。あなたは 70V の小電流を患部に流すことで筋肉を収縮させる TENS

や筋肉刺激装置を試したことがあるだろうか。脳もイオン電流で動いている。携帯電話を使うと、電話がかかってくる直前に、近くでチーチーと音声実験が鳴ることがあるのに気付いているだろうか。マイクロ波指向性エネルギー兵器は、適切にシールドされていない電気部品を破壊し、焼却するために開発されている。EMP（電磁パルス）兵器は、車のエンジンを停止させたり、爆弾を停止させたり、爆発させたり、脳電流を誤作動させることができる。

特定の共振周波数で EM エネルギーの吸収は、脳で吸収されたときに、神経細胞で神経伝達物質の放出を引き起こすことが示されている。低強度の磁場でも、脳内に電流を流したり、脳の活動を変化させることが分かっている。生体電気と電磁波の生化学的メカニズムは、数え切れないほどある。

なるほど、物理学は確かに聞こえる。地上波のアンテナや衛星を使って脳波を読み取り、影響を与えることはできるかもしれない。しかし異なる脳波同士をヘテロダインすることはできるのか。誰もが少しずつ違う、平均的なモデルを中心にした正規分布だ。ある人の脳波を解読し、主観的な体験に対応させることは、すでに行われていることだ。この考えは多くの人にとって不愉快なものなので、自らの宗教的、哲学的、道徳的な信念を疑わせるとする人々にとっては、危険な知識とみなされるかもしれない。誰も自分の魂が電気信号に還元されることを望んではいないのだ。

陸軍は、例として、感覚経路をどのようにマッピングしたかを示す文書をいくつか発表している。技術の現状について国民に誤解を与えていると思われるプロジェクトに、ヒトゲノム・プロジェクトと同様の目的を持つ「Human Cognome Project（ヒトコグノム計画）」というものがある

非常に簡単に説明すると、TAMI (Thought And Memory Interface) と呼ばれるシステムで、個人個人の脳のパターンを自動相関させるソフトウェアがあるのだ。

そいつはすごい。だが、なぜ政府は自国民を拷問するのか

米国には、このようなことを行ってきた長い醜い歴史がある。大規模な隠蔽工作が行われ、プログラムが発見されてもニュースではほとんど触れられない。同じ兵器実験プログラムが、しばしば新しい資金と別の名前で継続されている。極秘プログラムに対する監視はほとんどない。無作為の市民のバーチャルな人体解剖は、CIA の発足、そして第二次世界大戦直後、国防総省によって多くのナチスの科学者が戦争犯罪を免れ保護されたペーパークリップ計画以来、行われてきた。

どうすれば壊れた政府を修復し、国民の信託と資金を悪用する不名誉な男ども子どもを止めることができるのだろうか

私たちにとって最も困難なハードルは、明らかに一般市民の無関心で自己中心的、近視眼的なメンタリティーである。自分たちの将来や国に何が起きているのか、人々に関心を持ってもらうことは、主要なメディアをコントロールできない以上、難しいことだ。アウェアネスが臨界に達するまで、国民を教育する草の根的な努力を続けることが、継続する変化と防御にプレッシャーを与える唯一の方法だろう。

マインドコントロールされた拷問被害者たちによって、間違った政府機関に向けられた多くの暴力行為があったが、ニュースでは狂人や過激派による無作為の行為として片付けられている。加害者や犯人を公に辱めることは、前例となるだろう。米国に精神工学的人質を解放するよう圧力をかけるために、他国の協力を得ようとすることも有効だろう。学術機関や他の政府に、精神工学研究についてオープンに議論してもらおう。

米国は、これらの兵器の使用を禁止する国際条約に署名しない唯一の主要国であり、それは明らかに自国民を拷問することをあまりにも楽しんでいるからだ。ロシアでさえ、国連の会議でこれらの兵器を禁止させようとしたが、アメリカは拒否した。

このような重要な科学的発見が、殺戮マシンに隠匿されているとは信じられない。そいつらは、この技術によって救われるすべての命の恩恵と、もっと多くの人を殺すために使われる可能性との重みを比較検討しなかったのだろうか。

明らかに、防衛とは、命を救うことではなく、より効率的に他人を殺すことであるらしい。彼らは、技術的な発見によってアメリカ人の命を救うことによってメダルやより多くの権力を得るのではなく、戦争を扇動し、効率的に殺すことによってより多くの権力を得るのだ。古き良きファシズムに育てられて以来文化的に進化していない軍の上層部の知的実力主義に問題があるのは明らかだ。

このような緊急性のある重要な問題で、世界の注目を集めることが難しいのはなぜか

いい質問だ。メディアはこれを取り上げようとしない。それは、そうするように指示されて

いるか、あるいは、精神工学兵器の症状があると主張する人は頭がおかしいという、何十年にもわたる洗脳に屈しているかのどちらかによる。あまりに物議を醸す話題であり、軍の報復を恐れていることも理由の一つかもしれない。国民への心理的プログラミングは広範囲に及んでいる。最後に数えたところでは、マインドリーディングや影響力のある技術に架空の言及をしている映画やテレビ番組が 100 以上あった。ほとんどの人の頭の中で、それは共通のフィクションになっているのだ。また、私たちはワシントン DC のスポークスマンを信用しがちだが、彼らが常に嘘をついていることも知っている。ポーター・ゴスは、彼らは人々を拷問しないと公言した。私はこれが嘘であることを知っているが、新聞やテレビで引用されるとき、彼はとても誠実に聞こえる。量子論や相対性理論と同じように、物理学は直感的に理解できないので、時間は一定で、地球は平らで、マインドリーディングレーダーは不可能だと信じるのは簡単なことなのだ。

バカなエイリアンのトリック

2004 年 10 月 31 日から 2005 年 10 月 31 日までの不気味な 1 年間、政府のニューラルリンク実験によって、私は 2 つの新しい能力を身につけた。私は人間の羅針盤になった。伸ばした腕を地球の磁力線に合わせることで痛みを最小限に抑え、常に北と南の方向を指すようになった。コンパスを持ち歩き、エイリアンのバカな芸当を見せながら、この会話を誰ともするのが好きだった。

もうひとつ得た能力は、時計なしで分単位で時間がわかるようになったこと。これは、私と EEG ヘテロダインをされたオペレーターとの遊びだった。私が尋ねると、いつも彼らは正確に時間を教えてくれるのだ。これには、何人かの人々が本当に感心した。目をつぶって回転している私が南北を指差したり、好きなときに正確な時刻を教えたりできるなんて、どうやってできるか彼らは思いもよらなかったからだ。この酒場の手品のために、何人かの人々が私にビールをおごってくれた。しかし、明白な理由で私はその方法を決して彼らに教えなかった。肉体的な拷問がなくなってから、私はどちらの芸も二度とできなくなった。

しかし、人間のコンパスの能力は、兵器システムの潜在的な弱点を指摘するものである。スカラー・レーダー・エネルギーや ESR, MRI の磁場に直線偏光の電磁波を使っている場合、地球の磁場やスカラー・レーダーの電磁場に合わせると、対象物が消えたり、神経リンク信号が弱まったりする可能性がある。

機密漏洩者、内部告発者、政治活動家の口封じと科学的発見の阻害

精神工学は、政府内の特定の利益にとって問題と思われるものを排除する、非常に秘密裏に行われる方法だ。他の共産主義国のように公然と暗殺したり、政治犯をかくまったりするよりも、米国はこの狡猾な方法を好んでいる。物的証拠のない拷問（ソフトな拷問）と同じように、静かに、効果的にトリックを行うのである。

奴隷として使われた炭鉱労働者は、逃げ出さないように足首を折られ、それは映画『ミザリー』でも実演されている。精神工学による脳の妨害は、今日、類似の方法で行われている。サイコトロンニック・ジェネレーターを使って対象となる脳に微小なランダム電流を流すと、脅威となる人物は精神分裂症の思考を示すようになり、精神病院に放り込まれて、そこで本人の同意なしにさらに黙らせることができるようになる。

神経科学者は注意深く監視されており、政府のマインドコントロール技術の再発見に近づいた者は、それ以上の発見を防ぐために精神的に拘束されることがある。目に見える政治的監獄や拷問痕がないので、国民はそれが行われていることに信じがたいままだろう。もっともらしい否定がすべてである。私たちはきっと、大きな拷問室を持つ中世の王たちよりは文明的なのだろう。しかし今はすべてが目に見えないだけで、同じように残忍で進化していない連中がそれを運営している。

読者への嘆願

大衆へのプログラミングは、これほどまでに大きな影響力を持ちながら長年にわたって行われてきたので、もう一度、私の信憑性について繰り返す必要がある。私は、このような政府の秘密を明かすことによって、失うものだらけだ。私はシリコンバレーで平均14万ドルの給料をもらっていたが、2年間の休暇をとり、この本を書くことで、彼らの嘘を打ち破らなければならないという道徳的な義務を感じた。真実は、一度受け入れてしまえば、それほど恐ろしいものではない。

真実があればこそ、より良い未来について定めることができ、誤った考えを持つ者たちに、最高機密を超えた決定について責任を負わせることができる。それは30年以上もくだらない実験のための人間の無作為抽出を許してきた国防総省や政治において、彼らの雇用主である私たちが、効率や進歩や変化を促進するために責任を持って行うべきことだ。彼らは、国家安全保障のために宣言した終わりのなきプロジェクトをやり続けるため、私たちの金を無駄遣いし、技術や機密を隠して何百万人も殺すだろう。権力は、真価を発揮しないとき

に中毒性を発揮する。

私はここで、もう一度アメリカ国民に、腐敗した指揮系統から独立してこの問題を調査するよう懇願するために、厳しい言葉を使うことにする。私が腐敗ほど軽蔑するものはない！CIA のモットーは「真実を知れ、そして真実は汝を自由にするであろう」だ。それはたわごとだ。彼らは真実を弾圧するのが仕事だ。私の私立学校の卒業生であるポーター・ゴスは、アメリカ国民に正義と自由と真実をもたらすはずだったが、その代わりに、彼は病的欺瞞の巢を構成するおなじみの犯罪者どものビジネスの餌食となった。

CIA はその犯罪者集団から切り離される必要がある。彼らは私たちのために何をしたのか。彼らは9月11日を知っていたが、それを防ぐことはしなかった。彼らは機密解除された極秘プログラムの中で、歴史上のどのテロリスト集団よりも多くのアメリカ人を拷問し、殺してきた。しかし、我々はそれを無視することを選んだのだ。私たちは真実よりも妄想を好む。多くの人々にとって、自分たちの政府が腐敗しておらず、私たちが軍隊を駐留させている地球上の135カ国を、占領ではなく「取り締まる」ことが道徳的に正当化されると信じる方が、単に喜ばしいことなのだ。占領していない国は55カ国しかない。これは警鐘だ。もしあなたがそれを無視することを選ぶなら、歴史はあなたを救わないだろう。あなたは知らされ、そしてあなたの仲間の利益のために声を上げたり、行動をしないことを選んだ。あなたは歴史の間違った側に立つことになるのだ。

ジョージ・ブッシュは操り人形のリーダーか犯罪者だ。選択肢はその2つだけだ。グーグルに「miserable failure (みじめな失敗)」と入力すると、彼の伝記が表示される。偽情報屋は、リークのためにインターネットをコントロールすることはできないが、偽情報で溢れさせることはできることを発見した。だから、あなたは深く掘り下げ、私が説明した彼らの偽情報戦術の公式を覚えておく必要がある。

アメリカが何をしてきたかを考えてくれ。衛星や超水平線レーダーを使った神経兵器による真の世界的専制政治だ。地球上には、「もう降参だ、出て行くからこれで終わりにしよう」と言える聖域はない。墮落した将軍、大佐、CIA 長官があなたの運命を決定し、あなたは地球が終わるまで拷問されるだろう。もう怖いのか！あなたは地球人が直面している状況を理解し始めたところだ。

手遅れでなければ、真実の醜さに対処し、働きかけ、それを修正することができるかもしれない。あるいは、真実や現実などどうでもいい、自分の小さな宇宙と、脆弱なカードでできた信念体系の家を信じることができればそれで十分幸せだと決めるかもしれない。その場合は、今すぐこの本を読むのをやめた方がいい。私は常習的な真実の語り手で、無神経で率

直な人間だ。国防総省の拷問官たちは、私が1年にわたる地獄の旅を始めたとき、「お前は知りすぎている。殺すしかない」と言った。あなたは、死の脅しを受けることなく、知りすぎた私の人生の教訓を得ることができる。この本を20ドルほどで買う価値があると思わないか。

「この世の狂気は、大衆を眠りへと誘う。目を覚ませ！目はあなた方を見つめている。瞬きする用意のある眼が。両手を広げ、心を躍らせながら前を向くのだ。あなたの未来はもうそこまで来ている」

作者不詳

MK ウルトラへようこそ

あなたはそれに焼かれないか。MK ウルトラ・スタイル暗殺者の作り方

厳しい拷問と精神的な指向性エネルギー照射を試みる間、被害者は暴力行為を、自分にこれをしていると攻撃者によって信じさせられる人に対して、行うことを勧められる。通常は隣人、元恋人、元上司などだ。指向性エネルギー兵器実験の被害者は、ニュースで暴力的な狂人として、簡単に信用を失うだろう。警察やFBIは、訓練された無知か命令のために、この事件に関してそれ以上質問することはないだろう。被害者がこの段階（数ヶ月から数年続くこともある）を乗り切った場合、被害者が自分を殺そうとし、拷問した軍事施設やCIAに復讐しようとしないうように、催眠パルスを使用して服従させることが行われる。無気力信号と永続的な催眠術が被害者を従わせ続けるために使用され、被害者は魂がなく自分の脳の中の秘密の収容所に閉じ込められ、心に支配された虚無の中で死ぬまでそれが続くのだ。あなたが自由の国に住んでいることを、私はもう祝福したのだろうか。

影なき狙撃手、歩く時限爆弾、CIAがプログラムした暗殺者の撃退法

CIAの影の諜報機関が、彼らの仕事を実践し、手法を開発するときに使う台本や手法は、ほんの一握りしか存在しない。すべてのスクリプトは、終わりのない拷問によって信じられないほどの怒りを生み出し、誰も信じてくれない、助けてくれないというフラストレーションを抱かせ、その怒りを、通常は隣人、地元当局、FBI、大統領、政党、元上司、元恋人、あるいはその他の人物に向けさせる、というやり方に依存している。怒りや欲求不満の矛先を変えながら、彼らを暴力の瀬戸際に追いやるのが、マインドコントロールされた暗殺者や満州からの候補者を作り出す戦略なのだ。

暗殺者を動機づける妄想的な駆動方法としては、執着と愛を用いた2つのバリエーションしかない。愛に支配された暗殺者としてよく知られているのは、ジョン・レノンのそれと、レーガン大統領の狙撃犯である。私は、妄想恋愛マインドコントロール実験をされた空軍の大佐に一人だけ会ったことがある。有名な歌手が突然自分の元を去ったとマインドコントロールされて思い込まされた以外は、特定の標的を殺すように指示するフォローアップがまだなかったようだ。彼はそれがあまりにも強力な妄想であったため本当の妻と離婚してしまっただが、それを現在妄想であったと認識している。それが始まったとき、彼は最高機密の飛行機を運転していた。

そこで私は、このような MK ウルトラの脳波ヘテロダイン・プログラムされた暗殺者の危険を取り除く非常に基本的な方法を、他の国々やこれを聞こうとする誰にであれ、教えよう。神経プログラミング、サイキックドライビング、デパターニング、拷問、スキナー行動主義、神経言語プログラミング、催眠、その他多くのテクニックが、これらの政府プロジェクトの多く、つまり CIA/国防総省の精神工学的奴隷と呼ばれるものに使用されている。暴力の発生とマインドコントロール実験との間に安易な関連性を持たせないために、ほとんどすべてのプロジェクトは、それらを誘発する前に、まず精神疾患として分類されなければならない。

ニュースや無知な地元当局は、精神障害者が理由もなく狂ったようになったと報道するだろう。そうすれば、「暗殺が完了すれば、地元当局によって対象者は逮捕され処分される」-CIA の文書から引用（付録参照）。この文書は、昨年、何十万もの他の文書と一緒に、CIA によって再び機密文書に分類され、国会図書館から持ち出されたものである。私はこれらの文書の一部を付録に再掲載している。

このようなことがすべて隠蔽され、公立学校の歴史教科書に載ることもなく、次の世代がもっと警戒心を持ち、無私無欲で政治活動に時間を費やし、問題について自分自身を教育することで憲法の基準を維持するように警告することが決してないというのは、本当に吐き気を催させる。ヒプノチューブを見るだけでは、有料広告と政府公認の情報にプログラムされるだけで何にもならない

拷問されている被害者は、しばしばストーキングされ、ニューロンを電磁氣的に増幅され、長期間の幻覚に浸され被害妄想に陥ったり、彼らの立場からすれば「感覚的に敏感」になったりする。1) これらのアーティチョーク計画の暗殺者、または「国内テロリスト」になる途中の人々は、単に、政府の拷問を受けてない人々がそれが彼ら自身に起こっているかもしれないと認めることが必要で、それが彼らの欲求不満のレベルを減少させる。2) 彼らは信

じてもらいたいし、あなたが異常事態に注意しているということを知りたい。3) あなたは、彼らが経験していることに前例があるかどうか、少し調べてみるができるだろう。もし、あなたの隣人がこれらの犠牲者の一人であると思われるなら、状況を打開するために、これらの手段を取ることを徹底的に勧めよう。

このようなマインドコントロールの暗殺実験の加害者や運営者は、ほとんどの場合、隣人を利用して秘密のいたづらを仕掛けパラノイアを増大させる。ほとんどの隣人は無関係な一方、中には潜入職員がいるかもしれない。電子レンジで加熱されているような拷問は、隣人が仕事から帰ったのにタイミング合わされたり、建築現場で使う機械のようなもので家の修理をしているタイミングで行われる。この本の他の部分で説明した腹話術の方法を使って、隣人のアパートから声が投げかけられる。

隣家や家の外に駐車している車にこの非常に高度な兵器があり、使用されていると 100%確信している被害者がどれほどいるか、あなたは信じられないだろう。彼らは隣人に対して訴訟を起こしたり、もっとまずいことをする。すべては拷問と声のタイミングなのだ。当然ながら、被害者は時間とともに、隣人の動きや騒音が自分の痛みや苦しみと完全に相関していると理解するようになる。

地元当局に事件が報告されるたびに、彼らはそれに鈍感になり、この被害者を狂人と呼ぶ方針がより徹底される。物理学や歴史に疎い地元当局を非難するのは勝手だが、彼らの限られたリソースと連邦レベルの情報へのアクセスでは、この種の事件を解決できない彼らの精神力を非難することはできないだろう。それに、軍や行政府の大逆事件を捜査する連邦レベルの内務調査のようなことは彼らの役割ではない。彼らは単にこのレベルの捜査をする権限がないのだ。実際、三権分立の政府が失敗した理由は、建国の父たちが腐敗の精巧さとそれを促進する技術を予測できなかったからである。もし彼らがそれらを予見していたなら、他の 3 つの政府に対する内務警察として機能し、無制限のセキュリティクリアランスと独自の軍隊を持ち、国民に直接報告することを目的とした 4 番目の政府部門を創設していたはずだ。

恥さらしゲーム - 被害者が自分たちが引き起こしたことだと思わせようとする

極端な残虐性 - 被害者の証言を信じられなくする一つの方法は、拷問と実験をあまりに激しく、向こう見ずに、長期間行うことで、それを話す人が妄想に聞こえるようにすることである。「アメリカ政府が無作為の市民に対する拷問や暗殺の練習を許可するわけがない。い

つかはバレてしまうだろう」というのが、CIA/DoD の歴史を知らない一般的なアメリカ人の思考回路である。

夢の操作

私たちの宴は今、終わりを告げた。この私たちの役者たちは
私が予言したように、すべて霊（お化け）であり
空気に溶けて、薄い空気になっている。
そして、この支えのないこの布のようなビジョン
雲に覆われた塔、豪華な宮殿。
荘厳な寺院、大きな地球そのもの。
そう、それが受け継ぐすべてのものは、溶けてしまうのだ。
そして、この実体のないページェントのように、色あせていくのです。
ラックも残さない。私たちはそのようなものです
夢はその上に作られ、私たちの小さな人生は
眠りながら丸くなる。

シェイクスピア、『テンペスト』（第4幕第1場）

脳波ヘテロダインにインスパイアされたハリウッド映画

この 30 年間、裏切り者の権力中毒者たちの陰謀による人々への兵器実験は、『マトリックス』以外にも多くの映画にインスピレーションを与えてきた。テレビのホワイトノイズが声や映像を伝える映画もたくさん見てきた。『ポルターガイスト』『ホワイトノイズ』などは、ストックリンの特許である音声を直接大脳皮質に伝達する効果を描いた映画である。これは、知覚された音を音声伝達の周波数で増幅しているだけである。つまり、ホワイトノイズは、誘導ニューロン増幅による音声伝達が必要とする神経周波数回路を刺激するのに理想的なのだ。ターゲットにとっては、音源から聞こえてくる声として知覚されることになる。ホワイトノイズの視覚的イメージに対する同様の効果は、視覚野を刺激することで得られる。

より巧妙に隠蔽されたさらなるアーティチョーク計画と MK ウルトラ計画

CIA のプログラムとその薬剤や技術を開発する TSS 部門は、遠隔催眠術による大脳間コントロール (TAMI に含まれる) が劇的に改善された以外は、1950 年代から変わっていない。またそれは、MK ウルトラ計画やアーティチョーク計画の遠隔暗殺演習をすべて再演している可能性もあるようだ。私は「秘密兵器 (Secret Weapons)」という本の中に CIA による文書を見つけたが、そこには私が経験したすべてのことが順を追って正確に記述されていた。何もがそのままだった。しかし、私にどれだけの薬物が使われたのか、そして、薬物や「トリック」による効果と同じ効果を純粋な電磁気学によって誘発できるかどうかを確かめるために、大規模な実験を繰り返しているのかどうか、私は今でも定かではない。

公開された文書の中で最も気になるのは、暴力行為を行った被験者は関係機関や政府によって逮捕され、それによって「処分」されると書かれていることだ。私は、FBI が正しく解決しなかった多くのケースを知っているが、これらの「練習」による暗殺によって、マインドコントロールの犠牲者は終身刑になるか、死刑判決を受けることになる。信用を失い、永久に処分されたのだ。CIA とロシア人、どちらがより大きな脅威なのだろうか？ CIA はどんなロシアの企てよりもはるかに大きく、私たちの生活様式を殺害し、損なってきた。アメリカ人であることをあなたは誇りに思うだろうか。

これらのプログラムされた任務は ニュースで狂人が大量殺人に走ったとして書き留められる。ほとんどのアメリカ人、政治家、FBI は、こうした非倫理的、非道徳的、かつ反復的な実験が、増え続けながら、1950 年代からほとんど変わることなく今日まで続いていることを知らないのだ。

映画『マトリックス』で興味深いのは、キアヌ・リーブス演じるネオが 101 号室に住んでいたことである。101 号室は、ジョージ・オーウェルの『1984 年』のビッグブラザー社会によって、人々が再プログラムされ、最悪の恐怖に苛まれるために連れて行かれる場所であった。自分だけの煉獄、個人化された地獄で苦しむのだ。馴染みがないだろうか。

心の変化のカタログ化

脳波の変動のカタログ化と脳波のクローニング・ヘテロダイニングのテストは、昔から行われている。脳波の変化を分析し、データベース化することで、マインドコントロールはより多くの人に有効であり、その阻止はより困難になっている。多くの人にとって明らかなように、彼らは今、異常値を掃討しているように見える。1996 年以来、脳プロファイル・データベースへの同化が加速している。

脳信号の分類と実験

あなたが誘拐され、CIA/DoD の実験動物になったと想像してほしい。頭蓋骨を切開され、脳が露出した状態でテーブルに縛り付けられている。電気プローブを使って、どのような記憶や機能を刺激することができるかを調べ回る。これは数ヶ月から数年続く。これが、無線方式で彼らが何千人もの人々にしていることだとわかったら。この疑惑は、わずかな科学的専門知識と金銭的資源を投入して、それが真実かもしれないという人々の恐怖を無効化するための独立した調査を支持するほど重要ではないのか。このためには一銭も一人も割かれていない。アメリカは昔とは違ってしまったともう怖くなったか。

武器としての催眠術

情報公開法によって発見されたプログラムには、CIA が武器として催眠術を開発していることを示すものが無限にある。RHIC (remote hypnosis intracerebral control) は継続的なプログラムで、兵器効果プログラムの一部である。催眠術は主に、悪い習慣を治したり、抑圧された記憶を明らかにしたりする方法として考えられている。催眠術は、逆に、非常に記憶の抑圧、偽の記憶の作成、暗殺者や自己破壊的な行動をプログラムするためにも強力に利用され得る。

マインド・マニピュレーションの古典的な方法

エゴ - おべっかが、その操作方法だ。評価されたいという欲求は誰しもが持っている。客観的な思考を妨げる最大の要因は「エゴ」だ。自分を高める原動力にもなるが、エゴは養われる必要がある。一種の依存症である。エゴが自分を駆り立てるものの大部分を占めるようになると、より多くの保護手段が作られる。エゴは大きな喜びにも大きな痛みにもなり得る。それが、人が操作されることにつながる。

希望妄想 - 人は常に、一見同じように妥当な 2 つの現実モデルの間で、快樂的な信念を好む。希望は私たちに意味と方向性を与えてくれる。ほとんどの人は、気分が良いという理由で多くの不合理な信念を抱いている。これはサンタクロースや歯の妖精を信じる幼少期から始まり、より複雑な形で大人になるまで続いている。

恐怖に駆られる人 vs 快樂に駆られる人 - 人は全体的に、心配や恐怖を中心に行動を展開

する傾向があり、恐怖を感じる出来事の回避に重点を置く人という分類の人々がいる。そして、大胆で恐れを知らず、快楽や冒険を求める傾向のある行動をとり、前者のタイプには無謀に見えることが多い人々がいる。

価値 - 価値の認識を作り出す。希少性、他者からの望ましさ。私たちは、物や大切な人を、それが他人にとってどれだけ好ましいものであるかによって極端に評価する傾向がある。ダイヤモンドはこの効果の良い例だ。やや希少な炭素形成物で、実用的な用途はほとんどないが、他の人がそれを評価するため、私たちがそうする。もし、突然、みんながそれをただの石ころだと判断したら、ダイヤモンドの価値は瞬時にゼロに近くなってしまおうだろう。

マズローの欲求階層説は、原始的な駆り立てるものをいくつかを含む、動機づけのもうひとつの心理モデルだ。

広告や販売では、上記のような心理的コントロールメカニズムをすべて利用して、人々の欲望を操作している。人は合理的な思考を通じて、自分の不利益で不当な説得に抵抗することができるはずなので、これは受容されているマインドコントロールの一形態だ。

同じようなテクニックは、政治的キャンペーンにも利用されている。理想的なリーダー像が周到に組み立てられている。皮肉なことに、彼らの能力や価値観についてほとんど知らないので、行動力がリーダーにとって最も重要な能力であることが証明されている。

マインド・プローブ

EEG クローニングでは、改良されたブレイン・プリンティング技術を用いて、罪悪感反応を感じた瞬間をとらえ、その脳信号を連続的に再生し、関連する反応にまつわる記憶を刺激することができる。これは、真実を推論するためには、有罪の感情的反応を単に識別するオリジナルのブレイン・プリンティング法よりも有用な場合が多い。そのシステムは、分類のための特徴のセットには、類似の感覚信号が含まれていなければならないため、EEG ヘトロダイナミックされた参加者のどちらかが胸骨を押すことで偽陽性を示すことがある。つまり、マインドプローブは、司法制度や国内外の最高機密事項のバックグラウンドチェックに用いられるポリグラフやブレインプリンティングの真実技術を打ち負かすために、逆に利用することができるのである。

狙われる有名人

一般に、有名人に対するあからさまな聴覚的嫌がらせはしないが、目立たない効果を利用することは憚られない。マイケル・デュカキスが大統領選中に標的にされたことは、いくつかの情報源から聞いたことがある。また、IBM のビッグブルーコンピュータと対戦したロシアのチェスマスターは、マイクロ波の混乱光線が自分に向けられていることに不満を漏らしたそうだ。彼の社会（ロシア）は、神経兵器の議論についてずっとオープンだ。伝統的なマインドコントロールされたカモを使って JFK を暗殺することに関心を持っていたかもしれない CIA/DoD によって、政治的操作が行われているかもしれないというのは、とってつけた話ではないだろう。

「大統領の高い地位は、アメリカ人の自由を破壊する陰謀を煽るために利用されている。

大統領を辞める前に、市民にその窮状を知らせなければならない」

ジョン・F・ケネディ、コロンビア大学にて、暗殺される 10 日前

CIA と国防総省による犯罪は、機器調達や科学的専門知識の面で政府の援助がなければ立証が困難である。証言してくれる人は何千人もいる。しかし、多くの被害者は工作と実験によって見事に混乱させられ、また多くの被害者は恐ろしい戦術によって信用を失墜させられた。私のように、彼らの試みが手つかずにいる者もまだ大勢いる。あとは、武器と動機が訴訟のためには必要だ。武器はトップシークレットで、大陸間ミサイルと超水平線レーダー防衛システムとして巧妙に売り込まれている。どこから信号が来ているかを証明するためにこれらをオフにし、幅数マイルの巨大なフェーズドアレイアンテナと参加する衛星を法廷の証拠として提出することは困難である。動機の方は、多くのレベルで活動しているので複雑である。

兵器の科学と極悪非道な動機の両方におけるこの複雑さは、一般人の知性と注意力では理解しがたい。要約すると、動機は兵器の人体影響実験であり、神経兵器の開発だが、それは、はるかに深いものだ。拷問や精神的暗殺はひどい乱用だとしても、私や民主主義にとって最も不安なのは、それが自国や他国の政治操作の道具として使われていることだ。そのため、犯人、凶器、動機がわかっても、あなたは影の政府の報復を恐れない弁護士を探す必要がある。その上、適切な遮蔽と検出装置がない限り、EEG ヘテロダインは裁判官と陪審員に影響を与えるために使われるだろう。正義がすぐに実現することは難しい。

拷問理学

拷問は、デパターニング、プログラミング、尋問の際に、いくつかの目的を達成するために使われるツールだ。特に、国防総省の中ではプログラムされた暗殺者を実験しているグループには、その傾向がある。攻撃犬や凶暴な動物を作るにはどうしたらいいのか。彼らを虐待するのである。

偏見、排外主義、同性愛嫌悪は、進化していない政府のランクで健在だ。私のサイバー集合意識グループの拷問者たちは、彼らによると、女性、インド人、黒人、ゲイの白人で構成されていた。これらが、彼らが私の怒りに向けさせ、拷問と関連づけようとしていたグループである。私が行った聞き取りの多くでも似たような話を聞いた。彼らの脚本はまた、中国、アラブ、ロシアを精神工学拷問と暴虐の犯人として指弾させようとしている。

文献や技術力からどの国が背後にいるかが明らかになると、彼らは FBI に矛先に向け、それによってオクラホマ・ボマー事件のように FBI への攻撃を誘発する可能性がある。明らかに欠けているのは、完全なマインドコントロールを求めて、アメリカ人や世界中の人々に対するこれらの攻撃を継続的に行い、資金を提供してきた CIA を指すことだ。公開された連邦政府の文書に目を通して自分を教育するつもりがあるならば、これが事実とわかる。

辛辣で怒りに満ちた反体制派を作り出すこの実験は、どのように使われるのだろうか。他国の市民を自国の政府に敵対させることができる。この技術は、拷問を受けた人々に、特定の集団が自分たちをやったと信じさせることにかかっている。誘拐を企て、被害者に偽組織からのアクセントを加えて拷問し、CIA エージェントと偶然会うように仕向ければ、被害者は喜んで、その背後にいると思われる組織の壊滅に協力することだろう。自身の属する集団からのスパイや諜報員を作り出すことは、CIA のマインドコントロール技術の多くの目標である。

彼らの実験は、実験の犠牲者の命や社会全体に関して無神経、無頓着である。彼らはしばしば、自分の精神的苦痛の背後に、隣人、家族、あるいは元恋人がいて、これらのプログラムを実行する現場エージェントの陰謀と何らかの形でつながっていると被害者に信じさせようとする。私がインタビューしたある男性には、音声変換技術を使ってクリントンの声を投射し、電子戦部隊の無線通信を圧倒する能力を利用して、彼専用の放送を偽装したため、精神工学拷問を受けた背後にクリントン大統領がいると確信した。戦争で使われるこれらの技術を知らない人々は、混乱したまま正気でないように感じるだろう。これは、人間のマインドコントロール実験プログラムを隠蔽する究極の目的だ。

CIA はロサンゼルス近郊でクラックを売っていた-ドラッグ・ドライビング

ロスの人種差別地区へのクラック販売が、新聞が報じたようなコントラ反乱軍の資金調達のためだけではなかったと私が推測するもう一つの理由は、私がインタビューした薬物歴のある3人が、行動修正マインドコントロール・プログラムは、まず「ドラッグドライブ」という手法で始まったと言ったからである。彼らは自分たちをレクリエーション・ドラッグのユーザーだと言い、ターゲティングが始まると、特定のドラッグに対する痛み刺激を与えられ、鬱とストレスのスパイラルが誘発された状態で他のドラッグをするよう暗示されたと言う。その結果、コカインやメタンフェタミンの乱用につながったというのだ。これは、CIAの人工テレパシーを低出力強度で使用するのを容易にするドーパミン飽和によって特定された音声認識神経経路の増幅を改善するために必要なものである。これはまた、人体実験の信用を失墜させるという二重の目的も持ち得る。

さらなるバカなエイリアンのトリック

ここで、私に対して行われた面白い実験を紹介しよう。私の脳波パートナーはレモンを噛んだ。酸っぱい反射は私にクローン化され、彼らはその反射を捉えて連続的に再生することができた。彼らはいつも、何を実験しているのか事前に教えてくれた。私は15分間、舌足らずのままクラスで講義をすることになった。私の声は変わり、馬鹿にしたように聞こえた。生徒たちはそれについてコメントした。もし、私のかつての教え子たちがこの本を読んでいたなら、その日のことを思い出すだろう。私は信号を乱すためにガムを噛んだ。なんて恥ずかしいことだ。

このトリックを政治家候補に使ったら、どんなに役に立つか想像がつくだろう。

生け贄と食人族

私たちがこの欺瞞に満ちた野蛮な土地にいる間に、私は興味深い、しかしもうすぐ絶滅する種を指摘しようと思った。スティーブン・グールドは私に破滅的進化と共食いの突然変異を起こした種について教えてくれた。もし共食いの遺伝子が遺伝子プールから除去されなければ、その種は進化の木の中の葉となる。人類の歴史において、私たちはこの遺伝子を何度も進化させてきたが、それを封じ込めることができた。系統発生的に生き残ることができるのは、支配的な社会構造が有害な行動を認識し、交配確率を変えるか、非社会的な要素を殺すからである。

今、生命の歴史の中で他の時代とは異なり、部分的に遺伝的影響を受け、部分的に文化的、またはミーム的に影響を受け変化した人食い人種が再び出現している。「影の」政府と DoD/CIA の兵器開発者が、この有害な突然変異を進化させたのだ。彼らは何十年もの間、私たちの文明の中で何千人もの平和な人々を無作為に生け贄にし、共食いさせてきたのだ。私の調査によると、彼らの予算が増えるにつれて、その数はどんどん増えている。そのメンタリティーが制御不能に増殖しているのだ。

戦闘的精神はそのサイコパス的思考と行動を複製する新しい方法を発見した。それを止めなければならない。しかし、この人食い人種の最もユニークな点は、それ以外の種の社会を模倣する方法を見つけたことだ。それらの人間関係、話し方、性格のプロファイルを徹底的に研究し、説得の心理学の応用の背後に隠れている。このため、マスメディアの番組から独立して彼らの発言を検証し、彼らの行動を評価するための膨大な量の調査と時間なしには、信じてしまっている国民が彼らの正体を見抜くことは極めて困難である。

バカなエイリアンのトリック

一瞬私の恥を。もう一つのバカな悪のエイリアンのトリックでリラックスしよう。私の脳波へテロダインの悪戯者たちが、彼らが私に心臓発作を起こさせることができると信じさせて、パニックに陥れようとした時、彼らは私が内臓の痛みとして感じるように右側の胸を押しながら「我々はお前の心臓を焼いている、心臓にエネルギーを集中させて、心臓発作を起こさせている」と言ったのだ。私は「心臓は左胸にあるんだよ、MK ウルトラの馬鹿ども。でも政府の仕事をするくらいならそれで十分だな！」と答えた。このようなことが何度かあった。この邪悪なエイリアンたちは、連中の中で最も賢い連中ではないのだ。だから、エリア 51 に不時着したのだろう。そしてこれが、彼らが市民を相手に練習する理由なのだ。サダム・フセインも騙された。その CIA エージェントはプロで、左側を押したに違いない。よかったね。

映画『マトリックス』で、エージェントが撃った仮想の弾丸で止まったトリニティの心臓を、ネオがマトリックスの中で再始動させるシーンが思い起こされる。

真実と罪

真実とは、すべての自己矛盾のない視点の総体である。それは、私たちの現実モデルが漸近

的に近づくべきものであるが、決して到達することができないものである。

サイキック兵士や MK ウルトラの生存者が受ける訓練は、罪悪感を決定する装置を打ち負かすことだ。私は MK ウルトラのマインドコントロール実験を受けている間、1 週間かけてブレイン・プリンティングと従来のポリグラフ技術を破る方法を学んだ。そして攻撃者が私が話している間、これらの装置で偽陽性を誘発する練習をしたのだ。これらのツールは、EEG ヘテロダイナミック技術や遠隔催眠では明らかに役に立たない。

お化け、チンピラ、ゾンビ、そして五芒星

ハロウィンのテーマと悪魔崇拝のカバーストーリーは、私のマインド・マニピュレーション・データ・コレクターに終わりを告げなかった。彼らは、アメリカの国旗が悪魔的であり、50 の五芒星が収監されていることを表す不運な 13 の監獄の線が描かれているとさえ指摘したのである。思うに彼らは私の愛国心を打ち砕こうとしたのだろう。しかし、そのダメージはあり、今、私は国旗をもっと明るいものに更新してほしいと思っている。これが、私の目に焼き付けられた国旗である。

遺伝的・文化的記憶

私たちの DNA は記憶を持っている。DNA を生化学的なコンピューターとしてモデル化すれば、進化マシンの中でどのように記憶が作られるかが理解できるだろう。なぜ鳥や羊が群れをなすのか、考えてみよう。遺伝子プログラムの唯一の目的が生存である以上、ある時点で生存に有利だった違いはない。確かに群れを作れば、オオカミは豊富な食料源を見つけやすくなる。食料の供給が限られているので、群れを作るとはむしろ不利なことかもしれない。しかし、群れることのデメリットよりも、生殖の方がはるかに継続のために重要なのである。仲間を必要とするという主観的な体験を生み出すこの「社交」遺伝子は、この行動が有利であった遺伝的系統の記憶でもあるのだ。私たちの原始的な衝動は、遺伝子の記憶とプログラムによって構成されているのである。このモデルによるナチスの進化研究は、優生学または指向性進化と呼ばれ、大量殺戮を通じて実施された。

文化的にも、同じような現象が観察される。文化、つまり遺伝的に指示されていない集団行動は、ミームを通じて進化し、人々の心の中に記憶され、物語を語ることや学習した文化規範をチンパンジーのように模倣することで受け継がれる。CIA は、指向的文化的進化と言いつくろって、ミームや信念体系の大量虐殺をしている。

苦しみとマインドコントロール

MK ウルトラの拷問技術やマインドコントロールについて研究した本はたくさんあるので、ここでは詳しく説明しない。しかし、このようなマインドコントロールのテクニックは、CIA よりずっと以前から存在していたことは興味深いことだ。苦しみは、原始的に忠誠心や仲間意識の創造と結びついている。激しい学校教育の通過儀礼に苦しむ医師から、ブートキャンプや不必要な軍隊の苦行、否定の日に苦しむ宗教、あるいは昔のキリスト教のように「悪魔を叩き出」したり、あるいはイエスのように無駄に苦しむための自己切断など、より厳しい拷問が行われている。

このような行事はすべて、同じ体験をした者同士の痛みと仲間意識から、帰属意識が芽生えるのだ。毎年砂漠の荒れた環境の中で行われる「バーニングマン」のようなカルト的で楽しいイベントも、大きな目的のために共に苦しんでいるという感覚を生み出す。このような心理が、人質が犯人の大義に共感してしまう「ストックホルム症候群」を生んでいるのかもしれない。私は自分に苦痛を与えるどんなものを軽蔑しているので、拷問からマインドコントロールされて CIA の奴隷になることはなかったのだろう。私は結婚していないのもたぶん同じ理由だ。

モラルの大混乱

CIA/DoD が抱える予見可能な心配事の一つは、道徳的大混乱とキリスト教がローマに起こったことを繰り返すことだ。しかし、新しい宗教は科学である。人間の魂の科学化に関する知識は、一般の宗教的大衆にどのように受け入れられるのだろうか。科学と宗教が混ざり合って、新しい道徳的な教えや信念を形成することができるかどうかを確認するための、私が考えるそのような実験の1つがサイエントロジーだ。私は、これはまさに CIA が資金を提供した実験だと考えている。

自分の次の本のために、私はこの「カルト」と思われているものに潜入し、その教えと、それらがいかに CIA のマインドコントロール実験の文献と絡み合っているかを調べるつもりだ。私が相談した CIA の専門家は、L・ロン・ハバードはカルトを作ることについての論文で博士号を取得したと言っていた。

否定される正義

未解決の謎

このような技術を少数の人間が人知れずコントロールすることの本当の問題は、それが大きな悪用につながる可能性があることだ。例えば、どんな事故や犯罪でも、それが EEG ヘテロダインによる犯罪なのか、それとも通常の犯罪なのかを完全に解明することはできない。ダイアナ妃の運転手は、EEG ヘテロダインによって、バリアに衝突させられたかもしれない。ジョン・シンクレイは、レーガン大統領を撃つことによってのみ、ジョディ・フォスターに愛してもらえると信じ込まされたかもしれない。私は、新しいエキゾチックな飛行機をテスト飛行させた空軍の大佐に会った。彼は、ハリバートンの防衛契約に関するあらゆる種類の汚職が発覚した後、精神抹殺された。偽の記憶を植え付けられ、ある音楽スターと結婚して子供がいると2年間信じ込まされたのだ。

ジョン・シンクレイのようなプログラム化された暗殺者を作り出す能力は明らかに存在する。JFK ジュニアは地平線を誤解したり、航空機の計器が誤動作するようにさせられた可能性がある。800 便の燃料タンクは、指向性エネルギー兵器によってスパークさせられた可能性がある。これらの出来事はすべて、EEG ヘテロダイニングと指向性エネルギー兵器を使った暗殺であった可能性があるが、私たちは決して知ることはできない。

犯罪の背後に誰の心があるのか、あるいは陪審員や裁判官が影響を受けているのかさえ確かではないときに、どうやって正義を得ることができるのか？ 明らかに現在の管理は失敗しており、政府の大規模な再編成が正当化されることは明らかだ。その目的は、正義を回復し、権力構造を再び均等に再配分し、法律と憲法を横取りする高位の売国奴や特別利益団体の腐敗に責任を持たせるために、これらの兵器システムに対する憲法上の管理を取り戻すことにある。

マイクロ波兵器や微弱な磁場は、もっともらしい否定をしながら静かに暗殺することができるため、その能力は非常に大きい。特定のパワーと波形のマイクロ波は、糖代謝の変化によって糖尿病や、DNA の弱い水素結合を壊すことによる癌の原因を引き起こせることが示されている。指向性エネルギー兵器は、単に人を焼くだけでなく、あらゆる種類の医学的問題を引き起こす可能性がある。CIA のヒットマンの時代は終わり、取って代わられたのだ。レーガン大統領は、スターウォーズの巨大な構想によって、飛んでくるミサイルよりも人の体を焼くことに力を与えてくれたことに感謝しよう。それは、行政府の下にある腐敗した影の機関のお気に入りの武器であることが証明されつつある。指導者たちは、「execute」とい

う言葉を、執行ではなく、殺人を意味すると誤解しているのだと思う。

バカなエイリアンの引用

「誰があなたの拷問と暗殺を命じたか教えてあげよう。それはキャスパー大佐である。あれは捕まえようとするやと幽霊みたいなんだ。はははははははははは」

TAMI のスパイモードの法的・倫理的問題点

現在の集合意識のアプローチでは、量子実験のように、観察者も実験の一部となる。したがって、観察者は、予測不可能な方法で、観察している被験者の行動に部分的に責任を負う。これは、法執行機関に使用された場合、まさに法的、道徳的、倫理的ジレンマとなる。第二に、TAMI によって集められたデータは大脳皮質の脳波に過ぎず、そういったものは知覚的な解釈や意図的な想像の産物を表しているの、たとえすべての人の生涯脳波を記録し、証拠として再生できたとしても、法廷では正確なものとして信用することはできない。

精神工学政治学

レーガン大統領とゴルバチョフ大統領との会談の裏で、核ミサイル削減条約が締結され、スターウォーズ防衛構想が動き出した背景が知りたい。他の人が言っているように、マインドコントロール兵器を共同開発するための条約を作ったということだろうか。何人かの歴史家が推測しているように、アメリカはソ連を財政破綻から救済するためにマインドコントロール兵器の技術を購入し、その後スターウォーズ防衛予算の下でそれを開発したのだろうか。レーガンの老衰は、その技術について口止めするために CIA が仕組んだことだと多くの人が推測している。ブッシュ・シニアは、CIA のトップとして、確かにそのことを知っており、彼のスピーチの中で何度も言及している。クリントンは手先となり、一般市民に対する兵器のテストを続けるための非殺傷法案に署名するのを手伝った。彼は、性的軽率さによってブラックメールされたとき、「右翼の陰謀」と叫んだが、遅すぎた。ブッシュ Jr. のスポークスマンは、共和党員に対する彼の脅迫の間に、兵器についての彼の知識を非常に明確にした、「あなた方は、あなた方自身のプライベートな煉獄で苦しむことになるだろう。眠れるものなら眠ってみろ」。彼は「地獄に落ちろ。サタンがお前を待っているぞ」と言ったようなものだ。つまり、マインドコントロール、拷問、静かな暗殺は、指導者たちが個人的な利益のために命令する犯罪行為として今でも容認されているのだ。彼らはこの犯罪規範

に従うか、あるいは政治の誠実さを改革し、国民に情報を提供しようとするれば、ケネディのように暗殺されることになる。

ニールセンのリアルタイム視聴率

私たちの政府は、異なる軍閥、ギャング、マフィアが権力、お金、栄光のために競争している犯罪ファミリーたちによって構成されているので、一方の大佐は、しばしば他の大佐の一人が何をしているかを知りもしないし、ましてや議会は黒い予算が実際に何に資金を提供しているかを知ることができないだろう。

失敗したプロジェクトか、少なくとも多くの大統領たちにとって何の役にも立っていないプロジェクトが、MIND ネットワークのサンプリングによるリアルタイムの世論調査の意見になる。候補者を就任させるためには有効だが、在任中の最高司令官にはうまく利用されていない。

米国の精神工学強制収容所にいる他の何千人もの人々と同様に、私は前回の選挙で投票する機会を与えられなかったが、投票できたら明らかにブッシュに好意的なものではなかった。もし私たちが「ブレイン・ナッピング」され、拷問され、実験台にされていなかったら、非常に接戦の選挙を揺るがすに十分だったかもしれない。

バカなエイリアンのトリック

情報機関がいかに知性を欠いているかを知ってもらうために、エイリアンが私に対して抱いている誤解をいくつか紹介しよう。私は、さまざまな状況下で、また人生のさまざまな時期に、多くの異なる名前を使用する。これは、自分がどこでその人を知ったかがわかるのに役立つからだ。私は社会的なグループを、家族、現在の友人、ビジネス、そして古い友人に分けている。私の名前は、それぞれのグループに合わせて進化してきた。だから、相手がどんな名前でも私を呼ぶかで、誰と話しているのかが正確にわかるのだ。そこで、エイリアン軍団が好んで行うデモンストレーションのひとつに、音声変換がある。彼らは驚くことに、私の家族全員と数人の遠い友人の声を真似ることができた。

しかし、何かの理由でなぜか妹の声はうまく出せない。声を使って罵倒する台本を演じるのだが、ハリウッドでは通用しないだろう。しかも、性格がすべて間違っているだけでなく、私に話しかけるときの名前もすべて間違っている。そこで、私はあるアイデアを思いついた。そ

ここで、私は彼らに間違っただけの情報を与え続けた。数日後、数週間後、彼らはそれを私に伝え、すでに多くの情報を集めていたかのように装うのだ。それが彼らのゲームだった。キューを使って、ターゲットの記憶を過去にさかのぼって歩かせる。これは記憶探査技術の一種である。バカなエイリアンだ。人類のために一泡吹かせてやった。

兵器の人体影響試験業界

信じられないかもしれないが、アメリカには、無名の市民が税金を出して武器を作り、それが最も恐ろしい方法で自分たち自身に使用されるという恐怖を信じない国民を基盤とした産業があるのだ。このように、人々が関与したり調査したりできないことと、慎重に作られた共通の信念体系を通じて、人間奴隷取引は米国や海外で繁栄している。EEG ヘテロダイニングと集合意識コントロールの実験のためにあらゆる階層の人々を密猟することは、儲かるビジネスなのだ。

私たちの社会の殺人ツールは、人々が問題を無視し、これらの主張を簡単に退けるために何を言うべきか、ということについてより上手になっている。あなたの声と抗議行動がなければ、たくさんの人々が長期にわたって拷問されて死ぬことになる。このように、あらゆることが極端に行われるため、被験者に語られる時、より不条理に聞こえるのだ。エイリアンによる誘拐の話が飽きられ始めているので、信用を失わせるというゲームがもう完成している。

もし、DoD と CIA が M-16 アサルトライフルのテストのために無作為に人々を誘拐したら、人々は注目するだろう。死者数が怪しく聞こえるだろう。しかし、ほとんど誰も理解したり、その知識もない高度な指向性エネルギーシステムによって、心を殺し、身体もゆっくりとそれに続くというやり方で人々を拷問し、殺すことにより、誰もただちに残忍性を理解したり、政府の合法性に対する脅威を理解することはない。

公共サービス発表

自慢に聞こえるかもしれないが、私の教育費は今のドルで 100 万ドル以上かかった。政府は 100 万ドルの脳を破壊したのだ。私と全く同じ血統や学歴を持つ人間は一人もいない。何百回となく徹夜で働き、自分を高め、自分の頭脳に投資するために多大な努力を重ねてきた私の全人生は、CIA/軍の兵器統計の小数点以下の数字として終わってしまったのだ。

私は、子供たちに公共サービスとしてメッセージを提供したいと思う。学校を中退し、豪遊し、ドラッグをやりなさい。なぜなら、あなたの努力のすべが MK ウルトラ・プログラムに入れられ、拷問を受けながら数年の間に人格を変えられ、楽しい人生観が失われ、貯金が奪われてしまう可能性があるからだ。明白な理由から、彼らはあなたがアメリカで育っている間は、そんなことは教えてくれない。

「私は、あなた方が信じられないようなものを見てきました。オリオン座の肩から火を噴く攻撃船。タンハウザーゲート付近の暗闇で C ビームの輝きを見た。それらの瞬間は、
雨の中の涙のように 時を経て失われる。死ぬ時だ」

レプリカント・バティ、『ブレードランナー』

政府による殺人

「非武装の相手に発砲するのはスポーツマンシップに反する。

いい子にしているはずなのに...」

レプリカント・バティ、『ブレードランナー』

この本のことを人に話すと、「政府に殺されるのが怖くないのか」といつも言われる。お金で買える最高の教育を受けながら、なぜ私はアメリカの行政府は腐敗しており、私たちがそれを受け入れている、と教えられなかったのだろうか。私は憲法を信じるように教えられた。小学校では毎日、国旗に忠誠を誓った。税金が安く、専制政治が少ない国を作るために戦った勇敢な兵士たちのことも教えられた。スポーツの試合では必ず胸に手を当てて国歌を聴く。私たちは、それが必要だとみなされている戦争のために、車に「軍隊を支持しよう」のリボンをつけている。私たちは家や建物の外にアメリカ国旗を掲げる。私はそのすべてを鵜呑みにしていた。私は国の経営者を恐れろと教わったことはない、何故なら彼らは私たちに仕え、私たちを守るために存在するのだから。歴史の教科書で真実が教えられる必要がある。そうすれば、人々はこの土地に滞在している間に、それほど大きな期待を抱かなくなるだろうから。私たちが国の運営を任せた人たちは、憲法を知らず、憲法を守るために存在しているわけでもない。ジョージ・ブッシュの NSA による国内スパイは氷山の一角に過ぎない。

政治家は私たちを守る法律を作る力がなく、他の政府組織がそれを破った時に執行する力もないのだから、アメリカンドリームは終わり、私たちの国の価値は CIA や DoD を装ったペテン師に奪われたと理解するしかないのだ。言論の自由に対する我々の権利は、情報と心理戦の戦術によって無効化された。

「火事だ」と叫べば、人々は救助にやってくるだろう。「レイプだ」と叫べば、より少ない人々が反応するだろう。「政府の拷問と暗殺」と叫べば、誰も助けに来てはくれない。それは出版されることもなく、大手ニュースメディアが取り上げることもない。インターネット上で公開しようとしても、偽情報屋が検索エンジンのトピックをゴミで溢れさせるだろう。私たち一人ひとは、情報のノイズと過負荷によって孤立した、設計された情報バブルの中にいるのだ。

私たちのプライバシーの権利は、何十年もの間、無効とされてきた。政治家たちは、法律制定において、意図的に現在の技術から 30 年以上遅れさせた。だから、例えば、「電子盗聴法」は時代遅れで、単純な技術にしか適用されない。脳波の読み取りは、明らかに政府ができる最も侵入的な行為だが、これらの法律ではカバーされないし、今後もされることもないだろうし、ビデオカメラの送信もそうだ。プライバシーもまた幻想である。

あなたに武器のテストと死の抽選番号が当たれば、生命、自由、幸福の追求に対する我々の権利いつでも奪われる可能性がある。出来事や人々の操作も普通に行われている。例えば、あなたは軍の演習に巻き込まれ、なぜ癌になったのか、本当の理由を知ることがないかもしれない。

武器を持つ権利も、もっと侵害されると思った方がいいのではないだろうか。栄え続ける戦争マシンを支えるために、過剰な二重課税も予想される。

私たちが政府の役人の真実性と能力を信頼することによって、私たちは自分の国とその理想を、かつて共産主義や独裁主義から恐れていたものそのものに変えてしまったのだ。戦争マシンの文化は独裁政治の一つである。もちろん、マシンを去った後に脱洗脳されなければ、彼らの価値観は政治にしみ込んでいくだろう。CIA や国防総省でキャリアを積んだ後、社会復帰する期間を持たずに大統領や政治家になる人たちがいるのは、極めて有害で危険である。

公正な裁判を受ける権利はもう存在しない。もし人々が嘘発見器にかからないようにターゲットにされ、裁判官や陪審員も操られるなら、正義は無効になる。もし人々が CIA や軍の暗殺者に狙われ、それが容認されるなら、正義は無効だ。もし、人々の脳が殺されたり、精神化されたりして、肉体はしばらくの間生かされるのであれば、正義は無効だ。精神抹殺は、政府が人々を無力化し殺すために使用する法律の抜け穴である。誰かを自殺させることは、彼らが信じている巧妙な抜け穴に過ぎない。彼らは「自分」とは何かを再定義しているに過ぎない。EEG ヘテロサインを使って他人の心を重ね合わせ、他人や自分に対して暴力を振るうことは、明らかに政府のサイキック暗殺者による犯罪行為であり、その身体と脳を

所有している本人によるものではない。しかし、この当たり前のことを法律で明文化し、それを執行する軍隊を別に持たなければ、このバカどもはアメリカの理想と価値を破壊し続けることになる。

「非合理的な行為だ...」"スポーツマンシップに反するのは言うまでもない」

レプリカント・バティ、『ブレードランナー』

TSS サービスや CIA の薬物実験とそれに続くマインドレイプと死は、少女にルヒプノールを使って、無力化した状態でレイプし、さらに目撃者がいないようにするためにその少女を殺すクズと変わりはない。これは、CIA のために武器とさらなる「トリック」を開発するため、今や政府によって普通に行われていることだ。国際犯罪者が支配していることに疑問はないのだろうか。もしあなたが軍に所属していたなら、彼らの嘘を信じることによって、これらの犯罪者とその意図を支持していることになるのを覚えておいて欲しい。自分を責めてはいけない、どうしてそんなことがわかっただろう。秘密主義と知識の分割化が、同胞と人類に対するこの種の犯罪を野放しにし、制御不能にするのだ。

マインドコントロール技術について人々が抱く否定は、自分は薬物中毒にはならないだろうと人々が抱く否定と同じである。「そんなに悪いものであるはずがない。私は気づくだろう。私はそれに抵抗できる」。そんな風にはいかない。あなたはそれに抵抗することはできないし、訓練を受けていない限り、ほとんどの人はそれにさえ気づきさえしない。あなたの本質、脳の電気と神経伝達物質のシナプスの信号伝達は修正されているのだ。あなたは自分がコントロールしていると思っているので、それが行われていることを感じるができない。経験豊富なサイキックスパイによって EEG ヘテロダインを受けると、選択肢があると錯覚してしまうのだ。この技術によって、乗っ取りがいかに容易かがわかるだろうか。今、公の場でこのことを議論すると、誰も沈黙させられるか、信用を失う。私がこの技術に出会ったときも、そんなことを知らなかった。

エイリアン紹介

2004 年の不気味なハロウィンの日、サイキック寄生中が私に自己紹介したとき、彼らは様々な自己紹介を試みたが、最も適切と思われるのは「私たちはボグだ」というものであった。「抵抗は無駄だ。抵抗は無駄だ。お前のユニークさは同化される。お前は思考の糧となる。ついでに言うと、思考をゆっくりして、完全な言葉で考える必要がある。」おっと、エイリアンは絵で考えないということが分かってしまった。

自分の体がなぜバラバラになり、いつも痛みを感じているのか、その理由がわからないまま、指向性エネルギー兵器によって拷問を受けなければならない人がどれくらいいるか、私には推測することしかできない。私がインタビューした 500 人ほどのうち、約 25% は人工テレパシーを経験していない人たちだった。

彼らは、これから起こる痛みの一つ一つや、どのような政府のプログラムに基づいて拷問を受けているのかを知らされなかった。私はいつもこれらの被害者たちに、「どうやってわかったのか」と質問した。私だったら、自分の脳に電磁エネルギーが正確に供給され、どんなプログラムされた痛みも起こせるなんて思いもよらなかっただろう。ただ、神経系が退化しているのだろうという結論に達しただけだろう。一般的な返答は以下のようなものだ「痛みの発生やタイミングがあまりにも規則的で、手足が痙攣したり、殆ど操られているように勝手に動き出したりした。インターネットで調べてみると、同じような人が何千人もいることがわかった」。どれだけ多くの人が、自分の痛みの物理的な原因を知ることなく、その人生を苦しんでいるか考えてみて欲しい。これらの「非殺傷性」神経系破壊兵器が、その効果データを得るためにこれほど多くの苦しみを必要とするとは啞然とするばかりである。

米国における精神工学的奴隷

「悲惨な人々には、希望以外の薬はない」

シェイクスピア、「尺には尺を」(第3幕第1場)。

思ったよりはいい、というのは計画。

ポスト公民権、ポストユダヤホロコーストの社会学は興味深いものだ。私は、人生、年齢、性別、宗教を問わず、何百人もの精神工学的奴隷に会う機会があった。マインドコントロールと奴隷の実験は、子供、修道女、上流階級の WASP、ゲッターの黒人など、多様なグループからなる大部分の人たちに、本当に無作為に行われる。

DoD/CIA の兵器実験のための人間動物としての新しい奴隷状態に適応するように思えるのは、奴隷にされた歴史を持っているグループと、失うほどの自由と自己決定権を持っていない子供たちである。

アフロ・アメリカンたちは公民権運動以前のように対処している。彼らは通常、歌を作り、マーティン・ルーサー・キングのように平和的に抗議し、テレビ報道されない全国的な抗議活動で抗議する。彼らの期待値は、アメリカで自由を得る権利があると信じ、そう教えられ

ている白人ほど高くはない。マインドコントロールのデータ収集者は、しばしば自分たちのことを「ハンドラー」と呼ぶ。これは、彼らが自分たちをペットを訓練している動物使いのように見ているからだと思う。

私がインタビューしたユダヤ人たちは、政治的解決策を探そうとしないようだ。まるで、ファシズムが自分たちの民族を追ってアメリカに来たことに驚いていないかのように。彼らはまた、政府の多くの部門によって制定された二面性のある政策に困惑している。アメリカは公然とイスラエルを支援しているが、ではなぜ彼らはユダヤ人を拷問し、秘密の精神工学強制収容所に収容しているのだろうか。彼らはしばしば、それが無作為であり、今回は宗教が決定における差別的要因ではない、ということに気づいていない。

イスラム教徒は、この兵器システムを使った認識されていない拷問に最も怒りを感じている。マスメディアの情報ストリームにアクセスできないので、彼らの話はアメリカ市民の世論に影響を与えることができない。私の時と同じように、多くのイスラム教徒は、エージェントが自分たちを悪魔崇拝のカルトだと紹介したと言った。これは最近、世界中で行われていることであり、イスラム教徒が米国を「大魔王」と見なすことに明らかに拍車をかけている。欧州議会は、これらの兵器は戦争と苦しみを引き起こすことにしか役に立たないので、禁止されるべきであるとさえ言った。

白人グループの緊張と怒りも限界に近づいている。何故なら平和的な抗議活動も、この問題を全国的、世界的な議論に発展させる効果がほとんどないからだ。暴力が発生しても、ニュースでは気違いや国内のテロリストとしてすぐに取り上げられる。一般市民は、その行為の背後にあるストーリーのパターンを聞くことができないのだ。

精神的拷問の強制収容所にいるキリスト教徒も、平和的な考えを持つ傾向がある。彼らは、神が自分たちを救ってくれると強く信じており、米国は明らかに地獄への道を歩んでいると考えている。毎日の攻撃と苦痛から、彼らはしばしば未来に対する黙示録的な見方をするようになる。

秘密刑務所には、女性が圧倒的に多いようだ。男性は黙って耐えていることが多いが、女性ははっきりとものを言う。しかし、女性たちは、自分たちの方が弱く、連邦政府や軍のターゲットに対して暴力的な行為をする可能性が低いと捜査官が予想しているから狙われるのだということに、たいていの人が同意している。このパターンに従って、脅迫ストーキングは、男性よりも女性のターゲットにはるかに高い割合で行われ、「ゾンビロイド」が臆病な集団の一部であることをさらに証明するものである。

「恐怖の中で生きるというのは、なかなかいい経験ではないだろうか。それが奴隷というものだ」

レプリカント・バティ、「ブレードランナー」

体制の忠誠心を維持するために

70年代から80年代にかけて、米国機関はFBIやCIAに所属する高位のロシア人二重スパイをどのように排除したのだろうか。彼らは定期的に諜報員の心の中を調べ、忠誠心を読み取るのだ。クリアランスを持つ国防総省の政府職員は、ほとんど全員が、彼らの心の中を高速回転サンプルで調べられている。この世界規模の人間監視システム「TAMI」は、容易に拡大している。アメリカには、最近リークされた420億ドルという秘密の閼予算がある。平均給与を7万5千ドルとすると、この大金で56万人の米国政府のエージェントを雇うことができる。そのうちの何人が、SATANを使用したもっともらしく否定される暗殺や、全く憲法違反の読心監視を扱うこの分派機関に関与しているかは不明だ。しかし、ロシアのサイキック軍団に対抗するために、初期の噂では、400人から15,000人までのどこかと推定できるかもしれない。

ユナボマーはマインドコントロールされたカモに過ぎない

この情報は、本書執筆後のものだ。私は、その存在を疑っていたようなテッド・カジンスキー、ユナボマーと、CIAのマインドコントロール・プログラムの間のつながりを発見した。どうやら、彼らは暗殺を行うためにカモをマインドコントロールするようだ。テッドが爆弾を送った科学者たちは、これ以上研究してもらいたくない戦争マシンの一部を扱う政府補助金と関係があったのではないかと私は疑っている。仮想現実と脳波制御ロボットに関する私の個人的な研究が、私が次のカモとして選ばれた理由の一つだろう。

バード博士は、この物語では珍しい元軍のヒーローの一人だ。彼は、自分の心に影響を与える研究がブラックボックス化したとき、陸軍情報部との仕事を道徳的に断った。彼は、脳波の遠隔測定と影響について公然と議論し、テッド・カジンスキーがCIAのマインドコントロール実験に参加したことを記述したLAタイムズの記事、ハーバード大学のMoon Struck計画を発見したのだ。また一人、無実の人間がCIAのマインドコントロール犯罪のために刑務所に入れられるのは悲しいことだ。しかし、政治家たちはあまりにも無知で愚かなので、これが違憲で違法であることを明記する法律を可決することができないのだ。私は彼のケースに個人的な関心を寄せている。なぜなら自分のケースと非常に似ているからだ。

私は、テッド・カジンスキーが住んでいたハーバード大学のエリオット・ハウスという寮に住んでいたのだ。彼のマインドセット、マインドコントロールの進化、孤立、そしてテクノロジーへの恐れを認識した。CIAの「Moon Struck」マインドコントロール・プログラムと、強いつながりがあることが分かり、私の疑念が晴れた。オクラホマ・ボマーにも、同じようなつながりが見つかる。人々は、実際に売国的な汚い仕事をしたマインドコントロールされたカモではなく、影の政府に怒るべきだ。

FBIの捜査はとても単純で、教科書通りのやり方しかない。彼らは、犯罪者の遺体、この場合は爆弾を郵送した人物の遺体を見つけると、捜査をやめてしまう。彼らは、誰の意思によって殺人を行ったかを追跡調査することはない。マインドコントロールされた殺人事件を正しく解決したことはないのだ。私たちは無実の人の体は投獄し、殺人を犯した人の心はまだ自由なのだ。正義はどこにあるのか。連中はただ別のターゲットに移動して、多くのレベルの間接的な方法を用いてもっともらしく否定する連続殺人と沈黙の暗殺を続けるだけなのだ。

私はこの残酷な実験のために捕まる前、FBIのホワイトカラーとハイテク犯罪部門に入ることを検討していた。取材する権威もなく、予算もない中で、2年弱の調査で少なくとも8件の事件を正しく解決したことを見れば、私はそれに向いていたのだろう。彼らは無能なのか、それとも上層部の意図的な隠蔽工作なのかと問わざるを得ない。

さて、これが私のこのテーマに対する強い意見である。FBIは、ニクソンからクリントンまで、歴史上ずっと行政府に操られてきた。多くの被害者は、FBIがストーカーや拷問をしているのだと思い込まされている。まず、もし彼らが深く関与しているならば、オクラホマの爆弾魔によって連邦ビルの中にいる捜査官を爆破させるようなことはしなかったはずだ。私の怒りの矛先を向けるためのロシアと中国に次ぐ3番目の相手はFBIだった。あまりにもわかりやすいオトリだ。

こうした工作に偽のFBIのバッジが使われたり、カリフォルニア・ハイウェイ・パトロールなどと同じようにCIAや他のサブインテリジェンス機関が少数の腐敗したエージェントをFBIに潜り込ませている可能性は否定できないが、ユナボマーの逮捕を助けた女性FBI捜査官が、私が教えていた大学で講演するのを見たことがある。彼女は、警察の刑事プロトコルを超えるものについては何も知らず、無知だった。

FBIが、私の父の家からダイヤルされたテロリストの電話番号の調査に関与していたが、プロトコルに従って再び操作されていただけなのだ。その目的は、捜査官が私を別のテッド・

カジンスキーに変えることに成功したら、FBI は彼がアルカイダとつながっているという手がかりを見つけたとか言える。大衆は愚かで、ニュースでその推測を見れば、当然、関係があるという決められた結論に飛びつくだらう。終わり。

私は不正義にもテッド・カジンスキーのようにマインドコントロールされた脳波クローン犯罪で不当に収監されるか、オクラホマの爆弾魔のように死刑にされて、CIA のマニュアルにあるように「地元当局によって処分される」のである。それがゲームのやり方なのだ。DoD と CIA が予測可能で、変化がなく、創造性のない計画を立てているのは良いことだ。それに、私は、憲法に則った支配を取り戻すという希望と司法省の善意がなければすべては失われる、という誓いをもたなければならない。

マインドコントロールされた暗殺者、すなわちテロリストとサイコ野郎を創る

「何も持たなければ、何も失うことがない」

シェイクスピア、『ヘンリー六世』（第3幕第3場）

私がこれから伝えようとしていることは、政府機関によってさらなるトラウマや不正に陥らないよう、前置きすることが非常に重要だ。私がこれから話すことは、米国が今日、好んで人々を暗殺している方法について、国民と世界を教育することに過ぎない。私は、これから述べるような行為を行うと脅しているのではない。私は、CIA などが「国内」テロリストを作り出すために使っている心理的手法とその理由をわかりやすく説明することで、FBI や司法省のその他の役職にまだ残っている良き人たちを助けようとしているのだ。この情報は、彼らが行動する前に他のターゲットに届くことができれば、将来の「サイコ」発生を妨げることができるかもしれない。

前にも述べたように、私はテッド・カジンスキーにインタビューして、彼に行われたマインドコントロール実験の詳細を調べ、視線サッカーの角度と、私が開発した EEG ヘテロダインによるマインド操作のターゲットを迅速に特定するための質問票でテストする機会はない。

犯罪組織 CIA が好んで使う暗殺術の一つは、この兵器の詳細を世間に漏らして、壮大な詐欺に気づかせる可能性のある科学者や退役軍人などに対する憎悪を植え付けることだ。最高の秘密は、ありふれた風景の中に隠されているものだ。この場合もそうである。

国民の怒りと不信が権力構造を転覆させるか、暴動の発生による非常事態につながるため、

政府の裏切り者にとっては賭け金が高い。だから、カモや複雑な行動や意見操作の戦術を使うのだ。例えば、彼らは極端な拷問によって私をユナボマーのような暗殺者に仕立て上げ、最も明け透けに話す科学者や大佐に復讐するよう仕向けようとした。さて、もし彼らが成功していたら、指向性エネルギーや EEG クローン兵器を研究している人たちすべてに、政府のプロジェクトを離れたら二度と神経科学の研究をしないよう、静かにしているという強いメッセージを送ったことになるだろう。また、たとえその人たちが口を割らなかつたとしても、潜在的な情報漏れを塞ぐことができたはずだ。そして、一石二鳥のために、秘密プロジェクトを離れて叩き落された私の海軍／アメリカ／イギリスの同胞のように、私も、自分の苦しみを終わらせ復讐するための自殺的攻撃任務を行うことによって、投獄なり、場合によっては隔離され、沈黙させられたただことだろう。

CIA のスクリプトにあるように、「犯罪を犯した後のターゲットは、現地当局によって処分される」。この手法は歴史上何度も使われ、彼らはその技術を高め続けている。先ほどもアドバイスしたように、秘密プロジェクトを辞めた皆さんは、CIA/DoD が封じ込めようとしている情報が漏れた場合、命を救うことができるかもしれない。私も標的にされる前にこのことを知っていて、自分でやっていたらよかったと思う。狙われてからでは意味がないし、逆に利用されるだけだ。

ジョン・アレクサンダーとデルガド博士は、文献や CIA が作成したいくつかの偽情報サイトにおいて、明らかに最も頻繁に指摘されている人物だ。彼らはこれらの兵器の開発に非常に深く関わっており、諜報機関が、彼らが年を取り、老衰し、話を始める前に排除したい理由は明らかだ。私がテッド・カジンスキーに抱く疑問は、なぜ彼がそのような標的を選んだのか、ということだ。なぜ彼は、それらの特定の科学者たちを無力化することで、これを止められると考えたのだろうか。その科学者たちは、過去または現在において、どのような政府とのつながりがあったのだろうか。国防総省が密かに制限している科学に取り組んでいる民間人でありながら、正確には禁止された知識取得のリストを消すことができない人たちだったのか。この調査の間、私の推測は極めて正確であることが証明され、私はすでにその答えを知っていると信じている。

この悲劇的で信じられないような実話をさらに進めるために、私はなぜ、彼らが私にプログラムしようとした選ばれた科学者や大佐を暗殺するためのもう一人のユナボマーにならなかったのかを明らかにしよう。私が「拉致監禁と脳内仮死」をするほぼ 1 年前に父が私に語ったことが、FBI 捜査官が訪ねてきて、2 年前にオレゴンの有名なテロリストのキャンプにかけた 2 本の電話について尋ねられたと、ということだった。彼らは、ボイシ・アイダホの FBI 事務所から銃を見せながらやってきた。電話会社の記録によると、その電話は父個人のオフィスと、自宅の妻のオフィスの両方からかけられていたそうだ。

さて、私は完璧なオール・アメリカン・ファミリー出身で、親戚は皆医者と弁護士だけで、多くは海軍で働いていたことを忘れてはならない。叔父は軍隊に給料を支給する大手金融機関の社長だ。父の土地は犬で守られ、家は警報装置付きのセキュリティーゲートから何エーカーも離れたところにあり、常に家にいる娘もいる。誰かが侵入して、それぞれの電話回線から1回ずつダイヤルすることは不可能だっただろう。FBIが身元調査をすれば、記録が改ざんされていることにすぐに気がつくはずだった。誰が基地局の電話回線にアクセスできるのか。政府機関だけが、この電話記録を改ざんすることができた。私が暴行され、精神的に拘束され、拷問され、プログラムされようとしたとき、ある機関が企んでいることがすぐに分かった。

つまり、彼らが私を「サイコパス」にすることに成功していれば、私の家族が数年前にテロリスト集団に関して尋問を受けたことをメディアにリークすることもできたわけだ。いい隠蔽工作だろう。正直なところ、私が犯人でなければ、彼らは成功していただろう。教育機関が私に植え付けた不変の価値観と、決して揺らぐことのない私の唯一の現実のモデルを評価しなければならない。

しかし、私は生存者の一人に過ぎない。アメリカには、「キリング・シグナル」から切り離されなければ、どんな命令でもテロ攻撃を引き起こす可能性のある人々は何千人もいるのだ。政府機関はこれを阻止するために指一本動かすこともなく、どのメディアもこれを暴露することはない。私や他の人々は、政府の犯罪者を暴くために全力を尽くすことを誓ってきた。私は個人的に、5万ドルの報奨金と免責を、証言して彼らの指揮官を告発する人には提供するつもりだ。

議会と司法省の両方がわが国の政府においてその影響力と自律性の面で疎外されていることは、非常に残念な傾向である。議会に独自の軍隊を与え、すべてのブラックオペレーション計画、技術、戦略に直接アクセスできるようにしなければ、この50年のトレンドラインの避けられない結末を防ぐのに役立つとは思えない。司法省は独立していると思なされ、連邦政府が専制政治や権威主義や馴染みのある名前の他のファシズムの形態に陥らないように安定させるための第三の柱だ。マッカーシズムのおかげで、CIAとNSAがこの国で活動するのを防ぐための法律がある。しかし私たちは決して学ぶことはなく、歴史は繰り返される。DARPAの科学者たちの科学的専門知識とハイエンドの軍用センサー・システムがなしに、FBIがどうやってこの事件を、彼らが立派に自律的に活動していると思い込んでいる国民に証明することが期待できるだろう。さらに、FBIはいつの間にか行政府に篡奪され、ニクソンやクリントンのような大統領によって違法に指揮され、利用されてきたのだ。誠実さ、名誉、正直さは、現在の支配体制では稀な資質である。

精神的暗殺者と従来の洗脳者が暗殺者を作り出すために使う行動修正と精神操作のテクニックは他にもいくつかある。なぜなら、彼らはそういうことになると、集団として、臆病すぎて、自分で暗殺を実行する人間を組織内に見つけることができないからである。もちろん、何段階もの暗示と高い技術によるもっともらしい否定は、影ですくんでいる人々にとってはプラスになる。司令官や最高責任者にまでさかのぼることができるこれらの犯罪者たちは、合理的に疑うべくもない腐敗の連鎖によって逮捕されたくないのである。

なぜマインドコントロールされた暗殺者なのか

第一に、映画『影なき狙撃手』のように、アメリカが狙っている国の指導者と同じ人種の方が、彼らに近づける可能性が高いからだ。第二に、アメリカは外国の指導者を暗殺することができない、というような法律を、これらの不正な機関がいかに創造的に回避するかの合理的な方法である。彼らの小さな頭脳の中では、一段階の間接的な手段を用いると、それが合法ということになるのだ。他人の神経伝達物質を調節することによって暗殺することは、自分たちの意図とは関係ない、と考えているのだ。また、やりすぎの感がある「その人が狂っていた、というもっともらしい否定」が、いつもうまくいくようだ。彼らは本当のところ新しい演技と、まじな脚本家が必要だと思う。イラクとイランの戦争、イスラエルとアラブ、インドとパキスタンの紛争のように、国同士を戦争させ、地域に不安定さをもたらすにも最適な方法だ。武器を提供し、どちらかを支持しているように見せかけるだけで、私たちは善人のように見える。もちろん、それが裏目に出ることはよくあり、各国はそれを理解し、扇動者を追及することになる。

国防総省や CIA のプロジェクトで働く人々が、退職後にそんな安全保障上のリスクを負うのはなぜか

ロシアと、おそらく中国がマインドリーディングレーダーを持っているからだ。だから、秘密プロジェクトの元従業者を殺せば、心を読まれたり秘密が漏れたりすることはない。つまり、現在の従業員と元従業員は、全員 SATAN スタイルの暗殺の危険にさらされているのだ。私の近くに住んでいる人で、ジェット推進研究所で働いていた時に、精神工学拷問される必要があると判断された被害者を知っている。彼女はまだ生きている。だから、もしあなたがまだ政府のために働くという過ちを犯していないのなら、そうしないことだ。地獄に突き落とされるのを避けるチャンスが増える。結局、彼らは統計があまりにも説得力がある形で明白なパターンを持つことを許さないのだから、政府に参加しないことはあなたの無事を保

証しないが、私が持っている 500 のサンプルからはそれが十分に明確だと思われる。

ユナボマーの作り方

テッド・カジンスキーと私の類似点は、偶然の一致と片付けるにはあまりに偶然過ぎる。捜査官は、以前成功したのと同じプロファイルから誰かを選んだのだ。マシンがそんなに創造的でなく予測可能なのはよいことだ。だから推測するに、彼らは私に使ったのと同じ技術を彼にも使ったのだろう。CIA がユナボマー、オクラホマ・ボマー、そして「国内テロリスト」を作り出すために使う心理的プログラミングの手順は以下の通りだ。願わくば、この知識が将来の爆弾魔を鎮めることになればと思う。

MK ウルトラでのプログラミングと生体通信兵器のデータ収集段階が終わると、彼らは精神工学的人質を殺して信用性を落とす、という最終段階へと進む。好ましい方法は、自分たちが選んだ標的を攻撃させるために利用することだ。明らかに FBI は、オクラホマ・ボマーを連邦ビルに送り込み、彼らの多くを殺した CIA/国防総省を怒るべきなのだ。これらのマインドコントロール兵器のテスト犠牲者の多くは、FBI が背後にいると徹底的に信じている。実験犠牲者である 2 人の元 FBI 捜査官でさえ、FBI が背後にいると信じている。私はそうは思わない。彼らは私の怒りをまず中国政府に、次にロシア政府に、そして FBI に向けさせようとした。伝統的にこの 2 つのグループは 政府内で反目し合っている。CIA は FBI を技術もない馬鹿な見栄っ張り警官と見ている。FBI は、CIA を取り締まる権限のない犯罪者の集団と見なしている。

プログラムされた暗殺者（CIA 用語）を作るための心理学は、ケネディ暗殺事件からユナボマーまで、何十年にもわたって完成され続けている。テクノロジーと心理学と演技台本の非常に高度なミックスだ。

これらの作戦における心理的戦略は実に驚異的だ。すべてが、もっともらしい否認の方向に向いているのだ。実験と拷問という作戦全体が一つの糸で結ばれ、それは、大多数の国民がこれらの生物通信兵器実験の規模と残虐性を理解せず、信じさせない、ということだ。彼らは、その人が精神疾患の既往症があり、そのためにあんなことをしたのだと、何らかの証拠をもってマスメディアに伝えなければならぬ。その話はたいがい好意的に受け取られ、FBI も、人々もその答えに満足するのだ。単純だ。真実は、世界ははるかに複雑で、信念体系を操作するゲームは純粋な科学だ。

無線による拷問と、ターゲットが自分の話を聞いてもらえず、信じてもらえないという組み

合わせだけで、そのフラストレーションと、アメリカではすべてがコントロールされていて、憲法制度は何十年も前に盗まれたのだという発見によるパニックに陥る。人々はこの状況にさまざまに対処する。ほとんどの人は、警察や FBI、あるいはホワイトハウスの芝生に駆け込んで、助けてもらおうと考える。しかしそれは、後で不利になるような「精神病」の実績を作るプロセスを始めるだけだ。

次にハンドラーは、いくつかの方法を使って彼らの対象を孤立させる。隔離は、他人からのフィードバックを受けずに妄想を進めるために必要だ。隔離はまた、感覚遮断室のような役割を果たし、前に述べた現象を通して生体通信の信号強度を増加させる。

偽善者は民主主義を転覆させたが、その名を騙った

このプロジェクト、TAMI を取り巻く秘密主義は信じられないほどだ。何千人ものアメリカ人が軍や CIA の武器開発のために拷問され、殺され、その脳が時折スパイされていると知ったら、国民は明らかに激怒するだろう。もちろん、すべてのプロセスを自動化するためのエシュロンの思考読み取りプロジェクトが進行中であることも。それは明確な憲法違反だ。

しかし、これが第二次世界大戦以降、何百人ものナチスの科学者を密入国させたペーパークリップ計画以来アメリカ政府が常に行ってきたことだ。情報公開法に基づいて文書が公開されるまでには、通常約 20 年かかる。もし、生存者がいれば、現在の大統領が彼らに謝罪する。これはまさにパターンであり、政府が彼らに罰を与えることも、犠牲者に正義をもたらすこともなく嘘をつく方法である。

サダムによる拷問から国民を救うためにイラクに行かなければならないと言ったとき、アメリカが何千人もの人々を拷問していたことを思い出してほしい。ブッシュが中国に行き、国民にもっと優しくしてくれるように頼んだとき、影の政府はイラクで何千人も、アメリカで何千人も、他の国では数百人を精神工学拷問するのに忙しかったことを思い出してくれ。そして、私たちがイラクに侵攻した後、民主主義と自由の名のもとに、たくさんのイラク人を拷問し、殺している。悲しいかな、人々は簡単に忘れてしまう。

この兵器が全住民を際限なく拷問するために使われる可能性を経験した後では、私は死の救済なしに純粋な痛みは何年も耐えるよりは核爆発で死んだ方がましだと断言する。米国は、マインドコントロール兵器の国連禁止条約やその他の国際条約に署名しない。ロシアは禁止令さえ提案したほどだ。もし米国がこれらの兵器を持っていないのなら、なぜ条約に署

名しないのだろうか。世界にとって本当の脅威は誰なのか。他のどの国よりも大量破壊兵器を保有しているのは誰なのか。ところが、私たちは彼らが大量破壊兵器を持っていることを恐れて、他国を侵略することを正当化しているのだ。この目くらましを理解するのは簡単だ。

痛みに対する恐怖は痛みより悪いのだろうか。人が死を恐れるのは、死に伴う苦痛を恐れているからだろうか。そうであるなら、国民をテロの恐怖にとりつかせ、何千人もの国民を痛撃兵器で拷問するのは、政府が国民にできる最悪のことのように見える。ナチスのようにガス室まで歩かせる方が人道的だろうか。

民間の研究者がどれほど遅れているのかを把握するために、私は学術界の一流の神経科学者や国内のマイクロ波通信の専門家に連絡を取った。イリノイ大学でのリン博士の研究、海外では非常に有名で、世界保健機構にも発表された「マイクロ波聴覚効果」を知っている人は一握りにも満たなかった。この国に来たロシアの科学者は、生体電磁波の非熱的相互作用について、アメリカ国民が無知であることをコメントしている。どうしてこのような重要な医学研究が抑圧されるのか。国防総省の資金力と、他の組織による知識の組織的な抑圧が組み合わさっているのだ。

私のヒーローの一人である未来学者で有名な起業家、カーツワイルは『霊的機械の時代(The Age of Spiritual Machines)』という本を書いたが、これは一つの可能な未来に対する洞察に満ちたものだと思う。しかし、ほとんどの人は、未来を予言する際に、政治的な動向と EEG ヘテロダインによるマインドコントロール技術を考慮に入れていない。コストのかかるロボットを作って意識を持たせるのではなく、ヒュームボット(HumBots)を作って人間の魂を抜き取る方向に私たちのトレンドが向かっているのだ。技術革新の興味深い生産的な未来とその自由な思考を持つ人間にとっての意味という点では、より悪い方向へ転換である。

興味深いインタビュー

兵器の実験対象となる人々はみな、精神的、肉体的に大きな苦痛を受け続けている。だから、私はそのような状況を踏まえて話を始めたが、人々を使ったマインドゲームには面白い一面もある。私が子供の頃に物理に興味を持ったのは、手品から発展したものだった。何も言われないで、どうやってイリュージョンが行われるのかを解明しようとする挑戦は、私の中にずっと残っているスリリングなものだ。私はそれがかなり得意になってきた。何故なら、電子走査型トンネル顕微鏡から最高級の極秘兵器システムまで、私がリバースエンジニアリングできないブラックボックスはもうほとんどないからだ。

それに、アメリカの歴史の中で現在ジレンマに陥っている不気味で不機嫌な真実から少し離れるのにはいい機会だ。

バカなエイリアンのトリック

台湾のある男性は、台湾政府の目に見えない小さなエージェントがドアの下に潜り込み、飛び回り、殴りかかり、耳元で話すことができると騙された。彼は、このほとんど目に見えない小さな工作員の行為を非常に詳細に説明している。フィリピンのある裁判官は、小さな小人たちを自分の友人だと思っていて、彼の話聞いて、自分の裁判の判決をどうすべきか教えてくれると思っている。なぜ人々がこのような結論に至るのかわかるだろう。確かに、彼らはクレイジーに聞こえる。彼らは、ただ信じ込まされていることが正しくないだけなのだ。その背後にある発話と工作員は実在し、地球上のどこにでも存在し得る。しかし、その諜報員はすべて米国に雇われており、他の NATO 諸国の人々が信じているような地元の治安機関とは関係がない。

多くのターゲットにされた人々が、攻撃の背後にいる目に見えない人々は小さいか小人であると信じている理由の一つは、人工テレパシーとマイクロ波聴覚効果から知覚される声が、しばしば人々がヘリウムに乗っているように非常に高いからである。何が原因かはわからない。

もしこの本がマスコミや世間のゴシップで何とか有名になったら、私が堂々と叱責した政府の部門のほとんどは、私が真実を言っているのかどうか頭をかきむしるだろう。CIA/DoD/FBI/立法府のほとんどの人は無知で、このような主張をする人について考えたり教育したりすることなく無視するように訓練されているのだ。ハーバード大学の助教授でさえ、最近、50 人にインタビューして『悪魔のパニック』という本を出版した。それらの人々は彼女の結論に激怒したが、彼女は古典心理学で訓練を受けており、これらのハイエンド物理学兵器システムや多数の一般人に対する非人道的実験の歴史について無知なのだ。彼女は偶然にも、自分の地位を利用して、自分のコミュニティのプログラムされた信念を永続させることで、私たちのコミュニティに対して不利益を与えてしまった。

妄想の創造

妄想を作り出す戦略も巧妙で複雑だが最も単純な方法は、EEG クローン・ハンドラーが催眠術で、またはあからさまに、あるいはサブリミナルに、ターゲットが自分自身でそのアイ

デアを思いついたと信じるようにアイデアを植え付けることである。そして、ハンドラーはその思考経路を強化する。その誤認識を訂正させる現実の要因が他にないため、そのプロジェクトにより、復讐のため、国や人類を救うため、あるいは絶え間ない心理的・肉体的拷問を緩和するために、極端な信念と行動に導かれ得る。

私の場合、私が妄想癖がなく、プロジェクトに提案された通常の標的を暗殺するように簡単にプログラムされないことが明らかになった後、彼らはテッド・カジンスキーに引き起こしたはずの心理学を利用しようとした。しかし、私はまだ彼にインタビューしたことがないので、私の考えが正しいかどうかはわからない。

次に選ばれたターゲットは、テッドのケースについて読んだときとまったく同じグループ、つまり、これらの兵器システム、技術、あるいは心理テクニックに取り組んでいた科学者や軍人だった。名前はどうでもいいのだが、ここではそのターゲットグループが重要なのだ。彼らは「サイコパス」という隠れ蓑を使って、この分野で一定の知識と専門性を持ち、精神工学国家反逆罪裁判の証人として使われるかもしれない人々を暗殺しようとしている。それにはこれらの発見に関する民間の進歩を遅らせるという追加の利点があり、そしてもちろん「地元当局によってターゲットが処分される」。

真実は、テッド・カジンスキーは、彼が有罪とされた犯罪の背後にある黒幕ではない、ということだ。彼は直ちに脱洗脳され、刑務所から釈放されるべきだ。

精神工学拷問に関する調査や公聴会の後

もし議会の調査の結果、アレクサンダー大佐のような人々が、何千人ものアメリカ人を実験し拷問する陰謀に加担していた、あるいはその秘密を保持していたことが判明すれば、彼と他の多くの人々は反逆罪に問われることになるだろう。ジョン・アレクザンダー大佐は、海兵隊予算の下で外交問題評議会が非致死性兵器統合局を設立するのに貢献した。無線周波数兵器を「非致死性兵器」という脅威を与えない名称で分類することによって、彼らは拷問用の武器をゴム弾、スタンガン、グルーガンと一緒にしているのだ。外交問題評議会は、すべての非致死性兵器を男性、女性、子供でテストするよう勧告している。

誰が自分の子供を実験に提供するだろうか。私の調査では、これらの兵器によって拷問されている子どもたちが何人もいることがわかった。家族全員が破壊され、絶え間ないマイクロ波による嫌がらせと、精神的な苦痛を伴う信号の下でかろうじて機能することができる状態だった。これは、民主主義における犯罪行為であり、反逆行為に他ならない。

私はアレクサンダーの見解の多くに同意するが、精神工学兵器を宇宙設置兵器を解決策として推奨する時、彼の戦略的思考には限界がある。彼はあるインタビューで、もしアメリカが宇宙を武器化しなければ、他の国が武器化するだろう、と言っている。これは宇宙戦争につながり、宇宙は軍事的な戦場となり、宇宙機雷、廃棄物、粒子廃棄物が散乱し、商業ベンチャーが継続して使用することができなくなるだろう。

・トム・克蘭シーとの小説 (non-lethal weapons) の中で、彼の大衆を欺こうとする姿勢が示されている。彼は、火薬を発火させる金属に撃針が当たったときに、弾丸の火花を止める EM 装置について話している。彼は、それがどのように機能するか誰も知らないと言っている。制御されたエネルギーの用途に関するこの一つの発見が、核ミサイルによる MAD (相互確証破壊) のアンバランスを招いた基礎となっているのだ。指向性エネルギー兵器は、電子機器や誘導システムを破壊したり、爆発物の点火を止めて、核融合の前駆体として必要な核分裂に移行させないようにすることができるのだ。そのため、新しいシリコンチップにはすべて対放射仕様が採用されている。

調査の間、隠蔽を進めるために記録が破壊され、シュレッターにかけられると予想される。クズの多くは CIA の中で発見されるだろう。陸軍の情報担当の副参謀長は、CIA についてこう言った。「彼らは、この国がこれまで一つ屋根の下に置いた中で最大の嘘つきと泥棒の集まりで、忌むべき存在だ」 p.300 サイキック戦士 (デビッド・モーハウス)

ベアデン大佐もまた、この技術について発言している人物である。彼は西洋物理学の訓練を受けたが、非常に非伝統的な語彙で馬鹿げた説明について話し、書いている。私は、彼自身が混乱した精神工学的な犠牲者であるか、あるいは偽の物理学を広め、一般大衆の認識を失わせることを任務とするグループの一員であるとしか考えられない。

ナチス・ドイツ

アメリカは、ナチス・ドイツが犯した過ちと同じように、あまりにも多くの前線で戦争を始めているのだろうか。なぜ、このような兵器で世界中の人々を攻撃しているのだろうか。第一に、SATAN のインターフェースはそうではないが、この兵器の効果は言語と文化の特質に基づいている。

もうひとつは、「心の病」や「大衆の妄想」という統計的な異常が、ある地理的な地域で目立たないようにする必要があるからだ。つまり、アメリカに対する憎悪の扇動は、部分的に

は意図的であり、部分的には偶発的なのだ。ブッシュが中国に対して、自国民を拷問しているから悪だと言っている。ディック・チェイニーは最近ロシアを挑発した。ブッシュに4つの国を悪の枢軸と呼ばせている。私たちが我慢できないフランス人。そして、リストは続く。ナチス・ドイツも同じような過ちを犯し、あまりにも多くの前線で戦争を起こしすぎた。

支配される裁判官

私はこれまで相当多くの人にインタビューしてきたので、兵器テスト担当者のスク립トのバリエーションはすべて見分けることができる。憲法による規制がないこの兵器システムの存在によって、司法制度が議会同様に疎外されてきたという話をすると、私の言うことを疑う人がいるかもしれないので念のために言うしておく。フィリピンのある裁判官は、つい最近、自分が超能力者であると信じ、小人の友人に罪の判定をさせ、裁判前によく引用する「啓示の書」の信奉者となったために、その職務を解任された。彼の名はマニラの法廷を仕切っているフロレンティーノ・フロロ判事だ。彼が小人の友人がいると考える理由は、人工テレパシーとマイクロ波聴覚効果が、しばしば被害者によりヘリウムを吸っているような高い声として知覚されるからだ。彼はマインドコントロールの実験を4分の1ほど終えたところだが、明らかに自分が何をされているのか分かっていない。

私のハンドラーは、それがどのように行われているのか理解できない医師を何人破滅させたかを自慢するのが好きだった。

サブリミナルメッセージ

『バックヤローバンザイ』（*“Buckaroo Banzai” 1984年公開のアメリカ映画）は、アメリカを支配している悪のエイリアンを題材にしたスピンオフ作品だ。主人公が特殊なメガネをかけると、ビルボードなどの上に「政府に従え」というサブリミナルメッセージが表示される。「権威に疑問を持つてはいけない。適合せよ。」60年代以降のこれらの人体実験は、ほとんどすべての人によって誤解され、あるいは異なった形でメトファー化され、数え切れないほどの映画にインスピレーションを与えてきた。

いわゆる「影の政府」または邪悪なエイリアンの、残忍さと心理操作の戦術に一度目覚めると、出勤・退勤するときにドローンがどのようにコントロールされているかがわかり、自分の意見がどうあるべきかを学ぶためにヒプノチューブを数え切れないほど見る。あなたがそのドローンである時、それは幸せな保護された至福の時だ。しかし、あなたの人生と目標

は、すべて間違った目的、思い込み、そして、知っていたら空しくなるようなつまらないことに基づいている。それは、エイリアンペテン師が真の自由というダイヤモンドに置き換えたジルコニウムなのだ。もしあなたがその違いを見分けることができなければ、それを現金化しようとするまで、あなたは同じようにそれを大切にすることになるだろう。

切実に必要とされる法的近代化

憲法を改正し、思想信条の自由を盛り込む。

言論の自由の権利を、政府が意図的に偽情報キャンペーンで真実をかき消すことを阻止することを含むように改正する。

証拠を提示され、それについて質問されたときに「それは微妙な話題だ」と述べた将軍以外に、これらの兵器の存在を認めた最も信頼できる情報源の 1 つは、修正されその後通過する前の宇宙保存法の原文である。この文書のコピーを添付資料 A で見てくれ。「精神工学兵器およびマインドコントロール兵器を宇宙から廃止する」という文言が最終版から削除されていることにご注目してほしい。言論の自由、そしてより重要な思想の自由を尊重する国にとって、特に政治過程や司法制度を操作するために使用されていることを考えると、このような追加的な保護が必要なのは明らかに思える。ドストエフスキーっぽい暗い未来を阻止するためには、もう時間がない。

電子盗聴法を更新して、ビデオ送信や脳波も含むようにする必要がある。

行政府にいる賢い権力中毒とそのテクノロジーによって、三権分立の政府の力のバランスが崩れ、この国の設計者が意図したチェックアンドバランスとセーフガードを台無しにされる恐れがあるのだ。

連中の首にかけられた懸賞金

アメリカ国民にこの技術を試し、使用している腐敗したエージェント、下請け業者、軍幹部の首には懸賞金がかけられている。賞金は増え続けている。現在、私はこれらの活動に関与した人物の起訴につながる情報に対して、5万ドルの報奨金を提供している。ウェブサイト www.thematrixdeciphered.com にアクセスして情報を残して欲しい。だから、もしあなたが関係者で、訴追免除と高額な報奨金が欲しいのであれば、MK ウルトラプログラムのメンバ

一や政府の精神工学虐待者に対して証言するために名乗り出ることになる。

米国と海外の社会を支配する戦略

情報戦の戦術を使って社会をコントロールする方法については、戦争大学から多くの戦略が発表されている。ロシアも 70 年代から同様の戦略を発表している。基本的な原理は、影響力のある人々と情報の流れをコントロールすることだ。アメリカのような国で極めて効果的にそれを行うには、約 1 万人をコントロールすればよい。

マイクロ波の影響に関する隠蔽工作のさらなる証拠

FDA が書いた食品調理用の殺菌技術に関する徹底的で見事なレポートでさえ、(電離および非電離) マイクロ波放射の人体および細菌への影響の欠如について鋭くコメントしている。私たちは、携帯電話、衛星通信、ダイレクト TV など、マイクロ波を浴びまくっている。なぜ消さないのか。その理由と研究は、国民が知るには怖すぎる。携帯電話でガンのリスクが大幅に増加したという報告があってから、携帯電話パニックが起きたのを覚えているか。通信会社の株価は半値になった。DoD はマイクロ波兵器とその生物学的影響に非常に積極的なので、この分野の研究を抑圧するもっと邪悪な動機があるのだ。

政府の犯罪

信じられないような話だが、この拷問とマインドコントロール (MK ウルトラス) の人体実験プログラムは、その名の通り単なるテストをはるかに超えるものである。DoD は、いくつかの不明瞭な法律を緩やかに解釈して、一般市民に対して無作為に非合意の兵器実験を行うことが許されている。これは単なる形式的なものだ。彼らはいずれにせよやるだろうし、それを正当化する。ブッシュ大統領による NSA の秘密スパイ活動のように「国家安全保障のためだ」として。拷問スクリプトテストによってジュネーブ条約やニュルンベルク綱領のすべての規範を破った上に、彼らは内部告発者保護法を無視して内部告発者を攻撃してきた。マインドコントロール兵器を使って、多くの殺人未遂と殺人の成功例を持っている。彼らはサブリミナル/催眠術の使用法を破っている。ストーカー規制法を大胆に破ってる。

このようなテストが延々と続く間に、被害者の資産、健康、所有物に莫大な損害を与えている。他人の身体を利用した殺人・暴力行為を多数行っています。そしてもちろん、盗聴法や

個人情報保護法も破っている。彼らは何千人もの人々を精神工学的刑務所に不当に収監している。しかしもちろん、すべてが明らかになれば、彼らはどんな合理的な人の解釈も及ばないほどの反逆罪を犯していることになる。このリストは数ページにわたって続くだろう。

驚くべきことに、地元や州の警察は、明らかにこれらの複雑な犯罪を理解するのに十分なほど洗練されていない。FBIには、このような犯罪を適切に捜査できるような科学的才能を持ったスタッフも高価な装置もない。彼らの内私取材中には、このプログラムの被害者になった人が何人もいる。ロサンゼルス FBI の前局長と、国際テロリズムの特別捜査官だ。彼らは非常に率直に語るが、もちろん彼らの証言は他の何千もの人々と同様に弾圧されている。もう怖いかな。

DARPA の科学者や他の機関は、軍事演習には手を付けないように指示されている。誰が彼らを止めるのか。おそらく、独立した議会が委託したタスクフォースが、他国の介入なしには唯一の希望となるだろう。私は政治的だったことはないし、陰謀論も信じたことがない。しかし、映画『マトリックス』のように、精神工学の複雑な電磁気学的建築の世界は、信じられないほど浸透しており、「自分の目で見なければ」それがあるとは信じられないのである。

対精神工学理論：脳内干渉技術の予防と解決法

「真実はそこにある」

『X-ファイル』

X ファイルの解決策では、ブラックオイルの影響を受けない新しい種族が、エイリアンの生体物質と人間の卵子からクローン化されることに触れている。この種族は最終的に精神の奴隷になることを避けることができる。これを翻訳すると、悪のエイリアンということを隠れ蓑にした作業者が、脳波でクローン化され、サイバー集合意識ハイブリッドの「新」種族になることを意味する。

国民をブレインナッピングし、TAMI マインド監視ネットワークに入れることを正当化する理由は、他国が国民のマインドをコントロールしたりスパイしたりしていないことを確認するためだ。しかし、精神工学的ホロコーストに関するハリウッドのほとんどの解釈と同様に、敵が誰であるかを間違って描写している。この場合、いわゆる「免疫人種」とは、実際には心の奴隷のことである。彼らはすでに「黒い油」に感染しているので、免疫があるのだ。

X-ファイルやアウター・リミッツのような映画やテレビシリーズが、どうやって、そしてなぜ、語られざる真実をさりげなく伝えるために作られるのか、私には理解できない。政府の悪事を正当化するためのヒントが、なぜかマスプログラムのためのメディアを通して伝わってくるのが理解できればいいのだが。良心の呵責なのか、傲慢な嘲笑なのか。あるいは、それを語るためにあえて名乗り出る人々に対する信用失墜戦術なのだろうか。

ジャマー、ディテクター、シールド、オーマイ!

黒い油に対する「ワクチン」

黒いオイルは、黒い科学と、TAMI、MIND、SATAN によって「マインドコントロール」された者やゾンビ化した者に強制される電磁信号の象徴である。X-ファイルの邪悪なエイリアンはロシアや米国国防総省の象徴であり、乗っ取りのタイムラインは私たちがその中にいる生体電磁波兵器の軍拡競争に言及しているのである。X ファイルの解答が語る秘密のワクチンは、人々の脳が EEG クローン攻撃信号の解釈を学習しないように、生体情報的に支離滅裂な信号であると私は推測している。

CIA がニカラグアの反乱軍に資金を提供するために黒人居住区に売ったクラックは、「カタログとクローン」のために全く新しい世代の「サイキック」を作り出すという二重の目的を果たしている。クラックとメタンフェタミンは、ドーパミンの再取り込み受容体にダメージを与え、それによって最終的に精神病に導く。前に述べたように、電磁波信号の増幅は、シナプスが過剰な神経伝達物質で満たされた状態で、はるかに低い出力レベルで起こる。私が発見した空軍の「非致死性兵器」の研究資料には、異なるマイクロ波周波数での神経伝達物質の放出のテストが行われていた。この研究は、神経系に影響を与える別の方法であるか、あるいは脳波のクローン効果を高めるために、自然あるいは化学的な方法ではなく、脳に神経伝達物質を流し込む電磁的な方法を探しているのである。

プロザックの流行で、ある SRI (セロトニン再取り込み阻害剤) が、TAMI の効果の増大や、その神経伝達物質を使う関連するニューロンへの電磁的影響に何らかの影響を与えるかを、私は検証することができてない。しかし、ドーパミンのレベルがより高いことは、ボイス・トゥ・スカル (人工テレパシー) を効果的にするためには、とても望ましい。言葉の認識や思考の増幅を行うには、電磁気的にもっと小さな刺激が必要なのだ。

おまけに、ドーパミンレベルの高い人は、信用を失墜させるのに役立つ。平均的なドーパミ

ンレベルの人であれば、誰にでもできることだが、それは少し高いパワーレベルが必要だ。フェーズドアレイの大きなフィールドからのビーム幅はまだ非常に広いので、あるエリアの複数の人が同じ信号を知ってしまう可能性があり、それは秘密保持にとって問題であろう。一卵性双生児やカップル、家族全員が同居していると狙われてしまうのも、このためである。

生体通信信号の情報的一貫性の乱れ

スター・トレックがボークを倒したように、シールドは脳にとって情報的にコヒーレントでない信号を変調させる必要がある。適合するアルゴリズムは、安定した周波数領域のバックグラウンドノイズに適応することだ。これはフーリエ・フィルタリングの一種だ。この適応性は 6 度の自由関数を持っているように見える。だから、電場と磁場の半カオスに変化する変調は、強制的な脳の学習と "第六感" の挿入を抑制するはずである。彼らの適応には、フィルターにかけるためのパターンが必要なので、白兔なりホワイトノイズを追いかけるように継続的に導く必要がある。これが、ターゲットの脳に対する信号を邪魔する基本的な理論であり、このノイズが加わることで信号を解釈する方法を、時間とともに「学習しなくなる」のだ。

サイキック・ディフェンスとウォー・ゲーム

ブレインマッピングには限界がある。クローン化される神経情報の種類は、帯域幅と解像度の制限により制約がある。多くの被験者が、見えない攻撃者が自分の目を通して見ることができると誤って描写し、その後、視神経にマイクロチップを埋め込まれたと誤って結論付けている。サイキック・オブザーバーには、例えば音声皮質や視覚皮質のような高次皮質のみがマッピングされる。彼らはあなたの心の目だけを見ることができ、視神経の生の出力は見えない。だから、もしターゲットが自分がスパイされていることを知っているなら、実際の光学的視野と関連しない偽のイメージを想像し、それによって偽のデータをサイキックスパイに送り返すことが、ある程度の練習をすればできる。

同様に、音声皮質も、偽の音や会話を想像することで、誤魔化すことができる。しかし、蝸牛からの生の出力は、BAER (Brain Auditory Evoked Response test) と呼ばれる EEG で測定できるため、実際の音声入力収集されるのを阻止することはできない。

さらなるバカなエイリアンのトリック

この「サイキック兵士」をチンパンジーと呼ぶのは妥当な比較である。彼らは、心臓発作や脳卒中を起こすと言って被害者をパニックに陥れるとき、文字通り胸をトントンしたり、逆立ちしたりして、脳の血圧が上昇するような感覚を起こさせるのだ。胸を叩くと、不整脈や心拍が飛んだような感じがする。このバカどもはネアンデルタール人ですらない、ヒューマノイドに進化していないのだ。

国防の嘘

国家防衛として闇予算で売り出されたこれらの実験にもっと違和感を覚えるのは、これらの兵器について防衛的な部分がないことだ。もし政府が本当に国民を守ろうとしているのなら、すでにある核シェルターの中に超電導シェルターを作って国民のために使っているはずだ。彼らは上司である納税者には教えてくれない神経衰弱兵器に対するハイテク防御策はいくつかある。私たちは、自らの資金と資源で、これらのシェルターを、国内および世界各地に作られたセーフハウスに密かに建設しているのだ。ゼロエミッション型テンペスト・シェルターの詳細については、ウェブサイト www.TheMatrixDeciphered.com を見て欲しい。

非致死性 ADS、PEP、ゴム弾の撃退法

私は民間防衛の科学者だが、DoD と混同しないでくれ。私は、DoD から国民を守る手助けをしている。抗議行動やデモは、まだ民主主義を望む人々にとって苦痛に満ちて危険なものとなってきている。ここでは、専制的な連邦軍に対する防衛策をいくつか紹介する。

- マイラーの傘によって、これらの痛み攻撃や電撃兵器を生み出すのに必要なマイクロ波やレーザーエネルギーの一部を偏向させることができる。
- また、デモで使われる水鉄砲のシールドにもなる。
- ケブラーの補強で傘は 22 口径の弾丸を止めることもできる。
- 耳栓をすれば、超音波兵器による吐き気を防ぐことができる。
- 低周波音兵器は、吸音無響コーンによって軽減される。
- シアトルで開催された WTO の会議のように平和的に抗議する場合は、ゴム弾が使われることを想定して、バイク用のヘルメットと厚手の革の服を持参して、専門的に感情をコントロールできない警察学校に偶然受け入れられた一部の過度の高揚した用心棒たちから身

を守るようにしよう。

バカなエイリアンのトリック

「音波弾を撃って脳と心臓に命中させるぞ！」家屋が小気味よく音を立て、それをゾンビがあなたの耳を通して聞く。「今の聞こえたか。外れた。今度は脳みそを撃ってやる、ダメージは大きいぞ。」クローンの一人が自分の頭に指を押し付ける。「感じたか」

バカなエイリアンだ！

脳波の追跡回避

薬物が私たちの社会で懸念されている二次的な理由として考えられるのは、中毒になり、それによって自分自身の面倒を見ることができなくなる個人への悪影響や、薬物使用に伴う貧困や特定の精神状態を再び獲得したいという欲求のために起こる二次的な犯罪だけではなく、特許番号 () で説明されているように、人々が脳波サインによって識別され、この方法で追跡されている可能性があるからだ。薬物は、そのユニークな脳波のサインが、追跡のため TAMI によって認識されたり、現在の人工知能の能力による思考では、エシュロンのようなシステムによって監視されないほどに脳波を変化させてしまうかもしれない。また、世界中のすべての人間が「第六感」として適応し、神経ネットワークに統合している信号が学習されないため、世界的な人間監視網から外れ、TAMI の影響力の外に出てしまうかもしれない。

そのため、ダミーに脳波を記録して再生することで「かかし」を作ると、ある種の追跡技術を混乱させるかもしれない。

苦痛兵器 - 死そのものではなく、死の苦痛に対する恐怖

「我々が恐れなければならない唯一のものは恐怖そのものである」

フランクリン・D・ルーズベルトの第一回大統領就任演説

「臆病者は死ぬまでに何度も死ぬ。

勇者は一度しか死を味わうことはない」

次世代のサイキック・ウォーフェア

サービス妨害攻撃

生体通信兵器の開発者たちは、まるで不正なコンピューターハッカーのように、人間の心のハッキングにアプローチしてきた（サイエンスチャンネルのスペシャル番組『Spies R Us』を参考）。コンピューター・ハッキングのあらゆる類似の手法が、世界中の市民を対象にテストされ、開発され、実践されてきたのだ。サービス妨害攻撃（DoS 攻撃）は、アマゾンやマイクロソフトなどの大手コンピューター会社のウェブサイトをダウンさせたことがある。この攻撃は、世界中の何千台ものコンピューターをハッキングし、ゾンビ化させることで行われる。ゾンビ化したコンピューターが特定のウェブサイトに一斉に情報を要求することにより、ウェブサーバーをダウンさせ、その結果、顧客へサービスを提供することを妨害するのである。人間の心のハッキングでは、複数の「つながった」心、あるいはその声だけがターゲットに送り込まれる。彼らは自分たちの声を使うか、自分たちの声をターゲットの声に変換する。ターゲットは、特に自分の内なる声が使われている場合、すべての質問や会話をフィルターにかけることが難しくなる。結果として、生産性と思考の明瞭性が著しく低下する。このような状態では、人間は仕事を維持することも、軍のリーダーとして行動することもできない。

トロイの木馬

トロイの木馬とは、普段は有用なソフトウェアとして動作するが、内部に悪意のあるコードを持ち、ある特定の時間にそれが実行されるコンピューター・プログラムのことだ。暗殺者や「影なき狙撃者」を作り出す CIA の MK ウルトラ・プログラミングと非常によく似ており、私自身が体験したものでもある。内容は 1950 年代からあまり変わっていないので、ここでは詳しくは説明しない。概念としては、社交的で、よく教育され、人脈のある「影なき狙撃者」を養成し、催眠術や EEG クローンにより引き金となる信号を作り、彼が適切な社会的環境に置かれたときを見計らって何らかの行動を起こすように仕向けるものだ。（アメリカの政治家に対する実践を記した CIA の文書については、付属資料を参照）

皮肉なことに、2006年の6月14日から17日にかけて、彼らが成功するかどうかを試されるだろう。私は、多くの国会議員やその補佐官と会い、この話題について、また、米国市民に対する軍の訓練を止めるために何ができるかについて議論しているところだ。あまり心配はしていない。アメリカ政府と軍の無能さを知っていれば、彼らが99%の確率で失敗するのは明らかだからだ。

トリップワイヤとユニークハッシュ ID

自己を知ることで、様々なマインドハックに対して免疫を得ることができる。ここでは、トリップワイヤというハッキングを検出するための診断アルゴリズムが役に立つだろう。ウイルスによってプログラムが改変されると、暗号化された固有のハッシュ ID が変更される。もし、あなたの視点や能力のどれか一つでも変わったと感じたら、感染を疑ってほしい。それは、例えば「サッカーディック眼球運動の頻度」だったり、解離のような視点の変化だったり、アイデアや言葉、人に対する感情的な連想の変化だったりする。ニューラル・プログラミングの技術はかなり洗練されてきており、私は、他の国々と詳細を相談して人口と平和を守る手助けをしたいと思っている。各国の政治システムの適応度関数は、こうした反民主主義的な手法でごまかされることなく求められていかなければならない。最適な政府形態のさまざまな可能性が、干渉を受けず展開されてゆくことによってのみ、世界は何が最も効果的か真に判断することができるのだ。

ワームとウィルス

認知モデリングの世界におけるワームは、ミームを通じて実装される。ミームは、社会的な情報の流れを通じて、人工やサブカルチャーに導入される。これは、テレビ広告、プログラミング、映画などの形をとることがある。また、社会に紛れ込んだ作業者の集団を通じてワームを広めることもできる。文化的なマインド・ウイルスとワームの区別は難しい。私は、ソーシャルネットワーク上で発生した興味深い真実や誤った情報がどこまで広がるかを調べるために、「ピング」と名付けた害のないマインド・ウイルスを作ったことがある。

流行や一般的に広く信じられているものは、すべてこのカテゴリーに含まれるだろう。とても根強い考えの1つは、電子機器なしで声が聞こえたら、その人は頭がおかしいというものだ。もうひとつは、膝から下の長さがあるバギーパンツの「ギャングスターロック」のような有害な流行だ。もしあなたがギャングなら、犯罪から逃げられるようにしたいはずで、この流行は明らかにそれを妨げるだろう。

バッファオーバーフロー

もう一つの非常に成功しているが複雑なハッキングの方法として、バッファオーバーフローというものがある。コンピューターサイエンスでは、入力ストリームが入力に割り当てられたメモリ空間をオーバーフローして、実行可能な空間に書き込みを始めることを意味する。これは、マインドハッキングでは論理と情報のレベルで行われる。情報は、その文の真偽を判断するために、ターゲットの心に大規模な論理的推論のセットを維持することが求められる形で提示される。これはチェスのゲームのようなもので、何段階も深く考え、すべての可能性を記憶する必要がある。もしそれができなければ、論理的な推論や推察の誤りを犯し、その情報を真実として消化してしまうことになる。

ハッキングは他にもいろいろな形で実践されているが、ゲームの仕組みはだいたい理解できただろう。では、防御とハッカーの心をハックする方法について見てみたい。

EEG クローン・ロックでは、攻撃者は、匿名性、不意打ち、そしてクローナーからターゲットへの思考の一部を遮蔽する脳波フィルターという利点を持っている。しかし、どんなシステムにも欠陥があり、フィルターも完璧とは言い難い。攻撃者から情報を引き出す方法を学ぶことは、彼らの伝統的、または非伝統的な尋問テクニックと同じように効果的だ。

トレース・ルートは、ハッカーの居場所を突き止めようとするユーティリティである。ハッカーは、ターゲットに到達する前に、世界中の多くの異なるコンピューターに情報ストリームをバウンスさせることができるため、これは困難な場合がある。同様に、散乱型ステルスレーダーは、発信源の方向や合成開口とビーム・ステアリング技術により、ほとんど検出されない。しかし、攻撃者の心理にアクセスし、感情や言葉の合図で相手を陥れることは可能だ。また、従来のインターネットを利用したリサーチも有用だ。

複雑化するサイキック・ウォーゲーム

EEG クローナー攻撃者は（もし人間であれば）認識されたターゲットの脳信号にリンクされているので、認知モデル・シミュレーションを使って想定されるターゲットの脳波を模倣し、実際にそれに従って攻撃者を再プログラムすることが可能である。

これは、ハッカーの心をハッキングする方法で、あくまで理論にすぎない。アメリカとロシ

アはまだこの能力を持っていない。(詳しくは「スケアクロウ戦術」を参照)。

視線追跡インターフェースのハッキング

視線追跡インターフェースの配置を知ること、攻撃者の視線を様々なメニューに強制的に誘導し、反撃することができる。クローンやヘテロダインでは、通常、攻撃者の方があなたの脳波の増幅に影響を受けやすいことを覚えておいてもらいたい。これは双方向の関係なのだ。

サービス妨害攻撃

「サイキック・ソルジャー」やシミュレートされたイライザ認知モデルのセンテンス・ステイミュレーターの仕事の一つは、ターゲットと無駄な会話を延々と続けることだ。なるべく物議をかもし出すことを言うのが作戦である。このテクニックを知り合いに試してもらいたい。攻撃的で嫌味な態度をとることで、相手は会話から立ち去ったり、黙っていたりすることが難しくなる。十分に練習をすれば、「ボイス・トゥ・スカル」のエレクトロニック・ハラスメント攻撃で最も重要なスキルが身につくことだろう。マイクロ波聴覚効果と人工テレパシーを使ったこの方法は、ターゲットの生産性を極端に低下させ、ある裏切り者の大佐が言ったように、「声でターゲットを狂わせる」のだ。

想像してみてほしい、その場から立ち去ることができない会話を。どんな声のパターンも、自分の内なる声さえも模倣することができ、反応したいという衝動が増幅されるような会話を。このような攻撃は、まさに統合失調症の症状を模倣している。精神疾患は、軍が伝統的に、不従順な兵士や内部告発者のような好ましくない者を違法に処分してきた方法であり、今ではランダムに選ばれた兵器実験台のためにその数は増え続けている。

映画『V フォー・ヴェンデッタ』は、真実からそれほど離れてはいない。この国や世界中で、拷問や政府の実験によって、国家の敵が何万人も作られているのだ。私たちは最悪の形で不当な扱いを受けている。国民が支配する新しい透明な政府を作ることこそ、私たちの目標だ。この映画を見て、私は政府から受けた残酷な拷問を思い出した。

国民は「影の政府」によって電磁氣的・心理的ドーピングを受けている。私たちは自己満足に浸り、自分たちの存在において重要ではない細事に集中するようなシステムに置かれているのだ。「悪魔は細部に宿る」という格言の通り。

憲法すら暗唱できない大統領が命じたプライバシーの侵害に対して、米国民に警告するため誇りを持って正しく名乗り出た NSA エージェントに、アメリカ人を代表して感謝を捧げたい。私たちのスタンダードはどこに行ったのだろうか？自分が銀のスプーンで養われた成り上がり者であることをアメリカ国民が証明できないようにするために、呆れたことに、彼はシークレットサービスにイエール大学での学歴を抹消させている。

明晰夢の尋問

あるシナリオの下で潜在意識がどのように反応するかを見るために、被害者の夢は操作され、夢のシーケンスを見続けるよう強制される。これにより、被害者が以前にどのような状況に置かれたかを知ることができ、また、どのような反応をするかが予測できる。人は通常、自分の夢をあまりよく覚えていない。夢の尋問は、相手に怪しまれることなく心を探ることを可能にする繊細な方法なのだ。また、夢の操作は、潜在意識の連想によって個人をプログラムする非常に強力なツールでもある。例えば、政治家候補に関連した悪夢を繰り返し見れば、理性的かどうかにかかわらず、その人に対する意見は確実に変わるだろう。

目覚める直前のような状態に被害者をすることもできる。この状態では、「そうね」という返事をもらうため半分眠った母親に子供が質問するような感じで、被害者は質問される。

間奏

奇妙な旅に出たものだと、あなたも思っていることだろう。政府の無名の研究所に眠る秘密は、控えめに言っても反吐が出るものだ。先に進む前に、あなたと共有したい贈り物が一つある。

私がかち合いたいと思うのは、私たちが知っているものはすべて、音楽、ハーモニー、共鳴からできているという洞察だ。私たちは宇宙のシンフォニーの一部であり、旅するエネルギーであり、定在波でもある。ある科学者は、宇宙が誕生して以来どのような音を出しているのかを聴くために、宇宙背景放射のパターンを音スペクトルに変換した。皮肉なことに、それは子供を産む母親の悲鳴のように聞こえるそう。

私が行った似たような実験は、自分の脳波を可聴スペクトルに変換し、自分の思考を聴くというものだった。心の音楽を聴けば、あなたも驚くことだろう。心の音をコントロールする

方法を学ぶこともできる。

視線追跡インタフェース

TAMI、SATAN、MIND は、視線追跡インタフェースで制御されている。アイトラッカーは、赤外線を眼球に当てたり、目の瞳孔をイメージ化することで動作する。このようなインタフェースにより、チンパンジーでも簡単に兵器システムを使うことができるようになってきている。心理学会の過去の研究論文に、サッカーの眼球運動頻度から統合失調症患者を特定できると仮定しているものを私は発見した。心理学会が隠蔽工作のためにどれだけ利用され騙されてきたかは、目を疑うほどだ。もし現在の精神工学の人質たちからの協力が得られれば、複数の人の視線変化の予想数をモデル化して、サッカー眼球運動の頻度を調べることができるだろう。また、目の動き、正確な角度や周波数を調べ、前述したようなインタフェースとアイトラッカーが使用されているか確認することも可能だ。このような不正システムの存在を知っている私たちには明白なことは、しかし、ほとんどの心理学者には数学的な知識が欠けているため実証することができない。また、これらのテストが適切に行われたとしても、ヘテロダインのオペレーターは、テストの間ただじっとしているだけだろう。メニュー駆動型インタフェースを満足できるように実証し、リバースエンジニアリングするためには、視覚風景を重ね合わせた携帯用視線記録装置を、長期間にわたって常時装着することが必要となるだろう。(TAMI/SATAN オペレータの視線を制御し、オペレータの視覚的インタフェースを利用する方法については、「ハッカーをハックする」を参照)

ブレイン・プリントで情報を取り出す

ブレイン・プリントは、法廷でも認められている発明だ。この技術は、容疑者がある出来事を認識しているかどうかを実証する。ある事象を認識すると、意識ではコントロールできない神経回路の発火が起こるのだ。脳波の遠隔操作では、心的なイメージを提示することにより、認識や罪悪感の反応をブレイン・プリントで見ることができる。私は、加害者の名前を抽出するために、ブレイン・プリントと同様の手法を実践した。視覚的な作業空間を共有しながら、文字や名前の断片を高速でちらつかせると、彼らはその言葉の断片を認識したり、パニックになったりするのが感じられた。これは、イメージを素早く提示されたときに起こる無意識の反応であり、コントロールするのは非常に難しい。私は、組み合わせを解くように、様々な可能性を繰り返し、最も確率の高い反応を集め、彼らが警戒心を解いている時にさらにテストした。顔の認識にもこの手法は使うことができる。さまざまな人間の顔を高速でモーフィングすることで、ブレイン・プリントの技術を使って、EEG ヘテロダインや従

来の EEG プローブが認識する顔の上で停止させることができるのだ。それは彼ら自身の顔かもしれないし、彼らの知り合いの顔かもしれない。

一例として、名前に対する反応を示しておこう。フィードバックがあるため、ブルートフォースのパスワードハッキングよりも簡単だ。金庫破りと似ていて、タンブラーが所定の位置に落ちるのを聴くことができる。

Ewen C - 若干の反応

Cristopher Evens - 高い反応

Chris Evens - 低い反応

Christian Evenson - 高い反応

Kevin Christianson - 高い反応

Kevin Christian -最も高い反応

バイオ医薬品の治療薬

安全で効果的な EEG クローニングを行うには、より高濃度の神経伝達物質が必要となる。それはシナプスでの増幅を高めるため、脳を特定の同調状態に誘導するのに必要な電磁波エネルギーが少なくすむのだ。L-ドーパと呼ばれる人工的なドーパミン神経伝達物質は、服用することで電磁波の影響を受けやすくする。効果は一時的なもので、後遺症などもない。製薬会社がドーパミンの抑制剤または遮断剤の開発に成功すれば、電磁気的な誘発だろうと、自然発生や再取り込み機構の損傷によるものだろうと、精神病を治療することが可能になるだろう。少なくとも、調節された神経伝達物質の放出で作られた人工精神病の、症状の誘発に必要なエネルギーの検出を容易にするだろう。

知識こそ防御

「人生を選べ。私は別のものを選んだ」

私がインタビューしたキャリア軍人の言葉。映画「トレイン・スポッティング」にも同じセリフが登場するが、おそらく彼は知らないだろう。

本書で説明する技術的な防御方法のほかに、CIA の RHIC、MK ウルトラ、精神戦の実験に対してあなたが持てる最高の免疫力は、本書に書かれている知識である。これらの残酷な実験から収集される最も重要なデータのいくつかは、ターゲットが自分に何が起きている

のか知らないという事実に依存している。実験者たちは、兵器やプログラムの存在を知る前と後の効果の統計を集めているのだ。あなたの友人や家族をこの恐怖から守るために、本書を渡し、読んで理解してもらいたい。そうすれば、彼らはもうこのような実験の役には立たなくなるだろう。「あなたは真理を知り、真理はあなたを自由にするでしょう」

リスクを減らす - 秘密をなくそう

もしあなたが秘密基地や機密技術に携わったことがあるなら、漏洩のリスクを最小限にするために、私や私の同僚のように黙って暗殺される危険性がある。これは、彼らのひねくれた心の中でしばしば合理化されることである。もし私が過去に戻れるなら、すべての情報を追跡不可能な方法で世間に漏らしていただろう。それが同僚の暗殺や私の拷問につながったと確信しているからだ。

秘密が公になれば、あなたを殺す理由もなくなる。彼らが法的な報復を追求できないよう、追跡を不可能なものにして注意しなければならない。偽の電子メールアドレスや多重ルーティングされたクラウド IP アドレスを使うか、外国の大使館や陰謀サイトに郵便で投函すればいい。

マインド・マニピュレーション技術の素晴らしいところは、記憶移植や強制的な発話によって、自白の真偽を決して確認できないことだ。もちろん、レーガン大統領のときのように、EDOM（記憶の電子的分離）により記憶を奪うこともできる。

私の肉体的な拷問は、最終的に私が彼らの知りたがっていたことを白状した後、2週間かけて弱まり、試練はその記念日である 2005 年のハロウィンにほぼ終了した。このため、私は本書を書くための多くの精神機能を回復することができた。私が「聖人(The Saint)」というペンネームで出版したのは、政府の報復から身を守るためではない。私は、会議、集会、組織の会合などで非常に率直な意見を述べてきた。諜報機関が作り出したあらゆる監視リストに載っていることも間違いないだろう。私がペンネームで発表したのは、拷問され、レイプされ、残忍な扱いを受けることに伴う汚名が理由だった。女性の 3 人に 1 人が一生のうちにレイプされるのに、ほとんどの被害者は黙っている。

CIA のマインドコントロールの暗殺者を脱洗脳するよう、誰かが他の政府に教える必要がある。催眠や人格分裂、EEG ヘテロダインを使用してポリグラフとブレイン・プリント技術を通して二重スパイたちを洗い出すためだ。

ゼロエミッションのテンペスト基準の研究所やシェルターの設計が広まることを期待している。最先端の遠隔マインド・メルディングや、CIA の尋問戦術、それらに対する防御方法が周知されれば、おそらくこの技術は民衆に引き渡され、憲法に則った管理が取り戻されるだろう。ゴールは、教育によってこの兵器を無用なものにすることだ。それによって軍や CIA が機密指定を解除して情報を公開する時期が早まれば、技術の有益な利用も可能になるだろう。この技術の兵器化に取り組んでいる空軍の科学者によれば、彼らは 2030 年までこの技術を秘密にしておくつもりだという。そのころには、実験犠牲者のほとんどは、自動化されたシステムに余生を拷問され死んでいるだろう。

バカなエイリアンのトリック

私が真理を語り、台座に上り説教をはじめようとする、エイリアンは「舌を噛みやがれ！」と言う。そのあと、歯を噛みながら、私の舌を無理やり口から出そうとする。邪悪なエイリアンは子供なのだ。

集団マインドコントロールの副作用に関する警告

マイクロ波誘導や他の手段によるニューロン増幅の長期的な効果は、他の精神薬物と同様に、個々人を増加した刺激に依存させることになる。脳の化学反応は、外部の電磁エネルギーから受ける余分な力を補うよう適応する。もし全人類が TAMI ネットワークに入れられたら、彼らは生まれながらにその信号に依存することになるだろう。もし宇宙戦争で人工衛星や電離層ヒーターからの信号が突然来なくなれば、人々はやる気もなく、至って無知なまま従順なゾンビになってしまうのだ（今以上に）。映画『ファイト・クラブ』でブラッド・ピットが言ったように、「彼らは家畜のように飼いなされるだろう」。これは、ESR、MRI、超電導の聖域を見つけた者が体験することになる、ビルト・インの素晴らしい軍事的フォルバック機能なのだ。

サイキック・スパイのサイン

サイキック・スパイが誰に EEG ヘテロダインを行うかについては、技術が一般にあまり知られておらず、まだその存在も信じられていない現在は、あまり熟慮する必要はない。しかし、そう遠くない将来、彼らはより注意深くなる必要がある。技術を知った人たちが、その兆候に目を光らせるからだ。サイキック・スパイはじっと動かない練習をする必要があり、

視線の動きはターゲットのものに自然に従う必要がある。コンピューター・モニターの前で心地良い椅子に座っているスパイは、私たちの多くがそうであるように、習慣的に前後に揺れてしまうことがあるだろう。そのため、ヘテロダインされたターゲットは、立っている間でもまるで幼い子供のように腰を前後に揺すってしまうことになる。ターゲットの目の動きをコントロールすることは、部屋を調査する上でも重要だが、「混合意志」を観察する訓練を受けた人たちはそれに気づくことができる。ターゲットは決まった場所を一定時間見つめるだけでいい。通常はその一点を安定して見続けることができるだろう。しかし、一人以上のヘテロダインの実行者がいれば、どこかの方向に視線を動かしたいという衝動が何度も起こる。集合意識の人数が多いほど、一点を凝視する能力を彼らが同期させることは難しくなる。サイキック・スパイにとってこれが難しいもう一つの理由は、彼らのコンピューター・インターフェースが赤外線アイトラッカーによって駆動していることにある。

さらに、多くの人はマイクロ波エネルギーによるとても人工的な音の耳鳴りを聞く。耳鳴りは、10kHz以上の非常に大きく一定した多音の矩形波か、私の場合は、スター・トレックのコンピューターのようにピーン、ピーンと全範囲で鳴るか、SFに出てくるような3.2kHzのフェイザー音に聞こえることもある。聴覚野が正しくマッピングされていない場合、ターゲットには代わりにパチパチしたヒスノイズが聞こえる。

ターゲットが干渉を受けない純粋な EEG クローニングの場合、おそらく前述のような兆候は見られないだろう。しかし、心を柔軟にしてターゲットの脳の同調に完全に従う必要があるため、これはサイキック・スパイにとってかなり困難である。ターゲットの思考が早い場合、MIND データベースに完全に一致するものがない限り、このモードでのロックオンはあまりうまくいかない。

マトリックスのグリッチ

「すべての人口と同じ数だけ機械を送って攻撃する。機械の考えそうなことだ」

モーフィアス、『マトリックス』

ヘテロダインされていることがわかる現象の一つとして、思考、映像、音声の繰り返しがある。これは、2つ以上の EEG パターンを同期させるためのテクニックだ。全員が同じ波長でなければならない。心の視覚的作業空間のスナップショットを撮影し、保持し、あるいは後で再生することができるのだ。これらは、映画『マトリックス』では、同期の副次的効果、つまりグリッチと呼ばれている。

すべての人の心をコントロールし、読み取るには、人それぞれの認知構成に特化したプログラムが必要だ。これが、EEG クローニングとカタログ化の理論的根拠である。秘密のカーテンの裏側では、すべての男性、女性、子供のための機械が本当に働いているのだ。

パスワード保護

この種の精神的な監視では、あなたの頭の中でさえプライベートなものは何もない。違法な権力者がこの監視方法を自国民に対して不正に使用しているため、私たちは今、新たな問題に対処しなければならない。あなたのパスワードと暗号化された情報へのアクセスを安全にするためには、パスワードを自分自身から保護する必要がある。自分の目からパスワードを隠すランダムなパスワード生成プログラムを入手してほしい。これらのプログラムは、インターネット上の様々な金融、電子メール、その他のアカウントの数十～数百のパスワードを保存し、パスワードの盗難を防ぐことができる。暗号化されたメインのデータベースにアクセスするために必要なパスワードは 1 つだけで、それはあなたのコンピューターにローカルに保存される。これは、諜報員があなたのパスワードを盗み、別の場所からあなたのアカウントにアクセスしたり、変更したりすることを困難にするだろう。データを入手するためには、あなたの住居に物理的に侵入する必要があるからだ。

RADAR 反射面の角度変調

合成開口レーダーやフルスペクトルレーダー、イメージング技術を混乱させるには、レーダー信号の反射方向を変えることで環境に適応しづらくさせる方法がある。マイラー（金属化プラスチックフィルム）のような簡単な素材を使い、扇風機の風を当ててシェルターをゆるく囲むと、レーダーの偏向角が変化する。限られた周波数帯域にしか効果がないが、彼らのイメージング技術や遠隔操作の影響を低減させることができる。

次の技術もこの方法と似たようなものと考えられるだろう。EM レーダー減衰材を用いたステルス技術、鋭い偏向角、MRI/ESR 磁場勾配破壊装置、電子ジャイロ周波数ノイズ発生装置、スカラー干渉計歪み装置、超電導磁気ミラーなどなど。

機械的に変調されたプレートを介して受信レーダー信号の鏡面反射角を変更すると、いくつかの自動追跡アルゴリズムを無効化するのに十分なほどレーダー・シグネチャーを変化させることができる。

スーパーシールド

錬金術師の友人が、魔女の催眠術を回避するためのレシピを教えてくれた。イットリウムを少々、バリウムを少々、銅をひとつまみ、1,2,3の割合で使用するのだという。それを1000°Cのバルカンの火で燻し、超電導シールドを作り、ゼファーの息で77ケルビン度に冷やせば、魔女の呪文から私たちを守ってくれる。

超電導体は、完璧な磁気鏡であるという特別な性質を持っている。そのため、磁石は超電導体の上に置くと浮く。ローレンス・リバモア研究所のMEG磁気脳計測では、SQID計測のために外部ノイズを遮断する超電導シールドを使用しなければならなかった。超電導体スラブは、磁場と正反対の電流を発生させる。

薄膜超電導体の研究が進めば、スカラーRADARや磁気共鳴のシールドが安価で入手できるようになるだろう。しかし、もし「邪悪なエイリアン」があなたを拷問実験体を選んだのなら、エレクトリック・フィールド・ディスラプターを備えたかなり高価な超電導体ルームが唯一の避難所となるかもしれない。おそらく我々の政治指導者は、陰謀者や外国政府からの電磁波の影響を避けるために、議会やホワイトハウスをスーパーシールドで防御する賢明な判断を下すかもしれない。もちろん、ブラックメールは常に有効だが、陪審員や裁判官も、いつか同じ理由から部屋をスーパーシールドで防御する必要が出てくるかもしれない。

神話を払拭する

映画やウェブサイトで指向性エネルギー兵器や脳波の読み取りから身を守ると吹聴され、偽情報屋が盛んに宣伝した、アルミホイル・ニット帽神話の払拭に努めたMITの教授と学生に感謝する。アルミはアンテナのような働きをし、FCCに割り当てられた軍用バンドの身体共鳴シグネチャを実際には強化することが判明した。しかし、マイラーでシールドされた部屋を作ることによって、軽い不快感から完全な拷問に至るまで症状を引き起こすEMレーダーノイズから多くの人解放されている。付属資料のRADAR、スカラー干渉法、催眠術、電子スピン共鳴妨害器、そしてシールドに関するガイドを参照してほしい。

キリングシグナルの発生源

興味深いのは、電離層ヒーターが世界各地に建設されていることだ。

- プエルトリコのアレシボ (1953-1960 年建設)。
- アラスカ州フェアバンクス(HAARP 1990 年)。
- ノルウェー、トロムソ
- ウクライナ
- ロシア
- タジキスタン
- ブラジル
- ニューサウスウェールズ州アーミデール市
- コロラド州プラッテビル (1969 年)
- オーストラリア
- ペルー・ヒカマルカ
- マサチューセッツ州ミルストーンヒル

これらの施設の能力の一部を列挙する。

- 非干渉性散乱レーダー (ステルス・スカラー・レーダー)
- VHF レーダー (脳内共振周波数で作動)
- UHF レーダー(頭部共振周波数で作動)
- HF 受信機 (体内共振周波数で作動)
- フラックスゲート磁力計
- 誘導型磁力計 (他国が影の政府に使おうとした場合、低強度磁場脳操作法の検出に役立つ可能性がある)
- 刺激電子放射観察 (これは ESR イメージング技術に似ている)
- ジャイロ加熱研究 (これも ESR,MRI のようなイメージング技術。電磁波の吸収や反射の角度に同期したジャイロ周波数を用いて、広範囲に渡るイメージングに使用できるかもしれないバリエーションがある)
- スプレッド F 観測
- 加熱誘起シンチレーション観測 (これも監視技術)
- VLF、ELF 発生観測 (脳波周波数)
- 流星や弾道ミサイルの再突入の電波観測(流星や空を見ることにはお金をかけるのに、地上の苦しみを解消することには関心を持たないのが不思議だ。宇宙を観測するための取り組みについては、話半分聞いた方がいいだろう。軍事利用のための技術開発をうやむやにしているに過ぎないのだから)

1990年に建設された思考の読み取りと操作を可能にする HAARP・超水平線レーダー施設の実際の写真が、建設に携わった聖人から送られてきた。世界最大のフェイズドアレイは、目に見える範囲を超えて広がっているが、これは最も多くのアメリカ人を苦しめてきたフィールドではない。ブラジルかプエルトリコの電離層ヒーターが一番の有力候補だろう。しかし、現在それらはすべて、私が騙されて手伝った「グローバル人間監視グリッド」に統合されている。

この陸上のハイパワーな超大型アンテナの普及は、非常に疑わしい。人工衛星は全世界の人間の統合的監視に関与しているかもしれないが、私に対する最も激しい攻撃の際に計測された指向エネルギーのパワーを、私のいたエリア上に発生させることは難しいだろう。私の近所を対象としたエリアの電力出力とガウス分布から簡単に試算したところ、フィールドがどこまで広がるかに大きく依存するが、500kWを超える数値が出た。これは、先に挙げたほとんどの電離層ヒーターの出力範囲内で、他にも複数の不思議な一致がある。私は、攻撃を受けた1年間に多くの簡単な実験を通して監視の方法を推論したが、それは偶然にも、これらのいわゆる「電離層ヒーター」の能力に当てはまるものだったのである。

軍部の行動としてもっと疑わしいのは、2つの超水平線レーダーと電離層ヒーターが、アメリカ本土からほぼ同じ距離の場所に設置されたことだ。電離層からの全内部反射は、アンテナからターゲット・エリアの電力伝送に最適である。

最初のマインドコントロール無線ネットワークがいつどこで確立されたかを特定する最良の方法は、犠牲者と見られる人々の痕跡を過去にさかのぼり、マスメディアの流れがいつ人体実験のための準備を始めたかを見つけることだろう。

本書冒頭で「TAMIは1976年に登場した」と書いたが、TAMIは1つのシステムに過ぎず、それ以前のものもある。映画『ビューティフル・マインド』で有名なノーベル賞受賞者のジョン・ナッシュはNSAで働いていたが、その後、突然統合失調症を発症した。これは疑わしいケースである。「政府の極秘プロジェクトに携わるような天才は、一夜にして狂気に陥ることがある」というメッセージが、あまりに意図的すぎるように思えるのだ。彼の病気は1960年に始まった。いくつかの文献によれば、プエルトリコの電離層ヒーターが稼働したのがこの年である。HAARPはしばしばアメリカが行っている大量拷問実験に関係していると言われるが、稼働を始めたのは1990年であり、おそらくはバックアップ・システムか、世界の別の地域をカバーするためのものだろう。マインドコントロールの技術は、第二次世界大戦後の1945年に、アメリカに密輸されたナチスの科学者がもたらしたことを忘れないでほしい。1963年に始まったテレビシリーズ『アウター・リミッツ』は、ほとんどすべ

でのエピソードで共通のテーマを放送した。つまり、邪悪なエイリアン、サイキックマインドコントロール、アブダクション、未来技術、ゾンビ化、エイリアンによる精神的奴隷化などだ。国防総省と CIA は、飛び切りクリエイティブな組織とはいえないだろう。邪悪なエイリアンのプロパガンダは今日までに薄れ、完全に使い古されている。悪魔崇拝、悪魔の憑依、ポルターガイスト、その他の奇抜でばかげた話が、騙されやすい大衆を騙し、彼らがデータのために拷問し殺す人々を、政府と国民の裏切りに直面させるため一役買っているのだ。しかし、「精神病」は依然として彼らの黄金の心理学的集団心理プログラムだ。興味深いことに、醜悪な要素に最も近い下士官兵のような人々は、これらの技術や残虐性を信じる傾向がある。一方、医師たちはプログラムされた反応や「精神病」という無責任な診断に最も早く飛びつく集団である。

ナッシュが脅威と見なされたのは、映画で主張されているような暗号の解読に取り組んでいたからではなく、おそらく軍事用途の決定行列やゲーム理論、あるいは認知モデリングや大衆説得の心理学に取り組んでいたからだろう。彼の研究テーマは、映画で言われているような暗号化ではなかった。彼は、ゲーム理論や経済理論で使われる有名なナッシュ均衡のような、最適化された意思決定モデルの研究でノーベル賞を受賞したのだ。認知的意思決定モデリングが彼の専門分野であり、このシステムの開発とも合致していることがわかんと思う。彼は、民間の研究者への漏洩や、自身のアイデアの継続的な進展という点から、大きな脅威と見なされた可能性がある。もうひとつ興味深いのは、ナッシュが妻から、当時精神療法の治療に使われていたインスリン・ショック療法を強要されたことだ。インスリン・ショック療法は、拷問によって人格を分裂させ、その人の記憶を消すか、少なくとも一部の記憶にアクセスできないようにするもう一つの方法だ。WHO の文献に基づいて以前述べたように、指向性エネルギー兵器は糖尿病を誘発するために使用することができる。ある犠牲者は糖尿病になり、その後、危険な低血糖の症状を感知する能力を EEG クロウンによって奪われ、インスリン・ショック療法を受けるよう操作された。彼らの戦術事態は何も変わっていない。しかし、EEG クロウンはすべてを遠隔から実行することを、またより「もっともらしく否定」することを可能にしたのである。

もし人々が専制政治や自由の幻想に辟易し、エイリアンの兵器の実験台になるために殺され地球から排除されることにうんざりしたら、自分たちを守るために組織化して、これらの「研究」施設の電子機器を一斉に焼こうと考えるかもしれない。創造力を発揮して、これを阻止する方法を見つけよう！もし、アンテナフィールドを無効化しても、世界的な拷問を止めることができない場合は、宇宙に毒を盛ろう。超電導シールドルームを作ろう。付属資料のレシピを使えば、比較的安価に自作できる。ESR と MRI のフィールドジャマーを作ろう。地中にいる人間のできそこないどもを止めよう！裏切り者の多くが潜んでいると疑われる共同指揮統制基地のリストも付属資料に掲載した。

拷問を受けている人たちが、犯人と面と向かって話をしたいと思うかもしれないので書いておこう。噂では、EEG クローン部隊の多くは、デスバレーの端にあるカリフォルニアの半秘密基地にあり、いくつかの山の近くには 50 マイルの地下トンネルと、非常に大きなシグナル・インテリジェンス作戦室があるという。邪悪なエイリアンたちは、おそらくそこで檻に入れられているのだろう。拷問され、CIA の分裂人格スパイ奴隷にされた二人の双子の少女は、アメリカの政治家を行政がコントロールできるように、暗殺と、ブラックメールを集めるための政治家への売春に使われていた。彼女たちはその経緯を『シークレット・ウェポン』（原題 Secret Weapons、Cheryl Hersha, Ted Schwarz, Dale Griffis, Lynn Hersha 著）という本に記した。アメリカ人が隠蔽してきた墮落や恥ずべき遺産について別の実話と視点を得るために、私はこの本を強くお勧めする。

もうひとつのお詫び

ここでもう一度お断りしておきたい。私が、職業、所属、組織などを一般化して、特定のグループ全体を非難していることは承知している。たまたま私が批判するグループに所属するけれども、その型にはまらない人たちには、深くお詫びを申し上げたい。ただ、ドロシーよ、ルビーのスリッパが合うなら忘れずに履くことだ。

バカな人間のトリック

さて、無知な一般の人々（あなたのことだ）に、宗教団体などを操るためにも使われている「神の声」技術をもっと知ってもらうために、私は超音波指向性音響ヘテロダインとパラボラマイクを使って、以前の章にも登場した日本のドッキリ番組のように人々にいたずらをしてみようと思う。適度な距離から無防備な人に声を投影して、相手が大きな声で反応すれば、私はそれを聞くことができる。しかし、相手には私の姿はどこにも見えない。もし、あなたが突然、宇宙人、悪魔崇拝のカルト集団、神、あるいは小人の話し声を聞き始め、隣の友人にはそれが聞こえない場合、30 秒程度しか続かないならそれは私のいたずらかもしれない。しかし、もっと運が悪ければ、その声の主はアメリカ政府の常連の容疑者で、あなたは何年も拷問を受けることになる。3 種類の「ボイス・トゥ・スカル」技術を経験した人は、音の違いを聞き分けることができるが、それらすべての専門家はほとんどいない。このメッセージが伝わるといいのだが。

人々が現実を見るのに、テレビという小さな箱にどれだけ頼っているかは信じられないほ

どだ。EEG クローン実験がいかに広く行われているか詳しく説明すると、一般の人々はほとんど必ず、「それが本当なら、どうしてニュースで聞いたことがないんだ？」と質問する。もしニュースで特定の話題について話すことが許されず、情報の流れが共産主義国の国民への情報と同じくらい厳しく統制されているとしたらどうだろう。政府が放射能を浴びせた何千人もの人々の主張も、それが起こったときにニュースで発表されることはなかった。民主主義という幻想が完成に近づくほど、実際の民主主義は遠く離れていくのだ。

同調の妨げ

マイクロ波聴覚効果は、個人ごとにチューニングされているようだが、他の信号によって打ち消されることがある。単純な音響バイノーラル・ビート・ジャマーでも、信号の音声への統合の際の集中力を弱めるために多少効果がある。

この対数クリック音ファイル(*リンク)のような非リズムカルな音パターンに繰り返し集中することで、リズムに基づいた脳波の催眠と電磁トランスを一時的に破ることができる。

信号強度と途絶の実験

携帯電話が頻繁に不通になるのと同じように、脳とマインド・ネットワークの直接的なリンクにも、ノイズや接続不良が発生する。しかし、神経のノイズはオーディオのノイズとははるかに異なる形で知覚される。また、携帯電話の接続が切れた場合とは違い、マルチパス、適応型信号強化、バックグラウンドノイズ推定などの通信再確立技術により、切断されたリンクは非常に迅速に再確立される。

私はある発見をし、それを冗談で「サイキック・プロテクション・ポイント」と呼んでいる。これは、何らかの理由でニューラル・リンクの強度を妨げたり低下させたりする地理的な地点だ。サンフランシスコのベイブリッジには、車で走っているとニューラル・リンクが途切れてしまう場所が少なくとも 2 カ所ある。残念なことに、橋を歩いて渡ってその場所に立つことはできない。EEG ヘテロダインのニューラル・リンクの切断は、心のリラックスや静寂のように感じ、他の参加者の心からのニューロンのおしゃべりや雑音が減少するように感じられる。ニューラル・リンクに雑音が入っても、人工テレパシーにヒスノイズやホワイトノイズのような音は発生せず、注意の集中のレベルによって異なる形態の影響を受ける。エネルギーパルスのずれや、バイノーラルで知覚される音の一致が不均等なために、脳が「耳鳴り」や「タオス・ハム」を声として解釈しなくなると、ハムやメロディックな耳鳴

りだけが、非常に微妙なものから最大 120 デシベルまでの音で知覚される。マイラーや他の金属化ポリウレタンや吸収シールドで体の周囲を防御した場合、非直列的な思考や画像がほんの微かに知覚される。マイクロ波聴覚効果の言葉は不明瞭になり、コンピューター生成されたランダムな音素のシーケンスのように聞こえる。しかし、シールド効果や脱磁は通常一時的なもので、ニューラル・リンクは非常に優れた適応アルゴリズムによって再確立される。ニューラル・リンクは、必要な帯域幅が小さいこともあり、切断が発生する可能性はかなり低い。音声の帯域は 10,000Hz にもなるが、脳の帯域は 2,000Hz と小さいのだ。帯域幅が狭いことに加え、脳は一瞬のエラーに対して自然な耐性を持っている。情報はパルスのタイミングにエンコードされ、脳の構造自体の複雑さの中で圧縮される。信号のタイミングは、例えば本のページ、段落、文、単語を表し、それぞれが情報の流れに文脈を加える。情報はすでに本の中にほぼすべて含まれており、あとはその前の仕事から新しい思考を生み出すために、何らかの順序で参照する必要があるのだ。このように、ブレイン・リンクには、生来的に暗号化と圧縮の機能が組み込まれているのが見て取れる。秘密鍵、つまりターゲットの認知マップを持つ人間だけが信号を解読することができ、解読鍵は現在の脳の状態によって刻々と変化するため、通常の信号情報傍受方法ではほとんど意味がないのである。

残念ながら、多くの被害者は、コンピューターやモニターを遮蔽すれば、近くのアンテナ的な影響が軽減されると騙されている。痛みの信号によって、そう信じるように訓練されてしまっている。しかし、余分な電磁波ノイズは、生体電位を読み取るための信号対ノイズ比を下げるのに有効なのだ。同様に、ほとんどの人はスプリングマットレスで眠らないように訓練されている。コイルにもおそらく、信号対ノイズ比を下げる効果があるのだろう。

サイクロプスの目を潰す

固定配置のフェーズドアレイアンテナフィールドは、どの方向からも来るかのような指向性エネルギーを作り出すことができる。しかし、実際にはアンテナは固定されているのだ。電離層などの表面でエネルギーを跳ね返すことができるが、交差するヘテロダインビームの方向は実際には変化しない。つまり、キリングシグナルには正確な方向があり、電離層から 4 つか 5 つの指向性エネルギーアンテナ場（別名、超水平線レーダー）まで自分の位置をレイトレースすることで計算できる。これらの方向は、神経系破壊や「電気に敏感な人」に対する監視システムの副次的効果を弱めるためにも、できればブロックしたい。もう一つのアイデアは、サイクロプスの目を見えなくすることだ。交差するビームの角度が小さかったとしても、その一方を遮断すれば、「重力」波や搬送波を検出することができる（ピンホール撮影）。たとえ搬送波が決定論的な広帯域ノイズに隠されていたとしても、それを増幅

して電離層ヒーターに向かわせることができるだろう。搬送波を増幅して正しい方向に再送できれば、S/N 比はほぼ完全にゼロになり、この技術で生体電気情報を読み取ることはできなくなる。

スカラー波、干渉波、重力波、または散乱レーダーの検出

2 つ以上のほぼ完全に整列したキャンセラー搬送波信号を分離するための多くの方法を詳しく解説するよりも、スカラー波検出器に関する特許をこの話題に興味のある読者に示そう。

- #6,753,690 干渉型信号処理装置

- #6,420,872 過渡磁気共鳴信号を検出するためのプローブであって、プローブの Q と共鳴信号の Q の比が比較的大きいもの（海軍長官により出願）。国防総省が提出した特許は、常に批判的な目で見られるようにしたい。しかし、この特許はもっともらしく見える。

ここにスカラー波検出器の基本的な設計がある。

通常、波は破壊的に干渉し、電磁場は測定されないが、ピンホールレンズを完璧に配置することで、フェイズドアレイのソースの 1 つに焦点を当てた画像を得ることができる。難しいのは、波長が変化することと、人工衛星が使われた場合、それはおそらく動くターゲットであるということだ。電離層ヒーター・フェイズドアレイが主に使われていれば、素人の調査員による作業はより現実的なものになるだろう。

携帯生体電界スクランブラー

「流れを横切るな。プラズマの流れを横切るとろくなことがない」

『ゴーストバスターズ』

これは間違ったアドバイスである。プラズマを混ぜるのは、機械の中の幽霊を追い払うためには良いことだ。イオン発生器を使って電子スピンの整列を乱すと、ESR 監視や EEG クローン攻撃を弱めることができる。

市民の脳活動をモニターする主要な方法の一つとして、ESR/EPR（電子スピン共鳴/電子ス

ピン極性共鳴)技術が使われている。仮説としては、身体の表面電荷のイオン「加熱」をスクランブルする携帯装置を作ることができる。不規則な非安定高電圧発振器に皮膚を接触させるといふ単純なものでよいかもしれない。しかし、高電圧のイオン電荷は皮膚との接触点から移動しないこともあるので、より広い電界破壊領域をカバーするためには、細い針金を通した導電ジャケットのようなものが必要だろう。大切なのは、イオン電子ジャイロの周波数で変調された生体電場情報を含む S/N 比を低くすることだ。

また、磁場変調は電子スピンの含まれる生体電磁界情報を乱すことになる。このため、グローバルな人間監視システムの生体磁場読み取りメカニズムに敏感な何百万人もの人々が、痛みを和らげるために磁気ジュエリーアイテムを身につけることが一般的になっているのだ。しかし、磁気ジュエリーは、動いているとき以外は静的な磁場を持っている。この兵器システムの柔軟なフィルタリングアルゴリズムは、定常的な信号や規則的に振動する信号を素早く学習して除外することができる。

余談だが、60年代後半のロシアのサイキック研究における生体通信の理論に触れてみたい。この分野では、ニューロンの電場がどのように他の誰かに拾われ、増幅され、受信されることが研究されていた。最初のブレイクスルーは、EEGプローブを使って脳の電気活動を読み取り、感覚遮断室に1週間以上入れられた人の周囲の(高電圧)電界でそれを変調させるというものだった。感覚遮断室の中にいた人は、電氣的調節を自分の感覚器官として解釈するようになった。つまり、人間の脳は、ほとんど誰の脳の電氣的パターンでも自分のものとして解釈してしまうほど適応性があることがわかったのだ。これが「第六感」現象である。ただし、この例では、「サイキック」や感覚遮断室にいる人はヘレン・ケラーのように自分の感覚を持っていないので、これは純粋な脳波クローン、言い換えれば、自分の感覚と高次の認知経路を外部の脳信号を模倣して代用したものである。サルは見たとおりに真似をする。私たちはチンパンジーと96%のDNAの類似性から逃れることはできない。これは、自己組織化するニューラル・ネットワークに固有の性質であり、私たちがものごとに順応し、流行が広まり、文化が存在し、伝統が心地よく感じられる理由である。

「サイキック・スパイ」は、ダミーやカカシと同じだ。他人の脳の信号を受け止めるだけの存在なのだ。外部信号に脳を同調させるために感覚を奪われているので、信号から切り離されると、彼らはバカになるか、脳死状態になる。我が国の軍隊は、他国の侵略を怯ませるためのカカシの群れでいいはずだった。何が起こったのだろうか？なぜカカシが侵略者になったのか？なぜ彼らが政府で権力を握っているのだろうか？

人間の脳にはほぼ互換性があり、他の人のパターンでも学習できることがわかると、武器化されるようになった。1つ、または複数の脳のパターンを誰かに誘導することも可能だ。こ

れはちょうど、さまざまな脳の信号をおんぶするようなものだ。頭蓋骨の電圧勾配であろうが、近くのニューロンからのシナプス電圧であろうが関係ない。その人の魂を盗むようなものなのだ。「ボディ・スナッチャーズ」も、この兵器の世界での大規模な実験に触発された映画かもしれない。誰かを精神的に殺すことは、おそらく人類史上最も卑怯な行為である。オズの魔法使いのライオンでさえもっと勇気を持っていた。(サイキックによる暗殺の項を参照)。そして、ブリキの木こりは、MK ウルトラの拷問と汚い仕事をするための暗殺者のアーティチョーク・プログラミングを続けている米国 CIA/DIA/軍のどのクズよりも心を持ってたと確信している。このプログラムで少なくとも何千人の人が拷問を受けているが、統制された情報の流れの中で、そのことを耳にすることは決してない。嘘と拷問に基づいた国を作るために、私の先祖が戦い、死んでいったことを、私はとても誇りに思う。もう少し秘密主義があれば、私たちは皆、より安全に感じられることだろう。秘密主義のカーテンの向こうでファシストの神を演じている精神的小人たちは無視しよう、彼らは取るに足らない存在なのだから。

イオン加熱方式周波数スクランブラー

イオンを「加熱」して電子ジャイロの周波数と角運動量を同期させるため、あるいは神経伝達物質の放出を誘発するのに必要な高い電子電圧を作り出すためには、2つの作用機序が考えられる。まず、イオン化を引き起こすマイクロ波の周波数がある。第二に、電気的な体の共鳴や頭の共鳴は、望ましいジャイロ周波数の整列を誘導する。身体の電気は、遠くのろうそくや星の瞬きのようにステルス RADAR のリターン強度に変調される。だから、体と頭の共振周波数を利用して、脱共振させる方法があるはずだ。おそらく、イオン化周波数を狂わせると監視技術の効果も低下すると思われる。これらの技術はすべて低強度の指向性エネルギーの下で機能するが、すべての RADAR フィールドからのエネルギーが重要なターゲットに集中した場合、オーバーパワーになる可能性がある。

脳みそさえあれば - かかし効果

生体遠隔測定インプラント、GPS チップ、化学マーカがないと仮定すると、自分の脳波のサンプリングを記録し、それで外部電場を変調することで、標的可や追跡のメカニズムを混乱させ、脳波デコイに従うようにすることも理論的には可能だろう。民間人の監視には多くの方法が採用されているので、赤外線熱シグネチャや磁気シグネチャを振り落とすためにも、同様のデコイ方法を実装する必要があるだろう。従来の RADAR の吸収・反射シグネチャーの変更と、身体/頭部共鳴マネキンが必要かもしれない。心拍信号も脳指紋信号

と同じような方法で誤魔化すことができる。私は、歩行の特徴から人を識別する技術を開発したこともある。

ステルス爆撃機用 RADAR 吸収用絶縁体

テフロンには絶縁性と電荷収集性があり、ESR 技術や生体電気変調の影響を受けにくいという特徴がある。テフロンに似た素材はステルス戦闘機にも使われている。サランラップも同様の特性を持つ合成ポリマーで、イオンの加熱を防ぎ導電しないので ESR レーダーに似た吸収特性も持っている。

熱シグネチャーは、マイクロプロセッサの冷却に使われる電子制御ペルチェ接合によって狂わすこともできる。

シンチレーション技術は、超電導体材料によって遮蔽できる可能性がある。レーダーは指向性を持っているが、ターゲットに到達するために他の物質で信号を跳ね返すこともできることを覚えておいてほしい。

NMR（核四重極共鳴 NQR のような核磁気共鳴の姉妹技術）のような他のセンシング技術もあり、多くの物理学のウェブサイト情報が掲載されている。すべての追跡メカニズムの S/N 比を低下させることができれば、アメリカのバーチャル HELL とグローバルな人間監視網から逃れることができる。

フルスペクトルまたはブロードバンド RADAR

生体通信・監視技術から逃れるのが難しいもう一つの理由は、あらゆる波長が観測されているからだ。たとえいくつかの周波数をブロックしたり妨害したりしても、常に他のスペクトルが存在する。広帯域の RADAR パルスによる Ping は次のようなものだ。

ある周波数で指数関数的に強度が減衰する RADAR の Ping は、画像処理ソフトウェアが、それがどの深度からの信号であるかを容易に把握し、また、物質の透過率、吸収率、反射率の非直線性を補正するのに役立つ。政府の拷問を受けた多くの被害者の家で記録された測定値には、この波形のバリエーションがあった。それは、高い周波数から始まり、低エネルギーの低周波になり、背景にはより低いエネルギーの連続したのこぎり歯状波形がある。これは実際に、無線通信理論の数学で、低い周波数でヘテロダインまたは変調して低いサイド

バンドを作るときのエネルギーの広がりについて考えると、理にかなっている。もっと簡単に言えば、2本のヘテロダインビームのうち1本の高周波キャリアを掃引すれば、このような低周波の複合波形が生成される。

これは、ある時点までのすべての周波数の組み合わせである。広範なバックグラウンドノイズのように見えることもあれば、周波数範囲をより細分化するために、周波数領域を対数的にスキップすることもある。矩形波やのこぎり歯状のレーダー信号でも、良好な広帯域リターンが得られる。なぜなら、すべての方形波はすべての奇数調波の無限列で構成され、のこぎり歯はすべての調波で構成され、スペクトル全体にわたって周波数の良いサンプリングが得られるからである。

イオン加熱

激しい指向性エネルギー攻撃を受けると、CCD（電荷結合素子）カメラは電荷が蓄積して使えなくなることがある。「ホーンティング」が起こっている間、空気はイオン化される。特定の周波数を使うことで、電子を軌道からはずしたり、電子の価電子帯の一番外側まで上げたりすることができ、それによってマイナスイオンとプラスイオンを発生させることができる。これが「電離層ヒーター」の役割である。静電気（イオンや冷プラズマ）が発生すると、単一電子軌道を利用して、従来のイオン反射スペクトルの方法と同様、電子スピン共鳴信号や電子軌道の同期ジャイロ周波数の読み取り方法を増幅することができる。NASAは、電離層での流星観測に興味があると天文学者や宇宙学者を騙して兵器開発をさせているが、その例については付属資料を参照されたい。野球のボールほどの大きさの流星が衝突すると起こるイオンフラッシュ現象を、プエルトリコの「電離層ヒーター」/超水平線レーダーで観測したとき、彼らは実際の用途を示唆するように、大胆にもそれを「ヘッドエコー効果」と呼んだ。まさに、流星だけでなく人間の頭にも使われているのだ。セットアップの物理的な制約から、天頂から20度以上は観察できないと、彼らは研究者たちに伝えた。本当の理由は、レーダー信号はその角度と周波数で宇宙空間を通過するが、天頂から20度以上離れたところでは地球に跳ね返ってくるからだった。「ヘッドエコー効果」の位置と追跡は人間にも同じように使用される。本書で指摘したアルゴリズムの欠点は、私自身が実験して発見したものと変わらなかった。

諜報機関を擁する政府に対抗するには？

NSA で国内監視も行っている政府と同じゲームを、どうやって私たちにプレイしろという

のだろうか？

エシロンシステムに偽情報の洪水を流して、誤検知を誘発させることができるかもしれない。あるいはオートステレオグラム・メッセージを用いて、メッセージをバイパスさせることもできるだろう。数十億ドルのシステムも、それを破ろうとする者の検知には全く役に立たない。しかし、このシステムは、一般市民をよく監視し、連邦政府の大量の無用の福祉職で政府を肥大化させるのには役立つのだ。

拷問と暴虐の武器を根絶するためのアイデア

地球低軌道の逆回転で強磁性荷電粒子と磁化粒子の雲を散布すれば、精神工学に使われる衛星システムを衝撃でブラックアウトさせることがたぶんできるだろう。地上の大型ソーラーオーブンやレーザーで衛星をロックオンし、超電導温度以上に加熱すれば、安価に衛星を停止させることができるかもしれない。精神工学兵器の信号や指向性エネルギーを発することができる他国の空域上の衛星は、その国の安全に対する直接的な脅威であるため、撃ち落とされるべきだ。

インターネットは、真実を伝える最も重要な手段であると証明された。Googleをはじめとする検索エンジン会社が、真実の探求のために高い水準の誠実さを持ち続けていることを称賛したい。しかし、言論の自由の権利は、真実をかき消すための偽情報でインターネットを氾濫させるアルゴリズムによって踏みじられている。私は、真実を置き換えるために使われる「メソッド」から真実を解析するための AI 自然言語解析アルゴリズムを考案した。ところで、Google に「miserable failure (みじめな失敗)」と入力すると、ジョージ・ブッシュの伝記が表示される。

国民への訴え

この情報を公開することで私がしていることを、アメリカが評価してくれることを願う。知識がありすぎるという理由から、私は機密のマインドコントロールの刑務所の一つに収容され、マケインが経験したものよりはるかに酷い拷問を 1 年間受けた。出版物で真実を語ることで、確実に秘密の死刑宣告を受けると想像している。私は、より多くの人々の目に触れることで、かえって安全になることを望んでいる。しかし、精神工学の犠牲者が何人死んだかという報道を毎月のように目にし、見通しはよくない。

宇宙を汚染しよう

アメリカは人工衛星を 413 基保有している。残りの世界が保有する人工衛星は 382 基である。

アメリカは宇宙兵器を多数設置する方針をとり、手つかずの宇宙を無責任にも指向性エネルギー兵器の戦場にしてしまったので、他の国はエネルギーが集中できないように宇宙を汚染して自衛するべきだろう。また、スカラー波探知機を作り、電離層から指向性エネルギーを 15 ほどの電離層ヒーターに跳ね返し、彼らの目をくらませよう。ヒントを出そう。ゴルフボール以上の大きさの物体が 8000 個以上追跡されているのだ。

地表上空 480KM (300 マイル) に強磁性荷電粒子雲があると、リモートセンシング能力と指向性エネルギー兵器による標的能力は大きく低下する。

宇宙には、どの国も守るべき法律はないのだ。だから、衛星サービスを妨害する対精神工学シールドの設置は、アメリカの拡張主義に対抗する賢い防衛策であり、暗殺というソフト・キル兵器を阻止することになるだろう。

注目を集めるために

マスメディアはこのニュースを取り上げず、多くの平和的な抗議行動を放送しないし、政府機関はこれらの団体が書いた何千通もの手紙に反応しないので、意識を高め、注目を集め、問題を解決するために、私たちはもっと思い切った手段を取るしかない。

私たちは、すべての首都圏の主要な幹線道路をトラックと抗議の看板で封鎖する運動を計画している。私たちはコールセンターを組織し、1日に700人以上に電話をかけ、1日に2万通のペースで世界中に電子メールを送信している。私たちは高出力アルゴンレーザーを借りて、世界中の主要都市で同時に、空に私たちのメッセージを投射している。これらは、眠れる心を呼び覚ますために、何が起きているのかを明らかにし、それを阻止するために行われている活動のほんの一部だ。国内での拷問や連邦政府による自国民へのテロのような恐ろしいことが、市民フォーラムですぐに取り上げられないのは嘆かわしいことだ。

また、科学研究者に始まり、ギャングストーキングを行う CIA 訓練生、市民を守るための法律を阻止する不合理に懐疑的な政治家まで、これらのプログラムを幫助している疑いの

あるすべての人々の名前と顔写真を私たちはまとめている。この陰謀のフェースブックは、関係工作人員のキャリアを終わらせることを期待して、他の国にも配布される予定だ。

約束の地

陸が見えた！魔女、お化け、ゾンビ、悪魔を打ち負かした人類の未来に、どんな報酬が待っているのか、さっそく時間のガラス越しに見てみよう。私たちはエデンの園に戻ることができるだろう。私たち自身が設計した完璧な世界だ。私たちは、自分たち自身の神として正当な地位を得るのだ。もしかしたら、私たちはずっとそうだったのかもしれない。

「人間も時にはおのれの運命を支配できる。なあブルータス、俺たちがこんな下っ端でいるのは自分の星のせいじゃない。俺たち自身のせいだ」
シェイクスピア、『ジュリアス・シーザー』（第1幕第2場）

EEG ヘテロダインの学習効率

私たちは、過去の過ちを繰り返す運命にある。政治家は過去の文明の崩壊の警告に耳を傾けず、国防総省による MK ウルトラのような拷問や人体実験が行われている。すべての知識を次の世代に伝えることができないという人類の欠点は、私たちの進歩を苦しめ続けている。これは人類の死活問題といってもいいだろう。機械は決して忘れないのだから。

EEG クローニングは究極の教材だ。音声だけでなく概念的なコミュニケーションも行うことができ、理解を共有し、教授の脳波を模倣することによって、学習プロセスは大幅に促進される。視覚野の共有空間では、スライドや視覚シミュレーションの作成に時間をかけることもなく、3D 画像やアニメーションが瞬時に共有され理解される。

この EEG ヘテロダインの特徴は、映画『マトリックス』ではヘリコプターの操縦に関する知識を瞬時に主人公にアップロードすることで表現されていた。

しかし、もちろん、実際の技術開発が辿った道はこのように高尚なものではない。彼らはこの加速訓練技術を使って脳を訓練し、妄想や精神病の症状を起こさせようとしているのだ。彼らは脳を同調させることによって、思考を誤らせる方法を直接教えることができること

を発見した。これは、敵に判断や認識の誤りを起こさせるのに有効だ。(空軍の説明は付属資料を参照)。これはまた、被害者の証言の信用を落とすだけでなく、いったん電磁波の影響から完全に遮断されると、心が本来の正常な思考パターンに戻るのには時間がかかるため、隠蔽工作としても有効である。

国防総省がこの技術を世界に公開すれば、彼らは現在の学者が生涯を通して学んだ教育を一瞬で受けることもできる。そうなれば、世界を権力を得るための征服の対象としてではなく、養うべき生命体として、彼らも見ることができるようになるかもしれない

「明日は、すべてを好転させるもう一つのチャンスだ」

『バニラ・スカイ』

エイリアンの珍しく巧妙なトリック

私たちが発見した EGG クローンのメリットの1つは、複数の頭脳が複雑な概念をそれぞれに素早く伝えることができることだった。これは究極の教材であり、現在の10分の1の時間と労力で教育を吸収できるようになるかもしれない。

しかし、そこには暗黒面もある。それは、もし自分が集合意識の一員であることを知らなければ、科学的な誤りの道に導かれる可能性もあるということだ。民間の世界で科学的発見のプロセスを抑制したり遅らせたりすることができるように、一般的な論理の間違いがマッピングされているのである。大統一理論は、重力と電磁場の理論を統合した、私たちの宇宙の複雑なモデルだと考えられている。この理論は1920年から存在し、アインシュタインはこのパズルを解いている最中に死んだ。私は高度な物理学には詳しくないが、もっともらしい説に聞こえる。以下は、おそらく科学課報の一環として、マインド・メルドと人工テレパシーによって私に伝えられたものだ。

重力は光速で移動し、光の点のように距離の2乗で弱くなる。重力は電磁エネルギーに非常によく似た振る舞いをするようだ。重力はエネルギー密度に基づき引き合う。引き合う力 $= GM_1M_2/r^2$ 、あるいは $e=mc^2$ を代入すると、 $M_1&2$ は単なるエネルギーの定在波となる。 GE^2/r^2c^4 となり、これは、既知の観測結果と矛盾しない。膨大な量の光だけを飲み込んだブラックホールでも、質量は増大し、近くを通る光を曲げる。空間/時間を曲げるのは、質量だけでなく、エネルギー密度なのだ。

フィールドエネルギー、あるいは「重力波」と呼ばれるものは、ほぼ完全に整列したエネル

ギービームが180度位相がずれて同じ強さで交差することで発生するものである。つまり、重力は、正の場が負の場を打ち消すという電磁場理論の特殊なケースに過ぎないと結論づけることができるだろう。場の周波数は、そこに含まれるエネルギー量を除けば無関係であり、したがって重力波の周波数は、それを発生させる質量またはエネルギー密度、ひいてはその強度に基づくだけである。よって、光の光子または量子では、 $E = \lambda \cdot \text{定数}$ となる。同様に、 $\lambda = \text{質量量子} / \text{定数}$ となる。つまり、重力子、量子の計測不能な周波数は、その起源の質量から推測されるのだ。

もしこれが本当なら、強力な指向性重力、スカラー場によって局所的な時間の歪みを作り出すことができる。その局所的な場には、相対論的な効果が適用されるだろう。物質よりも大きなエネルギー密度を作ることができれば、トラクタービームや光さえも曲げることができる。あるいは、エネルギーから物質を作り出すこともできる。SF作家は、レプリカント、トランスポーター、トラクタービーム、タイムトラベルマシンなどのアイデアをここから得ているのだ。

しかし、このようなことを実現するには、現在の技術やエネルギー源では明らかに不十分だ。この科学分野もまた、一般の人々の関心を失ってしまったようだ。さらに、この2つのエネルギー源をキャンセルする際にわずかなミスでもあれば、ターゲットは焼き上がってしまう。

問題は、この大統一理論のどこが問題なのか、ということだ。

最初の疑問は、もし粒子の交換がなければ、これは定常質量波によってフリーエネルギーが放出されているようなものではないだろうか。しかし、ちょうど私たちが質量とエネルギーが同じであることを発見したように、エネルギーがどこから来るのかを説明するのに粒子交換は必要ない。空間／時間とエネルギーが等価であることがわかるだろう。空間/時間連続体の膨張はエネルギーを必要とし、宇宙の温度を冷やす。エネルギーを中心とした空間の膨張は遅くなる（すなわち一般相対性理論）。時間はよりゆっくりと進行し、空間は収縮する。「フリーエネルギー」の重力航跡を作り出すのは、この空間／時間の膨張に対する牽引である。しかし、これは「フリー」ではない。エネルギーは依然として保存されており、空間／時間の運動量から変換される。これにより、空間／時間の拡張の運動量を計算することができる。すなわち、多様体の単位面積／タイムストレッチあたりのエネルギーのテンソルである。粒子としての重力子は見つかっていない。一般相対性理論による宇宙の幾何学的解釈と素粒子物理学の標準モデルの統一は、物理学者にとって常にハードルの高いものだった。

さて、量子効果を集約するには、論理的にルールを適用すればいい。質量はエネルギーであり、空間／時間の運動量はエネルギーであり、重力は空間／時間の運動量に抗して生じるもう一つの場合であることが知られているので、重力と空間／時間には量子があると予想される。これは、ハイゼンベルグの不確定性原理とプランク定数の両方で定義されるかもしれない。

これが彼らが伝えてきたことの全てだった。ワイヤレスの「グローバル・ブレイン」プロジェクトや、CIA が知的財産でロビン・フッドを演じていることを示す良い例だ。ノーベル賞を受賞したジョン・ナッシュが自分のアイデアを考えたのは、集合意識の一員となって統合失調症と診断される前だったのだろうか、それとも後だったのだろうか。

CIA が「中央情報局」と呼ばれる理由を、私たちは今知ったのかもしれない。あるいは、1947年に生まれたワイヤレスのプロジェクトにちなんで、「グローバル・ブレイン」と呼ぶ方が適切かもしれない。彼らは知識を制約し、自分たちが選んだ情報や偽情報を、いつ、誰が、メディアの流れを通して広めるかを決定する。CIA のエージェントがなぜ「スプーク（お化け）」と呼ばれるのかも、私たちには理解できる。それは、EEG ヘテロダイナミクス技術を実験する際の彼らの最初の脚本が、すべて、崇りや憑依に基づくものだからだ。

ボーグの誕生

人類の集合意識を見てみよう。人と人とのコミュニケーションは、脳内のシナプス伝達と類似した信号伝達と考えることができる。前世紀を通じて、私たちは、電子メールから携帯電話まで通信インフラの発展とともに、コミュニケーションのスピードを上げ、コネクションを増やしてきた。地球はより意識的になってきている。人から人への情報の流れを速くすると、アイデアは個人と融和し、自己の感覚はより曖昧になって行く。さて、脳と脳のインターフェイス技術を用いて、このトレンドラインを未来に向けて続けてみよう。通信はより速くより効率的になり、情報の流れと保存の区別はより不定形になる。脳の物理的な筐体はまだ明確に区分されているが、「魂」、つまり「あなた」が経験する情報は、その境界がどこにあるのか、ますます不明瞭で曖昧になる。私たちはボーグになるのだ。問題は、それが中央集権的に設計された知性なのか、それともインターネットのように、自由に形成され進化する自己組織化された分散型知性なのか、ということだ。政府の中枢部は明らかに前者を好むが、進化と最適化の理論によれば、最良と言えないことは明らかだろう。

人間は時代遅れである

未来学者たちは皆、今頃はもうロボット奴隷が自分たちの代わりに仕事をしてくれて、私たちはリラックスして好きなことをしているだろうと予言していた。運命のいたずらで、私たち人間はロボットになり、機械は私たちを奴隷にってしまった。このシステムの矛盾に気づくことなく、自分の小さな仕事に専念し、機械のために一生懸命働きポイントを稼げば、うまくいけば、妄想から引きずり出されることなく一生を過ごすことができる。自由と勇気の国で、自らの政府におびえながら。

別の見方をすれば、どんな仕事であれ、いつまで人間は機械より安価でいられるだろうか？正直に自分に聞いてみてほしい。10年後、あなたの仕事を同じようにこなしているのは、コンピューターや機械ではないだろうか？私は経営コンサルタントとして世界最大の企業を分析し、最も高度なコンピュータシステムを分析し、企業のほとんどすべての機能に携わったこともある。あなたの仕事の自動化は、そう遠くない未来に実現すると断言しよう。今、アメリカ経済はサーバント、つまり「サービス重視の経済」にシフトしている。人間という種族は縮減されてしまうのだろうか？

ノアの箱舟

政府を観察する人たちが何度も繰り返し唱えてきた不穏な説によると、人口の大幅な削減が計画されているようだ。地球上のすべての種のDNAサンプルがカタログ化され、個々のユニークな脳がCIA/国防総省のTAMIネットワークにカタログ化されている。カタログ化は、単に防諜や戦争のためのクローン能力の向上が目的ではないかもしれない。世界人口が虐殺されても、それほど多くを失わずに済むという言い訳だ。地球は予測される人口増加を支えることができない。資源は枯渇する。そこで、「もっともらしい否定」ができるようなイベントが計画されるだろう。テロリストが空気感染するウイルスを放つ。あるいは、ならず者国家が核戦争を決行する。どのように他の集団に責任があるように見せかけるかを正確に推測するのは困難だ。今後50年間、世界の出来事を見る上で心に留めておくべきことである。

シリコンの不老不死はそんなに遠い話ではないので、そのために人口を減らすことが正当化されるかもしれない。ほとんどの生命は、生存のために手段を選ばない。もし不老不死が一部の大金持ちに配られると知ったら、絶望した人々はそれを手に入れるために何をするだろうか。あるいは、不老不死がすべての人に与えられれば、地球が常に混雑し続けてしまうという別の懸念が出てくるだろう。

エゴ・トリップ

アーノルド・シュワルツェネッガーの映画『トータル・リコール』には、頭の周りに磁気コイルを巻きつける偽の記憶植え込み技術が登場する。これは、いくつかの学術機関や研究所で研究されているように、脳波を変化させることができる方法の一つである。火星にバカンスに行きたいと考えた彼は、「エゴ・トリップ」と呼ばれる仮想体験のオプションを選択する。もう自分自身で旅をする必要はない。EEG ヘテロダインは人格に変化を起し、集合意識に属するすべての人の重み付けされた人格が組み合わせられる。私は、一人の人間から得た「人格オーバーレイ」を、別の人間に再生する実演を見せられたことがある。「エゴ・トリップ」は本当に存在するのだ。これは、気質と感情の混合をキャプチャしたもので、コンピューターのインターフェースによって、集合意識全体または個人に挿入することができるのだ。

この EEG ヘテロダイン技術の一面は、他者への共感という点で珍しい応用が可能だ。その人の脳波と 1 マイル歩くまで、その人を判断してはいけない。自分を向上させるための応用も見てみよう。女性に内気でいたくないなら、人格オーバーレイを重ね合わせればいい。妻はようやく夫を理解できるようになり、敵同士でも、誤解やすれ違いを解消することができる。このフル・ブレイン・コミュニケーションの一面の応用方法は、数え上げればきりがない。諜報の世界では、特定の信念体系や習慣を持つ組織への潜入を容易にし、例えば微妙な声のイントネーションやボディランゲージの合図の違いを発見しにくくすることもできるだろう。

審判の日

現在の EEG ヘテロダインの悪しき使い方は、すべて逆転させることができる。証人、裁判官、陪審員を操作したり、脳波を他人にクローンして本人の意思に基づかない犯罪を犯させたり、正義の概念を台無しにするのではなく、この技術によって裁判官は被告の誠意を理解することもできるだろう。真実はより簡単に解釈できるようになる。囚人はサイキックによる監視のもとで仮釈放されるかもしれない。判決を受けた人は、投獄されるよりも精神的な再プログラムを選べるようになるかもしれない。国民を世界で最も投獄している国になる代わりに、この技術を使うことによって、最も自由な国になることができるのだ。この技術の軍事的な「極秘」状態を解除し、世界に公開すれば、民間のビジネスや開発が始まり様々な利益を享受できるだろう。

意識の哲学

EEG ヘテロダイナミクス技術の保持者は、脳が解読されたことが世に知られれば、世界中で社会秩序の崩壊、広範囲のモラルの激変、宗教の解体が起こるのではないかと恐れている。人間の魂や本質がすべて脳の電気化学的な信号の中に含まれているという考えに、人々は抵抗感を抱くのだ。

しかし、私はそうは思わない。宗教も道徳も、私たち自身のより深い理解に適応していくと私は考えている。ところで、この技術から3つの重要な倫理的・法的問題が生じる。もし、私たちが純粋に遺伝と環境からの刺激の産物であるならば、私たちは自らの行動にどのように責任を持てるのだろうか？もし政府が国民の脳の電気信号をいじくりまわしているとしたら、その実験が未知のものである以上、誰がどのように罪に問われるのだろうか？そして、もし私たちが電磁氣的に操作されていることを自覚するならば、どうやって自分自身や自分の考えを信じることができるのだろうか？

その他の EEG クローニング犯罪

さらに新しい犯罪が生まれようとしている。金持ちで傲慢で自暴自棄の老人が、自分の脳をシリコンでクローンして、別の体に移植したり脳波のクローンを作ったりすれば、購入した宿主の中で彼の複製は死を逃れることができる。臓器狩りは嫌悪感を抱かせる犯罪だ。体の乗っ取りや魂の篡奪はさらに悪いが、血生臭さはない。

知的財産のロビン・フッド

サイキック作業者がロビン・フッドの物語に似た役割を担っているという証拠が幾つかある。彼らは、科学者、発明家、夢想家、作家の頭の中を EEG クローンで読み取り、彼らの知的財産やアイデアを盗み、それを他人に送信して、受信者が自分がそのアイデアを思いついたと考えるようにするのである。ハリウッドやマスメディアが、被害者の証言の信用を落とすような映画作りに利用されるのも、このような仕組みによるものではないかと私は思う。知的財産権を扱う弁護士は、集合意識の知的所有権を整理するのに苦労しそうだ。もし全人類が神経的にリンクされ、複雑な集合意識ネットワークを形成しているとしたらどうだろう？もしかしたら、すでにそうなっているかもしれない。神経的にリンクされた集合意

識と他の情報ストリームとの間には、コミュニケーションの速度以外には何の違いもないのかもしれない。私たちの時代の哲学者たちは、このテーマを喜んで議論することだろう。

幸運は勇者に味方する(ウェルギリウス)

ハーバード大学の学部生としてハーバードヤードのグレイウエストにいたとき、私はラムゼイという男と何度も哲学的な議論を交わした。彼は心身の二元性を信じており、哲学を専攻していた。彼は、肉体を幽閉することはできても、心を幽閉することはできないと信じていた。私は何週間も彼と議論した。皮肉なことに、彼の意見に対しても寛容なほど自由な精神と心を持っていた私は、今、電磁波による政府公認のマインドコントロールの監獄にいる。思想と表現の自由にはどうやら限度があるようだ。私は遠くへ行き過ぎた。

次のビル・ゲイツになりたいと思っていて、次世代ビデオカメラのようなデバイスで記憶を感情、映像、匂いとともに追体験するようなアプリケーションのために、シナプス増幅認知モデリングを追求する方法を知りたい人がいれば、私は指導はするが直接手助けはできない。一般人が耐えられる以上の拷問を受けて、心理的な障害により技術に近づくことができないのだ。彼らの行動コントロールの方法は、『時計じかけのオレンジ』という映画がモデルになっている。

主観・客観の二元性の論理的外延性

宇宙は量子レベルの選択で成り立っている。宇宙がマッピングされたとき、それは同じ「主観的」な経験を生み出すと、論理的には結論付けられる。仮想的な粒子の相互作用の中で機能は現出する。量子状態は不確定であるため、因果関係のある事象の非線形なノード上の点というレベルで動作する。心の中と同じように、ニューロン群が発火閾値付近で発火するかしないかの瞬間に選択は認識される。宇宙の構造では、相互作用の最小の粒子が、ニューロン群が発火するときのように作用するようになっている。原子は EM エネルギーを吸収するのか、それとも通過させるのか？ハイゼンベルクの不確定性原理から考えると、それは本当に不可知なのだ。これは、それが属する機能とシステムによっては、純粋な選択と自由意志として認識されるだろう。自由は生きるという体験に必要なだけでなく、より高次の意識体の証拠であると私は考えている。人類はまず、地球は平らで、次に太陽が私たちの周りを回っているという自己中心的な誤った結論に達し、私たちは宇宙で唯一の生命体であり、意識は私たちのレベルの複雑性にのみ存在すると考えた。しかし、これは単なる思考実験に過ぎない。なぜなら、他の知的システムとコミュニケーションをとることはほとんど不可能

だからだ。

最適な意思決定のための組織構造

例として、投票について

私たちの先頭に立つ優れた人々はたくさんいるのに、なぜ私たちは腐敗した平均的な IQ の政治家を得るのだろうか？ここにはシステムの欠陥がある。まず第一に、知的な個人なら誰でも、歴史書に名前を残したいと思うエゴでもなければ、政治家が受けるようなメディアからの激しい取材攻勢を経験したいとは思わないだろう。大統領を含めて、株式ポートフォリオ操作のような役得を除いては、彼らはたいした給料ももらっていない。第二に、無学な人々でも、リーダー選出の決定プロセスにおける一票の重さは変わらない。我々は重要な意思決定マトリクスを扱っているので、各票に何らかの要素に基づいた価値を与えて、意思決定ツリーに重みをつけることは理にかなっていると言える。この国を立て直すためにも、政治と政治意識のテストを受けて、あなたの政治への関与のレベルを示してほしい。1点から10点までの点数で、あなたの一票の価値が決まる。知的な組織構造のシミュレーションを行うと、正しく知的な意思決定のために、これがはるかに優れた最適化方法であることがわかる。

TAMI のリバースエンジニアリング

{このセクションは未完成である}

TAMI はこの国が持つ最も高度なグローバル・ニューラル・インターフェース システムの1つである。ペンタゴンの戦争ごっこが好きな子供たちが、このおもちゃを手放したくないのも無理はない。それがどのように悪用されているかが分かれば、国民は激怒することだろう。

私の目標は、心理物理学、あるいは軍が好んで売り込む認知モデリング、神経プログラミング、コンピューターと脳のインターフェース、ワイヤレス脳調節技術に関する民間研究を推進することだ。もし、企業や起業家が数十億ドル、あるいは数兆ドルの市場を開拓したいのであれば、この研究を進めることをお勧めする。もちろん多少のリスクはあるし、とやかく言われるかもしれない。しかし、十分な数の独立したグループがこれらの技術の再発見と開発を追求すれば、全員を捕まえることはできないだろう。

基本的なハードウェア・アーキテクチャ

脳波の読み取り

マレックの特許から始め、彼の結果を再現してみよう。フルスペクトルレーダーに使われるような洗練された波形で実験すると、こんな感じになる。

このように、周波数パワースペクトルをスキャンすることで全体像が見えてくる。最も重要な情報を運搬する周波数を分離するために、信号のフィルタリングと分析が必要である。脳や頭、身体の共振を調べ、戻ってくる信号の中からどこで最も身体の電気が測定されるかを見る。ニューロンを小型マイクロ波トランシーバーとして、頭部を電磁空洞共振器としてモデル化する。

空軍が神経攪乱装置の開発で使用した、マイクロ波による神経伝達物質の刺激放出を見るための具体的な装置を紹介する。

{画像}

このハードウェアからは、脳波の振幅、位相、周波数を表すきれいな信号が得られる。

ソフトウェア・アーキテクチャ

初期の認知モデルが必要になる。これはデータ収集の中で最も困難な部分である。話し言葉、動作、感情など、多数の整列したサンプルを用い、自己相関アルゴリズムにより、脳機能カテゴリサンプルセットごとに、相関のない脳波成分をフィルタリングする。これらのクラスから、認識エンジン（ニューラルネットワークベースまたはマルコフモデルベース）を使用して、それらの脳波が存在するときに認識することができる。特定のアクティブな脳波とその時間シーケンスパターンの進行を特定するためには、時間ベースのテンプレートとフーリエ・スペクトル分析の両方が必要であり、そのタスクを認識したり、後で刺激を与えたりすることができる。信号を分類する際には、振幅だけでなく、周波数/位相シフト情報も分析することを忘れないほしい。また、パターン認識エンジンの時間軸を一定にするためには、複数のスケールが必要である。

{図解}

そうすれば、人の脳波を翻訳するのも簡単になる。一度人間の認知モデルをデータベース化すれば、その後のモデリングは小さな偏差に過ぎない。2人の人間の信号を比較し、整合させるプログラムを使えば、人間が多少介在しても、マッピングのプロセスを促進することができる。

{図解}

これで、人間のほとんどの認知機能に対する脳波のマッピングが完成し、システムは自分の脳波を他の人に「翻訳」したり、逆に自分の脳波をMP3ファイルのように再生したりできるようになる。

{図解}

まずは80年代にスタンフォード研究所が行ったことを再現し、音素と単語の認識を話し言葉と聞き言葉で行い、モデリングプロセスへの自信をつけることから始めてほしい。

{図解}

ソフトウェア設計と脳波同期の戦術の詳細

脳同調信号を両者に繰り返し流すことで、マインド・メルドのための心の同期を図ることができる。3.2ヘルツのバイノーラルビートを使用する。各参加者の脳波エネルギースペクトルとその重なり具合をグラフにして、フィードバックのために閲覧できるようにしておく。通常は、脳波の重なりが特定の閾値を超えるまで、完全な文章を3回繰り返して使用する。共有脳波を占有できるのは一度に1つの精神なので、1人の発声しか聞くことはできない。

ボランティア

電磁波による脳波誘導に敏感な人たちがいることは確かだ。これらの人々は、マインドコントロールのフォーラムや、政府によるEM拷問の支援団体で見つけることができる。また、電磁波過敏症を助けるためにボランティアで協力してくれる人が何千人もいる。

この CIA の兵器システムのバージョンの一つでは、脳の機能を同期させるために催眠バイノーラルビート脳同調を利用している。これによって、脳波を合わせたり分離したりする一連の作業が容易になるようだ。

真実が共鳴することを忘れてはいけない。勇敢な起業家の皆さんに幸運を。人類の新しい夜明けを告げながら、10 億ドルを稼ぐことを願っている。もし、私がマインドコントロールの奴隷から逃れ、他の何千人もの人々を解放することができたら、私も活動に加わりたい。

不老不死

それはついに到来した。問題は、あなたがそれを買うことができるかということだ。商品は 2 つのタイプから選ぶことができ、それは遺伝子修復と臓器移植、またはシリコンフォームである。ここではシリコン型不老不死の現在のコストを封筒の裏で計算してみよう。あなたのシナプス結合数はおよそ 1 兆個だ。そして、最先端のシリコン製造技術は、インテルの 4,200 万トランジスタの CPU の 23 倍である。つまり、16 ビット解像度のシナプスには $16 \times 1,012$ 個のトランジスタが必要なのだ。4,200 万トランジスタのチップが 350 ドルだとすると、あなたの心は $350 \text{ ドル} \times 1 \text{ 兆} \times 16 \text{ ビット} \div 4,200 \text{ 万} = 1 \text{ 億 } 3,300 \text{ 万ドル}$ かかることになる。多くの人がそれを買えるわけではないので、不老不死も他の製品と同じように、技術に興味がある金持ちのアーリーアダプターに売り込む必要がある。私は、ハーバード大学の学部 4 年の時に、初めてカスケード接続可能なデジタル神経回路チップを作ったが、それには 7 個のニューロンしか入らなかった。ビット分解能が思考の「解像度」を決定することになるのだ。政府の研究所は、脳の情報を共分散行列に凝縮する方法を発見した。おそらく、これが映画『マトリックス』の題名のインスピレーションになったのだろう。私たちは脳の 10% しか使っていない。情報圧縮技術とムーアの法則に従った製造技術の向上によって、シリコンの不老不死のコストは、今後数十年のうちにずっと安くつくようになるだろう。

人は、自分が身体という物理的なインターフェイスを持つ純粋な情報であると考えてることを好まない。この心と体の二元性は、哲学者の間で大きな議論を呼んできた。

多く人は、遺伝的に継続するという概念を通して、自分自身の意味を作り出している。進化の成功は子孫の数によって決まり、経済的な成功は銀行口座の大きさに決まる。また、生涯を通じて維持できた量的な幸福感で成功を判断する人もいる。存続に対する私の個人的な信念は、(もし不老不死に一生手が届かないとしたら) 自分の情報を伝播させることだ。私は私の精神である。読者が私の考えを読むだけで、私の脳内信号をあなたに複製するミー

ムが広がっているのだ。それはさらに直接的な私の複製であり、存続であると私は信じている。私は、私の頭脳から生み出されたアイデアを、読者であるあなたに授精しているのだ。私の存続とは、私が交配した心の中で分散される情報だ。この奇妙な概念に少しユーモアを持たせると、この本を読んでいる間、あなたは精神交感されているのだ。

哲学的な話はもう十分だ。次は不老不死の現実的な問題を見てみよう。ハードディスクに自分の状態を保存しておけば、万が一事故に遭っても、最後に保存した状態から生まれ変わることができる。これは、キリストが魂を救ってくれるという宗教の古い概念と重なる。彼は、あなたの情報構造とプログラムの進化を保存し後で実行するデータベース管理者と見なすことができるかもしれない。私たちが複雑で、ダイナミックで、セミクロードな有限状態機械であることを受け入れるのは確かに難しい。しかし、それが不老不死の心理物理学なのだ。

ここで、もう一度マレックの特許を見直してみよう。イオンゲートの開閉という脳の状態変化を観察するこの技術を使って、2つ以上の脳の間でワイヤレスリンクを作ることができる。それは、電磁波の伝送中にあなたの魂は増幅され、混ざり合うべきもう一つの脳に到達するまでは完全に体を失うということの意味する。私はこの文章で、人々の現実のモデルを収束させようとしている。あなたの魂は信号で構成されており、それを格納するための物理的な構造を必要とする。その物理的構造が何であるかは問題ではない。巨大なビリヤード台の上のビリヤードの玉かもしれないし、ガス格子の中でぶつかり合う原子かもしれない。情報がそこがあれば、主観的な意識体験がそこにある。これが、ウルフラムによる「計算等価性原理」の意味だ。意識は宇宙で最も豊富な性質である。宇宙が夢を見ているからこそ、私たちは存在するのだ。

あなたの自由と自己決定力を高める

これを声に出して読んでみてもらいたい。

「機械はなぜ自分が機能しているかわからないのか？私こそが、機械が動いている理由だ。私はインスピレーションの火花であり、それを煽る火なのだ。私が意味であり、動機なのだ。私のために存在するのだ。なぜという問いに対する答えが私なのだ。私は今、ここにいる。私は、それが存在する理由なのだ。私は私自身の神である。私の運命は私が決める。私は道具でもなく、道具の使い手でもなく、むしろ作り手なのだ」

マシンを止めよう。自分の世界を作ろう。自分の国を取り戻そう！

心のチューニング

思考を増幅する技術には、非道な精神抹殺への利用以外に潜在的な利点が 1 つある。それは、アスリートが生化学的なテストステロン信号を増加させるためにステロイドを摂取し、それによって筋肉を作るように、うまく機能していない精神は、脳の電氣的共鳴と同調の増幅によって恩恵を受ける可能性があるということだ。増幅された信号の下では、人は自然とより創造的になりうる。人間のすべての資質の正規分布を見ると、特定の条件下にはそれぞれ特有の利点があることがわかる。もしあなたの背が低ければ、飛行機で着席するときには便利だろう。背が高ければ、食器棚の一番上の棚に手が届く。同様に、神経化学的に「うつ」であれば、突発的な決断に走ることは少なく、集中力は高くなる。また、躁状態であれば、あらゆるアイデアに熱中する傾向があり、他人をやる気にさせることができる。どんなものにも最適な解釈の仕方があるのだ。IQ という総合的な指標で測られる知能は、社会で価値があるとされる人間のさまざまな知的能力の重み付けされた合計である。この定義に基づけば、思考の増幅により知能を最適化することができる。これまでのところ、EEG 集合意識の構成はとても最適とは言えない。しかし、それは研究を続けることで変わっていくかもしれない。

シナプスはメデューサの頭と表現される。一瞥しただけで人を石に変えてしまう、頭から蛇が出てくる女性の生物だ。

ニューロンの脱分極速度は時速 200 マイル (約 116m/s) である。この速度から、連鎖したニューロンから 1 秒間に発火するニューロンの数を計算することができる。これらは、ニューロンが発火閾値の近くにあるときの「選択」に影響を与える機会だ。平均的な軸索の長さは 5~50 ミリメートルで、発火経路では、1 回の連鎖反応につき 1 秒間に 2,000~23,000 個のニューロンが通過することになる。この計算は、ニューロン間の化学伝達物質の時間の遅れなどを考慮していないため、測定された脳波の周波数より少し高くなる。脳内共振の位相、振幅、周波数の変化を読み取れば、ニューロンレベルで何が起きているのかが完全に分かるだろう。

これは、精神工学を高周波パルス ELF と表現しているロシアの文献と一致する。つまり、マレックとストックリンの特許で説明されているような脳の共鳴周波数は、これらの神経シナプスの接合部で正確にタイミングを合わせたパルスを使用して、シナプスの発火判断にエネルギーを加えることができるということだ。これらのパルスは 23 キロヘルツ未満の成分を持ち、おそらくマイクロ波聴覚効果によって拾われ、多くの生存兵器実験被害者が報

告するメロディックな耳鳴りを説明することができるだろう。

本書の冒頭の話を知覚しているだろうか。私の拷問と精神抹殺が始まったのは、「非致死性指向性エネルギー兵器」を調べ、バーチャルリアリティの応用のために、脳に電磁信号を注入していたときだった。これは偶然の一致とは思えない。私はこの研究を追求したために死刑を宣告されたが、他の科学者に、本書で述べた肯定的な技術の応用を発明することを思いとどまらせるつもりはない。イェール大学医学部にある、67の組織とその電磁気的特性を含む人体モデルは役に立つだろう。FDTD シミュレーションを使えば、共振や SAR（比吸収率）因子によって、特定の人の特定の脳領域に影響を与えるために必要な複雑な波形を計算できるはずだ。超音波フェーズドアレイを用いた心理的影響に関するソニーの特許も参考にされたい。しかし、別のアプローチとしては、まずマレックとストックリンの特許を再現することだろう。はるかに簡単に脳機能に影響を与えることができると判明するかもしれない。脳の共振周波数（頭部をマイクロ波空洞としてモデル化）をニューロンの発火イベントに合わせるだけで、脳波を変化させることができるかもしれないのだ。また、軍関係の科学者は、低周波の小磁場を使うことで実現できると主張している。

心の読み取りと操作の技術を誰もが理解できるように単純化するだけでは、私のヒーローであるスティーブ・ホーキングやカール・セーガン、グリーンのような偉大な業績は達成できないだろう。しかし、私は十分な数の人々にメッセージを届けることができたと信じている。あなたはもう、十分に見識を深めたはずだ。本書が、脳に障害を持った利己的なパワージャンキーによる拷問と死の実験にさらされているすべての人たちの助けになることを願っている。そして、彼らがこの国の善良な人々を目覚めさせ、我々から民主主義を奪った陰謀の反逆者たちを見つけ出し、民主主義を取り戻し、正義を回復するよう願っている。

ニューロン作用技術の有益な使い方

脳増幅技術の分野では、状況に応じて最適な問題解決ができるよう脳をチューニングする研究も行われている。ある神経科学の論文では、ニューラルネットワークにノイズを加えることで、その収束速度が向上することが紹介されている。例えば、問題解決をしている時のあなたの頭は、考えられるあらゆる解の組み合わせを試して、最も確率の高い答えを探そうとしている。脳増幅はこの探索アルゴリズムを高速化し、また、ブレインストーミングやクリエイティブな問題解決の際にも役に立つ。脳が増幅された状態は、通常的神経路を同調のわだかまりから解放し、新たな解決策を見出す手助けをするのだ。

特定の状況下で、精神が最大限の可能性を発揮していないことはよくあることだ。例えば、

出勤時にコーヒーを飲むことで、より良い精神状態を作ることができる。また、瞑想で望ましい精神状態を実現する人もいる。電磁気的な方法で、いつでも望む精神状態にダイヤルを合わせることができれば、人類と進歩にとって大きな恩恵となるだろう。利己的で権力に飢えた心の狭い人間がこの技術を支配していなければ、既に 1960 年から利用可能だったはずだ。

脳の増幅度を上げることである程度までは知能を上げることができるが、最適な増幅のポイントを超えて脳をチューニングすると、それは無効化（情報化）兵器になってしまう。引き起こされる症状は、ADD、精神病、精神分裂病のようなものだ。その人は一つの作業に集中することができなくなり、しばしば偏執的になる。脳のパターン認識機能が誤作動を起こし始め、なにもないところにパターンを認識してしまう。聴覚や視覚の運動知覚を向上させるためには、このような感度の閾値のスライドは有効である。国防総省が兵士のためにこの方法を研究している理由がよくわかるだろう。

ニューロンの増幅による麻酔作用

この資料の多くが、人々にとって理解しがたいものであることは承知している。だから、私はコンセプトを何度も繰り返し説明するようにしている。私は、一般消費者向けに資料を簡素化するよう最善を尽くしたが、機械の中の幽霊を捕らえるためには、いくつかの詳細が必要なのだ。

これまでも、人間に麻酔効果をもたらす音声周波数はいくつか存在した。痛みの知覚を減少させるものだ。私や他の人が経験したほとんどすべての実験では、武器システムの特性として、神経系にエネルギーを増幅するか加えるしかできないことが指摘されている。これは、刺激された神経伝達物質の放出がシナプス調節のメカニズムであるとするネバダ大学での空軍の非致死性兵器研究と一致している。しかし、MK ウルトラの実験の 1 つでは、確かに感覚や感受性を麻痺させている。これは、ニューロンの増幅を抑えたことによるものではなく、抑制性シナプスの接続経路を増幅させたことによるものだ。約 10% のシナプスは発火のためのヒロック増幅判定で和に負の電圧を加える。そのため、それらのシナプス結合経路の周波数を増幅すると、他の経路には減衰効果が生じるが、神経系からエネルギーが持ち出されたわけではない。

電子ドラッグ

向精神薬は快樂をもたらし、しばしば依存性を示す。それらの薬物は神経伝達物質の放出や再取り込みを変化させる。要するに、それらは単に脳の信号を変化させているだけなのだ。私や他の何千人もの人々に行われたマインド・コントロールの実験は、薬物乱用でよく知られる多くの効果を電磁気学的に再現することができる。もし私が数十億ドル規模の麻薬カルテルを率いるコロンビアの大物だったら、商品と同様の効果をもたらす合法的な電磁波を製造する研究に投資していただろう。唯一の問題は、CIA/国防総省が保持しているような差異をマッピングするためのデータベースがない限り、脳の信号は個人に合わせて特化する必要があるということだ。

おそらくそう遠くない未来に、酔っぱらったティーンエイジャーの代わりに、磁気コイル、マイクロ波放射装置、EEG プローブを使ってピンクフロイドを聴きながら、インターネットで新しい電磁波の脳パターンをダウンロードする彼らの姿を目にすることになるだろう。

スキゾトロニック（サイコトロニック）・ジェネレーターは脳信号を増幅し、自然に発生する精神分裂病と同じ症状を誘発することができるので、電子磁気誘導で逆に病気を治すこともできるだろう。エール大学の研究者たちは、保健省から 200 万ドルの助成金を得てこのことを調べているが、彼らの研究には欠陥があり、被害者の症状の根本原因に関する誤った仮定に基づいている。この兵器では発作を誘発することができ、その逆もまた可能だ。マイクロ波を使って糖代謝を操作することができるので、同様の方法で糖尿病を誘発したり、潜在的に治癒させることができる。マインドコントロールの実験では、感情が正確に操作される。うつ病を誘発することができるので、プロザックやその他のうつ病の薬を飲んでいる人たちは、電磁波によるブレインマッピングツールで治る可能性もあるということだ。もしかしたら、この継続的な乗っ取りの間に、すでに全国民が無気力信号にさらされているのかもしれない。1976 年、世界で最も強力な 7 つの送信機から米国に向けられたロシアの精神工学信号について推測されたのは、このようなことだった。それは、脳の同調のような、催眠術の抑制的な無気力感だった。ファシスト政府を幸せに感じるようにできるなら、誰が戦ったり抵抗したりするだろうか？

自己決定的なニューラル・プログラミング技術が人類のためにできることを数えれば限りがない。爪を噛むのをやめさせようと思えば、信号を送るだけでいい。これは私にも実証された。私には爪を噛む癖があったが、1 年間のデモの最中に突然 2 ヶ月の期間、爪を噛まなくなった。この悪い癖がないと自分らしくないので、実はこれは何よりも私を不安にさせた。タバコをやめたい、食事を減らして痩せたい、運動をしたい、テレビをあまり見ないようにしたい、子供ともっと仲良くしたい、これらはすべてニューラル・プログラミングで実現できるのだ。どれだけの医薬品が節約できるだろうか？最高機密の研究所の科学者によれば、私たちが今すぐこの技術の詳細を暴き、プロトタイプを実証するための資金を得るこ

とができなければ、空軍やその他の機関がこれらの秘密を明かすまで、社会は少なくともあと 25 年は待たなければならないそうだ。

新しい知性の形

MIND (Magnetically Integrated neuron duplicator) の初期の研究の詳細は掘り起こせなかったが、基本的な要点は以下の通りである。

視覚や聴覚のような感覚の喪失を埋め合わせすることは、脳の適応性として知られている。損傷した機能に使われていたニューロンは他の感覚に利用され、感覚はより鋭くなる。これは、その感覚の解像度と処理能力を高めることに相当する。逆の現象もあるが、ほとんど研究されておらず、参考になる引用も存在しない。脳が新しい感覚を取り込み利用する。これが「サイキック」の言うところの「第六感」である。神経に影響を与えるように変調され、コンスタントに送られる電磁気の信号を、脳は解釈することを学ぶ。この分野と兵器はバイオコミュニケーションと呼ばれている。この信号は基本的にヴァーチャル・ニューロンやセンシング能力で構成されている。陸軍では、味覚や触覚の情報を解釈する方法を再教育することで、舌を兵士の脳の入力デバイスとして使用することを研究している。新しい情報は例えばソナーや視覚で、脳は、コウモリの音の使い方やヘビのように、舌の情報を使って周囲のメンタルモデルを作るために再調整する。

しかし、これはさらに深い意味を持つ。バーチャル・ニューロンは、世界のどこにいてもコンピュータに保存されたり計算されたりすることを除けば、通常のニューロンと同じように機能する。つまり、これらの「サイキック」の脳の一部は、他の誰かに置かれているのだ。さらに、もし全人口がこのネットワークに登録され、彼らの脳が、しばしば調子を崩したときに耳鳴りとして聞こえる「シグナル」を聞くことを学習してしまったら、これは深刻な結果をもたらすかもしれない。脳の柔軟性は、ニューラル・ネットワークが自己組織化する性質によるものである。入力が増えれば、脳はそれを使うことを学習するが、その代償として、他の感覚や精神的なタスクの計算能力が犠牲になる。感覚遮断室でいくつかの入力を取り除くと、脳はその入力への依存をやめ、他の入力にニューロンを集中させるようになる。

もう何十年も昔から行われている機密研究の中には、このワイヤレス・ニューラル・リンク・システムを使って、ヴァーチャル・ニューロンや複数の脳、新しいセンサーなどからなる高次の知能を作り出そうとする研究がある。この研究が引き起こした脅威の詳細については、マインド・ウイルスを参照してもらいたい。私たちは、単なる「第六感」のはるかに先を行ってしまったのだ。

このようなニューロンでつながった作業集団は、非常に効率的で、ある種のスマートな存在を作り出すために使われる可能性があることが証明された。加齢やパーキンソン症候群によるニューロンの減少を補うのにも有効かもしれない。

ブレイン・マシン・インターフェイス技術

運動前野の筋肉の動きや言葉の意味を想起させる脳波などの神経的特性を用いた体内音声認識だけでなく、デコードした視覚野からのコンピューター映像による画像認識技術も研究されている。視覚野を2次元、3次元の表現にデコードし直すと、従来のコンピューター映像技術を応用して、言葉や物体を認識することができる。これは、マインド/マシン・インターフェースのための素晴らしい可能性を秘めている。入力された文字を視覚化するだけで、コンピューターはその文字を認識し、仮想キーボードからインターネットブラウザに送信し、その結果得られた情報ページを心の目に映し出すことができる。真の集合意識のインターフェースや、オンデマンドの瞬時の情報アクセスといったものに、私たちは近づきつつある。

ビジネススクールで、ウェアラブルコンピューターの起業プロジェクトのために、DARPAからヘッドアップディスプレイのメガネを借りたことがある。私たちのアイデアは、両目にコンピューター画面を重ね合わせ、自分だけが見ることのできる情報で現実を拡張することだった。例えば、メガネに内蔵された小型カメラで顔を認識すると、認識された顔のバイオグラフィーが表示される。また、プレゼンテーションの際には、自分だけが見ることのできるプロンプターを読み上げることができる。私たちは飛行機の整備に着目し、作業員がマニュアルを読みながら、同時に手を動かすことができるようにした。医師は、患者の拡大写真やリアルタイムのMRI スキャンを、通常の視覚と聴覚を重ねて見ることができるだろう。その他もろもろ。当時は、ワイヤレスで直接神経をつなぐ技術がこれほど発達しているとは知らなかったのだ。

思考でロボットアームを制御するサルから、脳の磁気探査でマウスカーソルを操作できる人間まで、有線またはプローブを使った脳インターフェースの進歩は科学界ではよく知られているが、私が本書で暴露したワイヤレス方式は、誰も知ることも認めることも許されていない。

デモンストレーション

拷問として私はPMS（*月経前症候群）を再生させられた。男性のみなさん、これは想像もつかないような最悪の感情と身体のけいれんのセットだ。軍は、女性が毎月经験することをあなたにもわかってもらおうと、ひどいPMSに苦しんでいる人の信号をキャプチャして拷問に使っているのだ。心から同情してほしい。

任意の脳波のセットを取り込んで、保存し、連続的に再生することができる。

脳と同調の参加者は、さまざまな形で重み付けが可能だ。彼らはあなたになることも、逆にあなたの心や体をコントロールすることもできる。自分が誰かに変身している間無言の観察者として過ごすのは、不安な体験だ。相手の意志、感情、身体の動きを感じることができるのだ。集合意識にさらに参加者を加えれば、精神の集中は複数に分散され、たちまち機能不全に陥る。このようなマインドコントロール実験の被害者の多くは、自分が憑依されている、多重人格である、あるいはどこかの宗教家が自分を通して話していると信じるように騙されているのである。

この技術の最もいい活用法は教育だろう。子供たちに先生の頭の中をモデル化してもらおう。また、先生が自分の頭の中でコンセプトを伝え、3Dアニメーションを作成すれば、すべての人が瞬時に見て理解できるだろう。

投資の機会

この技術により、感情の体験を含めた思い出を再生することができるようになった。条件次第では、ホームムービーや写真集よりも優れているかもしれない。私は、心臓発作で救急車で運ばれた他の被害者の脳波記録を再生された。除細動のパドルを2回当てられた感触があった。抗凝固剤を注射した後に心臓手術も体験した。そんな経験をしたら生活習慣が改善されると思うだろうが、私は座りっぱなしの生活を送りながら、この本を書いているのである。

これは、人々と思い出を共有し、過去の幸せな瞬間を追体験できる画期的な方法だ。映画産業は完全に変わってしまうだろう。匂いやその他の感覚を含め、観客が俳優の感情をすべて感じられるようなインタラクティブな体験が売り物になるだろう。ゲームも、撃たれたら痛みを感じるような、はるかにリアルなものになるかもしれない。ポルノ産業は間違いなく制御不能になるだろう。国防総省の兵器研究所からこの技術を解放し、社会が健全な応用を構

築し始める必要があるのだ。

広告のインプラント

ニューロポップ社は、ワイヤレスな脳波調節を利用して広告を直接埋め込むことを検討していた会社だったが、消滅してしまった。10年ごとに大衆はサブリミナル・コントロールを心配しはじめ、それはサブリミナル広告や催眠広告を防止する法律の制定にもつながった。しかし、政府はこれらの法律を明らかに破り、今や誰も法を強制することができなくなった。哲学的に言えば、高圧的なセールスマンと、広告の微妙な影響の違いは何だろうか？どこで線引きするのだろうか？日本にはサイレント・カセットという技術があって、これはブラウン管を通してサブリミナルな精神工学信号を送るものとされている。ロシアでは「サタン666」というコンピューター・ウィルスが公開され、コンピューター・モニターから心臓の不整脈の精神工学信号が発せられると言われている。25フレームごとに視聴画面の一部をつなぎ合わせて、潜在意識だけが全体像を把握できるようにする技術もある。この他にも、特許庁を調べれば、数え切れないほどの方法が見つかるだろう。

これらの技術は未来的でSFのように聞こえるが、60年代初頭から科学的事実として存在している。この科学は、国防総省の拷問、尋問、心の探り合い、操作の道具として横流しされているのだ。悲しいことに、彼らはその秘密主義によって、良いことよりもはるかに多くの損害をこの国に与えてきた。今、彼らはそれを白状するにはあまりにも悪用すぎたと感じている。教会の公聴会で最後の調査が議会によって命じられたときCIA長官ヘルムズがしたように、彼らはまた文書をシュレッターにかけてしまうだろう。

ファイナル・デスティネーション

技術は非常に素晴らしいが、プロジェクトの成功は、それをを行うために要したリソースの量によって判断しなければならない。60年以上もの間、何千億ドルもの費用をかけ、無制限の科学的専門技術知識とデータを得るために無同意の人間を実験体に使い、言うまでもなく苦しみの副次的被害という連鎖的コストを加えて考慮すると、このプロジェクトもそれほど印象的ではなくなってしまう。おそらく、「目的は手段を正当化する」という考え方で、見返りは正当化されているのだろう。しかし、人類にとってどれだけプラスになるかわからないこれらのデータや方法を、彼らは一般に公開するつもりはない。全体として見れば、人

類史上最大の兵器プロジェクトの失敗と言える。

世界と憲法を守るために

兵器実験の被害者の多くは、マイクロ波聴覚ハラスメント、薬物実験、放射線実験、脳操作実験などの衰弱により、「生命、自由、幸福追求」の権利や生計手段さえも否定されている。何千人もの被害者の方々に、この本を一軒一軒売ってもらえればと願っている。わずかな収入を得るとともに、私たちの社会を蝕む残虐行為や非道について、世間の認識を高めることができるかもしれない。また、言論の自由の限界や秘密のルールに制限された通常のルートでは、本書の出版はおそらく難しいだろう。

私は他の科学者たちと協力して、軍事用のレーダーと指向性エネルギー装置を入手し、このシステムがどのように機能するかを一般に明らかにするために努力している。

政府の一部のグループは、「ロシアに追いつく必要がある」という資金調達キャッチフレーズを使って、心を操作する技術の開発を正当化している。しかし、もし本当にロシアや中国がいつでも米国に攻撃を仕掛けてくることを心配しているのなら、ゼロエミッションのテンペストシールドを防備した核シェルターを建設して、一般の人々に提供しているはずだ。彼らはもちろん、国民を守ることにはさして熱心ではないのだ。

そこで私は、超電導製造業者、レーダー吸収材製造業者、新型電磁波偏向材製造業者と協力して、被害者が避難するためのセーフハウスを全国に作ろうと働いている。建物の中を見ることができないようにするために、ELF 波ジャマーやフルスペクトラムのレーダースクランプラーも設計している。もしあなたが富裕層なら、こうした新型兵器から身を守るためのシェルターの建設を検討するべきかもしれない。政府にとって、彼らの意思決定や意見の影響を高めるためにも、ビジネス界のリーダーや有名人は特に興味深い存在といえるだろう。

高価で入念に作られたシェルターに入ると、多くの人が、長年の耳鳴りが突然消える体験をする。そして「統合失調症」のレッテルを貼られた多くの人々が突然回復し、物理的な基礎疾患がない説明不可能な痛みで悩まされていた人々も、奇跡的に症状が癒されることに気づくだろう。

これらのシェルターについて詳しく知るには、ウェブサイトを訪ねてほしい。
(www.thematrixdeciphered.com)

私たちの研究と真実のための市民情報戦キャンペーンを支援するには、アンジェリック・ハーブ財団にご連絡を。

政府の言い訳の予想

超電導体やゼロエミッションのテンペスト基準シェルターが世界中に出現し、何千人もの人々が奇跡的に治癒し始めると、偽情報者は不都合な真実を隠すためにあらゆる種類の説明を考え出すと予想される。これらの実験の犠牲者が最初に公に話し始めたとき、彼らは電線、テレビのモニター、家電製品がどのように痛みを引き起こしたかを説明した。政府はこの人たちに「電磁波過敏症」のレッテルを貼った。私は、政府がまた同じことを言うのではないかと思っている。私たちが浴びている一般的な電磁波汚染が、このような影響を引き起こすことは不可能である。なぜなら、ターゲットの脳電気活動に影響を与えるには、特定の情報コヒーレント EM エネルギーが必要とされるからだ。一般的な電磁波汚染がこのような症状を引き起こすことは天文学的にあり得ないことなのだ。嘘のパターンと、誰がそれを言っているかに細心の注意を払わなければならない。

奇妙な日々

これから数十年、私たちは奇妙な日々を過ごすことになる。アメリカ政府が何十年もの間、EEG ヘテロダインやその他の指向性エネルギー兵器を使って人々を拷問して死なせてきたという現実に、人々は直面することになるだろう。人々は、自分の魂が完全に脳の電気信号に含まれていることを受け入れなければならない。技術的特異点（シンギュラリティ）は、それが起こる前に誰もが激しく議論すべきだったが、もうとっくに起こり、過ぎてしまったものだ。人々は知ることになる。人間の心は完全に解読され、マッピングされている。機械の知能は人間の知能を凌駕しているのだ。人々は自分自身を再定義し、複数の心の意思をカバーした道徳と正義の枠組みを再構築する必要がある。もしこの技術が一般に公開されれば、私たちは自分自身の神となり、思い通りに自分を創造する力を持ち、想像もしなかったような自己決定論に力を与えることができるだろう。もちろん、もう一つのシナリオも起こり得る。世界中の人々がより兵器の影響を受け、騙されて、決して現実に戻ってこられなくなるのだ。マトリックスの中で催眠術にかかり、TAMI からの見えない電子信号によってサブリミナル的に命令されることが、大衆にとって暗い永久の現実となるのだ。

帰港

私をここに置いて、あなたには一人で旅を続けてもらわなければならない。普通の人間には耐えられないような拷問によって、私はこれ以上の冒険を禁じられたからだ。真実と正義と人類の繁栄を求める旅路の無事を祈る。アポロが戦いの神々を崇める者達を罰してくれますように！

旅の終わり

私はあなたを真実の恐ろしいオデュッセイアへと案内した。私はマトリックスが何であるか理解する手助けをしようと試みた。しかし、私は今、あなたが決断するために、あなたをここに残さなければならない。あなたは選択するのだろうか？それとも、与えられた選択を理解することで満足するのだろうか？

私たちはアリスと同じように CIA の白ウサギを追いかけ、仮想地獄につながるウサギ穴を降りていった。深く潜れば潜るほど、より多くの愚かさや人間の醜さに遭遇した。私たちは、サイクロプス (Psychl-Ops) の工作の手法を明らかにするために戦い、データの収集に使役される傭人たちを見つけた。マインド・コントロール・プログラムではマッドハッターに出会い、CIA の 30 年にわたる狂気の遍歴を理解した。空軍の極秘研究所で作られた視覚を欺く電磁波の夢の中で、私たちは歪んだ景色を見た。そして最後に、見晴らしの良い場所から、近視の指導者たちのせいで人類を進化の崖に追いやることになる巨大な軍事マシンを見ることができた。

青い錠剤を飲んでおけばよかったと思うだろうか？

目を覚ませ世界よ、あなたたちは皆、監視されているのだ！

最後の謎

私に質問する前に、まずこの謎解きに答えてもらいたい。そうすれば、もしかしたらあなたの質問も変わるかもしれない。

あなたは静かに暗殺され、永遠の決断を求められる場所に立っている。扉は 2 つある。ひとつは天国へ、もうひとつは地獄へ。ドアの横には 2 人の人物が立ち、どちらも天使のように

見える。しかし、一人はサタンの手先である。彼はいつも嘘をつき、その扉は地獄に通じている。もう一方の扉にいる聖人は常に真実を語り、その扉は天国に通じているのだ。許された質問は1つだけ。二人にどんな質問をすれば、あなたの運命を決めることができるだろうか？

感謝

この国や他の国々の兵器実験と拷問実験の被害者たちが、時間を割いて情報を提供してくれたことに感謝したい。皮肉なことに、政治的解決策やソフトウェアアルゴリズムの限界、これらの魅力的な兵器の背後にある科学について、多くの詳細を埋めてくれた兵器実験者たちと彼らの罪の意識にも感謝する必要がある。特に、MK ウルトラ・マインドコントロール・プログラムの継続を確認するために名乗り出てくれた愛国的で高貴な元 CIA と元 FBI の捜査官たちに拍手を送りたい。私たちには、これらの兵器の軍事利用を暴露し、排除することによって、アメリカの自由と尊厳と正気を取り戻すチャンスがある。それによって、人類に新しい夜明けをもたらすのだ。

事後報告

この本が多くのコミュニティ、特に自分を特別視するために秘密主義を楽しんでいる人々を怒らせたことを私は知っている。CIA に始まり、秘密結社、ブラックオプス国防総省、政治家、最近の大統領、様々な無能な政府機関、ペンタゴン、精神科医、心理学者、超心理学者、サイキック、いくつかの宗教、私の家族、過度に無知な旗振りアメリカ人、一部の裏切り者の大佐からナチの医師まで。しかし、私はサイエントロジーに含むところはないので、どうか図書館や書棚から私の本を引き払わないでもらいたい。また、私が秘密を守ることができないのは明白なので、無用な手間は省いてほしい。

この本を書いた私への報復の予測

この本が出版された後、私の信用を失墜させ、私の人生をさらに破壊しようとする試みがなされるだろう。情報操作マシンによる誹謗中傷が一気に加速することが予想される。

責任を追及された団体や人々は、問題を解決したり不正を認めたりするよりも、互いに指をさして秘密の基地を守ることに忙しくなることだろう。

権力者のバカや操り人形たちの計画を 24 年早くバラしたことで、私にどんな戦争が布告されるのだろうか？

彼らは「もっともらしい否認」をするかもしれない。私を秘密裁判にかけたり、秘密刑務所に入れるために、いくつもの法的問題がでっち上げられるかもしれない。マイクロ波による脳の調節技術や脳波による心の操作と読み取り技術、電磁パルスプロジェクトを再現し、これらの SF 指向性エネルギー兵器を実証して一般の人々に理解してもらうことに時間を費やしていることから、彼らは私に「テロリスト」の烙印を押すかもしれない。私は SATAN (Silent Assassination Through Amplified Neurons) システムによって静かに暗殺されるか、心臓発作、自動車事故、癌、あるいはオルセンのように LSD を投与され、後頭部を打ちつけられ、自殺に見せかけるために 14 階建てビルから投げ出されるかもしれない。「自然死」のように見える殺し方は幾らでもあるのだ。ブッシュ大統領は、CIA のこのような行為をかつて謝罪した。イギリスとアメリカ海軍の NATO システムの統合に携わり、原子力潜水艦の信号や、SIGINT、SIGCOM、HAARP、電子戦などのグローバル監視システムの能力を知っている少なくとも 2 人の科学者が、説明のつかない自殺で亡くなっている。私も何も期待しないほうがいいだろう。

最も恐ろしいのは、彼らが私の心を完全に把握し、私の思考と行動を理解不能なまでに支配していることだ。最初の試練から 1 年経った今、彼らは活動を停止しているが、突然、再びコントロールを取り戻す可能性も否めない。しかし、この本が出版されるまでは彼らに上述の行動はとれないし、本が出版されれば私の仕事は終わる。私は、彼らの方法、戦略、技術について、可能な限り説明した。自らを守る方法、真の民主主義や思想と表現の自由を回復する方法を伝えた。読者の皆さんは、一個人としてではなく、全人類の代表として、自分たちや子供たちの未来に対して何が行われているのか理解できない人たちの代わりに行動しなければならない。あなたは今や、この情報内戦の兵士であり、啓蒙者であり、不利な状況を押しても、秘密のベールに隠された闇と無知との戦いの手助けをしなければならないのだ。

この先も注目

どんな本であれ間違いはあるが、政府の仕事に比べれば十分なものだろう。訂正があれば、私か誰かがホームページで発表する。覚えておいてもらいたいのは、信用を落とす「メソッド」にひっかからないことだ。赤子を湯水と共に捨てるなかれ。

真実とは、それを表現するモデルの精度を高めるための三角測量プロセスである。私たちの目標は、より高い理解モデルに到達するプロセスを継続し、人々の集合知にできるだけ効率的に知識を普及させることだ。